

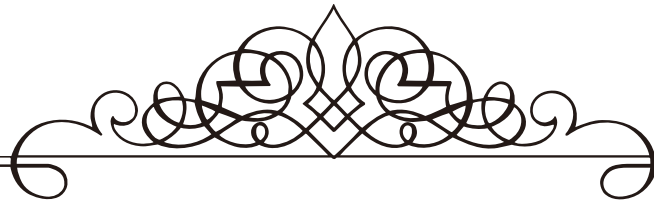


基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

- 1 患者の権利を尊重した医療の実践
- 2 安全・安心と信頼の医療の遂行
- 3 高度に専門化されたチーム医療の推進
- 4 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
- 5 親とこどもが一体となった治療の推進
- 6 こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
- 7 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
- 8 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

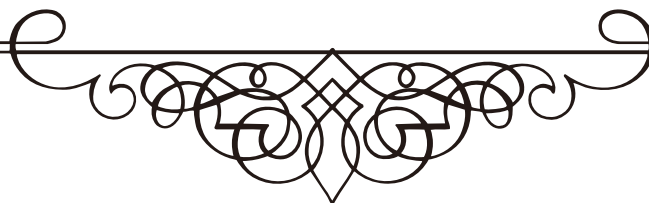


患者の権利

- 1 あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
- 3 あなたとご家族には、治療方針について同意や拒否する権利及びセカンドオピニオンを受ける権利があります。
- 4 あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たちがお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
- 病院のきまりや約束ごとをお守りください。



ご挨拶

兵庫県立こども病院 院長 中尾 秀人

2019年度の年報をお届け致します。

平素より当院の運営や診療について、多くのご支援ご指導をいただいておりますことに厚く御礼申しあげます。本年報にて、当院の診療活動・学術研究活動・広報啓発活動の状況を皆様にご高覧いただき、ご意見をいただければ幸いです。

さて、大きく報道がなされているように、出生数の減少が当局の予測よりも顕著で、2019年の出生数は86万人に留まりました。人口減少は1年で50万に及ぶとのことでこれは、中核都市が一つ消えるのと同じ規模で驚きです。この情勢の中で、当院は良質な小児医療の展開を継続していく使命を負っているのですが、いろいろな課題の克服が求められています。病院の柱である小児・周産期における高度急性期医療の最終機関として役割を果たしていくのはもちろんの事として、病院機能に移行期医療を大きな部門として展開していくこと、昨今の大きなテーマである医療的ケアを要する患者と家族の支援業務をさらに整備すること、臨床研究機能を充実させて魅力ある小児医療施設となり、社会への発信を強化すること、ゲノム医療や再生医療の小児領域への実践的活用、等多くの責務があります。そして、それらを通じて小児医療を担う各分野の若い人材を育成していく事が求められていると考えます。これは、当院の特徴である各部門の力を結集する包括的・集学的医療を進めていく、当院の総合力を有効に活用できる大きなチャンスという側面もあります。他の医療機関・研究機関、福祉行政との協力関係を築く事も含め、私達の創意工夫、知恵が求められています。

誰もが感じているように、社会の分断化が進み、少し非寛容になって、医療の現場では困難な状況、心が折れそうになる場面があるかも知れません。しかし、小児・周産期医療、将来の日本を支えるこどもたちの医療は、なにより大切という揺るがぬ信念で、お互いの考えを理解しあえる医療の現場になるように、努力と忍耐が必要だと痛感します。

さて2020年4月に当院は設立50周年を迎えました。50年にわたって、諸先輩が築かれてきた小児・周産期医療のノウハウ・知恵が蓄積されている事は大きな誇りであり、無形の財産です。そして、変容していく時代と併せて、変化し続けなくてはなりません。

医療環境の変化にも柔軟に対応して、患児と家族の安全と信頼を確立していかなくてはなりません。我が国では、経済的発展に基づく医療技術、医療体制の進歩の時期を経て、重症疾患の救命率の向上により、重度の多臓器障害・高い医療依存度をもつ、重症児が増加しており、長期の療育支援と急性増悪時の医療体制の整備も喫緊の課題であり、当院の求められる役割も変容しています。他の医療機関、他分野の施設との連携を深めながら、当院の方向性、今後の確固たる礎を築かなければなりません。小児・周産期医療はその母数の少なさから、選択と集中を益々進めざるを得ません。集中と選択の拠点となるべき資質を備えております。

加えて、私達の働き方や価値感も変化していることも大切な点です。日本全国の小児医療施設のなかでも、有数の設備と人材を駆使できるパワーを持った施設であると自覚し、責任を果たしていきたいと存じます。

最後になりましたが、本年報に企画・作成にご尽力をいただいた広報委員会の皆様に感謝いたします。

目 次

I 病 院 概 要

1 兵庫県立こども病院の設立目的	1
2 沿 革	1
3 業 務 図	4
(1) 機構一覧表	4
(2) 担当医師表	5
(3) 外来診療スケジュール	6
4 職 員	7
(1) 職種別人員表	7
5 近畿厚生局長への届出に関する事項	8
6 研修・教育認定施設内容	9
7 委員会等一覧	10

II 医 事 経 理 関 係

15

III 診 療 統 計

1 救急総合診療科（総診）	31
2 救急総合診療科（救急）	33
3 代謝・内分泌内科	35
4 リウマチ科	36
5 アレルギー科	37
6 神経内科	39
7 血液・腫瘍内科	41
8 循環器内科	45
9 腎臓内科	47
10 感染症科	49
11 臨床遺伝科	50
12 精神科	54
13 小児外科	58
14 心臓血管外科	62
15 脳神経外科	65
16 形成外科	68

17	整形外科	69
18	リハビリテーション科	71
19	眼科	74
20	耳鼻咽喉科	76
21	泌尿器科	79
22	小児歯科	80
23	麻酔科	81
24	新生児内科	83
25	産科	86
26	放射線診断科／放射線治療科	92
27	小児集中治療科	94
28	病理診断科	96
29	看護部	97
30	薬剤部	109
31	検査・放射線部（検査部門）	113
32	検査・放射線部（放射線部門）	116
33	栄養管理部	120
34	家族支援・地域医療連携部	125
35	ME室	129
36	医療安全管理室	130
37	感染対策室	132
38	褥瘡管理室	135
39	がん相談支援室	136
40	院内学級	137
41	医師事務作業補助者（医師クラーク）	138

IV 学術・研究・教育活動

1	書籍	139
2	雑誌発表	143
3	学会発表	176
4	報道	211
5	実習生・研修生受け入れ状況	212
6	院内・院外研修	218

V	ボランティア	247
---	--------	-----

I 病 院 概 要

1. 兵庫県立こども病院の設立目的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行いうる小児専門病院の設置を望む社会的要請に応えて、県政100年の記念事業の一環として、昭和45年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

- (1) 近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。
 - (2) 小児に関する医療相談機関であること。
 - (3) 小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。
 - (4) 小児医療従事者の育成研修期間であること。
- などであります。

平成6年10月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の24時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。

また、平成14年10月より県下の第3次小児救急の拠点として救急医療室を開設し、その後、平成19年10月に、機能を一層充実させた小児救急医療センターを新たにオープンしました。

さらに、平成25年2月には小児がん拠点病院に指定され、平成26年4月に小児がん医療センターを設置しました。

平成28年5月には、須磨からポートアイランドに移転開院し、その後、平成29年4月には小児救命救急センターに指定されました。

2. 沿 革

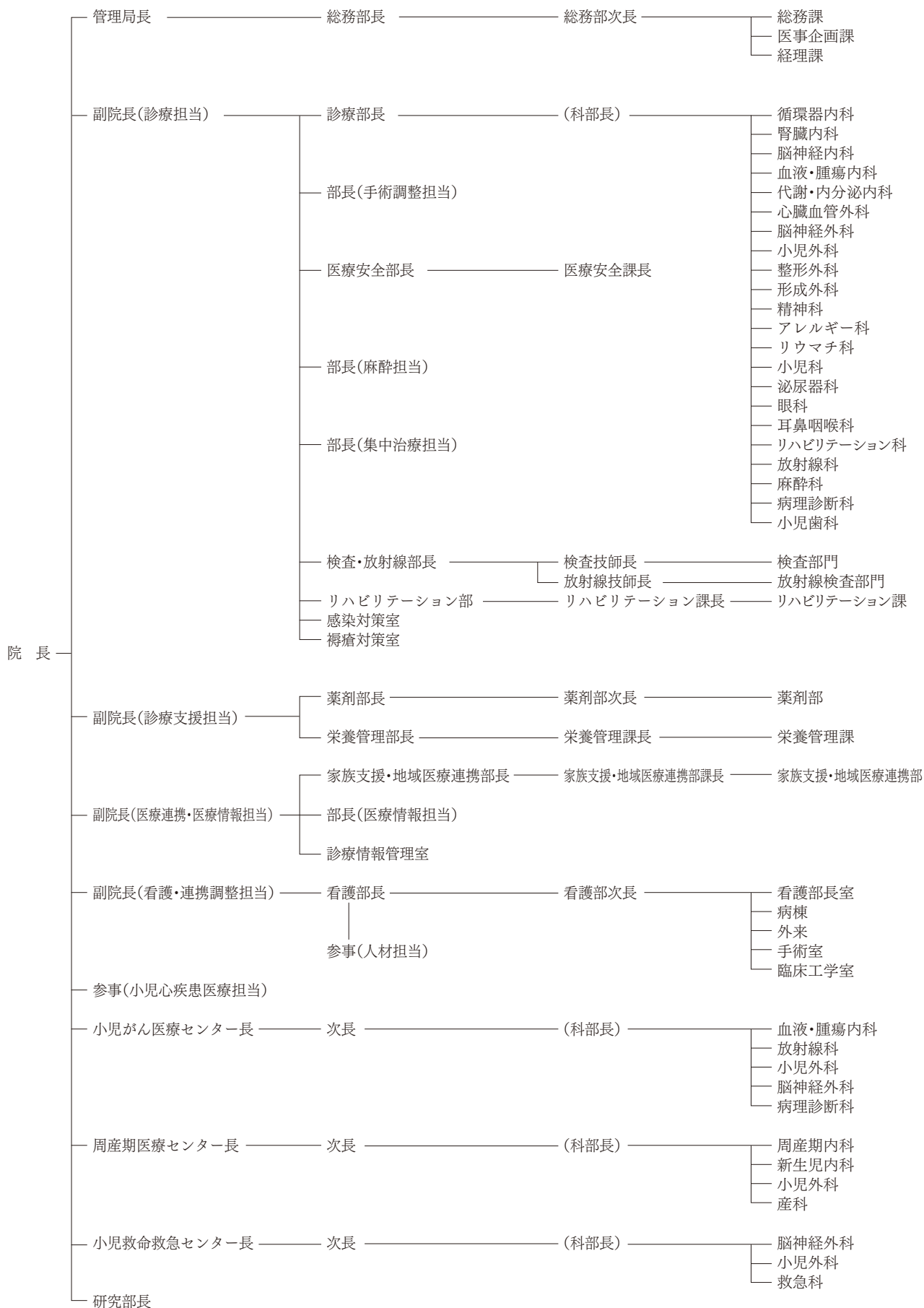
- | | | |
|-------|---|---------------------------------------|
| (1) 名 | 称 | 兵庫県立こども病院 |
| (2) 開 | 設 | 昭和45年4月1日(現管理者 中尾 秀人) |
| (3) 所 | 在 | 神戸市中央区港島南町1丁目6番7 TEL 078-945-7300(代表) |
| (4) 診 | 療 | 循環器内科 腎臓内科 脳神経内科 血液・腫瘍内科 代謝・内分泌内科 |
| | 科 | 周産期内科 新生児内科 心臓血管外科 脳神経外科 小児外科 |
| | 目 | 整形外科 形成外科 精神科 アレルギー科 リウマチ科 小児科 |
| | | 泌尿器科 産科 眼科 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 放射線科 |
| | | 麻酔科 病理診断科 救急科 小児歯科 |
| (5) 病 | 床 | 数 一般290床(稼働282床) |
| (6) 沿 | 革 | |
| | | 昭和45年4月1日 病院開設(管理者 平田 美穂) |
| | | 昭和45年4月30日 病院本館完成 |
| | | 昭和45年5月8日 診療開始 |
| | | 昭和45年7月23日 基準寝具実施(寝第295号) |

昭和 45 年 9 月 17 日	基準給食実施（食第 307 号）基準看護実施（看第 130 号）
昭和 46 年 12 月 28 日	母と子の指導教室完成 現在は母と子の教室と呼称
昭和 47 年 2 月 1 日	基準看護一般特類変更承認（険第 98 号）
昭和 47 年 12 月 1 日	基準看護精神特類変更承認（険第 219 号）
昭和 49 年 10 月 1 日	基準看護一般特二類変更承認（険第 108 号）基準看護精神特一類変更承認（険第 108 号）
昭和 50 年 4 月 1 日	管理者変更（管理者 児嶋 喜八郎）
昭和 54 年 3 月 31 日	全館防災設備工事完成
昭和 54 年 8 月 2 日	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 55 年 4 月 1 日	兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例（昭和 55 年兵庫県条例第 11 号）により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加
昭和 56 年 5 月 5 日	シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携
昭和 56 年 10 月 7 日	日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 56 年 10 月 12 日	日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される
昭和 56 年 12 月 6 日	日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される
昭和 57 年 4 月 1 日	日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される
昭和 58 年 4 月 1 日	日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される
昭和 58 年 4 月 11 日	日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される
昭和 58 年 10 月 1 日	日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される
昭和 60 年 3 月 18 日	プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携
昭和 60 年 3 月 28 日	日帰り手術棟完成
昭和 60 年 4 月 3 日	日本形成外科学会認定医研修施設として認定される
昭和 60 年 4 月 15 日	日帰り手術棟手術開始
昭和 61 年 3 月 31 日	日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
昭和 61 年 4 月 1 日	管理者変更（管理者 玉木 健雄）
昭和 61 年 4 月 1 日	日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される
昭和 61 年 10 月 1 日	日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される
昭和 62 年 1 月 22 日	自家発電設備改良工事完成
平成元年 2 月 1 日	外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される
平成 3 年 5 月 1 日	基準看護一般特三類（一部）変更承認（険第 220 号）
平成 4 年 4 月 1 日	基準看護一般特三類（260 床に）変更承認（険第 363 号）医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始
平成 4 年 5 月 9 日	週 40 時間制試行
平成 4 年 5 月 18 日	病床数 260 床に変更承認（精神病棟廃止）
平成 4 年 7 月 6 日	病床数 290 床に変更承認（兵庫県指令医第 1 - 67 号）
平成 4 年 7 月 29 日	周産期医療センター安全祈願祭
平成 4 年 11 月 7 日	週 40 時間制本格実施
平成 5 年 4 月 1 日	管理者変更（管理者 竹峰 久雄）
平成 6 年 7 月 20 日	周産期医療センター定礎式
平成 6 年 9 月 1 日	管理者変更（管理者 小川 恭一）
平成 6 年 9 月 30 日	ドクターズカー購入
平成 6 年 9 月 30 日	周産期医療センター完成

平成6年 10月 1日	行政組織規則の改正（平成6年兵庫県規則第66号）により、周産期医療センターを設置
平成6年 10月 3日	周産期医療センター開設記念式典
平成6年 10月 4日	周産期医療センター診療開始
平成7年 1月 17日	阪神・淡路大震災
平成7年 9月 1日	本館改修工事に着手
平成8年 4月 1日	日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される
平成10年 6月 30日	本館改修工事完了
平成11年 4月 2日	管理者変更（管理者 山本 節）
平成12年 3月 1日	総合周産期母子総合医療センターとして指定される
平成12年 4月 24日	慢性疾患児家族宿泊施設（ファミリーハウス）を開設
平成13年 10月 10日	駐車場立体化工事に着手
平成14年 2月 28日	立体駐車場完成
平成14年 4月 1日	臨床研修病院指定（厚生労働省発医政第0401006）
平成14年 4月 1日	地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行
平成14年 10月 15日	第3次小児救急開設（稼働病床260床）
平成15年 4月 2日	管理者変更（管理者 中村 肇）
平成15年 10月 30日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第1030005号-511,519,526,533）
平成15年 11月 28日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第1128007号-330）
平成16年 3月 22日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.3.1）
平成16年 4月 1日	アレルギー科追加
平成18年 4月 1日	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設として認定される
平成18年 4月 1日	日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）として認定される
平成19年 10月 1日	小児救急医療センターを開設（稼働病床266床）
平成20年 4月 1日	管理者変更（管理者 丸尾 猛）
平成21年 4月 1日	医療法施行令の改正に伴う診療科目標榜名変更
平成21年 7月 3日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.5.0）
平成21年 12月 16日	地域医療支援病院の名称使用承認
平成21年 1月 4日	「母と子の指導教室」を「研修センター」に改修して供用開始
平成22年 4月 1日	駐車場の拡張（北駐車場増設）と有料化
平成23年 1月 4日	本館玄関周辺及び玄関ロビーを改修して供用開始
平成23年 4月 1日	日本精神神経学会精神科専門医研修施設として認定される
平成24年 4月 9日	中国福利会国際和平婦幼保健院と交流協定締結
平成25年 2月 8日	小児がん拠点病院として指定される
平成25年 4月 1日	管理者変更（管理者 長嶋 達也）
平成26年 4月 1日	小児がん医療センター設置
平成26年 12月 8日	新生児専用ドクターズカー運行開始
平成28年 5月 1日	ポートアイランドに移転開院 リハビリテーション科追加
平成29年 4月 1日	管理者変更（管理者 中尾 秀人） 小児救命救急センターとして指定される
平成30年 4月 1日	兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院として指定される
平成31年 4月 5日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（3rd ver.2.0）

3. 業 務 図

(1) 機構一覽表 (2020.3.31 現在)



(2) 担当医師表 (2020.3.31 現在)

- (1) 総合診療科 田中亮二郎、宅見晃子、上村克徳、津田雅世、南川将吾
 (2) 救急総合診療科 林卓郎、梶原伸介、松井鋭、染谷真紀、谷澤直子
 (3) 感染症内科 笠井正志
 (4) 臨床遺伝科 森貞直哉
 (5) 新生児内科 中尾秀人、芳本誠司、坂井仁美、横田知之、岩谷壮太、玉置祥子、松井紗智子、武岡恵美子、山内貴未、片岡大
 (6) 脳神経内科 丸山あずさ、豊嶋大作
 (7) 循環器内科 城戸佐知子、田中敏克、富永健太、小川禎治、亀井直哉、松岡道生、三木康暢
 (8) 腎臓内科 貝藤裕史、稲熊洋祐
 (9) 代謝内分泌内科 尾崎佳代、永井正志
 (10) 血液・腫瘍内科 小阪嘉之、長谷川大一郎、森健、石田敏章、岸本健治、齋藤敦郎、神前愛子、田村彰広、中村さやか
 (11) 集中治療科 長谷川智巳、黒澤寛史、青木一憲、制野勇介、長井勇樹
 (12) アレルギー科 田中裕也
 (13) リウマチ科 中岸保夫
 (14) 小児外科 前田貢作、横井暁子、福澤宏明、岩出珠幾、森田圭一、河原仁守、鯨島由友
 (15) 心臓血管外科 大嶋義博、松久弘典、日隈智憲
 (16) 脳神経外科 河村淳史、小山淳二、阿久津宣行
 (17) 形成外科 小野田素大、平山泰樹
 (18) 整形外科 薩摩真一、坂田亮介、衣笠真紀、河本和泉
 (19) リハビリテーション科 小林大介
 (20) 泌尿器科 杉多良文、春名晶子、波越朋也
 (21) 耳鼻咽喉科 大津雅秀、勝沼紗矢香
 (22) 眼科 野村耕治、中村礼恵
 (23) 精神科 関口典子、持田啓、玉岡文子
 (24) 小児歯科 曾根由美子
 (25) 産科 船越徹、平久進也、荻野美智、窪田詩乃、金子めぐみ、益子沙友里
 (26) 放射線科 赤坂好宣、杉岡勇典
 (27) 麻酔科 香川哲郎、高辻小枝子、大西広泰、池島典之、鹿原史寿子、上嶋江利、末田グリンドロド彩、廣瀬徹也、藤原孝志、田中康智、小西麻意、神頭彩
 (28) 病理診断科 吉田牧子
 (29) フェロー 佐藤聖子、倉橋幸也、松村治 (総合診療科)
 先瀆大、鞍谷沙織 (救急総合診療科)
 大竹正悟 (感染症内科)
 徳元翔一 (脳神経内科)
 久保慎吾、林賢、堀口祥 (循環器内科)
 青砥悠哉 (腎臓内科)
 三星アカリ (代謝内分泌内科)
 野口隼、市川貴之、中谷尚子 (血液・腫瘍内科)
 宮下徳久、鴻池喜彦、市坂有基、白澤彩、金子尚樹、潮見祐樹、系数大吾、山下由理子、花見洋太郎、山本和宏、村田慧、伊藤由作 (集中治療科)
 百々菜月 (アレルギー科)
 竹内雄毅、植村光太郎、藤枝悠希 (小児外科)
 松島峻介 (心臓血管外科)
 藤原大悟 (脳神経外科)
 小林史明 (形成外科)
 劉正夫 (整形外科)
 安食淳 (泌尿器科)
 松野裕樹 (眼科)
 佐藤史弥 (麻酔科)
- (30) 専攻医 菊池菜摘、穴戸亜由美、近藤亜耶、西村明紘、土井圭、石田貴裕、井上葵子、近藤友里子、田中友理佳、合田由香利、高端裕人、竹本崇之、藤崎拓也、池谷紀衣子、片山大資、黒田靖浩、長谷川翔大、和田侑星、井村隼、山下遥介、松本友里、坪井ちづ、濱場千夏、原田みどり、中山里穂、内本明宏、山田圭祐

(3) 外来診療スケジュール (2019.12.31 現在)

科目	曜日	月		火		水		木		金		
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
内科	救急総合診療	◎南川	担当医	1,3週 ◎田中(亮) 2,4週 ◎宅見	担当医	◎津田	担当医	◎倉橋	担当医	◎上村		
	アレルギー		◎田中(裕) 百々	◎田中(裕) 百々	◎田中(裕) 百々				◎田中(裕) 百々	◎田中(裕) 百々	◎田中(裕) 百々	
	リウマチ			中岸	◎中岸	中岸	中岸	◎中岸	中岸			
	感染症内科						◎笠井(正)					
	臨床遺伝科			◎森貞	◎森貞			◎森貞	◎森貞			
	神経	◎豊嶋 担当医	丸山 担当医		豊嶋 徳元			◎永瀬 ◎徳元 担当医		◎丸山 ◎丸山 担当医		
	循環器	田中(敏) ◎亀井	◎田中(敏) 亀井	◎田中(敏) ◎松岡	田中(敏)	城戸 ◎三木	三木	◎城戸	城戸	◎富永	富永	
	循環器特殊	城戸 (思春期)	城戸 (成人先天性)		小川 (OD,不整脈)			田中 (カテ)	担当医 (シナジス)			
	腎臓	◎貝藤 ◎青砥	担当医 担当医	◎貝藤 ◎稲熊	◎貝藤 担当医	◎田中(亮) ◎稲熊	担当医			◎貝藤	◎田中(亮) ◎稲熊	
	代謝内分泌		検査	◎三星	三星	◎尾崎	尾崎	◎永井	永井	◎尾崎	尾崎	
新生児				3週 ◎芳本 三村 1,2,4,5,週 玉置			◎三村 岩谷		◎芳本 横田		◎三村 1,3,5週 片岡 2,4週 山内(貴)	
	◎小阪 長谷川	田村 森		◎小阪 化学療法のみ			◎石田	齋藤	◎長谷川 岸本 化学療法のみ	森		
	齋藤/森(長期フォロー)											
外科	小児外科	◎森田	横井 森田	◎福澤	福澤	◎河原	河原	◎前田	前田	◎横井	横井	
	ヘルニア外来	1,3,5週◎前田 2,4週◎横井						1,3,5週◎森田 2,4週◎福澤				
	特殊外来		ストマ 尾藤	在宅 岩出	在宅/ストマ 岩出/森田							
	心臓		◎大嶋 松久 日隈				◎大嶋 日隈				◎大嶋 松久	
	脳神経	◎小山 ◎頭の形外来	小山			◎阿久津 担当医	◎阿久津 担当医			◎河村	◎河村 二分脊椎	
	形成			◎小野田 ◎平山 言語療法				◎小野田 ◎平山 言語療法				
	整形		◎小林 ◎坂田	◎薩摩 ◎坂田	◎小林 ◎衣笠	◎薩摩 ◎河本			◎衣笠 ◎河本		二分脊椎	
放射線治療科		出水						副島				
眼科	◎野村 中村 松野			コンタクト 外来	◎野村 中村 松野	検査	◎野村 中村 松野	検査				
泌尿器科	◎担当医		◎杉多 ◎春名 ◎波越 安食 山下	検査	◎担当医			検査	◎春名 (杉多) ◎波越 安食 山下	二分脊椎		
耳鼻咽喉科	◎大津	大津	◎勝沼	◎勝沼			◎大津	大津	◎勝沼	◎勝沼		
	1週・3週 補聴器		3週・4週 補聴器									
	言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚			
歯科	◎曾根	曾根	◎曾根				◎曾根	曾根	◎田村	田村		
精神科	関口	関口	◎小笠原		持田	◎持田	◎長谷川	関口	◎関口	関口		
	◎持田	◎持田	玉岡	◎玉岡	◎玉岡	玉岡	持田	◎持田	玉岡	◎玉岡		
ADHD外来			前田	前田								
卒煙外来						休診						
産科	◎船越 益子	超音波 検査	金子 平久 ◎船越	超音波 外来	◎平久 益子 金子	超音波 検査	窪田 平久 益子 ◎船越	超音波 外来	窪田 益子 ◎船越	超音波 検査		

* 急な学会・出張等で休診・代診になる場合がありますのでご了承下さい。◎印は新患担当医となります。

兵庫県立こども病院

〒650-0047 神戸市中央区港島南町1-6-7

代表 TEL 078-945-7300

予約センター直通 TEL 078-945-7329 (平日9時~16時まで再診、9時~17時まで初診)

予約センター直通 FAX 078-945-7330 (24時間対応 初診のみ)

5. 近畿厚生局長への届出に関する事項（令和2年3月31日現在）

当院は診療報酬の請求に関し、近畿厚生局長へ以下の事項について届出を行っています。

【入院基本料等の施設基準】

一般病棟入院基本料(急性期一般入院料1)
(一般入院)第1099号

【入院基本料等加算の施設基準】

診療録管理体制加算2 (診療録2)第255号
 医師事務作業補助体制加算2(20対1) (事補2)第166号
 急性期看護補助体制加算(25対1、5割以上)
 (急性看護)第194号
 療養環境加算 (療)第183号
 無菌治療室管理加算1 (無菌1)第26号
 緩和ケア診療加算 (緩和診)第29号
 医療安全対策加算1(医療安全対策地域連携加算1含む)
 (医療安全)第515号

感染防止対策加算1
(感染防止対策地域連携加算、抗菌薬適正使用支援加算含む)
(感染防止1)第78号

患者サポート体制充実加算 (患サポ)第238号
 褥そうハイリスク患者ケア加算 (褥瘡ケア)第54号
 ハイリスク妊娠管理加算 (ハイ妊娠)第116号
 ハイリスク分娩管理加算 (ハイ分娩)第68号
 入退院支援加算1 (入退支)第259号
 入退院支援加算3 (退支)第259号
 精神疾患診療体制加算 (精疾診)第34号
 呼吸ケアチーム加算 (呼吸チ)第39号
 病棟薬剤業務実施加算1 (病棟薬1)第179号
 データ提出加算2 (データ提)第180号

【特定入院料の施設基準】

特定集中治療室管理料1
(※経皮的大動脈遮断術、ダメージコントロール手術)
(集1)第11号

(早期離床・リハビリテーション加算含む)

特定集中治療室管理料2
(※経皮的大動脈遮断術、ダメージコントロール手術)
(集2)第2号

(早期離床・リハビリテーション加算含む)
 総合周産期特定集中治療室管理料(※一酸化窒素吸入療法)
(周)第7号

小児入院医療管理料1(プレイルーム加算を含む)
(小入1)第8号

食事療養費1(食堂加算を含む)
(食)第119147号

【医学管理等】

がん性疼痛緩和指導管理料 (がん疼)第429号
 がん患者指導管理料イ (がん指イ)第69号
 がん患者指導管理料ロ (がん指ロ)第55号
 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)
(移植管造)第10号

乳腺炎重症化予防・ケア指導料 (乳腺ケア)第37号
 院内トリアージ実施料 (トリ)第75号
 開放型病院共同指導料 (開)第72号
 ハイリスク妊産婦連携指導料1 (ハイ妊連1)第27号
 ハイリスク妊産婦連携指導料2 (ハイ妊連2)第11号
 薬剤管理指導料 (薬)第485号
 医療機器安全管理料1 (機安1)第170号

【検査】

持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
(持血測)第51号
 遺伝学的検査 (遺伝検)第9号

骨髄微小残存病変量測定 (骨残測)第2号
 検体検査管理加算(IV) (※造血管腫瘍遺伝子検査)
(検IV)第51号

遺伝カウンセリング加算 (遺伝カ)第6号
 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
(血内)第32号

胎児心エコー法 (胎心エコー)第28号
 ヘッドアップティルト試験 (ヘッド)第54号
 脳波検査判断料1 (脳判)第3号
 神経学的検査 (神経)第146号
 補聴器適合検査 (補聴)第42号
 小児食物アレルギー負荷検査 (小検)第94号

【画像診断】

画像診断管理加算2 (画2)第120号
 CT撮影(64列以上)及びMRI撮影(1.5以上3テスラ未満)
(※大腸CT撮影加算) (C・M)第898号
 冠動脈CT撮影加算 (冠動C)第80号
 心臓MRI撮影加算 (心臓M)第64号
 小児鎮静下MRI撮影加算 (小児M)第15号

【投薬】

抗悪性腫瘍剤処方管理加算 (抗悪処方)第64号

【注射】

外来化学療法加算1 (外化1)第145号
 無菌製剤処理料 (菌)第520186号

【リハビリテーション】

脳血管疾患等リハビリテーション料(II)
 [※廃用症候群リハビリテーション料(II)](脳II)第475号
 運動器リハビリテーション料(I) (運I)第356号
 呼吸器リハビリテーション料(I) (呼I)第231号
 障害児(者)リハビリテーション料 (障)第33号
 がん患者リハビリテーション料 (がんリハ)第82号
 集団コミュニケーション療法料 (集コ)第77号

【精神科療法】

児童思春期精神科専門管理加算 (児春専)第6号

【手術】

頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。) (頭移)第5号
 ベースメーカー移植術及びベースメーカー交換術
(※植込型心電図検査) (ベ)第211号
 (※植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術)
 大動脈バルーンパンピング法(IABP法) (大)第101号
 胎児胸腔・羊水腔シャント術 (胎羊)第2号
 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術

(胃瘻造)第217号
 輸血管理料I (輸血I)第276号
 コーディネート体制充実加算 (コ体充)第5号
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 (造設前)第77号
 凍結保存同種組織加算 (凍保組)第1号

【麻酔】

麻酔管理料(I) (麻管I)第261号
 麻酔管理料(II) (麻管II)第24号

【放射線治療】

高エネルギー放射線治療 (高放)第90号

【病理診断】

病理診断管理加算1 (病理診1)第47号
 悪性腫瘍病理組織標本加算 (悪病組)第29号

【歯科関係】

歯科矯正診断料 (矯診)第164号

6. 研修・教育認定施設内容

厚生労働省認定病院等	<p>◆ [厚生労働省認定] 厚生労働省認定臨床研修指定病院（小児） 厚生労働省認定外国医師臨床研修施設</p> <p>◆ [専門医教育病院学会指定] 日本小児科学会専門医研修施設 日本外科学会外科専門医訓練施設 日本脳神経外科学会専門医訓練施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本眼科学会専門医研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本病理学会登録施設 日本麻酔学会麻酔指導病院 日本医学放射線学会専門医特殊修練機関 日本胸部外科学会認定医指定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本形成外科学会認定医指導施設 日本小児外科学会認定施設 日本産科婦人科学会専門医研修指導施設 日本内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本気管食道科学会認定日本気管食道科専門医研修施設（咽候系） 日本周産期新生児医学会専門医研修施設 日本小児循環器学会専門医修練施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本小児血液・がん専門医研修施設 日本小児神経学会専門医研修施設 日本集中治療医学会 集中治療専門医研修施設 日本心臓血管麻酔学会専門医認定施設 日本精神神経学会精神科専門医研修施設 日本てんかん学会研修施設</p>
姉妹提携・交流協定病院	<p>シアトル小児病院（アメリカ合衆国） パース小児病院（オーストラリア） 中国福利会国際和平婦幼保健院（中華人民共和国）</p>

7. 委員会等一覧 (2019年4月～2020年3月)

委員会等名	会長・委員長	開催回数	活動内容と結果
幹部会	院長	毎月第2月曜日	病院の管理及び運営に関する基本方針等を審議
(1)運営協議会 (経営実施計画推進委員会)	院長	毎月第4月曜日	幹部会からの指示事項の調査、検討と職員への周知
(2)保険診療対策委員会	大嶋副院長	12回(毎月第4水曜日)	減点内容の精査、返戻に対する対応の検討
①DPCコーディング部会	薩摩診療部長	4回(随時)	①部位不明・詳細不明コードの減少へ向けた取組検討 ②適切な傷病名コーディングの検証 ③DPC 傷病名登録の検討 ④診療報酬改定(DPC 制度)の動向の情報共有等
②在宅医療部会	宅見家族支援・ 地域医療連携部長	0回	
医療事故防止対策委員会	杉多医療安全部長	毎月第4月曜日	リスクマネジメント部会からの報告、重点目標の進捗状況等
(1)リスクマネジメント部会	杉多医療安全部長	毎月第2火曜日	①各部門の毎月のヒヤリハット発生状況の報告 ②医療安全研修会の開催 ③医療安全推進週間の啓蒙 ④重点取り組み課題の決定と実施、評価
(2)医療事故対策部会	前田副院長	11回 (随時)	①事故原因の追及 ②再発防止策の策定
倫理委員会	前田副院長	13回	詳細は別紙のとおり
(1)臨床研究専門部会	田中小児救急救命 センター長	50回	50件の迅速臨床研究倫理審査を実施した
(2)利益相反部会	前田副院長	0回	
臓器提供に関する委員会	前田副院長	0回	
(1)臓器提供院内コーディネ ート部会	長谷川集中治療科 部長	9回	臓器移植に係る院内シミュレーション・勉強会の実施
脳死判定委員会	小山脳神経外科医 長	0回	
虐待防止委員会	宅見家族支援・地 域医療連携部長	定例3回 事例発生時19回	年間事例の報告 処遇検討
衛生委員会	大嶋副院長	月1回	職員の健康障害の防止対策等について審議
防災対策委員会	前田副院長	2回	防災訓練の実施
医師及び看護師の負担等 軽減推進委員会	院長	2回	負担軽減計画の策定
職務発明審査会	院長	1回	出願審査の請求を承認
広報委員会	大津部長(医療情 報担当)	6回	①ニュースレター「げんきカエル」の発行(年4回) ②2018年報の発行 ③病院ホームページの更新
研修教育委員会	田中小児救急救命 センター長	4回	①症例検討会の実施状況について ②各部会からの報告 ③院内全体研修会について
(1)図書部会	赤坂検査・放射線 部長	6回	①電子ジャーナルの見直しについて ②医局図書追加契約について
(2)臨床研修病院部会	田中小児救急救命 センター長	0回	
(3)小児科専門医研修プロ グラム部会	中岸リウマチ科医 長	毎月第3木曜日	小児科専門医研修プログラムの企画・立案と実施の管理 小児科専攻医に対する指導と評価 見学説明会の開催など小児科専攻医のリクルート
省エネルギー推進委員会	院長	1回	日常の省エネルギー活動の推進と活動結果の検証
国際交流推進委員会	田中小児救急救命 センター長	9回	①シアトル小児病院研修派遣について ・第12回シアトル小児病院派遣研修について ・シアトル小児病院派遣研修申請・報告について ②今後の国際交流についての検討
患者サービス向上等推進委 員会	春名総務部長	5回	①ハートメッセージに関する検討 ②ボランティアの受け入れに関する調整 ③きょうだいルーム(仮)についての検討
(1)接遇部会	松本看護部参事	0回	
治験審査委員会	杉多医療安全部長	6回	詳細は別紙のとおり
受託研究審査委員会	杉多医療安全部長	0回	
共同研究審査委員会	小阪副院長	2回	中枢神経感染症に対して多項目髄膜炎／脳炎パネル検査が与える効果に関する研究について審議した
臨床研究支援室運営委員 会	長谷川血液・腫瘍 内科部長	2回	こども病院・理研ジョイントシンポジウム及びサテライトセミナーについて
医療の質向上委員会	小阪副院長	4回 (随時)	病院機能評価の結果から明らかになった未解決の課題について、院内での改善取り組みの進捗管理
診療材料委員会	薩摩診療部長	6回	①新規診療材料採用申請の審議 ②JITS システムデータに基づく診療材料変更提案の審議

医療用ガス安全管理委員会	芳本周産期医療センター次長	1回	①医療用ガス設備に係る定期点検の報告 ②医療ガス安全講習会開催
情報システム管理委員会	大津部長(医療情報担当)	11回 (毎月第1水曜日)	①情報システムに関する要望についての審議と対応 ・ファイアウォールライセンス切れに伴うインターネット障害対応 ・電子カルテレベルアップ、Windows 7サポート終了に伴う対応等 ②電子カルテ緊急停止時対応シミュレーション実施 ③兵庫県サイバー講習会開催 ④情報システムの運用状況、障害状況の確認 ⑤ヘルプデスク対応実績報告
診療記録等管理委員会	大嶋副院長	5回 (随時)	新規帳票の承認(同意書の様式作成等) 診療録監査の実施
院内感染対策委員会	小阪副院長	毎月第2金曜日	①病院の感染対策に関する審議 ②院内外における感染微生物の発生状況の把握 ③院内発生時の早急な対応と拡大防止
(1)感染対策チーム(ICT)	笠井感染症科部長	毎週木曜日	①院内感染に関する情報収集・相談・対策検討・評価 ②感染予防における職員への教育 ③院内ラウンド
(2)抗微生物薬適正使用支援チーム(AST)	石田薬剤部次長	毎月1回チーム会議 週1回コアメンバー会議 週3回ショートカンファレンス	①ケースカンファレンスによる抗MRSA薬、抗緑膿菌薬等の使用状況モニタリング ②抗微生物薬適正使用に関する職員への教育及び地域医療連携研修会の開催 ③抗菌薬供給制限への対応 ④薬剤耐性菌対策の推進
外来運営委員会	田中循環器内科部長	6回 (隔月第3月曜日)	①外来運営指標分析 ②診察待ち時間対策の検討 ③診療科からの外来枠の拡大・新設要望への対応 ④連休の診察対応の検討 ⑤受付票に印字される診察室番号へのフロア追記について検討
病棟運営委員会	檜垣副院長兼看護部長	7回 (隔月第3木曜日)	①病床利用状況の報告 ②GCU病床の他科の利用状況報告 ③血液腫瘍内科患者の7階以外の病棟での受け入れについて ④夏休み期間中の病床運営検討 ⑤リネン代の見直し検討 ⑥科別目安ベッド設定の是非検討 ⑦地域との連携強化について ⑧患者付添申請書様式検討
手術室運営委員会	野村部長(手術調整担当)	12回	①手術件数報告 ②効率的な手術室運営について ③機種保守点検、更新について ④安全、感染について ⑤手術室関連ヒヤリハット・インシデントの検討
集中治療室運営委員会	香川部長(集中治療担当)	12回 (毎月第3火曜日)	①病床運用状況報告 ②「集中治療室で終末期を迎えた患者・家族への対応指針」検討 ③特定集中治療室構造変更工事の検討 ④小児集中治療室管理料試算の報告 ⑤ヒヤリハット報告・検討
リハビリテーション運営委員会	小林リハビリテーション部長	3回	集中治療リハビリテーション充実、実施シート記載の充実 早期処方の定着
薬事委員会	小阪副院長	3回	①医薬品の採用・中止の検討 ②医薬品の後発医薬品への切替えの検討 ③新規採用医薬品(33品目)、中止医薬品(32品目)、後発医薬品への切替え(15品目)
(1)化学療法レジメン部会	長谷川血液・腫瘍内科部長	4回	①新規化学療法レジメンの承認等について ②作成レジメン報告について ③レジメンシステムの体表面積計算式について ④がん化学療法レジメン管理マニュアルの改訂について
放射線安全委員会	赤坂検査・放射線部長	1回	①放射線業務従事者管理状況について ②放射線安全研修会について ③放射線障害予防規程の変更について
検査委員会	赤坂検査・放射線部長	2回 不定期	①臨床検査実施状況報告 ②精度管理調査報告 ③検査項目、運用等の変更に関する承認 ④検査に関する要望についての審議と対応 ⑤ISO15189受審に向けた取り組み報告
栄養給食委員会	小阪副院長兼栄養管理部長	4回	①平成30年度給食及び栄養指導実施状況報告 ②院内約束食事基準の改定について ③液乳の採用について ④産科ねざらい膳の導入について ⑤患者持込食の緩和について
(1)栄養給食委員会栄養サポートチーム(NST)部会	小阪副院長兼栄養管理部長	4回	①栄養指導実施状況報告 ②栄養サポートチーム(NST)の活動について

輸血療法委員会	芳本周産期医療センター次長	隔月第1水曜日	①血液製剤の使用状況報告 ②輸血に関連した副作用報告 ③輸血療法マニュアル改訂 ④輸血に関する要望及び諸問題への対応 (医療処置・検査の「同意」を拒否される場合の病院の対応方針決定により、「宗教上の理由で輸血を拒否される患者に対する基本方針」を削除)
褥瘡対策委員会	小野田形成外科医長	11回	①院内の褥瘡に関する状況の報告 ②褥瘡に関する研修(看護部と共同) ③褥瘡対策患者対象の回診 ④褥瘡に関するデータの共有とケアの評価や対策の検討
臨床カルパス委員会	森田小児外科医長	11回	①新規臨床カルパス作成支援 ②院内臨床カルパス大会2回開催 ③作成された臨床カルパスの承認・運用・管理 ④臨床カルパス運用マニュアルの見直し・検討
在宅推進委員会	宅見家族支援・地域医療連携部長	9回	①在宅医療に関する各システムの運用・管理について検討 ②地域医療機関との連携 施設訪問・在宅医療者研修開催(1回/年看護部と協同)・神戸市小児在宅医療研修会開催(1回/年神戸市医師会と協同)
呼吸療法委員会	大嶋副院長	12回 (毎月第3金曜日)	①呼吸ケアサポートチームからの活動(ラウンド・勉強会)報告 ②呼吸障害ケア部会からの活動(ヒヤリハット等)報告 ③救急医療チームからの活動(METコール等)報告
(1)呼吸器ケアサポートチーム	香川部長 (麻酔担当)	第1、3金曜日	人工呼吸器装着患者に対する①診療支援、②医療安全の向上および環境整備、マニュアル作成、③勉強会などを通じた教育
(2)救急医療チーム	黒澤集中治療科医長	3回	①MET運用にかかる問題点の整理、情報収集 ②院内体制としてのMET位置づけを見直した。2020年度からは、これまでの呼吸療法委員会から、医療事故防止対策委員会MET部会として、新たな体制で活動予定
小児がん医療センター運営委員会	小阪副院長兼小児がん医療センター長	5回 (随時)	①近畿ブロック小児がん診療病院連絡会/近畿ブロック小児がん拠点病院協議会の案内・報告 ②入院中患者(高校生)への教育・学習支援について ③小児がんに関する研究及び研修会などの案内・報告 ④小児がん拠点病院指定要件等の検討 ⑤がん登録にかかる案内・報告等
(1)緩和ケア部会	岸本血液・腫瘍内科医長	4回 (随時)	①緩和ケアチーム会議検討事項の報告 ②緩和ケアチーム介入手順の策定 ③緩和ケア加算開始に向けた検討
(2)アピアランスケア部会	長谷川血液・腫瘍内科部長	1回 (随時)	①アピアランスケア活動の国内状況 ②国立がんセンター研修への委員派遣について
総合周産期母子医療センター運営委員会	船越周産期医療センター長	12回 (毎月第1月曜日)	①病床利用率等報告 ②周産期医療センター研修会開催 ③母性健康管理指導事項カードの取扱い検討 ④神戸市新生児聴覚検査・産後ケア事業等検討 ⑤兵庫県周産期搬送コーディネーター事業検討
小児救命救急センター運営委員会	田中小児救急救命センター長	12回 (毎月第4木曜日)	①救急患者受付状況(応需率・患者動向等)報告 ②ゴールデンウィーク・年末年始期間中の勤務体制検討 ③院内BLSワーキンググループ活動状況報告 ④ドクターズカーの使用・運行記録票の改訂検討 ⑤救急搬送同意書の検討 ⑥救急外来の施設・設備改修検討
小児心臓センター運営委員会	大嶋副院長	0回	
予防接種センター運営委員会	小阪副院長	6回 (隔月第2金曜日)	①予防接種等(「接種件数」等報告) ②医療相談(「電話相談」実施状況報告) ③予防接種外来の運営状況報告 ④市町等に対する接種に関する情報等の提供(「ホームページ」更新) ⑤医療従事者向け研修(「予防接種基礎講座」) ⑥予防接種に関する過誤の報告と再発防止策検討 ⑦テトラビック自主回収に伴う抗体検査及び追加接種について ⑧骨髄移植後の予防接種の再接種に対する助成事業の実施についての報告 ⑨任意予防接種費用助成事業についての神戸市との契約締結 ⑩予防接種外来診察枠増設 ⑪B型肝炎ワクチンの切り替えについて
小児アレルギー疾患センター運営委員会	小阪副院長	3回 (随時)	アレルギー疾患医療拠点病院の事業について
地域医療支援病院委員会			
病院運営懇話会			
ハラスメント防止委員会	東鬼管理局長	0回	
仕様策定委員会	院長	3回	医療機器購入の為の仕様条件を審議

各種委員会（別紙）

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
倫理委員会	前田副院長	4月10日 9:30～	会議室	10	① 造血細胞移植におけるブスルファンの至適投与量設計に向けた薬理遺伝解析<岸本血液・腫瘍内科医長>
倫理委員会	前田副院長	5月8日 9:30～	会議室	10	① 母体血中 cell-free DNA を用いた非侵襲的出生前遺伝学的検査の臨床研究<平久産科医長>
倫理委員会	前田副院長	6月12日 9:30～	会議室	10	① 女性におけるゴナドトロピン非依存性思春期早発症に対するアリミデックスの治療<尾崎代謝内分泌科部長> ② 自費診療による遺伝子解析について<森貞臨床遺伝科部長> ③ スギ花粉症合併1型糖尿病小児へのスギ舌下免疫療法による血糖コントロール改善効果<田中アレルギー科医長> ④ 膀胱尿管逆流を有さず、右腎盂腎炎を再発する児に対する膀胱尿管逆流防止術<春名泌尿器科医長>
倫理委員会	前田副院長	7月10日 9:30～	会議室	10	① 小児集中治療における長期人工呼吸管理患者の国際横断研究<宮下小児集中治療科フェロー>
倫理委員会	前田副院長	8月14日 9:30～	会議室	8	① 大動脈弓部の再狭窄に対する再手術における医療機器の目的外使用について<日隈心臓血管外科医長> ② 小児急性呼吸窮迫症候群(PARDS);アジアにおける前方視的多施設研究(PARDS PRO-ASIA study)<青木小児集中治療科医長> ③ 造血幹細胞移植後の短期的および長期的腎予後の検討<稲熊腎臓内科医長> ④ 小児集中治療室における血中PCT(Procalcitonin),LBP(Lipopolysaccharide binding protein),IL-6(Interleukin-6)値の細菌感染症早期診断補助マーカーとして有用性に関する観察研究<金子小児集中治療科フェロー>
倫理委員会	前田副院長	9月11日 9:30～	会議室	10	① 同意を得られない場合の医療処置(輸血を含む)実施の病院の基本方針について<宅見家庭支援・地域医療連携部長> ② 中枢神経感染症に対する抗微生物薬適正使用へ多項目髄膜炎/脳炎パネル検査が与える効果に関する観察研究<大竹感染症内科フェロー>
倫理委員会	前田副院長	10月16日 9:30～	会議室	10	① 大動脈弓部の再狭窄に対する再手術における医療機器の目的外使用について〔第5回委員会からの継続審査〕<日隈心臓血管外科医長> ② 小児の洞不全症候群へのシロスタゾール投与<小川循環器内科医長> ③ フォンタン術後患者の難治性蛋白漏出性胃腸症へのミドドリン投与<小川循環器内科医長>
倫理委員会	前田副院長	11月7日 8:20～	会議室	8	① 臍帯血移植後骨髄抑制期の難治性感染症に対する顆粒球輸血<石田血液・腫瘍内科医長>
倫理委員会	前田副院長	11月13日 9:30～	会議室	8	① 重症乳幼児喘息に対するスピリーバの導入<百々アレルギー科フェロー> ② 小児への緩徐経口免疫療法の効果と安全性の検討<百々アレルギー科フェロー> ③ 中枢神経感染症に対して多項目髄膜炎/脳炎パネル検査が与える効果に関する研究<大竹感染症内科フェロー>
倫理委員会	前田副院長	12月11日 9:30～	会議室	10	① フォンタン術後患者の難治性蛋白漏出性胃腸症へのミドドリン投与量の増量(1日量30mgまで)<小川循環器内科医長> ② 多項目呼吸器パネル検査が気管切開患者の気道感染症へ与える効果に関する研究<大竹感染症内科フェロー>
倫理委員会	前田副院長	1月9日 8:20～	会議室	9	① BRAF V600E 変異を伴う難治性ランゲルハンス組織球症に対するベムラフェニブ治療<齋藤血液・腫瘍内科医長>
倫理委員会	前田副院長	2月12日 9:30～	会議室	10	① 重症乳幼児喘息に対するスピリーバの導入<百々アレルギー科フェロー> ② 重度の起立性調節障害2症例へのミドドリンの最高投与量の増量<小川循環器内科医長>
倫理委員会	前田副院長	3月11日 9:30～	会議室	10	① フォンタン術後患者の難治性蛋白漏出性胃腸症へのミドドリン投与量の増量(1日量40mgまで)<小川循環器内科医長>

治験審査委員会	杉多医療安全部長	4月11日	総務部前会議室	10	PKC412の実施の適否について審議、また、現在進行中の治験4課題の継続について審議した。また、1課題の終了を報告した
治験審査委員会	杉多医療安全部長	6月20日	総務部前会議室	9	IDEC-C2B8(医師主導治験)の実施の適否について審議、現在進行中の治験5課題の継続について審議した
治験審査委員会	杉多医療安全部長	8月15日	総務部前会議室	9	JR-031の実施の適否について審議、現在進行中の治験4課題の継続について審議した
治験審査委員会	杉多医療安全部長	10月17日	総務部前会議室	9	イノツズマブ オゾガマイシン(医師主導治験)の実施の適否について審議、また現在進行中の治験5課題の継続について審議した
治験審査委員会	杉多医療安全部長	12月19日	総務部前会議室	8	現在進行中の治験4課題の継続について審議した。また、1課題の終了を報告した
治験審査委員会	杉多医療安全部長	2月20日	4階カンファレンス-3	8	SHP674の実施の適否について審議、現在進行中の治験7課題の継続について審議した。また、1課題の終了を報告した

II 医事経理関係

第1節 患者数統計

1. 総括

(1) 年度別 患者統計

区 分				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度
外 来	a	診 療 日 数	日	243	243	244	244	240
	b	新 患 者 数	人	7,687	7,347	10,498	13,019	13,487
	c	一日平均新患者数	人	31.6	30.2	43.0	53.4	56.2
	d	延 患 者 数	人	86,135	84,099	93,614	99,518	103,385
	e	一日平均延患者数	人	354.5	346.1	383.7	407.9	430.8
	f	平均通院日数	日	11.2	11.4	8.9	7.6	7.7
入 院	g	稼 働 日 数	日	366	365	365	365	366
	h	稼 働 病 床 数	床	266	267	269	275	275
	I	入 院 患 者 数	人	5,546	5,681	6,478	6,213	6,814
	j	一日平均入院患者数	人	15.2	15.6	17.7	17.0	18.6
	k	退 院 患 者 数	人	5,580	5,651	6,505	6,203	6,793
	l	一日平均退院患者数	人	15.2	15.5	17.8	17.0	18.6
	m	延 入 院 患 者 数	人	83,583	76,733	85,354	79,417	87,299
	n	一日平均延患者数	人	228.4	210.2	233.8	217.6	238.5
	o	病 床 利 用 率	%	85.9	78.7	86.9	79.1	86.7
	p	病 床 回 転 数	回	20.9	21.2	24.1	22.6	24.7
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	371	369	415	393	511
	s	N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数	人	933	720	824	797	894
	t	平均在院日数	日	14.0	12.5	12.1	11.8	11.8
	u	外 来 入 院 比 率	%	103.1	109.6	109.7	125.3	118.4
v	入 院 率	%	72.1	77.3	61.7	47.7	50.5	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = m/ (h × g) × 100 p 病床回転率 = ((I+k) /2) /h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) /2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100							

(2) 月別患者統計

R01 年度

区 分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外 来	a	診 療 日 数	日	20	19	20	22	21	19	21	20	20	19	18	21	240
	b	新 患 者 数	人	1,185	1,171	1,138	1,286	1,191	1,112	1,195	1,119	1,129	1,139	958	864	13,487
	c	一日平均新患者数	人	59.3	61.6	56.9	58.5	56.7	58.5	56.9	56.0	56.5	59.9	53.2	41.1	56.2
	d	延 患 者 数	人	8,466	7,740	7,816	9,495	10,114	8,494	8,781	8,071	9,006	8,559	7,706	9,137	103,385
	e	一日平均延患者数	人	423.3	407.4	390.8	431.6	481.6	447.1	418.1	403.6	450.3	450.5	428.1	435.1	430.8
	f	平均通院日数	日	7.1	6.6	6.9	7.4	8.5	7.6	7.3	7.2	8.0	7.5	8.0	10.6	7.7
入 院	g	稼 働 日 数	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
	h	稼 働 病 床 数	床	275	275	275	275	275	275	275	275	275	275	275	275	275
	I	入 院 患 者 数	人	553	510	534	596	622	549	609	549	535	607	535	615	6,814
	j	一日平均入院患者数	人	18.4	16.5	17.8	19.2	20.1	18.3	19.6	18.3	17.3	19.6	18.4	19.8	18.6
	k	退 院 患 者 数	人	551	482	542	581	646	525	630	553	597	543	543	600	6,793
	l	一日平均退院患者数	人	18.4	15.5	18.1	18.7	20.8	17.5	20.3	18.4	19.3	17.5	18.7	19.4	18.6
	m	延 入 院 患 者 数	人	7,087	7,337	7,527	7,798	7,794	7,369	7,564	7,049	7,080	6,846	6,590	7,258	87,299
	n	一日平均延患者数	人	236.2	236.7	250.9	251.5	251.4	245.6	244.0	235.0	228.4	220.8	227.2	234.1	238.5
	o	病 床 利 用 率	%	85.9	86.1	91.2	91.5	91.4	89.3	88.7	85.4	83.0	80.3	82.6	85.1	86.7
	p	病 床 回 転 数	回	2.0	1.8	2.0	2.1	2.3	2.0	2.3	2.0	2.1	2.1	2.0	2.2	24.7
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	35	33	40	44	52	39	46	47	51	44	37	43	511
	s	N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数	人	68	77	66	72	80	66	85	73	63	91	73	80	894
	t	平 均 在 院 日 数	日	11.8	13.8	13.0	12.3	11.3	12.7	11.2	11.8	11.5	11.0	11.2	11.0	11.8
	u	外 来 入 院 比 率	%	119.5	105.5	103.8	121.8	129.8	115.3	116.1	114.5	127.2	125.0	116.9	125.9	118.4
v	入 院 率	%	46.7	43.6	46.9	46.3	52.2	49.4	51.0	49.1	47.4	53.3	55.8	71.2	50.5	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = m / (h × g) × 100 p 病床回転率 = ((I+k) / 2) / h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) / 2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100															

2. 月別科別外来患者数

R01 年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新患者数	41	43	51	56	53	40	46	46	38	32	29	29	504
	再来患者数	809	629	620	834	1,006	754	712	640	799	655	676	914	9,048
	延患者数	850	672	671	890	1,059	794	758	686	837	687	705	943	9,552
腎臓内科	新患者数	14	6	13	35	22	16	12	10	11	10	9	10	168
	再来患者数	228	209	187	316	372	270	235	217	288	257	206	302	3,087
	延患者数	242	215	200	351	394	286	247	227	299	267	215	312	3,255
神経内科	新患者数	13	7	11	12	16	11	16	11	9	16	12	8	142
	再来患者数	339	303	318	321	409	289	325	293	297	322	303	365	3,884
	延患者数	352	310	329	333	425	300	341	304	306	338	315	373	4,026
血液内科	新患者数	12	10	10	11	7	10	4	7	10	9	11	7	108
	再来患者数	407	345	332	457	572	371	395	380	413	410	383	476	4,941
	延患者数	419	355	342	468	579	381	399	387	423	419	394	483	5,049
代謝・内分泌内科	新患者数	24	18	19	25	18	16	17	17	12	13	14	12	205
	再来患者数	538	521	497	559	645	546	581	540	581	559	533	609	6,709
	延患者数	562	539	516	584	663	562	598	557	593	572	547	621	6,914
新生児内科	新患者数	2	1	1	2	4	1	5	1	1	3	0	2	23
	再来患者数	162	143	145	181	164	159	184	168	182	161	178	154	1,981
	延患者数	164	144	146	183	168	160	189	169	183	164	178	156	2,004
心臓血管外科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	再来患者数	79	65	56	74	76	75	67	67	75	73	76	64	847
	延患者数	79	65	56	74	76	75	67	67	77	73	76	64	849
脳神経外科	新患者数	26	34	30	41	36	36	38	27	34	32	30	26	390
	再来患者数	352	279	269	367	445	367	297	266	384	321	269	375	3,991
	延患者数	378	313	299	408	481	403	335	293	418	353	299	401	4,381
小児外科	新患者数	45	47	53	60	61	40	43	39	43	45	30	37	543
	再来患者数	445	354	379	498	559	413	436	375	470	463	379	520	5,291
	延患者数	490	401	432	558	620	453	479	414	513	508	409	557	5,834
整形外科	新患者数	91	75	75	111	80	77	120	107	94	91	88	65	1,074
	再来患者数	655	525	524	731	821	641	630	546	652	612	510	759	7,606
	延患者数	746	600	599	842	901	718	750	653	746	703	598	824	8,680
形成外科	新患者数	38	26	35	33	33	28	30	36	19	31	19	16	344
	再来患者数	287	248	240	335	334	323	312	282	329	315	262	328	3,595
	延患者数	325	274	275	368	367	351	342	318	348	346	281	344	3,939
精神科	新患者数	15	13	24	17	20	11	23	15	19	14	20	15	206
	再来患者数	338	343	316	404	348	352	368	364	351	363	326	370	4,243
	延患者数	353	356	340	421	368	363	391	379	370	377	346	385	4,449
アレルギー内科	新患者数	35	34	22	19	20	11	13	12	7	11	19	11	214
	再来患者数	161	185	194	267	246	278	297	256	292	276	261	326	3,039
	延患者数	196	219	216	286	266	289	310	268	299	287	280	337	3,253
リウマチ科	新患者数	1	4	6	5	2	4	3	2	4	3	1	2	37
	再来患者数	117	102	99	106	127	105	114	103	120	101	107	118	1,319
	延患者数	118	106	105	111	129	109	117	105	124	104	108	120	1,356

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	新患者数	1	2	0	2	0	0	0	1	1	1	1	0	9
	再来患者数	12	10	11	7	11	4	8	13	14	8	8	14	120
	延患者数	13	12	11	9	11	4	8	14	15	9	9	14	129
臨床遺伝科	新患者数	4	6	5	1	19	2	11	6	4	7	5	3	73
	再来患者数	51	63	58	74	89	74	64	53	75	66	62	101	830
	延患者数	55	69	63	75	108	76	75	59	79	73	67	104	903
泌尿器科	新患者数	61	54	60	60	57	63	53	51	53	65	44	50	671
	再来患者数	414	398	409	472	518	433	478	436	456	421	390	483	5,308
	延患者数	475	452	469	532	575	496	531	487	509	486	434	533	5,979
産科	新患者数	12	15	13	12	18	13	13	19	9	13	18	17	172
	再来患者数	159	149	168	191	158	205	218	204	187	210	167	170	2,186
	延患者数	171	164	181	203	176	218	231	223	196	223	185	187	2,358
眼科	新患者数	41	40	44	51	53	60	66	47	73	54	38	48	615
	再来患者数	581	624	666	745	710	628	683	625	660	608	596	680	7,806
	延患者数	622	664	710	796	763	688	749	672	733	662	634	728	8,421
耳鼻咽喉科	新患者数	36	28	39	45	34	39	46	42	37	51	36	51	484
	再来患者数	441	318	423	463	517	370	409	381	472	411	355	480	5,040
	延患者数	477	346	462	508	551	409	455	423	509	462	391	531	5,524
リハビリテーション科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	2	1	0	4	4	4	5	4	3	7	2	4	40
	延患者数	2	1	0	4	4	4	5	4	3	7	2	4	40
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	新患者数	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
	再来患者数	54	47	67	57	62	42	57	63	70	54	54	68	695
	延患者数	54	47	67	57	62	43	57	64	70	54	54	68	697
総合診療科	新患者数	20	21	18	27	17	25	18	20	20	12	10	13	221
	再来患者数	184	208	226	260	244	240	259	233	251	268	241	249	2,863
	延患者数	204	229	244	287	261	265	277	253	271	280	251	262	3,084
救急科	新患者数	600	630	540	560	542	558	553	527	547	542	452	365	6,416
	再来患者数	346	375	364	357	365	341	340	339	359	382	302	257	4,127
	延患者数	946	1,005	904	917	907	899	893	866	906	924	754	622	10,543
小児集中治療科	新患者数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
歯科	新患者数	53	56	69	101	79	50	65	75	82	84	72	77	863
	再来患者数	120	125	110	129	121	98	112	104	97	97	102	87	1,302
	延患者数	173	181	179	230	200	148	177	179	179	181	174	164	2,165
合計	新患者数	1,185	1,171	1,138	1,286	1,191	1,112	1,195	1,119	1,129	1,139	958	864	13,487
	再来患者数	7,281	6,569	6,678	8,209	8,923	7,382	7,586	6,952	7,877	7,420	6,748	8,273	89,898
	延患者数	8,466	7,740	7,816	9,495	10,114	8,494	8,781	8,071	9,006	8,559	7,706	9,137	103,385

3. 月別科別入院患者数

R01 年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新規入院患者数	36	40	26	44	45	35	41	33	32	35	35	41	443
	退院患者数	46	36	39	47	44	42	44	38	48	38	41	40	503
	延患者数	503	552	555	584	559	426	474	450	509	440	477	503	6,032
腎臓内科	新規入院患者数	8	5	10	11	10	8	8	5	2	6	7	7	87
	退院患者数	9	5	10	16	12	6	9	7	5	8	8	9	104
	延患者数	116	85	106	160	69	41	108	60	89	82	91	148	1,155
神経内科	新規入院患者数	10	7	9	8	10	12	8	10	8	11	9	13	115
	退院患者数	13	15	11	18	14	10	14	18	20	12	17	19	181
	延患者数	275	235	183	221	177	198	250	269	118	154	186	198	2,464
血液内科	新規入院患者数	100	87	96	76	81	82	102	81	84	102	89	106	1,086
	退院患者数	101	86	98	87	79	84	102	80	98	95	99	97	1,106
	延患者数	1,562	1,638	1,546	1,525	1,614	1,533	1,515	1,465	1,539	1,427	1,350	1,410	18,124
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	6	4	6	11	6	4	6	5	5	5	7	16	81
	退院患者数	7	4	7	8	7	5	6	8	7	6	6	16	87
	延患者数	46	25	37	46	29	24	40	64	39	26	40	94	510
新生児内科	新規入院患者数	35	39	36	35	37	35	39	39	31	44	35	42	447
	退院患者数	31	25	32	32	36	27	40	35	26	37	39	36	396
	延患者数	1,024	1,153	1,281	1,144	1,121	1,163	1,120	1,134	1,043	1,173	1,094	1,132	13,582
心臓血管外科	新規入院患者数	8	9	6	11	12	4	8	4	12	9	10	11	104
	退院患者数	9	11	10	5	19	7	9	8	11	6	13	11	119
	延患者数	110	92	121	133	217	109	136	106	179	140	137	90	1,570
脳神経外科	新規入院患者数	17	13	14	18	15	14	11	8	11	13	13	9	156
	退院患者数	17	12	18	17	16	21	15	10	14	15	6	16	177
	延患者数	148	137	133	168	192	151	106	100	156	110	81	117	1,599
小児外科	新規入院患者数	60	51	61	68	79	52	73	73	63	61	48	63	752
	退院患者数	62	53	68	61	78	57	76	71	77	56	51	62	772
	延患者数	414	470	492	498	711	585	628	599	521	439	465	557	6,379
整形外科	新規入院患者数	21	25	22	32	34	23	26	25	30	31	19	36	324
	退院患者数	28	24	21	26	44	21	36	25	37	22	25	38	347
	延患者数	284	294	398	490	455	476	485	326	433	316	259	311	4,527
形成外科	新規入院患者数	14	7	18	22	23	13	24	18	20	17	21	28	225
	退院患者数	20	6	18	18	31	13	23	19	22	16	20	28	234
	延患者数	131	82	134	184	201	104	130	116	111	78	137	195	1,603
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー内科	新規入院患者数	15	17	23	33	33	31	40	35	40	36	35	37	375
	退院患者数	15	17	24	33	36	32	47	38	42	36	35	37	392
	延患者数	24	19	41	44	47	58	76	82	73	48	37	57	606
リウマチ科	新規入院患者数	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	退院患者数	2	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	延患者数	12	3	14	6	0	0	0	0	0	0	0	0	35

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床遺伝科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	新規入院患者数	21	27	23	28	24	30	29	32	26	31	27	20	318
	退院患者数	22	27	22	27	25	25	34	32	29	29	30	20	322
	延患者数	118	126	95	140	129	149	170	148	149	135	148	122	1,629
産科	新規入院患者数	20	15	24	26	24	22	21	29	27	25	21	22	276
	退院患者数	19	16	25	23	28	17	26	29	27	25	18	21	274
	延患者数	543	597	522	573	506	549	596	531	525	491	449	566	6,448
眼科	新規入院患者数	22	20	23	32	37	34	29	26	30	34	29	33	349
	退院患者数	26	19	21	33	35	34	30	27	32	28	31	32	348
	延患者数	94	77	89	128	156	131	121	106	126	118	126	147	1,419
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	16	5	16	13	15	13	17	14	16	16	14	16	171
	退院患者数	19	4	13	14	18	9	18	14	20	11	15	14	169
	延患者数	97	19	99	110	84	78	113	92	95	94	95	97	1,073
リハビリテーション科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	新規入院患者数	115	118	92	107	102	100	93	85	76	104	90	96	1,178
	退院患者数	102	116	94	104	95	102	92	82	78	101	83	99	1,148
	延患者数	886	1,050	1,011	943	881	982	812	789	764	925	798	880	10,721
救急科	新規入院患者数	2	2	0	0	1	0	1	1	3	1	0	2	13
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	延患者数	2	2	0	0	1	0	1	1	3	1	0	2	13
小児集中治療科	新規入院患者数	25	18	26	21	34	37	33	26	19	26	26	17	308
	退院患者数	3	5	9	11	29	13	9	11	4	2	6	5	107
	延患者数	698	681	670	701	645	612	683	611	608	649	620	632	7,810
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	553	510	534	596	622	549	609	549	535	607	535	615	6,814
	退院患者数	551	482	542	581	646	525	630	553	597	543	543	600	6,793
	延患者数	7,087	7,337	7,527	7,798	7,794	7,369	7,564	7,049	7,080	6,846	6,590	7,258	87,299

4. 年度別科別外来患者数

科名	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度
循環器内科	新患者数	519	536	621	501	504
	再来患者数	8,638	8,525	8,924	8,983	9,048
	延患者数	9,157	9,061	9,545	9,484	9,552
腎臓内科	新患者数	135	135	159	176	168
	再来患者数	3,197	3,103	3,141	3,019	3,087
	延患者数	3,332	3,238	3,300	3,195	3,255
神経内科	新患者数	149	110	139	144	142
	再来患者数	3,134	2,916	3,289	3,707	3,884
	延患者数	3,283	3,026	3,428	3,851	4,026
血液内科	新患者数	89	66	71	90	108
	再来患者数	3,716	4,122	4,156	4,656	4,941
	延患者数	3,805	4,188	4,227	4,746	5,049
代謝・内分泌内科	新患者数	141	168	219	191	205
	再来患者数	5,148	5,373	6,013	6,297	6,709
	延患者数	5,289	5,541	6,232	6,488	6,914
新生児内科	新患者数	531	35	29	30	23
	再来患者数	2,709	2,200	2,271	2,272	1,981
	延患者数	3,240	2,235	2,300	2,302	2,004
心臓血管外科	新患者数	7	1	1	2	2
	再来患者数	1,610	1,330	1,097	925	847
	延患者数	1,617	1,331	1,098	927	849
脳神経外科	新患者数	394	338	308	340	390
	再来患者数	3,829	4,048	3,803	3,832	3,991
	延患者数	4,223	4,386	4,111	4,172	4,381
小児外科	新患者数	637	539	543	496	543
	再来患者数	5,463	5,360	5,144	5,027	5,291
	延患者数	6,100	5,899	5,687	5,523	5,834
整形外科	新患者数	807	910	1,023	1,061	1,074
	再来患者数	5,028	5,649	6,617	7,205	7,606
	延患者数	5,835	6,559	7,640	8,266	8,680
形成外科	新患者数	433	387	374	403	344
	再来患者数	3,467	2,858	3,006	3,396	3,595
	延患者数	3,900	3,245	3,380	3,799	3,939
精神科	新患者数	119	108	133	199	206
	再来患者数	3,686	3,782	3,879	3,985	4,243
	延患者数	3,805	3,890	4,012	4,184	4,449
アレルギー内科	新患者数	54	54	64	62	214
	再来患者数	1,505	1,328	1,203	1,430	3,039
	延患者数	1,559	1,382	1,267	1,492	3,253
リウマチ科	新患者数		14	28	39	37
	再来患者数		524	1,171	1,291	1,319
	延患者数		538	1,199	1,330	1,356

科名	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度
感染症内科	新患者数		6	9	14	9
	再来患者数		19	121	101	120
	延患者数		25	130	115	129
臨床遺伝科	新患者数		21	52	73	73
	再来患者数		195	437	702	830
	延患者数		216	489	775	903
泌尿器科	新患者数	684	729	757	776	671
	再来患者数	4,463	4,407	4,982	5,182	5,308
	延患者数	5,147	5,136	5,739	5,958	5,979
産科	新患者数	434	183	196	147	172
	再来患者数	2,148	1,779	1,950	2,006	2,186
	延患者数	2,582	1,962	2,146	2,153	2,358
眼科	新患者数	502	451	499	505	615
	再来患者数	10,036	8,456	8,843	8,635	7,806
	延患者数	10,538	8,907	9,342	9,140	8,421
耳鼻咽喉科	新患者数	441	436	457	472	484
	再来患者数	6,017	5,021	4,932	4,908	5,040
	延患者数	6,458	5,457	5,389	5,380	5,524
リハビリテーション科	新患者数		0	0	0	0
	再来患者数		448	550	59	40
	延患者数		448	550	59	40
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	15	10	1	0
	延患者数	0	15	10	1	0
麻酔科	新患者数	16	3	4	2	2
	再来患者数	1,026	842	836	771	695
	延患者数	1,042	845	840	773	697
総合診療科	新患者数	198	218	215	256	221
	再来患者数	1,271	1,303	2,082	2,698	2,863
	延患者数	1,469	1,521	2,297	2,954	3,084
救急科	新患者数	616	1,154	3,789	6,241	6,416
	再来患者数	852	1,846	3,142	3,792	4,127
	延患者数	1,468	3,000	6,931	10,033	10,543
小児集中治療科	新患者数		1	0	0	1
	再来患者数		0	0	0	0
	延患者数		1	0	0	1
歯科	新患者数	781	744	808	799	863
	再来患者数	1,505	1,303	1,517	1,619	1,302
	延患者数	2,286	2,047	2,325	2,418	2,165
合計	新患者数	7,687	7,347	10,498	13,019	13,487
	再来患者数	78,448	76,752	83,116	86,499	89,898
	延患者数	86,135	84,099	93,614	99,518	103,385

5. 年度別科別入院患者数

科名	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度
循環器内科	新規入院患者数	440	383	397	445	443
	退院患者数	495	420	456	484	503
	延患者数	8,519	5,456	5,941	6,134	6,032
腎臓内科	新規入院患者数	76	102	92	70	87
	退院患者数	88	136	109	86	104
	延患者数	1,394	1,746	1,481	1,141	1,155
神経内科	新規入院患者数	24	78	101	128	115
	退院患者数	90	163	173	178	181
	延患者数	1,722	1,847	2,577	1,982	2,464
血液内科	新規入院患者数	672	697	954	873	1,086
	退院患者数	717	697	965	885	1,106
	延患者数	12,166	11,520	14,642	16,099	18,124
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	35	66	50	30	81
	退院患者数	51	69	60	42	87
	延患者数	447	420	546	271	510
新生児内科	新規入院患者数	517	423	439	410	447
	退院患者数	526	387	404	357	396
	延患者数	17,900	15,021	14,185	11,568	13,582
心臓血管外科	新規入院患者数	133	144	133	119	104
	退院患者数	143	174	149	141	119
	延患者数	4,436	2,894	2,554	2,361	1,570
脳神経外科	新規入院患者数	171	226	202	176	156
	退院患者数	216	253	234	193	177
	延患者数	2,868	2,277	1,985	1,815	1,599
小児外科	新規入院患者数	856	766	764	707	752
	退院患者数	954	809	793	743	772
	延患者数	8,214	6,379	6,143	5,312	6,379
整形外科	新規入院患者数	239	244	296	296	324
	退院患者数	240	266	331	317	347
	延患者数	3,582	3,497	4,639	4,331	4,527
形成外科	新規入院患者数	269	217	221	238	225
	退院患者数	278	223	229	247	234
	延患者数	1,722	1,400	1,448	1,572	1,603
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
アレルギー内科	新規入院患者数	40	64	119	117	375
	退院患者数	56	81	122	118	392
	延患者数	343	228	205	149	606
リウマチ科	新規入院患者数		22	16	24	6
	退院患者数		37	17	25	6
	延患者数		323	195	317	35

科名	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度
感染症内科	新規入院患者数		0	0	0	0
	退院患者数		0	0	0	0
	延患者数		0	0	0	0
臨床遺伝科	新規入院患者数		0	2	0	0
	退院患者数		0	2	0	0
	延患者数		0	4	0	0
泌尿器科	新規入院患者数	264	264	337	314	318
	退院患者数	270	277	342	317	322
	延患者数	1,394	1,412	1,695	1,728	1,629
産科	新規入院患者数	415	331	345	230	276
	退院患者数	422	319	359	225	274
	延患者数	9,900	7,626	7,870	4,657	6,448
眼科	新規入院患者数	407	425	426	410	349
	退院患者数	407	423	426	410	348
	延患者数	1,790	1,828	1,805	1,685	1,419
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	128	104	136	147	171
	退院患者数	130	102	136	147	169
	延患者数	893	725	924	982	1,073
リハビリテーション科	新規入院患者数		0	0	0	0
	退院患者数		0	0	0	0
	延患者数		0	0	0	0
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
総合診療科	新規入院患者数	5	142	926	1,174	1,178
	退院患者数	8	153	1,043	1,204	1,148
	延患者数	1,469	2,487	8,773	9,723	10,721
救急科	新規入院患者数	855	776	206	25	13
	退院患者数	489	570	39	4	1
	延患者数	4,824	3,447	323	27	13
小児集中治療科	新規入院患者数		207	316	280	308
	退院患者数		92	116	80	107
	延患者数		6,200	7,419	7,563	7,810
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	5,546	5,681	6,478	6,213	6,814
	退院患者数	5,580	5,651	6,505	6,203	6,793
	延患者数	83,583	76,733	85,354	79,417	87,299

6. 年齢別患者状況

R01年度

年齢区分	外 来		入 院	
	患者数 (人)	構成比 (%)	患者数 (人)	構成比 (%)
0歳～1歳未満	3,758	10.0%	1,060	20.4%
1歳以上～3歳未満	6,556	17.4%	1,006	19.3%
3歳～6歳未満	8,021	21.3%	962	18.5%
6歳～13歳未満	11,536	30.6%	1,381	26.5%
13歳以上～16歳未満	4,164	11.0%	328	6.3%
16歳以上	3,659	9.7%	469	9.0%
合 計	37,694	100.0%	5,206	100.0%

7. 地域別患者状況

(1) 外来

地域区分	H30年度		R01年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	17,304	56.9%	17,730	57.0%
	姫路市	1,087	3.6%	1,095	3.5%
	尼崎市	349	1.1%	356	1.1%
	明石市	2,271	7.5%	2,272	7.3%
	西宮市	1,071	3.5%	1,126	3.6%
	洲本市	199	0.7%	198	0.6%
	芦屋市	362	1.2%	457	1.5%
	伊丹市	245	0.8%	261	0.8%
	相生市	46	0.1%	55	0.2%
	豊岡市	287	0.9%	303	1.0%
兵 庫	加古川市	707	2.3%	720	2.3%
	赤穂市	117	0.4%	128	0.4%
	西脇市	154	0.5%	173	0.6%
	宝塚市	408	1.3%	382	1.2%
	三木市	345	1.1%	346	1.1%
	高砂市	215	0.7%	234	0.7%
	川西市	123	0.4%	127	0.4%
	小野市	237	0.8%	223	0.7%
	三田市	635	2.1%	652	2.1%
	加西市	123	0.4%	130	0.4%
兵 庫	篠山市	169	0.6%	143	0.5%
	養父市	74	0.2%	86	0.3%
	丹波市	291	1.0%	294	0.9%

(2) 入院

地域区分	H30年度		R01年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	2,379	53.3%	2,509	52.9%
	姫路市	143	3.2%	143	3.0%
	尼崎市	45	1.0%	61	1.3%
	明石市	350	7.8%	351	7.5%
	西宮市	154	3.4%	173	3.6%
	洲本市	37	0.8%	28	0.6%
	芦屋市	50	1.1%	65	1.4%
	伊丹市	27	0.6%	42	0.9%
	相生市	7	0.1%	6	0.1%
	豊岡市	53	1.2%	63	1.3%
兵 庫	加古川市	105	2.3%	116	2.5%
	赤穂市	13	0.3%	6	0.1%
	西脇市	12	0.3%	24	0.5%
	宝塚市	39	0.9%	33	0.7%
	三木市	49	1.1%	60	1.3%
	高砂市	18	0.4%	29	0.6%
	川西市	13	0.3%	17	0.4%
	小野市	39	0.9%	29	0.6%
	三田市	107	2.4%	100	2.1%
	加西市	26	0.6%	29	0.6%
兵 庫	篠山市	33	0.7%	25	0.5%
	養父市	17	0.4%	13	0.3%
	丹波市	41	0.9%	50	1.1%

地域区分		H30 年度		R01 年度	
		患者数	構成比	患者数	構成比
兵 庫 県	南あわじ市	201	0.7%	215	0.7%
	朝来市	117	0.4%	121	0.4%
	淡路市	266	0.9%	284	0.9%
	宍粟市	86	0.3%	72	0.2%
	加東市	180	0.6%	207	0.7%
	たつの市	175	0.6%	167	0.5%
	猪名川町	34	0.1%	27	0.1%
	多可町	65	0.2%	58	0.2%
	稲美町	106	0.3%	117	0.4%
	播磨町	136	0.4%	123	0.4%
	市川町	29	0.1%	24	0.1%
	福崎町	36	0.1%	40	0.1%
	神河町	20	0.1%	27	0.1%
	太子町	76	0.2%	81	0.3%
	上郡町	21	0.1%	23	0.1%
	佐用町	28	0.1%	28	0.1%
	香美町	48	0.2%	48	0.2%
	新温泉町	26	0.1%	29	0.1%
	その他	39	0.1%	39	0.1%
計	28,508	93.7%	29,221	93.9%	
近畿圏		1,024	3.4%	1,032	3.3%
近畿圏外		889	2.9%	871	2.8%
総 計		30,421	100.0%	31,124	100.0%

地域区分		H30 年度		R01 年度	
		患者数	構成比	患者数	構成比
兵 庫 県	南あわじ市	35	0.8%	44	0.9%
	朝来市	52	1.2%	58	1.2%
	淡路市	21	0.5%	23	0.5%
	宍粟市	8	0.2%	7	0.1%
	加東市	21	0.5%	43	0.9%
	たつの市	30	0.7%	20	0.4%
	猪名川町	1	0.0%	3	0.1%
	多可町	12	0.3%	8	0.2%
	稲美町	21	0.5%	16	0.3%
	播磨町	25	0.5%	14	0.3%
	市川町	5	0.1%	2	0.0%
	福崎町	6	0.1%	6	0.1%
	神河町	5	0.1%	5	0.1%
	太子町	15	0.3%	11	0.2%
	上郡町	3	0.1%	2	0.0%
	佐用町	0	0.0%	0	0.0%
	香美町	9	0.2%	10	0.2%
	新温泉町	8	0.2%	3	0.1%
	その他	9	0.2%	11	0.2%
計	4,043	90.5%	4,258	89.7%	
近畿圏		170	3.8%	221	4.7%
近畿圏外		253	5.7%	267	5.6%
総 計		4,466	100.0%	4,746	100.0%

※実患者数

8. 公費負担患者状況

R01 年度

公費負担制度	件数	構成比
1. 小児慢性特定疾患	539	31.4%
2. 育成医療	67	3.9%
3. 養育医療	177	10.3%
4. 児童福祉（措置）	53	3.1%
5. 特定疾患	38	2.2%
6. 生活保護	73	4.3%
7. 精神保健	38	2.2%
8. 自 費	732	42.6%
合 計	1,717	100.0%

9. 時間外患者状況

R01 年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	外来	1	1	0	1	2	0	1	0	1	2	0	0	9
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	1	0	1	2	0	1	0	1	2	0	0	9
腎臓内科	外来	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	5
	入院	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
	計	1	0	0	0	1	2	1	0	0	1	1	0	7
神経内科	外来	0	0	1	2	0	1	2	1	0	0	1	0	8
	入院	0	0	1	1	1	1	1	0	1	1	2	1	10
	計	0	0	2	3	1	2	3	1	1	1	3	1	18
血液内科	外来	2	0	1	0	5	1	0	0	0	4	2	0	15
	入院	1	0	2	1	1	0	2	0	1	1	0	0	9
	計	3	0	3	1	6	1	2	0	1	5	2	0	24
代謝・内分泌内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新生児内科	外来	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	12	14	11	8	15	12	21	14	8	14	10	14	153
	計	12	14	11	8	16	12	21	14	8	14	10	14	154
心臓血管外科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経外科	外来	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	3
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	3
小児外科	外来	7	6	1	3	2	1	3	4	6	6	8	3	50
	入院	0	3	3	3	1	2	7	1	0	3	2	1	26
	計	7	9	4	6	3	3	10	5	6	9	10	4	76
整形外科	外来	0	5	1	0	0	1	5	0	1	0	0	1	14
	入院	2	2	0	0	2	0	1	0	0	2	1	2	12
	計	2	7	1	0	2	1	6	0	1	2	1	3	26
形成外科	外来	2	2	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	7
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	2	2	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	7
精神科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー内科	外来	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	4
	計	0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	5
リウマチ科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	外来	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4
臨床遺伝科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	外来	3	7	4	4	2	1	2	0	0	2	3	1	29
	入院	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	3
	計	3	7	4	4	2	1	2	1	1	2	4	1	32
産科	外来	1	2	3	3	3	1	2	5	1	2	3	5	31
	入院	1	1	0	0	1	2	1	3	2	2	1	2	16
	計	2	3	3	3	4	3	3	8	3	4	4	7	47
眼科	外来	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
耳鼻咽喉科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
リハビリテーション科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	入院	32	38	27	27	20	19	19	21	22	31	24	18	298
	計	32	38	27	27	20	19	19	21	22	31	24	20	300
救急科	外来	697	730	642	634	616	659	622	627	665	687	534	422	7,535
	入院	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	5
	計	698	731	642	634	617	659	622	628	666	687	534	422	7,540
小児集中治療科	外来	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	4	9	10	5	10	11	6	8	6	7	8	4	88
	計	4	10	10	5	10	11	6	8	6	7	8	4	89
歯科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	外来	716	755	654	647	633	668	639	638	676	707	552	434	7,719
	入院	53	68	55	45	52	50	59	49	42	62	49	42	626
	計	769	823	709	692	685	718	698	687	718	769	601	476	8,345

10. 小児がん患者入院延べ日数

R01年度【総計】11,573日

経理状況

区 分		単 位	30年度 決 算	R 元年度				決算評価		
				計 画	決 算	計画対比	前年対比	計画対比	前年対比	
業務量	入院	許 可 病 床 数	床	290	290	290	0	0		
		稼働病床数	%	275	275	275	0	6		
		病 床 利 用 率	%	79.1	88.7	86.7	△ 0.8	△ 7.8	×	○
		病床利用率(一般のみ)	人	79.1	88.7	86.7	△ 0.8	△ 7.8	×	○
		延 入 院 患 者 数	人/日	79,417	89,309	87,299	△ 772	△ 5,937	×	○
		1 日 当 た り 患 者 数	人	218	244	239	△ 2	△ 16	×	○
		新 規 入 院 患 者 数	日	6,213	6,213	6,814	△ 3	△ 265	○	○
		平 均 在 院 日 数	円	11.8	11.8	11.8	△ 0.1	△ 0.3	○	○
	入 院 単 価	円	100,843	96,631	93,241	1,416	6,628	×	×	
	入 院 単 価 (一 般)	人	100,843	96,631	93,241	1,416	6,628	×	×	
	外来	延 外 来 患 者 数	人/日	99,518	102,105	103,385	1,412	5,904	○	○
		1 日 当 た り 患 者 数	円	408	425	431	6	24	○	○
		外 来 単 価	人	17,365	17,453	17,569	△ 273	△ 357	○	○
		新 規 外 来 患 者 数	%	13,019	13,019	13,487	△ 146	2,521	○	○
	紹 介 率	件	85.6	85.6	86.0	0.1	△ 9.7	○	○	
	手 術 件 数	人	3,453	3,453	3,631	△ 152	△ 1,194	○	○	
	救 急 車 搬 送 患 者 数	百万円	2,148	2,148	2,016	134	154	×	×	
収支	入 院 収 益	百万円	8,009	8,630	8,140	36	△ 33	×	○	
	外 来 収 益	百万円	1,728	1,782	1,816	△ 2	69	○	○	
	そ の 他 医 業 収 益	百万円	135	163	145	2	7	×	○	
	* 医 業 収 益 *	百万円	9,872	10,575	10,101	35	44	×	○	
	医 業 外 収 益	百万円	182	155	147	26	41	×	×	
	長 期 前 受 金 戻 入 額	百万円	773	758	755	28	10	-	-	
	* 経 常 収 益 計 ① *	百万円	10,827	11,488	11,004	89	95	×	○	
	給 与 費	百万円	7,637	7,770	7,784	△ 36	△ 97			
	(うち退職給与金)	百万円	225	268	266	0	△ 121			
	(うち退職給付引当金)	百万円	81	146	144	△ 59	△ 59			
	(うち賞与引当金)	百万円	346	346	346	0	15			
	材 料 費	百万円	2,110	2,454	2,153	△ 60	19			
	(うち薬品費)	百万円	1,246	1,495	1,304	△ 33	40			
	(うち診療材料費)	百万円	794	868	774	△ 29	△ 20			
	経 費	百万円	2,060	2,111	2,022	47	116			
	減 価 償 却 費	百万円	1,301	1,234	1,232	△ 3	△ 29			
	そ の 他 の 医 業 費 用	百万円	57	73	59	9	1			
	* 医 業 費 用 *	百万円	13,165	13,643	13,250	△ 43	10			
	医 業 外 費 用	百万円	225	206	201	△ 4	△ 41			
	* 経 常 費 用 計 ② *	百万円	13,390	13,848	13,452	△ 47	△ 31			
繰 入 前 経 常 損 益 ③ (① - ②)	百万円	△ 2,563	△ 2,360	△ 2,448	136	126	×	○		
一 般 会 計 繰 入 金 ④	百万円	2,455	2,386	2,386	0	133	-	-		
経 常 損 益 ⑤ (③ + ④)	百万円	△ 109	25	△ 63	136	259	×	○		
特 別 利 益 ⑥	百万円	956	3	3	9	935	-	-		
特 別 損 失 ⑦	百万円	21	107	105	13	△ 10	-	-		
当 期 純 損 益 ⑤ + ⑥ - ⑦	%	827	△ 79	△ 164	133	1,205	×	×		
経営指標	医 業 収 益 比 率	%	77.4	73.5	77.1	△ 0.6	△ 1.3	×	○	
	材 料 費 比 率	%	21.4	23.2	21.3	△ 0.7	0.1	○	○	
	(うち薬品費比率)	%	12.6	14.1	12.9	△ 0.4	0.4	○	×	
	(うち診療材料費比率)	%	8.0	8.2	7.7	△ 0.3	△ 0.2	○	○	
	経 費 比 率	%	20.9	20.0	20.0	0.4	1.1	○	○	
経 常 収 支 比 率	%	99.2	100.2	99.5	1.0	1.9	×	○		

※紹介率=地域支援病院の紹介率

決算の推移

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		前年度差引	
	決算	算	決算	算	決算	算	決算	算	決算	算		
入院日数	366	365	365	366	365	366	365	366	365	366		
外来日数	243	243	243	243	243	243	244	244	244	240		
											(単位:床、%、人、千円)	
稼働病床数	床	266	100.0	267	100.4	100.7	269	100.7	275	102.2	103.0	9
病床利用率	%	85.9	99.4	78.7	91.6	110.4	86.9	110.4	79.1	91.0	110.2	0.3
平均在院日数	日	14.0	96.6	12.5	89.3	96.8	12.1	96.8	11.8	97.5	94.4	△ 2.7
延入院患者数	人	83,583	99.7	76,733	91.8	85,354	111.2	79,417	93.0	93.0	113.8	3,456
(1日当り)	人	228	99.1	210	92.1	234	111.4	218	93.2	93.2	113.8	9
新規入院患者数	人	5,546	102.6	5,681	102.4	6,478	114.0	6,213	95.9	95.9	119.9	1,408
延外来患者数	人	86,135	100.7	84,099	97.6	93,614	111.3	99,518	106.3	106.3	122.9	17,858
(1日当り)	人	354	100.9	346	97.7	385	111.3	408	106.0	106.0	124.6	80
新規外来患者数	人	7,687	99.3	7,347	95.6	10,498	142.9	13,019	124.0	124.0	183.6	5,743
入院収益	千円	7,203,916	79.3	6,993,826	80.7	8,041,629	81.8	8,008,664	81.1	99.6	80.6	715,671
(1日1人)	円	86,189	97.3	91,145	105.8	94,215	108.4	100,843	107.0	107.0	102.3	4,693
外来収益	千円	1,782,031	19.6	1,545,024	17.8	1,658,986	16.9	1,728,093	17.5	104.2	18.0	95,437
(1日1人)	円	20,689	102.8	18,371	88.8	17,722	96.5	17,365	98.0	98.0	95.6	△ 2,552
その他医業収益	千円	101,946	1.1	124,591	1.4	127,804	1.3	135,282	1.4	105.9	1.4	37,278
* 医業収益計*	千円	9,087,893	100.0	8,663,441	100.0	9,828,419	100.0	9,872,039	100.0	100.4	100.0	848,386
医業外収益	千円	382,166	4.2	405,326	4.7	406,100	4.2	405,326	4.2	222.8	9.7	472,985
特別利益	千円	2,737	0.0	856	0.0	20,994	0.2	2,452.6	9.7	4,555.1	0.0	1,488
** 収益合計**	千円	9,472,796	104.2	9,069,623	104.7	10,752,674	109.4	11,783,080	119.4	109.6	109.0	1,322,859
給与費	千円	6,740,424	74.2	7,548,291	87.1	7,733,509	78.7	7,636,742	77.4	98.7	77.1	1,125,797
うち退職給与金	千円	(165,319)	1.8	(200,489)	2.3	(346,383)	3.5	(306,010)	3.1	88.3	4.1	223,597
うち退職給与引当金	千円	(157,000)	1.7	(157,000)	1.8	(140,353)	1.4	(81,196)	0.8	57.9	1.4	△ 12,933
材料費	千円	2,311,603	25.4	2,102,489	24.3	2,091,234	21.3	2,110,350	21.4	100.9	21.3	△ 22,835
経費	千円	1,493,342	16.4	1,971,681	22.8	1,944,053	19.8	2,060,295	20.9	106.0	20.0	516,439
減価償却費	千円	437,252	4.8	242,978	2.8	1,330,259	13.5	1,300,645	13.2	97.8	12.2	641,409
資産減耗費	千円	582	0.0	90,787	1.0	5,916	0.1	6,710	0.1	113.4	0.1	4,118
研究研修費	千円	54,713	0.6	60,331	0.7	50,180	0.5	50,370	0.5	100.4	0.5	△ 4,696
* 医業費用計*	千円	11,037,916	121.5	12,016,557	138.7	13,155,151	133.8	13,165,112	133.4	100.1	131.2	2,260,232
医業外費用	千円	168,990	1.9	249,709	2.9	265,818	2.7	224,842	2.3	84.6	2.0	19,291
特別損失	千円	10,764	0.1	2,783,070	32.1	30,881	0.3	21,187	0.2	68.6	1.0	78,477
** 費用合計**	千円	11,217,670	123.4	15,049,336	173.7	13,421,850	136.9	13,411,141	135.8	99.7	134.2	2,357,982
差引損益	千円	△ 1,744,874	△ 19.2	△ 5,979,713	△ 69.0	△ 2,699,176	△ 27.5	△ 1,628,061	△ 16.5	139.7	△ 25.2	△ 1,035,123
一般会計繰入金	千円	1,830,581	20.1	2,295,934	26.5	2,321,662	23.6	2,454,642	24.9	105.7	23.6	603,660
経常損益	千円	93,734	1.0	△ 901,565	△ 10.4	△ 367,627	△ 3.7	△ 108,520	△ 1.1	29.5	△ 62,533	△ 354,474
当期純損益	千円	85,707	0.9	△ 3,683,779	△ 42.5	△ 3,775,514	△ 3.8	826,581	8.4	△ 219.0	△ 1.6	△ 431,463

経常収支比率	%	100.8	—	92.7	—	91.9	—	97.3	—	102.0	—	107.4	—
医業収支比率	%	82.3	—	72.1	—	87.6	—	74.7	—	103.6	—	105.7	—

III 診 療 統 計

1. 救急総合診療科（総診）

1. スタッフ

科長 田中亮二郎

宅見晃子、上村克徳、津田雅世、南川将吾

フェロー

佐藤聖子、倉橋幸也、松村治

2. 活動内容

当院は小児専門病院であるため臓器別、疾患別に専門分野が細分化され、複数の臓器に問題を抱える患者さんであっても単一科で診ているケースもあった。しかし、患者さんから多様な医学的問題に関して多角的に診療をおこなって欲しいというニーズがあり、当科の総合診療部門はそのニーズに応えるために創設された。2019年4月からは、田中亮二郎、宅見晃子、上村克徳、津田雅世、南川将吾、佐藤聖子、倉橋幸也、松村治の計8名が担当している。基礎疾患の有無に関わらず、小児救命救急センターの救急外来から入院となった患者さん（外傷などの外因性から内因性まで）の対応、他科からのコンサルテーション、外科系患者の内科管理、在宅医療の推進が当科の大きな役目となっている。最近ではリウマチ科と共同して川崎病をはじめリウマチ疾患の管理も行っている。また当科に多い感染症疾患に関しては、感染症科と密接に連携して診療にあたっている。それぞれの医師のキャリアは異なるが、チームとして“こどもにとって最善の利益を目指し誠実かつ謙虚に診療し、地域医療への貢献と小児医療の進歩に邁進すること”を常に考え日々の診療を行っている。また専攻医教育の充実は、当科の大きな使命と考えている。木曜日以外の12:30からスタッフや専攻医がさまざまなテーマについて発表し、日々研鑽している。今年度、専攻医 村田剛(1-3月)、花房宏昭(1-3月)、三星アカリ(1-2月)、菊池菜摘(3-6月)、青木萌子(4-5、7月)、玉城倫(4-6月)、遠藤理沙(4-6月)、合田由香利(6-7、9月)、小林孝生(7-9月)、池谷紀衣子(7-9月)、近藤亜耶(8-10月)、岡崎沙也香(8-10月) 田中友理佳(10-12月)、近藤友里子(11-12月)、宍戸亜由美(12月)、西村明紘(11-12月)が研修を行った。他病院からの専攻医(竹本崇之 西神戸医療センター)が3か月研修し、他の県立病院から初期研修医の受け入れも行った(石原陽香 県立尼崎医療センター 4-5月、任仙光 県立尼崎医療センター 7月、大城祐貴 県立西宮病院 8月)。さらに11月-12月にかけてUCSF Fresno (USA) から鈴木恵美先生が当科で1か月間研修した。多くの研修者を受け入れ充実した1年であった。またこの1年間の外来患者は、2956名(内初診240名)で、入院患者数は1393名(詳細別途)であった。

総合診療科患者数

総入院患者数（2019/1/1-12/31）	1393 名
うち、専門診療科へ専門治療目的で転科した患者数（専門診療科が主科となり退院に至った患者数）	218 名
総合診療科が主科となり退院に至った患者数	1175 名

主要疾患内訳（DPC 主病名）

内因系疾患	
上気道感染症（鼻咽頭炎、咽頭炎、扁桃炎、中耳炎など）	70
インフルエンザ	19
ク룹症候群	15
下気道感染症（気管支炎、細気管支炎、肺炎、肺膿瘍など）	230
急性呼吸不全（ARDS、急性 I 型 / II 型呼吸不全、慢性呼吸不全急性増悪、など）	34
深頸部膿瘍（扁桃周囲膿瘍、咽後膿瘍、傍咽頭膿瘍など）	12
熱性けいれん（単純型、複雑型）	133
無熱性けいれん、てんかん	21
中枢神経感染症（無菌性髄膜炎、細菌性髄膜炎、脳膿瘍、急性脳炎 / 脳症など）	8
アナフィラキシー（アナフィラキシーショックを含む）	8
気管支喘息	67
尿路感染症（急性巣状細菌性腎炎を含む）	67
関節炎・骨髄炎	7
ケトン性・非ケトン性低血糖症	14
消化管感染症（細菌性、ウイルス性）	50
皮膚軟部組織感染症（膿痂疹、蜂窩織炎、筋炎など）	28
化膿性リンパ節炎（頸部、腋窩、鼠経など）	10
川崎病	57
IgA 血管炎	4
腸重積症（非観血的整復症例）	18

外因系疾患	
頭部外傷（脳震盪、頭蓋骨骨折、頭蓋内出血などで内科的管理のみ行った症例）	57
その他の外傷（熱傷、溺水、高エネルギー外傷、四肢骨折などで内科的管理のみ実施した症例）	43
毒薬物中毒	13

その他

百日咳 3、菊池病 2、SMA 症候群 3、淋菌性結膜炎 1、壊血病 1、DIHS 1
TAFRO 症候群 1、亜鉛欠乏性皮膚炎 1、肝膿瘍 1
遺伝性ニューロパチーによる両側横隔神経麻痺 1、など

2. 救急総合診療科（救急）

1. 診療活動

平成14年10月に救急医療室が開設されて当院における救急医療の歴史がスタートし、平成19年10月には小児救急医療センターが専用の集中治療室を持った独立した建物としてオープン、さらに平成28年5月の新病院移転によって新たな救急医療センターが設置された。そしてこれまで15年間の三次救急医療の実績を踏まえて平成29年4月から全国で12番目、近畿圏では初めての小児救命救急センターに指定された。

新病院に移転してからは、救急外来を担当する部門、救急外来から入院する比較的軽症の患者を担当する入院部門、重症患者を担当する集中治療部門に分けて運用している。救急外来部門に関しては、小児救命救急センター長の田中亮二郎、林卓郎、楠元真由美、梶原伸介、松井鋭、染谷真紀、谷澤直子、鞍谷沙織（フェロー）の計8名が担当した。救急患者の受け入れをより積極的に行うために、救急車の依頼を断らないことを徹底し、2次の患者や初期の患者も来院すれば受け入れることで対応し、平日の日勤帯も救急担当を配置している。その結果、総受診者数は12,565人、救急車による搬送件数は1821件に増加し、神戸市の救急隊からの応需率は100%に近い数字となっている。

平成29年10月より神戸市が開始した救急電話相談事業#7119経由で当院を紹介されて受診する軽症の外傷も増加し、外科系各科からの指導を受けながらできるだけ救急医が縫合や骨折の固定なども実施するようにしている。外因性疾患は総受診者数の3割に上るようになった。

近隣の医療施設からの出迎え搬送の依頼にもできるだけ対応するようにしているが、医師や看護師が常に搬送に出ることができる体制を組めていない現状を何とか改善したい。今後は病院が掲げている「断らない救急」実現すべく、体制整備を進めたい。また毎週木曜日7時30分から科内の勉強会を行い、専攻医への救急診療に必要な実技トレーニングも定期的開催している。

2. スタッフ

救急総合診療科（救急）：田中亮二郎（小児救命救急センター長）、林卓郎（医長）、楠元真由美（医長1-9月）、梶原伸介（医長）、松井鋭（医長）、染谷真紀（医長）、谷澤直子（医長）、鞍谷沙織（フェロー）

専攻医：土井圭（2019年1月）

近藤友里子（2019年3月）

青木萌子（2019年6月）

近藤亜耶（2019年7月）

合田由香利（2019年8月）

田中友理佳（2019年9月）

西村明紘（2019年10月）

岡崎沙也香（2019年11月）

井上葵子（2019年12月）

神戸市立医療センター中央市民病院専攻医 二宮涼 2019年2月、福田明子 2019年4-5月

他県立病院初期研修医の研修（1ヶ月）

高橋諒（県立淡路医療センター）、富田雄大（県立西宮病院）、籠重大輔（県立淡路医療センター）

3. 診療統計

小児救命救急センター診療統計 2019年1月～12月

(1) 救急外来患者数・救急入院患者数・救急車搬送数

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
救急外来患者数	1,197	807	965	1,111	1,172	1,051	1,063	1,064	1,055	1,049	1,008	1,023	12,565
救急入院患者数	155	150	164	173	175	155	157	166	161	162	153	119	1,890
救急車搬送数	216	140	144	163	149	161	163	129	137	146	132	141	1,821

(2) 平日・休日別救急患者数

平日・休日	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平日	595	468	558	635	564	582	688	666	574	659	596	529	7,114
休日	602	339	407	476	608	469	375	398	481	390	412	494	5,451
合計	1,197	807	965	1,111	1,172	1,051	1,063	1,064	1,055	1,049	1,008	1,023	12,565

(3) 時間帯別救急患者数

時間帯	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
0:00～8:45	192	94	125	158	153	139	146	127	149	142	129	138	1,692
8:45～17:30	567	386	411	482	567	487	485	507	483	488	469	483	5,815
17:30～24:00	438	327	429	471	452	425	432	430	423	419	410	402	5,058
合計	1,197	807	965	1,111	1,172	1,051	1,063	1,064	1,055	1,049	1,008	1,023	12,565

(4) 地域別救急患者数

時間帯	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
神戸市	977	666	809	908	955	870	860	840	868	840	796	836	10,225
（東灘区）	152	86	113	131	112	143	126	108	119	119	124	138	1,471
（灘区）	117	85	90	124	121	112	106	94	97	120	95	95	1,256
（中央区）	134	112	114	113	157	126	149	114	123	127	112	144	1,525
（兵庫区）	94	58	63	106	76	70	82	88	72	68	71	58	906
（北区）	102	64	101	103	113	93	94	78	82	68	99	76	1,073
（長田区）	73	45	55	64	79	68	42	51	60	56	55	79	727
（須磨区）	104	69	101	86	104	89	86	101	101	95	91	82	1,109
（垂水区）	117	80	102	115	119	93	107	136	143	104	96	105	1,317
（西区）	84	67	70	66	74	76	68	70	71	83	53	59	841
阪神南地域	36	20	29	34	43	35	34	38	33	54	49	48	453
阪神北地域	19	21	15	23	31	17	23	25	18	15	12	14	233
東播磨地域	59	39	56	66	54	60	47	55	57	57	56	55	661
北播磨地域	14	16	15	17	26	12	22	20	20	17	27	18	224
中播磨地域	9	3	5	3	8	13	14	4	6	11	9	5	90
西播磨地域	1	3	2	2	4	5	3	6	2	2	1	1	32
但馬地域	3	2	1	0	2	2	3	2	3	3	3	3	27
丹波地域	6	4	1	7	3	4	8	4	5	6	4	4	56
淡路地域	9	7	11	6	8	8	7	5	5	8	10	7	91
兵庫県外	64	26	21	45	38	25	42	65	38	36	41	32	473
合計	1,197	807	965	1,111	1,172	1,051	1,063	1,064	1,055	1,049	1,008	1,023	12,565

(4) ドクターヘリ搬送数 38例

3. 代謝内分泌科

1. スタッフ

部長（科長）	尾崎 佳代
医長	永井 正志
フェロー	三星 アカリ

本年はスタッフ2名、フェロー1名の3名体制で診療を行った。前任の郷司 克己部長の退職に伴い、尾崎が科長となった。医長に神戸大学から永井 正志医師が赴任した。フェローとして三星 アカリ医師が赴任した。また、専攻医2名が1-2ヶ月間の研修を行った。

2. 診療活動

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟にかかわる疾患、すなわち低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常並びに性分化異常などを対象としている。本年度の新規外来患者数は344名と昨年より2名増加した。施設は日本内分泌学会の認定教育施設に認定され、内分泌専門医を目指す小児科医の研修支援を行っている。

糖尿病の治療においては、持続血糖測定モニタリング、インスリンポンプを導入したことにより、患者のQOLが改善し、血糖コントロールも良好となる症例がみられた。多職種によるカンファレンスを定期的で開催して、すべての職種が知識・技術の向上に務めた。

当科では遺伝工学的手法を駆使して診療にあたるのが社会的要請に合致することと考え、分子生物学的技術を用いた解析に努めている。診断を行った症例として、21水酸化酵素欠損症、アンドロゲン不応症、低リン血症性くる病、軟骨無形成症、MODYなどがある。今後も当院遺伝科、神戸大学小児科とも協力しながら、分子生物学的手法を用いた解析・研究を臨床の場に役立てていきたい。

当科は患者様に対する治療法の改善並びに生活の質の向上を目的とした臨床治験に積極的に参加している。本年度はSGA性低身長、成長ホルモン分泌不全性低身長を対象としたLong GH治療の治験に参加した。また、高尿酸血症治療薬の小児肥満患者に対する治験にも参加をした。臨床研究としてXLH（低リン血症性くる病）の研究に参加した。来年度にかけて新薬が発売される疾患もあり、積極的に最新の治療を取り入れていく予定である。

外来患者（新患）

	患者数
低身長症	130
甲状腺疾患	31
性腺疾患	84
副腎	5
糖代謝異常	16
肥満	8
マススクリーニング	
クレチン症	16
先天代謝異常症	3
先天性副腎過形成	3
その他	48
計	344

入院患者

	患者数
低身長症	27
糖代謝異常	21
性腺疾患	2
甲状腺疾患	4
副腎疾患	6
その他	18
計	79

4. リウマチ科

1. 人事異動

【スタッフ】

科長 中岸 保夫

2. 診療活動

16歳未満で発症した小児の膠原病・リウマチ性疾患を対象に主に外来で診療している。具体的には、昔は若年性関節リウマチ（JRA）と呼ばれていた若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス（SLE）、若年性皮膚筋炎（JDM）、全身性強皮症、シェーグレン症候群、他にはクリオピリン関連周期熱症候群（CAPS）、家族性地中海熱などの自己炎症性疾患、川崎病や高安動脈炎を含めた血管炎症候群などが対象になる。入院管理は総合診療科が主科として診療にあたり、協力して行っている。

こどもの膠原病・リウマチ性疾患に対しては、標準的な医療のみならず、重症度に応じて適切な免疫抑制薬や生物学的製剤を用いて最新の治療を行っている。

3. 特色

外来診療にあたっては、小児施設には数少ない日本リウマチ財団登録リウマチケア看護師（リウマチケア看護師）が在籍している。患児の気持ちを理解し、患児自身が理解・納得できるようにサポートしている。

4. 診療実績

外来初診 283名（うち初診 83名）

入院患者 総合診療科管理

主な疾患

若年性特発性関節炎	96名
全身型若年性特発性関節炎	21名（4名）
全身性エリテマトーデス	7名（2名）
若年性皮膚筋炎・多発筋炎	5名（2名）
全身性強皮症・限局性強皮症	1名
シェーグレン症候群	4名（1名）
高安動脈炎	4名（1名）
川崎病（冠動脈病変なし）	112名（46名）
クリオピリン関連周期性発熱	2名
家族性地中海熱	1名
他の自己炎症性疾患	3名（1名）

全身型若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎など

他の初診患者

不明関節痛・関節炎など

5. アレルギー科

1. 人事異動

2018年度で笠井医師が退職し、田中と百々が入職した。

【スタッフ】

科長	田中 裕也 日本アレルギー学会専門医 日本小児科学会専門医・指導医
フェロー	百々 菜月 日本小児科学会専門に

2. 小児アレルギー疾患センター

2018年4月に小児アレルギー疾患センターが設置され、人事異動により副センター長が変更となった。

センター長	小阪 嘉之
副センター長	田中 裕也

3. 兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院

2014年6月に「アレルギー疾患対策基本法」が設立し、2015年12月末から施行されている。これはアレルギー疾患患者の増加に対応すべく医療提供の均てん化を目指したものである。その一環として2018年度より当院は兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院に指定され、診療以外の事業として2019年度は医療者に向けたアレルギー講習会に携わった。

4. 診療活動

基礎疾患に合併したアレルギー疾患や重症例にも対応しているが、地域の医療機関からのご紹介や当院救急外来受診後のフォローなど、基礎疾患を有しない軽症例にも対応している。外来は月曜日・木曜日の午後・火曜日の午前を基本外来とし、今年度は再診患者などへの対応のため他の曜日にも外来を設定した。食物負荷試験は外来・入院両方で行っており、本年度はスタッフ数増加に伴い実施件数が増加した。アレルギー疾患の総合的なコントロールを心がけており、スギ・ダニへの皮下・舌下免疫療法などを積極的に取り入れている。アレルギー専門看護師（小児アレルギーエデュケーター）を中心にしたコメディカルが食物アレルギーでのエピペン指導や喘息の吸入指導、アトピー性皮膚炎の皮膚ケア、舌下免疫療法の指導などを行い、より患者に寄り添った医療を行うよう努めている。本年度は最重症食物アレルギーに対する経口免疫療法についての研究を開始した。

当科は日本アレルギー学会で認定された教育病院であり、若手医師への教育を行っている。

3. 診療実績（1月～12月）

- 食物負荷試験 328件（外来 75件・入院 253件）
- ダニ・スギ舌下免疫療法 284名（12月時点での累計）
- アトピー・喘息・慢性蕁麻疹に対する生物学的製剤投与継続例 26名（12月時点での累計）
- 新規外来患者 197名

内訳（重複あり）

食物アレルギー	120名
アトピー性皮膚炎	66名
気管支喘息	74名
アレルギー性鼻炎	60名
薬剤アレルギー	15名
慢性蕁麻疹	3名

6. 神経内科

1. スタッフ

部長（科長）	丸山 あずさ
医長	豊嶋 大作
フェロー	徳元 翔一（2018年4月から）
	山口 宏（2019年3月まで）
	間浦 奈央子（2019年4月から2019年9月まで）

本年は山口が3月で退職し神戸大学病院に異動、4月採用の間浦が2019年9月に退職した後は、スタッフ2名とフェロー1名の3名体制で診療を担当した。また児玉荘一先生が月2回、神戸大学小児科の永瀬裕朗先生と西山将広先生に月1回ずつ、診療応援や専攻医教育、臨床研究のアドバイスなどをお願いしている。

2. 活動状況

2019年診療活動は、神経内科外来初診476名、外来延べ人数4046名であった。また入院新規患者数は122名であった。さらには、院内からの神経に関するコンサルトも積極的に受け入れた。昨年と同様に、けいれん重積や意識障害が遷延する状態については、休日夜間を問わずオンコール体制でコンサルトを受けており、当科で重点的に取り組んでいる救急集中治療領域における連続脳波モニタリングは221例に行なった。PICUのみならず救急外来初療室でも、速やかに脳波モニタリングが出来る体制を整えている。引き続き、救急総合診療科や集中治療科と連携しながら、神経救急疾患の充実した急性期管理に尽力していきたい。

てんかん診療については、研究会を通じて地域の小児神経科のみならず成人科の神経内科、脳神経外科の先生との交流を深めた。今後も、成人を迎える患者の移行医療が円滑に行えるように取り組んでいる予定である。平成27年度からの厚生労働省の事業である「てんかん地域診療連携体制の整備事業」に於いて、当院の社会的役割は大きいと考える。

また院内では、結節性硬化症診療に関連する専門診療科で、年に2回のペースで症例提示や情報提供の目的でカンファレンスを行なっている。今後も、各科と診療連携を行うことにより、診療の質の向上を目指していきたい。

当院は小児神経専門医研修施設、日本てんかん学会研修施設に認定されており、近隣の施設への情報発信、小児神経専門医を目指す小児科医の育成にも引き続き取り組んでいきたい。

学術活動については、昨年に引き続き急性脳症を中心とした臨床研究を神戸大学と連携して行なっており、2019年は学会報告10件、論文発表9件であった。また急性脳症に関しては多施設共同臨床研究も進行中である。

神経内科初診患者数 476名
(疾患名には疑いも含む、一部重複あり)

発作性疾患 299

てんかん	107
初回非誘発性発作	31
ウェスト症候群	10
熱性けいれん	128
失神	19
心因性非てんかん発作	4
不随意運動	12

神経系感染症 24

急性脳症・脳炎	22
---------	----

自己免疫性神経疾患 5

多発性硬化症・CIS	3
急性小脳失調	3

発達障害 61

精神遅滞	44
広汎性発達障害	17

心身症、その他 60

チック	7
頭痛	20
身体表現性障害	19

神経発生異常	8
先天異常症候群	13
神経皮膚症候群	6

7. 血液・腫瘍内科

【人事】

正規医師については、2019年3月末に山本暢之医長（神戸大学医学部附属病院）が転出し、神戸大学より森健医長が転入した。また中村さやか医師がフェローより正規医師（医長）に昇任した。フェロー医師については二野菜々子医師（神戸大学医学部附属病院）が転出し、フェローとして野口隼医師（埼玉県立小児医療センター）、血液・腫瘍内科専任後期研修医として片山大資医師が入職し、小阪副院長以下13名の体制で始動した。短期ローテーターの異動については割愛する。

副院長（小児がん医療センター長）	小阪嘉之
部長（科長）	長谷川大一郎
医長	森健
医長	石田敏章
医長	岸本健治
医長	神前愛子
医長	斎藤敦郎
医長	田村彰広
医長	中村さやか
フェロー	野口隼
フェロー	中谷尚子
フェロー	市川貴之
後期研修医	片山大資

【診療活動】

今年度小児がん拠点病院の再認可を受けたことにより、地域医療圏における患者集約化が進んでいる。本年度の新患数と造血細胞移植数ともに堅調に推移している。詳細はそれぞれ別表を参照されたい。2019年の新患数は過去最多であり、平均稼働病床も50床程度の高水準を推移した。腫瘍性疾患に関しては学会登録ベースで全国屈指／西日本最大規模の症例数であった。また、2019年3月に全脳全脊髄照射が開始されたことにより神戸陽子線センターとの診療連携に伴う陽子線治療照射実績は44例まで増加し、単年度症例数ベースでは小児腫瘍領域では全国最多であった。今後も小児陽子線治療空白地域を中心に患者紹介の増加が見込まれる。また、4床の無菌室増床を精力的に稼働させHLA半合致移植など難治例に対する難易度の高い造血幹細胞移植症例も増加している。移植数も2019年移植数26例と小児科単科の施設のものとしては多い。県外からの造血幹細胞移植症例が増加しつつあり本年度は高知県から2例の移植目的の患者紹介があった。その他、小児急性リンパ性白血病の再発患者に対するボルテゾミブを含む多剤併用化学療法の第II相試験等の日本小児がん研究グループ（JCCG）施設限定臨床試験に取り組むことにより、再発難治例に対してより多くの治療選択肢を提供できるよう努めている。

患者集約化に対応し、且つ人材育成のために科内スタッフの専門医取得支援を進めている。本年度新たに取得したものを加えて、小児科専門医10名（指導医6名）、日本血液学会血液専門医8名（指導医5名）、日本小児血液・がん学会専門医4名（指導医1名、暫定指導医1名）、日本造血細胞移植学会移植認定医5名、がん治療認定医6名、日本血栓止血学会認定医1名の体制となった。安全かつ質の高い診療基盤と、小児血

液・がん専門医取得を目指す教育施設としてより強固な基盤を築いていけるよう体制を整えていく。

入院患者に占める思春期・若年成人（Adolescent and Young Adult, AYA）の占拠率の増加に伴い、多角的に療養環境の整備に取り組んでいる。特に、兵庫県教育委員会高等教育課の支援により長期療養中の高校生患者に対するインターネット通信を利用した遠隔授業を開始した。また兵庫県がん生殖医療ネットワークと連携して、女性患者に対する妊孕性温存のための卵巣組織凍結保存に対する取り組みも継続している。がん患者に対する晩期障害低減のため今後も努力を続けていく。

日本血栓止血学会より血友病診療連携地域中核病院に指定されたことを受けて血友病診療需要も増加しつつある。本年度新たに1名が日本血栓止血学会認定医を取得したことにより、同学会指定の教育研修施設となるべく手続きを開始した。先天性凝固異常症など血栓止血領域においても看護部、地域医療連携部等と連携して患者の生活の質（QOL）を最大化することを目標に、診療の質と地域連携の核として診療連携を深めていく。

【研究・学術活動】

臨床業務と並行して、日本小児がん研究グループ（JCCG）の委員会活動・研究活動等に従事した。小阪センター長が神戸大学客員教授／JCCG 運営委員、長谷川大一郎部長が JCCG-AML 委員会／ユーイング肉腫委員会／JACLS-ALL 委員会、森健医長が JCCG リンパ腫委員会、石田敏章医長が JCCG 神経芽腫委員会／JCCG 横紋筋肉腫委員会、田村彰広医長が JCCG HLH/LCH 委員会に所属し、臨床試験の計画・実施に携わっている。成果として JCCG 等の臨床試験の結果が報告されたほか、近隣各種機関と連携し基礎研究や疫学研究等に取り組んでおり、田村彰広医長は理化学研究所との共同研究で神戸医療産業都市研究開発助成金（若手研究者支援枠）（課題名：単球解析による新規脳腫瘍 診断・治療法開発）を受賞した。今後益々の活躍が期待される。田村彰広医長、岸本健治医長を中心に研究成果としての誌上発表に取り組んでおり、本年の研究成果は英文誌 13 編が掲載された。研究学術活動においても地域を主導する機関として益々実績を積み上げていくことが期待される。

2019年1月から12月 新患

血液腫瘍性疾患	急性リンパ性白血病 (ALL)		
	BCP	17	
	乳児 ALL	3	
	T	1	
	急性骨髄性白血病 (AML)	8	
	慢性骨髄性白血病 (CML)	0	
	悪性リンパ腫		
	HD	1	
	LBL	2	
	ALCL	2	
	節外性NK/T	2	
	骨髄異形成症候群 (MDS)	0	
	Down 症 TAM	1	
	ランゲルハンス組織球症 (LCH)	3	
	血球貪食性リンパ組織球症 (HLH)	0	
		40	
固形腫瘍性疾患	脳脊髄腫瘍		
	頭蓋内胚細胞腫瘍	8	
	髄芽腫	8	
	上位腫	4	
	星細胞腫瘍	3	
	希突起膠腫	2	
	神経膠芽腫	2	
	その他	6	
	神経芽腫	9	
	網膜芽細胞腫	7	
	肝芽腫	1	
	腎腫瘍	1	
	ユーイング肉腫	3	
	横紋筋肉腫	8	
	頭蓋外胚細胞腫瘍		
	成熟奇形腫	5	
	未熟奇形腫	2	
	その他	1	
	血管腫	3	
	その他	30	
		103	
	非腫瘍性疾患	特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)	10
		自己免疫性好中球減少症 (AIN)	2
好中球減少症		5	
遺伝性球状赤血球症 (HS)		3	
再生不良性貧血		2	
ダイヤモンド・ブラックファン貧血 (DBA)		2	
血友病 A		5	
血友病 B		0	
血小板増多症		1	
組織球性壊死性リンパ節炎 (SNL)		1	
免疫不全症		1	
その他		93	
ドナー		15	
カサバツハ・メリット症候群		2	
その他		56	
ドナー		13	
		140	
セカンドオピニオン		10	
合計		293	

造血細胞移植一覧

番号	疾患	年齢	性別	病期	移植種別	転帰
1	髄芽腫	8	女	第2寛解	自家末梢血幹細胞移植	有病生存
2	骨髄異形成症候群	16	男	—	非血縁者間骨髄移植	無病生存
3	先天性赤芽球癆	14	男	—	非血縁者間骨髄移植	無病生存
4	悪性リンパ腫	7	男	非寛解	非血縁者間骨髄移植	無病生存
5	慢性肉芽腫症	3	女	—	非血縁者間骨髄移植	死亡
6	骨髄異形成症候群	1	男	—	臍帯血移植	無病生存
7	急性リンパ性白血病	14	男	非寛解	血縁者間末梢血幹細胞移植	死亡
8	副腎白質ジストロフィー	7	男	—	血縁者間骨髄移植	有病生存
9	急性骨髄性白血病	15	女	第1寛解	非血縁者間骨髄移植	無病生存
10	急性リンパ性白血病	0	女	第1寛解	臍帯血移植	無病生存
11	頭蓋内胚細胞腫瘍	6	女	第1寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
12	頭蓋内胚細胞腫瘍	6	女	第1寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
13	網膜芽細胞腫	3	女	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	死亡
14	神経芽腫	3	女	第1寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
15	非定型奇形腫様／ラブドイド腫瘍	10	男	第1寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
16	頭蓋内胚細胞腫瘍	6	女	第1寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
17	ユーイング肉腫	18	女	第2寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
18	急性リンパ性白血病	1	女	第1寛解	臍帯血移植	無病生存
19	急性リンパ性白血病	1	女	第1寛解	臍帯血移植	無病生存
20	慢性肉芽腫症	3	女	—	臍帯血移植	死亡
21	神経芽腫	1	男	第1寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
22	髄芽腫	4	男	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	死亡
23	急性骨髄性白血病	1	女	非寛解	非血縁者間末梢血幹細胞移植	死亡
24	急性骨髄性白血病	12	女	第1寛解	血縁者間骨髄移植	有病生存
25	急性リンパ性白血病	10	男	第2寛解	血縁者間骨髄移植	無病生存
26	再生不良性貧血	13	男	—	非血縁者間骨髄移植	無病生存

8. 循環器内科

【スタッフ・フェロー】

スタッフ	城戸佐知子	フェロー	久保 慎吾
	田中 敏克		林 賢
	富永 健太		堀口 祥
	小川 禎治		
	亀井 直哉		
	松岡 道生		
	三木 康暢		

非常勤 佐藤 有美
則武 加奈恵

スタッフ7名、フェロー3名、他に専攻医数名。専攻医は2か月ごとのローテーションで、主に入院患者管理、カテーテル検査の補助などに従事。心疾患患者の扱いに慣れ、心疾患の診断技術として主として心エコーの基礎を習得し、カテーテル検査の結果を読み、軽症では診断から手術適応の判断ができることを主たる目的とする。またフェローは1年単位の比較的長期間循環器診療に携わり、できる限りカテーテル検査、心エコー検査を単独でこなし、軽症から重症の疾患までの治療方針を自身の判断で立てられること、小児循環器学会専門医を取得すること、などが目標である。

【診療活動】

- (1) 外来：月曜日から金曜日まで週5日、基本2診体制で対応している。新規患者は毎日受け入れており、総新規患者数は708名で昨年に比べやや増加した。新患患者の主体は比較的軽症の疾患であり、内訳は心室中隔欠損（92）、心房中隔欠損（67）、肺動脈狭窄（20）、動脈管開存（33）、川崎病（既往含む）（23）、ファロー四徴症（6）、不整脈（51）などであった。カテーテル治療相談外来（木曜午前、担当：田中医師）や移行期外来（月曜午前、担当：城戸）、成人先天性心疾患外来（月曜午後、担当：城戸）、OD・不整脈外来（火曜午後、担当：小川）、昨年度から当科に移行したペースメーカー外来（木曜午後、担当：小川・松岡）など専門外来も紹介患者が増加傾向である。成人に達した患者については、地域との医療連携の必要性を考慮に入れ、兵庫県立姫路循環器病センター、加古川中央市民病院などでの診療応援（外来応援）を続ける一方、2013年1月からは神戸大学附属病院循環器内科において成人先天性心疾患部門を立ち上げ、協力体制を強化している。また胎児心疾患診断についても、産科外来において胎児心エコーを行っているほか、他院にて診療の応援を行い、医療連携にも重点を置いて取り組んでいる。
- (2) 入院：1年間の総入院患者数は532名で、昨年と比べ横ばいであった。6西病棟だけでは収容しきれず、7東病棟・5東病棟HCU病棟・GCUにも入院を受け入れていただいた。また、心疾患の他に他疾患を合併する症例も多く、CICU, ICU滞在期間・入院期間は必然的に長くなっており、昨年に引き続き病棟運営上の問題となっている。
- (3) 生理検査：総心電図件数6043件、Master負荷心電図件数1530件、Holter心電図件数409件、トレッドミル負荷心電図は241件で、昨年と同等の件数であった。心エコーは8452件と昨年より増加傾向で

あった。予約枠が不足してきていることが課題である。胎児心エコーは202件（担当：佐藤医師、亀井医師 主として木曜日）で、昨年と同程度であった。また、2016年に新たに心肺機能検査（CPX）を導入し、昨年は41件施行した。人手と時間を要する検査ではあるが、今後件数を増やしていく予定である。ヘッドアップチルト検査は 96件で増加傾向であった。

- (4) 心臓カテーテル検査・治療：総件数320件、カテーテル治療の件数は145件と、昨年に比べほぼ横ばいであった。今後も治療件数は増加すると予想され、現在検査の待機期間が約3か月となっており、今後、待機期間を短縮するために、昨年同様、木曜日に脳外科がアンギオ室を使用しない時の有効利用を行っていききたい。
- (5) 心臓MRI: 毎週火曜日の午後に行っている。総件数は42件で年々増加傾向であり、今後は心臓カテーテル検査にとって代わり、増加していくことが予想される。

【その他の活動】

- (1) カンファレンス：月曜日夕方と木曜日朝に心臓外科との合同カンファレンス、水曜日朝にカテーテル検査前カンファレンス、夕方に心臓外科と合同の抄読会、木曜日にカテーテル検査後カンファレンスおよび心エコー検討会、を行い、討議の時間をもっている。
- (2) 学会参加：小児循環器病学会、JPIC 学会、胎児心臓病学会、成人先天性心疾患学会、HOT 研究会、川崎病研究会、日本循環器学会などへの参加。また、今年度より成人先天性心疾患学会専門医連携修練施設に認定された。

【新規患者内訳】

全入院患者の疾患内訳 (カテーテル検査入院含む同一患者の重複あり)	総数	感染性心内膜炎	1
フォンタン型手術関連疾患 (いわゆる単心室型心臓)	532	不整脈	13
ファロー四徴症	182	エプスタイン奇形	2
肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	29	総動脈幹症	5
心室中隔欠損	25	僧帽弁閉鎖不全	1
心房中隔欠損	28	肺動脈弁欠損	0
動脈管開存	27	肺高血圧	2
両大血管右室起始	20	大動脈・肺動脈窓	3
大動脈弓離断・大動脈縮窄	19	修正大血管転位	5
房室中隔欠損	22	その他	20
大血管転位	13	カテーテル治療(カテーテル総数件 320)	145
心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖	20	弁形成(大動脈弁・肺動脈弁)	11
肺動脈狭窄	20	血管形成	59
心膜・心筋疾患	15	ステント留置術	5
大動脈弁疾患(狭窄・逆流)	9	コイル塞栓術(動脈管開存)	8
川崎病・冠動脈後遺症	4	コイル塞栓術(側副血管・動静脈瘻)	29
総肺静脈環流異常	11	バルーン心房中隔裂開術	5
両大血管右室起始・房室中隔欠損	21	心房中隔欠損閉鎖術(Amplatzer, FF-II)	18
	35	動脈管開存閉鎖術(Amplatzer)	10
	0	その他	0

9. 腎臓内科

【人事】

2019年3月末日をもって堀之内智子医長が転出し、4月1日から石河慎也医師が腎臓内科フェローとして神戸大学から着任した。石河医師は9月末日をもって神戸こども初期急病センターへ転出し、かわって神戸大学から着任した青砥悠哉医師が腎臓内科フェローを務めた。3月末日まで腎臓内科フェローであった稲熊洋祐医師は4月1日より腎臓内科医長を務めた。したがって2019年度の腎臓内科員は貝藤、稲熊、石河もしくは青砥と、田中亮二郎（小児救命救急センター長）の4名体制であった。

【診療活動】

入院患者数は年度により多少の増減はあるものの、外来紹介患者数は年々増加の一途をたどっている。本年は28例の腎生検を施行した。維持腹膜透析については今年新たに1名に導入した。昨年から外来管理を続けていた2名の在宅腹膜透析患児については、1名が生体腎移植へ、もう1名が維持血液透析に移行し、移行期年齢に達したことから継続加療を他院に依頼した。したがって当院での管理を継続している在宅腹膜透析患児は1名（2019年12月末日現在）となった。先行的腎移植の導入が進み、腹膜透析患児は全国的に減少しているが、当院でも同様の傾向がみられる。一方で、周産期の集学的治療の進歩などによって、複雑な全身疾患を背景に有した慢性腎臓病患児が増加している。このような患児では腎移植が困難な場合も少なくないため、QOLやADLを維持・向上させる腹膜透析が選択される機会が多い。それぞれの児に適した腎代替療法が選択できるよう、当科が中心となってあらゆる慢性腎臓病患児への関わりを積極的にすすめていきたい。腎移植を要する患児については神戸大学泌尿器科をはじめ、他院にその手術を依頼し、慢性期管理は当院で行うことを原則としている。現在10名の腎移植後患児を外来管理している。急性腎障害の腎代替療法や維持血液透析に移行を要する慢性腎臓病患者の血液浄化療法については集中治療科と連携して診療にあたっている。

【研究・学術活動】

貝藤医長は日本小児腎臓病学会の代議員として小児CKD対策委員会に所属し、また田中部長は同じく日本小児腎臓病学会の代議員として渉外委員会に所属し、それぞれ委員会活動に従事した。また貝藤医長は小児特発性ネフローゼ症候群診療ガイドラインの改訂に関する委員に選任され、新たなガイドラインの作成にも貢献している。このガイドラインは2020年度内には発刊される見込みである。

本年は、稲熊医長が研究課題「小児特発性膜性腎症におけるTHSD7AとPLA2Rの関与とバイオマーカーの探索研究」で平成31年度がん・腎研究奨励賞（兵庫県健康財団）を受賞した。当科は以前から稲熊医師を中心に小児特発性膜性腎症に関する研究を行い、全国学会や英文学術誌でその成果を発表してきた。今回の受賞はこれらの業績が認められ、研究のさらなる発展を期待されたものであると考えている。現在本研究の成果をまとめているところである。今後もこのような臨床研究を積極的に進め、診療のみならず研究の領域でも先進的な基幹施設となるべく努力を続ける所存である。

当科は従来から医師主導治験や多施設共同臨床試験に積極的に参加してきたが、今年も新たな多施設共同臨床研究（医師主導治験）として「小児期発症難治性ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を対象としたIDEC-C2B8とステロイドパルス療法の併用療法の多施設共同単群臨床試験（JSKDC11）」の参加施設となった。当院は全国的にみても、症例が非常に豊富な小児腎臓病の一基幹施設であると自負している。医師主導治験は企業治験と異なり、参加施設への研究費配分が十分とは言えず、薬剤部をはじめとした院内の関係

部署に多大なご協力をいただきてようやく実施できている状況である。この場を借りて関係部署の皆様にお礼を申し上げるとともに、院内治験管理部門がより一層充実することを期待したい。

2019年の入院患児内訳

疾患名	人数（人）
急性糸球体腎炎	7
慢性腎炎症候群	18
紫斑病腎炎	(6)
IgA 腎症	(5)
膜性腎症	(4)
巣状分節性糸球体硬化症	(1)
微小変化型	(1)
C3 腎症	(1)
ネフローゼ症候群	40
尿路感染症	11
慢性腎臓病	18
溶血性尿毒症症候群	4
汎発性腹膜炎（CAPD 患者）	1
CAPD カテーテル位置異常	1
全身性エリテマトーデス	2
計	102

10. 感染症内科

・陣容

科長 笠井正志、フェロー大竹正悟の2名体制であった。

・主な業務

1. 感染症診療、2. チーム医療（ICT、AST）、3. 県予防接種センター業務が主たる業務

・感染症診療

コンサルテーションと外来を行っている。

24時間365日体制で各科からコンサルテーションを受ける診療スタイルで、院外からもコンサルテーションを受けている。2019年1月～12月は847件であった。

年	2016年	2017年	2018年	2019年
コンサルト数	518	697	714	847

感染症外来では、不明熱、繰り返す発熱・感染症、先天感染症、渡航前後相談、ワクチン接種を行っている。外来入院担当ナースより発疹相談も直接受け付けている。

診療と並行して、小児科医として重要な小児感染症に関する教育を院内外で実践している。

後期研修医受け入れ7名：田中 Dr、宍戸 Dr、近藤ゆ Dr、石田 Dr、菊池 Dr、合田 Dr
 院外研修生受け入れ3名：福田 Dr（神戸中央市民）、小柴 Dr（六甲アイランド）、佐藤さん（神戸大学5回生）
 院外定例勉強会：姫路赤十字病院小児科（第2火曜日午後）
 県立尼崎医療センター小児感染症科・感染症科（第4火曜日夕方）

・感染症のすべてに関わるチーム医療（KPIC）

Kobe Prevention and control of Infection for Children and family（KPIC；次項図）を病院組織図上には存在しないが、機能的組織として結成した。感染対策、感染症診療などでスタッフ・患者さんを「迷子」にしないように活動し、各専門部署がそれぞれの分野で責任を持って「自走」できるように体制を構築し、実践している。

・県予防接種センターとしての業務

相談、接種（接種困難者対応）、教育を行っている。

相談は、予防接種実施主体である市町村（県内外）や患者より受けている

	2016年(9月～)	2017年	2018年	2019年
予防接種相談件数	5	34	46	38

接種は他院では対応困難な予防接種要注意者を主に対象に依頼があれば、接種をしている。患者さんの利便性を考えて平日毎日外来枠を有している。

2020年2月23日予防接種基礎講座を開催し、多職種が参加した。

11. 臨床遺伝科

臨床遺伝科は常勤医 1 名で森貞直哉（部長、臨床遺伝専門医）が診療を担当している。

【診療活動】

臨床遺伝科は院内外からの紹介を受けた遺伝性疾患の患者（疑いを含む）の診療を行っている。外来日は火曜日と木曜日の終日であるが、そのほかにも入院中の患者や他科診療患者の急な依頼にも可能な限り応じることとしている。

具体的な診療内容

- ・ 遺伝性疾患のトータル管理（ダウン症候群、神経線維腫症 1 型、Noonan 症候群など）
- ・ 臨床診断されている患者の原因遺伝子解析（結節性硬化症、Marfan 症候群など）
- ・ 原因不明患者の網羅的遺伝子解析（神戸大学、未診断疾患イニシアチブとの共同研究）
- ・ 他施設で解析された事例の遺伝学的説明（染色体異常、心筋症家系など）
- ・ 遺伝カウンセリング

受診症例、具体的な解析数は別表のとおりである。

【遺伝子解析】

当院症例の遺伝子解析は、保険診療でできるものとできないもの両方を受諾している。

保険診療で対応できるものは各種検査会社（かずさ DNA 研究所など）に依頼している。

保険診療で対応できないものは、主に神戸大学小児科をはじめとする研究機関との共同研究として行っている。また AMED が主導する未診断疾患イニシアチブ（Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases、IRUD）の地域拠点病院（神戸大学）の協力病院としても活動している。

【学会、研究活動】

他施設との共同研究を含め活発に行なっている。詳細は別項参照。

【院外講演】

- ・ 兵庫県小児科医会 神戸 2019.3.23：こども病院における遺伝子診療部間の役割

【今後の展望】

IRUD や出生前診断、がんゲノムなど、一般診療においても遺伝診療の重要性が高まっており、当科は兵庫県立こども病院のゲノム医療を支える診療科として活動して行く所存である。

【別表：症例】

染色体異常

疾患名	症例数
ダウン症候群	24
クラインフェルター	6
ターナー	2
1q21.1 重複	2
2p 挿入	1
2p14 欠失	1
2q 中間部欠失	1
3q23 欠失	1
4p 欠失	1
5p 重複	1
5p 欠失	1
6p 重複	1
6p 中間部欠失	2
6q25 欠失	1
7q 中間部欠失	1
8p 重複	1
9p 欠失	1
10q26 欠失	2
13 トリソミー	1
13q 中間部欠失	2
15q 中間部欠失	1
18 部分モノソミー	1
20q 中間部欠失	1
22q11.2 欠失	9
22q11.2 重複	1
22q13 重複	1
22q 部分重複	1
Smith-Magenis 症候群	2
Williams 症候群	4
Currarino 症候群	1
Prder-Willi 症候群	1
Pitt-Hopkins 症候群	1
染色体不分離	1
X 染色体異常	1
Y 染色体異常	1
その他の染色体異常	4

単一遺伝子病

疾患名	症例数
Alagille 症候群	1
Sotos 症候群	5
Kabuki 症候群	6
MCTO	1
Genitopatellar 症候群	1
Bardet-Biedl 症候群	2
Opitz GBBB 2 症候群	1
Noonan 症候群	10
Myher 症候群	1
Crouzon 症候群	2
Rubinstein-Taybi 症候群 2	1
Opitz GBBB 1 症候群	1
CFC 症候群	4
口顔指症候群 1 型	1
Muenke 症候群	1
コルネリア症候群	3
顎顔面異骨症 Guion-Almeida 型	1
MCAP 症候群	1
Coffin-Siris 症候群	2
Conradi 症候群	1

免疫不全症

疾患名	症例数
原因不明の免疫不全	3
胸腺欠損	1
PFAPA 症候群	1

腎

疾患名	症例数
Bartter 症候群	2
腎コロボーマ	1
片側腎無形成	2
尿細管性蛋白尿	1
CAKUT	1
多発性嚢胞腎	2
Dent 病	2
ADTKD-UMOD	1
BOR 症候群	2
間質性腎炎	1
先天性ネフローゼ	1

循環器

疾患名	症例数
NAA10 異常症	1
心筋症	4
不整脈	8
心室中隔欠損症	1
大動脈離断	1

血管奇形・皮膚

疾患名	症例数
Sturge-Weber 症候群	1
RASA1 異常	2
色素性乾皮症	1
CLOVES 症候群	1
全身性血管腫	2
白子症	1
色素失調症	2

骨

疾患名	症例数
2 型コラーゲン異常症	1
原因不明の骨系統疾患	2
Langer-Giedeon 症候群	1
脚長差	3
多発性骨端異形成	3
骨形成不全	1
AR-Larsen	1
股関節脱臼	2
多関節拘縮症候群	2
GNAS 異常	1
FOP	3
両側内反肘	1
軟骨無形成	1
頭蓋骨早期癒合	1

血液・腫瘍

疾患名	症例数
網膜芽細胞腫	4
有口赤血球症	1
視神経鞘腫	1
横紋筋肉腫	1
VHL 病	1
Wiscott-Aldrich 症候群	1
慢性肉芽腫症	1
Peutz-Jeghers 症候群	1
Diamond Blackfan	1
小腸ポリープ	1
背部腫瘍	1

結合組織

疾患名	症例数
Loeys-Dietz 症候群	1
Marfan 症候群	9
皮膚弛緩症	2
原因不明	2
エーラスダンロス症候群	3
筋拘縮型 EDS	1

代謝内分泌

疾患名	症例数
1 型糖尿病	1
甲状腺機能低下症	1
OTC 欠損	1
シトルリン血症疑い	1
無月経	1

眼

疾患名	症例数
色素性傍静脈網脈略膜萎縮症	1
全盲	2
眼振	1

神経発達筋

疾患名	症例数
原因不明	47
神経線維腫症 1 型	30
筋強直性ジストロフィー	4
GRIN1 異常	1
GLUT1 欠損症	1
ジストニア	2
Dandy-Walker 症候群	1
常染色体優性遺伝型 SMA	1
MEF2C 異常症	1
Angelman 症候群	2
滑脳症	1
小頭症	1
Nicolaides-Baraitser 症候群	1
神経線維腫症 2 型	1
結節性硬化症	1
大頭	1
シャルコーマリートゥース病	1
自閉症スペクトラム	3
末梢神経障害	1
KCNQ2 異常	1
発作性失調症	1
CACNA1A 異常症	1
福山型筋ジストロフィー	1
Joubert 症候群	3
KBG 症候群	1
グリシン脳症	1
メビウス症候群	1
Rett 症候群	2
水頭症	1
BPAN	1
孔脳症	1

その他

疾患名	症例数
中枢性低換気	3
オプソクロームス・ミオクロームス症候群	1
気管支喘息	1
翼状頸	2
慢性疼痛	1
羊膜索症候群	3
尾部退行症候群	1
虚血性脳症	2
遺伝性腭炎	1
外胚葉異形成	1
鎖骨下動脈遮断シーケンス	1
カフェオレ斑	3
口顔指症候群	1
先天性部分無歯	1
細菌性髄膜炎後	1
VATER 連合	1
Waardenburg 症候群	2

12. 精神科

【スタッフ】

部長	関口 典子
部長	持田 啓
医長	玉岡 文子
非常勤医師	長谷川 弘子（神戸市こども家庭センター） 小笠原 さゆ里
心理士	藤井 美有 沖村 心 観音堂 千仁
非常勤心理士	3名
精神保健福祉士	岩崎 志野

常勤医師は3名、非常勤医師は2名で診療を行った。非常勤医師は長谷川（木曜日）、小笠原（火曜日）が週1回半コマ外来を担当している。

【活動内容】

- 1) 対象疾患は、身体疾患など器質に由来する精神障害から、発達障害、ストレス関連障害を中心として多岐に渡る。年齢は小学生から中学生の学齢期を中心としている。
- 2) 診療活動は外来診療が主であり、初診予約待ちは4週間程度である。急を要する院内紹介には随時対応している。精神科外来のほか、総合診療科とともに発達行動外来を担当している。
- 3) コンサルテーション・リエゾン領域では、産科においてメンタルヘルス外来を行っているほか、緩和ケアチームの一員として活動している。その他の分野においても心因性の身体症状や虐待をはじめとして精神科医が必要とされている分野は多く、小児がんや救急患者の家族への支援を期待されることもある。総合病院における精神科の役割として、他科とのより細やかで緊密な関係をとることを目指している。
- 4) 児童精神科領域での啓蒙、教育研修として、医学部6年生の実習ならびに心理学大学院生の実習の受け入れ、講演等を行った。
- 5) 兵庫県の子どものこころの診療ネットワーク事業に参加し、兵庫県内の関連施設と連携している。

令和元年 新患分布

			1-2	3-5	6-8	9-11	12-17		
			幼児 前期	幼児 後期	学童 前期	学童 後期	中学 高校	18歳 以上	計
F0	F07	脳の疾患、損傷および機能不全による人格および行動の障害				1	2		3
F3	F32	うつ病エピソード					5		5
F4	F41	他の不安障害			3	5	3		11
	F42	強迫性障害		1	1	4	2		8
	F43	重度ストレス反応 [重度ストレスへの反応]および適応障害		2	7	16	53	4	82
	F44	解離性[転換性]障害			11	12	6		29
	F45	身体表現性障害		4	7	8	11		30
F5	F50	摂食障害					4		4
	F51	非器質性睡眠障害	1		2	2	2	4	11
	F53	産褥に関連した軽傷の精神および行動の障害、他に分類できないもの						1	1
F6	F63	習慣および衝動の障害			2	1			3
	F64	性同一性障害			1			1	2
F7	F70	軽度精神遅滞[知的障害]		2	4	3	3		12
	F71	中度[中等度]精神遅滞[知的障害]			1	1			2
	F72	重度精神遅滞[知的障害]		1			1		2
	F73	最重度精神遅滞[知的障害]			1		1		2
F8	F80	会話および言語の特異的発達障害		1					1
	F84	広汎性発達障害	1	12	27	21	18		79
F9	F90	多動性障害			5	1	3		9
	F91	行為障害			6	6	4		16
	F93	小児期に特異的に発症する社会的機能の障害	1		2				3
	F94	小児期および青年期に特異的に発症する社会的機能の障害		2	2	1			5
	F95	チック障害		1	2	2	2		7
	F98	小児期および青年期に通常発症する他の行動および情緒の障害	1	1	1	3	1		7
他		診断なし		3	8	6	6	4	27
計			4	30	93	93	129	14	363

【こどもとおやの相談室について】

心理士、精神保健福祉士は、こどもとおやの相談室として活動している。他科からのコンサルテーションに対し、精神科医師、心理士、精神保健福祉士でチームとしての相談対応も行っている。今後もより広い診療科と連携を深め、こどもと家族の療養支援を実施することを目指している。

① 心理士

外来では、複数の科と連携し、心理アセスメントや心理治療を中心に行っている。

入院では、小児がん拠点病院として血液腫瘍科との連携を密に行っている。

② 精神保健福祉士

外来、入院において、医療福祉相談、発達相談、療養の相談など様々な相談に対応している。また、患者だけでなく家族や学校、関係機関からの相談にも対応し、院内外との連携の中心として活動している。

心理士

診療科	アセスメント			本人				家族		その他	新患
	知能発達	性格	その他	プレイセラピー	カウンセリング	心理サポート	小児ガンフォロー	相談	結果報告		
救急総合診療科	79	27	11			154		18	0	1	54
代謝内分泌科	121		56			1		6	2		14
神経内科	30		3			30		6	2		21
血液腫瘍科	5	1	1			30	1872	135	5	7	30
循環器科	1					8		1		1	2
腎臓内科	2					8					
臨床遺伝科	5										4
新生児科	95										64
精神科	198	198	115	115	104	63		25	2	2	150
心臓血管外科						4		1			
脳神経外科	40						6	5	2		23
一般外科						8		1			
泌尿器科								1			1
形成外科						1					1
救急集中治療科						20		13			4
耳鼻咽喉科	14	8									12
合計	590	234	186	115	104	299	1878	206	12	11	379

PSW 相談内容別

相談内容／対象	本人・ 家族	院内	保健福祉 機関	こども 家庭 センター	学校・ 園・ 教育関係	訪問 看護	児童福祉 施設	その他	計
福祉・経済問題	131	87	105	37		4	39	7	410
療養問題	122	165	10	5	9	26	1	8	346
教育問題	35	30	6		112				183
家庭問題	32	14	16		2		2		66
心理情緒的問題	24	13	1						38
養育問題	56	74	26	62	3		2	3	226
受診援助	93	59		22	2		8	76	260
その他	3	7		1				10	21
計	496	449	164	127	128	30	52	104	1550

支援方法別

面接	385	374	6	12	27	1	7	6	818
電話	106	63	152	103	98	22	39	69	652
文書	5	12	6	12	3	7	6	29	80
計	496	449	164	127	128	30	52	104	1550

初回相談依頼者	
総合診療科	10
代謝内分泌科	3
精神科	112
小児外科	2
院内その他	9
本人・家族	15
学校	3
こども家庭センター	7
市	12
その他	19
計	192

13. 小児外科

小児外科スタッフ

前田貢作（科長・副院長）
横井暁子（部長）
福澤宏明（医長）
森田圭一（医長）
河原仁守（医長）
鮫島由友（医長）
岩出珠璣（医長）

フェロー

磯野香織（フェロー）（3月まで）
梶原啓資（フェロー）（3月まで）
野村皓三（フェロー）（3月まで）
植村光太郎（フェロー）
竹内雄毅（フェロー）（4月から）
藤枝悠希（フェロー）（4月から）
黒田靖浩（フェロー）（4月から）

【人事異動】

大学人事で3月末に磯野医師が熊本大学病院、梶原医師が九州大学病院、野村医師が金沢大学病院に異動。4月から竹内医師（京都府立医科大学）、藤枝医師（高知大学）、黒田医師（奈良県立医科大学）が赴任。鮫島医師が医長に昇進した。

【診療活動】

入院手術は935件、日帰り手術208件、総手術件数は1143件であった。新生児外科症例は56例のうち手術症例は51例であった。

カンファレンスについては例年どおり1）術前カンファレンス・術後カンファレンス（各週1回）、2）抄読会（週1回）、3）病棟カンファレンス（毎日朝・夕）、4）ICUカンファレンス（毎日朝）、5）循環器カンファレンス（適時）を行なった。

当科の特色としては

1. 高度専門医療

- ▶ 小児呼吸器外科：気管狭窄症の手術については日本で最大の症例数と治療成績を誇っている。小児外科・心臓血管外科・麻酔科・集中治療科が密接に連携しチーム医療を推進している。
- ▶ 悪性腫瘍：小児がん拠点病院として多数例の固形腫瘍手術を行なっている。4名の小児がん認定外科医を中心に、血液・腫瘍科、放射線科とチームを組んで最善の治療を提供出来るように心掛けている。隣接する神戸陽子線センターが設置され、難治性の紹介症例が増加した。

- ▶ 機能再建手術：鎖肛やヒルシュスプルング病及び類縁疾患などの排便機能再建の治療にも積極的に取り組んでいる。

2. 新生児外科

- ▶ 総合周産母子センターの一翼を担い、出生前からの治療に積極的に参画している。
- ▶ 5名の新生児認定外科医を中心に、新生児期に必要な外科治療については常に万全の態勢で対応できる様にしている。

3. 救急医療

- ▶ 小児救命救急センターの一員として重要な役割を担い、要請には100%対応出来るようにしている。
- ▶ 外傷を含めた小児の救急疾患に対して救急診療科、集中治療科と連携しいつでも対応できる態勢を取っている。

4. 日帰り手術

- ▶ 鼠径ヘルニアをはじめとする短時間の手術は麻酔科の協力の元、出来る限り日帰り（入院）手術を推進している。

5. 障がい児に対する外科治療

- ▶ 障がい児に対する外科治療を積極的に進め、県内の療育施設と連携を取りながら外科治療の部分を担当している。

6. 内視鏡外科手術の推進

- ▶ 身体に対する負担が少なく、キズの小さな低侵襲手術に積極的に取り組んでいる。2名の内視鏡外科技術認定医を中心に病態にあわせた最も良い治療を選択できるように考えている。鼠径ヘルニアの内視鏡手術（LPEC）も積極的に導入した。

【教育活動】

神戸大学5年生、6年生の臨床実習を受け入れた。熊本大学5年生、6年生、東北大学5年、6年生の臨床実習も受け入れた。

また、兵庫県立病院群からの臨床研修、および神戸大学病院関連施設からの臨床研修も多数受け入れた。今年度は海外からの臨床研修医としてフィリピン総合病院より1名を受け入れた。

日本小児外科学会、太平洋小児外科学会、ASEAN小児外科学会、国際小児外科リサーチシンポジウム（ISPSR）、日本外科学会、日本臨床外科医学会、日本周産期・新生児医学会、日本小児血液・がん学会、日本内視鏡外科学会、日本気管食道科学会、日本小児外科漢方研究会、日本小児呼吸器外科研究会などの学術集会で演題を発表した。発表論文は邦文8編、英文10編であった。

手術症例:1143 例(入院手術 935 例+日帰り手術 208 例)

頭頸部	頸部リンパ管腫 (硬化療法を含む)	0		イレウス解除術	29
	頸部嚢胞摘出術	1		腸間膜嚢胞摘出術	1
	甲状舌管嚢胞摘出術	6		腸管重複症手術	3
	梨状窩瘻手術	3		Hirschsprung 病 / 類縁疾患	
	喉頭気管食道裂手術	6		腹腔鏡補助下手術	1
気道				径肛門の根治術	3
	声帯外方固定術	0		開腹根治術	0
	声門下腔狭窄症手術			直腸生検	1
	喉頭気管形成術	6		人工肛門造設 / 閉鎖術	28
	PCTR	0		腸瘻造設術 / 閉鎖術	19
	バルーン拡張	0		消化管穿孔手術	9
	レーザー焼灼	1		内ヘルニア手術	1
	その他	3		腹腔鏡下虫垂切除術	28
	先天性気管狭窄症手術			消化管ポリープ切除術	9
	スライド気管形成術	15	直腸肛門	膵腸瘻手術	1
	バルーン拡張	2		直腸肛門奇形	
	レーザー焼灼	6		PSARP	3
	その他の形成術	2		腹会陰式	3
	気管軟化症手術	0		肛門形成術	6
	大動脈胸骨固定術	2		人工肛門造設術	10
	腕頭動脈離断術	2		人工肛門閉鎖術	7
	血管輪手術	1		痔瘻根治術	1
	喉頭嚢胞、腫瘍摘出術	1		肛門粘膜形成術	3
	喉頭気管分離術	5		直腸脱手術	1
	気管切開術	23		肛門括約筋形成術	3
	気管切開閉鎖術	6		直腸脱手術 (腹腔鏡)	1
	その他の形成術	2		摘便	11
肺			肝胆膵		
	肺部分切除	1		先天性胆道拡張症手術	
	肺葉切除	10		開腹	3
	肺区域切除	1		腹腔鏡下	1
	胸腔鏡下肺切除術	0		胆嚢瘻造設術	1
	胸腔鏡下剥皮術	0		胆道閉鎖症手術	6
胸壁・縦隔				胆嚢摘出術	4
	漏斗胸手術			門脈圧亢進症手術 REX シヤント術	2
	Nuss 手術	3		肝部分切除	1
	バー抜去	2		脾臓摘出術 (腹腔鏡下)	2
	その他の形成術	1		大網切除	2
	胸骨裂手術	1	腹壁		
	縦隔腫瘍摘出術	6		臍帯ヘルニア手術	0
	乳糜胸手術	5		腹壁破裂手術	0
	膿胸手術	1		鼠径ヘルニア関連手術	
横隔膜				鼠径法	185
	先天性横隔膜ヘルニア手術	7		腹腔鏡下	58
食道	胸腔鏡下横隔膜縫縮術	1		臍ヘルニア手術	37
	先天性食道閉鎖症手術		泌尿・生殖器	腹壁ヘルニア手術	2
	一期的根治術	5		尿管管遺残症手術	1
	気管食道瘻閉鎖+胃瘻	4		卵巣核出手術	6
	食道吻合	0		その他の手術	3
	食道延長術	0	腫瘍		
	その他	1		神経芽腫	6
	先天性食道狭窄症手術	0		肝芽腫	4
胃				腎芽腫	1
	胃瘻造設術			胚細胞腫瘍	2
	開腹	8		肉腫	2
	腹腔鏡下	3		その他の腫瘍	9
	噴門形成術		処置・検査		
	開腹	5		中心静脈カテーテル留置	115
	腹腔鏡下	3		中心静脈カテーテル抜去	87
	肥厚性幽門狭窄症手術	6		テンコフカテーテル留置 / 抜去	4
	胃固定術	0		V-P シヤント	3
十二指腸				ドレナージ手術	6
	先天性十二指腸閉鎖症手術	1		気管支鏡検査	174
	開腹止血術	1		消化管内視鏡検査	64
小腸・大腸				バルーン拡張術	12
	腸回転異常症手術	2		異物摘出	
	小腸閉鎖症手術	6		気道	2
	観血的腸重積症整復術	3		消化管	6
	メッケル憩室切除術	4		その他	33

新生児外科症例 (56 例)

病名	治療
CPAM	左肺上葉切除術
嚢胞性肺疾患	経過観察
嚢胞性肺疾患	経過観察
嚢胞性肺疾患	経過観察
嚢胞性肺疾患	経過観察
胸腔内異物	腹腔鏡下異物除去
乳糜胸、先天性食道閉鎖術後	乳び胸手術
気管軟化症、先天性食道閉鎖症術後	重複最動脈弓離断術
左梨状窩嚢胞	梨状窩嚢胞手術
縦隔奇形腫	縦隔腫瘍摘出術
縦隔奇形腫後出血	止血術
RDS、先天性肺葉性気腫	右肺切除術、左肺腔ドレナージ
先天性 C 型食道閉鎖症	先天性食道閉鎖症根治術
先天性 C 型食道閉鎖症	TEF 離断、胃瘻造設術
先天性 C 型食道閉鎖症	TEF 離断、胃瘻造設術
先天性 C 型食道閉鎖症	TEF 離断、胃瘻造設術
先天性 C 型食道閉鎖症、18 トリソミー	先天性食道閉鎖症根治術
先天性横隔膜ヘルニア	先天性横隔膜ヘルニア根治術 (胸腔鏡下)
先天性横隔膜ヘルニア	横隔膜ヘルニア根治術 (経胸、経腹)
先天性横隔膜ヘルニア	横隔膜ヘルニア根治術 (経腹)
先天性横隔膜ヘルニア	横隔膜ヘルニア根治術 (経腹)
先天性気管狭窄症	気管前方切開、硬性気管支鏡検査
先天性気管狭窄症、DORV、CoA、PASling	硬性気管支鏡検査、PA banding
先天性気管狭窄症、TAPVC、PDA、ASD、PASling	硬性気管支鏡検査
先天性中枢性低換気症候群	気管切開術
幽門狭窄症	上部消化管内視鏡検査、ED チューブ挿入
肥厚性幽門狭窄症	Ramstegt 手術
肥厚性幽門狭窄症	Ramstegt 手術
先天性十二指腸閉鎖症、鎖肛	ダイヤモンド吻合術、カットバック手術
腸回転異常症、中腸軸捻転、先天性横隔膜ヘルニア術後	Ladd 手術、イレウス解除術
先天性小腸閉鎖症	先天性小腸閉鎖症手術
先天性小腸閉鎖症	先天性小腸閉鎖症手術、回腸部分切除
先天性小腸閉鎖症	先天性小腸閉鎖症手術
先天性小腸閉鎖症	先天性小腸閉鎖症手術、空腸部分切除
先天性小腸閉鎖症、多発回腸閉鎖	先天性小腸閉鎖症手術、回腸部分切除
先天性小腸閉鎖症、多発空腸閉鎖	先天性小腸閉鎖症手術、空腸部分切除
胎便性腹膜炎	回腸瘻造設術、腹腔ドレナージ
新生児壊死性腸炎	人工肛門造設術
新生児壊死性腸炎	サイロ造設
新生児壊死性腸炎	ドレーン挿入
新生児壊死性腸炎	壊死腸管切除術
新生児壊死性腸炎	サイロ造設
新生児壊死性腸炎	壊死腸管切除術、腸瘻造設
消化管穿孔 (FIP)	回腸瘻造設術
消化管穿孔 (FIP)	回腸瘻造設術
胆道閉鎖症	葛西手術
肝分葉捻転、胆嚢捻転	肝部分切除、胆嚢切除術
低位鎖肛	肛門形成術
低位鎖肛	肛門形成術
低位鎖肛	肛門形成術
中間位鎖肛	人工肛門造設術
中間位鎖肛	人工肛門造設術
高位鎖肛	人工肛門造設術
総排泄腔遺残症	人工肛門造設
卵巣嚢腫	エコーガイド下穿刺

14. 心臓血管外科

【スタッフ紹介】

部長 大嶋 義博（昭和 57 年神戸大卒）、
神戸大学医学研究科医科学専攻外科系講座客員教授、
心臓血管外科専門医、同 修練指導者

部長 松久 弘典（平成 11 年神戸大卒）心臓血管外科専門医、同 修練指導者

部長 日隈 智憲（平成 12 年神戸大卒）心臓血管外科専門医

フェロー 松島 峻介（平成 20 年大阪大卒）心臓血管外科専門医

専攻医（心臓血管外科修練医） 長谷川 翔大（平成 26 年大分大卒）日本外科学会専門医
心臓血管外科修練医

和田 侑星（平成 26 年富山大卒）日本外科学会専門医
心臓血管外科修練医

【診療体制】

外来：月、水、金の午後 2 診

手術：月～金。

心臓センター開設後、外科・内科のより緊密な連携に加え、加古川中央市民病院、姫路赤十字病院や神戸大学との地域連携、救急医療の強化も含め、新たな体制づくりが進んでいる。新病院移転後は、術前・術後管理を集中治療医に委ねるようになり、心臓外科医、循環器医の業務内容が大きく変化している。人事では、2019 年 4 月から松島峻介医師がドイツ留学を終え、フェローとして復帰、また長谷川翔大医師が姫路循環器病センターより、和田侑星医師が、JCHO 中京病院より異動した。

症例数は、総数で 260 例（前年度 264 例）とほぼ横這いで、体外循環を用いた手術は 158 例（新生児 20 例）、体外循環非使用の心臓手術は 50 例（新生児 30 例）、その他 52 例で、新生児症例が増えた。術後 30 日未満の手術死亡 2 例は、両側の広範囲な肺気腫を合併した未熟児 PDA 例と右室依存型冠動脈瘻を合併した純型肺動脈閉鎖の体肺動脈短絡術症例であった。毎朝の CICU カンファレンス、麻酔科との術前カンファレンス、毎週月曜朝の術前検討会、夕方の循環器カンファレンス、金曜の術後検討会に加え、循環器科および複数科との audit meeting も定期的に行っている。また、ICT を中心とした SSI サーベイランス活動に加え、縦隔炎合併時に症例検討を含む対策会議を行っている。心臓センターとして、定期的に看護部を対象とした勉強会も開催している。

学会活動：Spring 8 における他施設共同研究では、科研費を取得、全国学会や海外発表に続き複数の英文掲載など成果を上げている。その他、英文、邦文論文が掲載あるいは投稿中で、海外学会、胸部外科学会、心臓血管外科学会、小児循環器学会、その他、多数の学会、研究会にて発表した。

術式 (疾患)	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA															
CoA (simple)				3	0	0							3	0	0
+VSD	4	0	0	3	0	0							7	0	0
+DORV															
+AVSD															
+TGA															
+SV															
+others				2									2	0	0
IAA (sinmple)				2	0	0							2	0	0
+VSD															
+DORV															
+Truncus	1	0	0										1	0	0
+TGA															
+SV															
+others															
Vascular ring				8	0	0							8	0	0
PS				2	0	0							2	0	0
PPA or critical PS				1	1	1	1	0	0				2	1	1
TAPVR	5	0	0	3	0	0							8	0	0
asplenia															
PAPVR ± ASD							1	0	0				1	0	0
ASD				2	0	0	16	0	0				18	0	0
Cor triatriatum				1	0	0	1	0	0				2	0	0
AVSD (partial)				1	0	0							1	0	0
AVSD (complete)				4	0	0	1	0	0				5	0	0
+TF or DORV															
+others															
VSD (I)							4	0	0				4	0	0
VSD (II or IV)				19	0	0	2	0	0				21	0	0
VSD (III)															
VSD + PS															
DCRV ± VSD															
Aneurysm of sinus Valsalva							2	0	0				2	0	0
TF				6	0	0							6	0	0
(SP shunt)															
PA + VSD (Rastelli)							1	0	0				1	0	0
(SP shunt)				1	0	0							1	0	0
(UF ± shunt)				3	0	0							3	0	0
DORV															
TGA (simple)	5	0	0										5	0	0
+ VSD	1	0	0										1	0	0
+ VSD + PS															
corrected TGA							1	0	0				1	0	0
Truncus arteriosus	1	0	0	1	0	0							2	0	0
SV (SP shunt)	1	0	0	3	0	0							4	0	0
(BDG)				8	0	0	1	0	0				9	0	0
(Fontan)							5	0	0				5	0	0
TA (SPshunt)															
(BDG)				1	0	0							1	0	0
(Fontan)							1	0	0				1	0	0
HLHS (Norwood)				2	0	0							2	0	0
(BDG)				2	0	0							2	0	0
(Fontan)							2	0	0				2	0	0
Aortic valve lesion (形成)															
(弁置換)							1	0	0				1	0	0
SAS							1	0	0				1	0	0
supraAS															
Mitralvalvelesion (MR 形成)															
(MR 弁置換)							1	0	0				1	0	0
(MS 形成)															
(MS 弁置換)															
Ebstein	1	0	0										1	0	0
Coronary disease	1	0	0										1	0	0
その他							1	0	0				1	0	0
再手術															
VSD 再開鎖															
PS 解除				2	0	0	1	0	0				3	0	0
RV-PA 導管再置換				2	0	0							2	0	0
(PVR を伴う)							4	0	0	2	0	0	6	0	0
その他				2	0	0	4	0	0				6	0	0
総数	20	0	0	84	1	1	52	0	0	2	0	0	158	1	1

術式 (疾患)	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA	15	0	1	3	0	0							18	0	1
CoA (simple)	2	0	0				1	0	0				3	0	0
+VSD	3	0	0										3	0	0
+DORV															
+AVSD															
+TGA															
+SV	1	0	0										1	0	0
+others															
IAA (simple)															
+VSD	1	0	0										1	0	0
+DORV															
Vascular ring	1	0	0	1	0	0	3	0	0				5	0	0
AVSD (complete)				1	0	0							1	0	0
+TF or DORV															
+others															
VSD (I)															
VSD (II or IV)				7	0	0							7	0	0
VSD (III)															
DORV	2	0	0	1	0	0							3	0	0
TGA (simple)				1	0	0							1	0	0
+VSD															
+VSD+PS															
SV (SPshunt)															
(PAB)	1	0	0										1	0	0
TA (SPshunt)	1	0	0										1	0	0
(BDG)															
(Fontan)															
HLHS (bil.PAB)	1	0	0										1	0	0
(SPshunt追加)															
Ebstein															
Coronarydisease															
その他	2	0	0	2	0	0							4	0	0
総数	30	0	1	16	0	0	4	0	0				50	0	1

	症例数	死亡	在院死亡
皮下膿瘍、デブリードメント	5	0	0
ペースメーカー植え込み	3	0	0
ペースメーカー電池交換	9	0	0
心嚢ドレナージ	7	0	0
胸腔ドレナージ	1	0	0
ECMO装着 (ショック)	4	1	1 PPA 症例
ECMO装着 (気管形成術等)	5	0	0
横隔膜縫縮	3	0	0
気管腕頭動脈瘻	2	0	0
縦隔炎手術	3	0	0
大動脈 / 肺動脈吊上げ	4	0	0
気胸手術	0	0	0
血腫除去	4	0	0
その他	2	0	0
総計	52	1	1

15. 脳神経外科

当科では2017年11月から日本こども病院神経外科医会事務局を置くこととなり、全国の小児医療施設、あるいはこれに準ずる施設に現在在籍している、または過去に在籍経験のある脳神経外科医間の円滑な情報交換を担う基幹施設となった。また2019年4月10日に第114回近畿脳腫瘍病理検討会を主管することとなった。

2019年度の脳神経外科スタッフは、河村淳史（小児がん医療センター次長 診療科長兼任）、小山淳二（部長）、阿久津宣行（医長）の指導医、神戸大学医学部脳神経外科教室ローテーション医師と診療に従事した。脳神経外科専門医研修の一環として、2018年10月1日—2019年1月31日に勝部 毅先生、2019年2月1日—5月31日に池内佑介先生、2019年6月1日—2019年9月30日に山西俊介先生、2019年10月1日—2020年1月31日に庄瀬裕康先生が専攻医として着任した。

診療活動では2016年5月の病院移転に伴い、兵庫県下のみならず他府県からの紹介及びセカンドオピニオン例も増加、外来患者数、手術件数も安定している。当施設脳神経外科の特色は、複数科との緊密な連携によるチーム医療であり、特に小児がん拠点病院として血液腫瘍内科・放射線科・臨床病理部と、隣接した神戸陽子線センター放射線治療科との連携で、集学的治療を必要とする小児脳脊髄腫瘍の治療をはじめ、整形外科・泌尿器科・育児内科との密な連携が必要な二分脊椎例やキアリ奇形、水頭症、側弯例の治療・外来管理、また救急・集中治療科をはじめ多数の関連科との協力が必要な頭部外傷・多発外傷症例を主とした救命救急診療などを中心に継ぎ目のない積極的な診療に取り組んでいる。

特に小児脳・脊髄腫瘍に関しては小児がん拠点病院として患児・家族に対して全人的医療を実施するために必要な部署と連携して治療チームを編成し、入院・外来で安心して頂けるよう診療に従事している。更に外来では、青年期AYA世代に至るまで長期の追跡・病態・生活評価・支援も行っている。

また広く普及し始めた毎週月曜日の『頭の形外来』では、ヘルメットによる矯正の適応、また外科的治療の適応症例を対象に治療を行っている。

現在、注目されている陽子線治療は、小児脳・脊髄腫瘍に対する放射線治療として晩期合併症を軽減できると期待されている新しい放射線治療法で、今年度は29例を照射した。隣接する神戸陽子線センターで小児専用の照射室で照射を行うが、当院1階の渡り廊下で往来できるため当施設に入院しながら治療が可能である。隔離された小児専用の照射室、診察室を備えており、当院に入院し化学療法を受けながら、また常駐小児麻酔科による毎日の鎮静による、照射治療も可能となっている。2019年度後期からは従来のブロード照射に加えて、詳細な照射の調整が可能で、全脳全脊髄照射に有利なスキャン照射が可能となった。

各症例においては地域小児医療各方面と密な連絡・連携を保ちながら、成人した時点でのQOLの向上を目指しており、神経奇形、頭部外傷、脳腫瘍を中心に国際的な水準を維持する手術・治療成績を積み重ねていく所存である。

脳神経外科手術ナビゲーションなど、最新手術機器導入により困難な手術を支える施設面も充実した。今後も24時間365日、あらゆる小児の脳神経外科手術に対応するという体制を維持している。

その他の活動

- (1) カンファレンス；毎週水曜日 腫瘍治療検討会、月1回 二分脊椎カンファレンス、
随時 頭部外傷カンファレンス、陽子線治療検討会

- (2) 学会参加；日本小児神経外科学会、脳神経外科学会学術総会、日本脳神経外科コンgres、日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、日本二分脊椎研究会、日本こども病院神経外科医会、日本脳卒中学会学術総会、日本脳腫瘍学会、小児血液・がん学会学術集会、日本脳腫瘍病理学会、日本神経内視鏡学会、日本粒子線臨床研究会、日本神経外傷学会などへの参加

脳神経外科的手術の総数

件数

脳神経外科的手術の総数			その他		0
1	脳腫瘍		4	奇形	
	摘出術	21		頭蓋・脳	8
	開頭生検術	3		脊髄・脊椎	36
	定位的生検術	4	5	水頭症	
	経蝶形骨洞手術	0		脳室シャント術	19
2	脳血管障害			内視鏡手術	11
	バイパス手術	5	6	脊髄・脊椎	
	破裂動脈瘤	1		腫瘍	4
	開頭血腫除去術	2		脊髄空洞症	0
	脳血管奇形手術	2		その他	0
3	外傷		7	その他	29
	急性硬膜外血腫	2	8	血管内手術	1
	急性硬膜下血腫	2	9	定位放射線治療	0
	減圧開頭術	0	10	陽子線治療	29
	慢性硬膜下血腫	2			181

日本脳神経外科学会の分類に準ずる

脳神経外科 専攻医指導記録

専攻医

勝部 毅

研修期間

2018/01/01-01/31

指導医

河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	助手
脳腫瘍摘出術		3
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		
開頭脳内血腫		1
バイパス手術		1
急性硬膜外血腫		
急性硬膜下血腫		
慢性硬膜下血腫・水腫		
頭蓋・脳奇形		
脊椎・脊髄奇形		2
水頭症脳室シャント		1
神経内視鏡手術		1
脊髄・脊髄腫瘍		1
脊髄空洞症		
その他		3
血管内手術		
計		13
合計		13

専攻医

池内佑介

研修期間

2019/02/01-05/31

指導医

河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	助手
脳腫瘍摘出術		10
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		2
開頭脳内血腫	1	
バイパス手術		1
急性硬膜外血腫		
急性硬膜下血腫		
慢性硬膜下血腫・水腫		
頭蓋・脳奇形		1
脊椎・脊髄奇形	1	15
水頭症脳室シャント		1
神経内視鏡手術		4
脊髄・脊髄腫瘍		1

脊髄空洞症		
その他	2	9
血管内手術		
計	4	44
合計		48

専攻医 山西 俊介
 研修期間 2019/06/01-09/30
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	助手
脳腫瘍摘出術		9
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		
開頭脳内血腫		
バイパス手術		3
急性硬膜外血腫		1
急性硬膜下血腫		2
慢性硬膜下血腫・水腫		2
頭蓋・脳奇形		3
脊椎・脊髄奇形	3	8
水頭症脳室シャント		11
神経内視鏡手術		4
脊椎・脊髄腫瘍		
脊髄空洞症		
その他		8
血管内手術		1
計	3	52
合計		55

専攻医 庄瀬 裕康
 研修期間 2019/10/01-12/31
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	助手
脳腫瘍摘出術		6
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1
開頭脳内血腫		1
バイパス手術		
急性硬膜外血腫		1
急性硬膜下血腫		
慢性硬膜下血腫・水腫		
頭蓋・脳奇形		3
脊椎・脊髄奇形		8
水頭症脳室シャント		6
神経内視鏡手術		2
脊椎・脊髄腫瘍		1
脊髄空洞症		
その他		7
血管内手術		
計		36
合計		36

16. 形成外科

2019年は4月よりフェローとして小林史明医師を迎え、以前と同様の3人体制により診療を継続している。唇顎口蓋裂関連の新患患者数は全出生数と院内紹介症例の減少により漸減傾向にある。近隣他施設での治療体制整備にも影響されていると考える。当科の手術症例の内訳としては以前より継続的に取り組んでいる先天性眼瞼下垂に加え、唇裂・口蓋裂の二次修正に関しても新たな術式を習得し治療方針の多様性を確保し、多くの患者のニーズに応える努力を継続している。

年間の患者数及び手術件数 2019年1月1日～12月31日

手術内容区分

形成外科新患者数	378名	†
形成外科入院患者数	238名（延べ人数ではない）	

形成外科手術件数

入院手術	全身麻酔	254件（合計256件）
	腰麻・伝達麻酔	0件
	局所麻酔・その他*	2件
外来手術	全身麻酔	123件（合計364件）
	腰麻・伝達麻酔	0件
	局所麻酔・その他*	241件 *その他には無麻酔や分類不明を入れる

区 分	件 数						計
	入 院 手 術			外 来 手 術			
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
I. 外傷	12						12
II. 先天異常	179			54		3	236
III. 腫瘍	51			34		1	86
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	7					3	10
V. 難治性潰瘍	2						2
VI. 炎症・変性疾患							0
VII. 美容（手術）							0
VIII. その他							0
Extra. レーザー治療	3		2	35		234	274
大分類計	254	0	2	123	0	241	620

17. 整形外科

2019年度の整形外科は加藤達雄医師が転出し、新たに劉正夫医師が赴任した。これにより、薩摩眞一（部長）、小林大介（リハビリテーション部長と兼任）、坂田亮介（医長）、衣笠真紀（医長）、河本和泉（医長）に劉医師（専攻医）を加えた6人体制にて診療を行った。

従来より、股関節、足部疾患を中心に、兵庫県内のみならず他府県よりの紹介患児を幅広く受け入れ、多彩な小児整形外科疾患の診療を行ってきた。外来診療として月曜日午後、火曜日終日、水曜日午前、金曜日午前の外来を稼働し、増加する外来患児の診療にあたっている。また、他院では手術が困難な全身状態を含めたハイリスク患児の手術も、集中治療部や麻酔科、外科、循環器内科などの関係各科との連携に支えられ、多数行なっている。これまで小児先天疾患、慢性疾患などの疾患群の治療を中心に行ってきたが、新病院への移転以来、増加し続ける救急外傷診療に対応すべく救急診療部や麻酔科を含めた関連各科との連携を深め、チーム医療を推進している。

これらの診療経験及び実績を蓄積し、専攻医を含めた後進の指導を行なう一方で、日本小児整形外科学会を中心とした学術研究を推進している。さらに、北米やアジア各国からの短期研修の受け入れなど国際的な交流や医学貢献を進めている。そして、次年度からは足の外科学会専門医研修施設としての認定を受け、小児足の外科治療の教育施設として、一層強力な診療体制を求めていく。

本年度の手術実績は、下記の通り364件であった。今後も手術、救急症例の増加が予想されるため、スタッフの教育、確保を含めた診療体制のさらなる整備が今後の課題となっていく。県内、近隣の小児整形外科患児のため今後も様々な面でのレベルアップを目指していく所存である。

2019年整形外科手術・検査内容区分

		病名	術式	手術数	小計
体幹		側弯症	矯正術	9	19
		斜頸	切腱術	6	
		側弯症	その他（ロッド切除、除圧など）	1	
		脊椎疾患（側弯を除く）	頸椎固定術など	3	
股関節	先天性股関節脱臼など （麻痺性除く）		観血的整復術	2	16
			大腿骨骨切り術	0	
			白蓋形成術（ソルター骨盤骨切り術以外）	1	
			ソルター骨盤骨切り術	1	
	ペルテス病	大腿骨骨きり術	4		
	大腿骨頭すべり		ピン入れ替え	0	
			ピンニング	4	
	麻痺性股関節脱臼など、 先天性股関節脱臼以外の疾患	大腿骨骨切り 骨盤骨切り術など（大腿骨切り合併含む）	1 3		
膝関節	膝関節脱臼、膝蓋骨脱臼	観血整復	3	4	
	関節炎、円板状半月板など	鏡視下手術など	1		
足部	先天性内反足		アキレス腱皮下切腱術（Ponseti）	23	55
			軟部組織解離術 腱移行術 エバンス手術など	19	
	麻痺性変形（症候性）		足根骨骨切り（トリプル骨切り術など）	3	
			軟部組織解離術 腱移行術など	6	
			それ以外の変形矯正（創外固定、骨切り術含む）	0	
	垂直距骨	変形矯正術など	2		
	下腿内捻	下腿回旋骨切り	1		
尖足	アキレス腱延長	1			
下肢	脚長差変形など		脚延長，変形矯正（創外固定使用）	9	39
			成長抑止術（8プレート）	10	
			変形矯正（創外固定使用以外）	1	
			ボトックス注射	17	
	足根骨癒合症	癒合部切除	0		
外脛骨	摘出など	0			
下肢変形	矯正、切断など	2			
上肢	橈骨頭脱臼	観血的整復術	0	2	
	上肢短縮	上肢骨延長術（上腕、前腕）	1		
	内反肘	矯正骨切り術	1		
外傷	上肢骨の骨折脱臼（顆上、外顆など）	整復固定術	44	71	
	下肢骨折	整復固定	18		
	骨折後偽関節	骨接合術など	3		
	骨折など	鋼線牽引	5		
炎症・腫瘍	腱断裂，外傷	腱縫合など	1	24	
	化膿性関節炎 脊椎炎	病巣搔爬、洗浄 穿刺	4		
	腫瘍 骨髄炎，LCH， 病態不明など	生検術 病巣搔爬	10		
手指・足趾	多・合指（趾）症		骨	8	23
			軟部	2	
	手指（足趾含む）変形	余剰指（趾）切除 指（趾）間形成	8 10		
その他	手指（足趾含む）変形	矯正、骨切り術など	5	87	
	癭痕拘縮 先天性拘縮	形成術	1		
	剛直母指	腱鞘切開	7		
				79	

総数

年間手術件数		340	340
--------	--	-----	-----

検査

部位	方法		
股関節	アルトロ	11	24
股関節（先天性股関節脱臼）	牽引後、整復ギブス	11	
その他	アルトロ	2	
		24	

18. リハビリテーション科

リハビリテーション科が開設されてから4年目に突入した。2019年度は組織図の改革がありリハビリテーション科がリハビリテーション部に昇格となりリハビリテーション部長として前田副院長が就任した。また細川理学療法士がリハビリテーション課長に就任した。

リハ処方はずっと増え続け特に集中治療科、血液腫瘍科からの依頼が増大している。

我々としてはこれらの要求にこたえるべく引き続き増員を要求していきたい。

スタッフ

医師のスタッフとして前田 小林、セラピストのスタッフとして理学療法士3名、作業療法士1名、言語聴覚士5名（非常勤1名含む）の体制で行っている。

医師（リハビリテーション科部長）	1
理学療法士	3
作業療法士	1
言語聴覚士（非常勤含む）	5
計	9

平成 31（令和元年）年度 施設基準別患者数および単位数（平成 31 年 1 月～令和元年 12 月）

1. 理学療法

	施設基準	患者数	単位数
入院	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	1,393	1,900
	運動器疾患リハ料(Ⅰ)	845	1,269
	呼吸器疾患リハ料(Ⅰ)	1,119	1,439
	障害児リハ料6歳未満	506	766
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	153	229
	障害児リハ料18歳以上	9	17
	廃用症候群リハ料	85	125
	がんリハ料	690	1,049
外来	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	5	11
	運動器疾患リハ料(Ⅰ)	128	192
	呼吸器疾患リハ料(Ⅰ)	5	10
	障害児リハ料6歳未満	253	533
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	26	53
	障害児リハ料18歳以上	1	1
計		5,218	7,594

	件数	保険点数
早期離床リハビリテーション加算(4月～12月)	2,912	1,456,000

2. 作業療法

	施設基準	患者数	単位数
入院	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	1,004	1,637
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	36	71
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0
	障害児リハ料6歳未満	150	303
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	64	134
	障害児リハ料18歳以上	0	0
	廃用症候群リハ料	55	84
	がんリハ料	645	917
外来	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	1	3
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	33	87
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0
	障害児リハ料6歳未満	160	334
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	1	3
	障害児リハ料18歳以上	1	2
計		2,150	3,575

3. 言語聴覚療法

	施設基準	患者数	単位数
入院	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	1,366	1,943
	障害児リハ料6歳未満	288	382
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	38	62
	障害児リハ料18歳以上	0	0
	廃用症候群リハ料	22	40
	がんリハ料	344	493
	摂食機能療法	414	
外来	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	488	937
	障害児リハ料6歳未満	95	161
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	1	2
	障害児リハ料18歳以上	0	0
	摂食機能療法	0	
計		2,624	4,020

検査名	実施件数
音声医学的検査	43
発達及び知能検査	87
計	130

4. 言語聴覚士耳鼻咽喉頭科関連業務件数

検査項目	件数
標準純音聴力検査	1126
標準語音聴力検査	88
気道純音聴力検査	21
遊戯聴力検査	2182
補聴器適合検査 1回目	38
補聴器適合検査 2回目以降	414
発達及び知能検査（容易なもの）	32
計	3,901

診療科別リハビリテーション科処方数

診療科	入院			外来		
	PT	OT	ST	PT	OT	ST
アレルギー科	4	0	1	0	0	0
循環器内科	5	1	12	0	0	1
腎臓内科	3	0	1	0	0	0
神経内科	11	3	10	2	1	0
血液腫瘍内科	180	172	42	3	2	2
代謝・内分泌内科	0	0	0	0	0	0
新生児内科	86	59	81	20	7	11
心臓血管外科	0	0	6	0	0	0
脳神経外科	29	27	16	17	13	7
小児外科	27	0	31	9	0	10
整形外科	109	4	2	52	4	0
形成外科	2	0	3	0	1	21
精神科	0	0	0	0	0	19
リウマチ科	4	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	0	0	11	0	0	54
救急科総合診療科	79	6	29	21	6	13
集中治療科	305	10	165	0	0	3
泌尿器科	0	0	0	0	0	0
合計	844	282	410	124	34	136

19. 眼 科

今年度の眼科医師の異動は以下の通り。2月に別所佳世子専攻医が産休につき退職。3月末で柳沢翠芳医長が開業のため退職、4月上旬に中野由美子フェローが産休、育休のため離職。後任として4月に中村礼恵医長、松野裕樹専攻医が着任した。1名減の人員に対し、外来診察の応援として不定期ながら月曜日、木曜日の午前診に神戸大学から院生の派遣を受けた。また、水曜日には柳沢先生が自身の希望もあり診察にあたって貰った。

新規の取り組みとして、後天共同性内斜視 Acquired Comitant Esotropia/ACE に関する多施設研究への参加がある。近年、スマートフォンやタブレット端末など手持ちのデジタルデバイスの使用を契機に内斜視を発症する例が散見される。研究の主目的は ACE の発症年齢分布、頻度、関連する病態の内訳を明らかにすることである。内斜視になった原因がスマートフォンの見過ぎにあるかも知れないと分かって、今まで通り使わせることに同意する親はいない訳で、いわゆる要因対照研究 (factor-control study) は現実的ではない。したがって、症例のデータは前向きに追跡するものの、結果的にデジタルデバイスの使用を制限出来なかった (止められなかった) 例を抽出して対照研究を行う後向き調査ということになる。

2019 年 眼科 新患統計

病名	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	合計
		1～5ヶ月	6～11ヶ月	1～3歳	4～6歳	7～9歳	10～12歳	13歳以上	
屈折異常	2	56	74	429	256	152	100	43	1112
弱視	0	1	5	40	37	11	3	0	97
斜視及び疑い	0	39	59	299	136	96	62	26	717
未熟眼底	0	2	0	0	0	0	0	0	2
未熟児網膜症	0	2	0	10	4	2	4	0	22
眼瞼疾患	0	12	9	60	58	24	23	4	190
涙器疾患	0	4	7	16	0	0	1	2	30
結膜疾患	5	2	0	9	8	11	5	2	42
角膜・強膜疾患	2	7	0	13	7	10	5	7	51
ブドウ膜疾患	0	5	3	8	4	0	0	3	23
網膜・硝子体疾患	0	4	4	24	11	6	8	5	62
水晶体疾患	1	16	3	19	7	0	4	5	55
眼窩疾患	0	0	0	1	0	1	2	1	5
遺伝疾患	0	2	0	0	1	0	3	1	7
視神経・視路疾患	0	3	6	21	6	10	2	4	52
眼振	0	3	6	13	2	6	6	0	36
緑内障	2	3	2	14	1	10	5	2	39
外傷	0	0	0	1	2	2	2	2	9
症候群	0	6	3	7	8	2	3	2	31
心因性視力障害	0	0	0	0	1	15	4	1	21
腫瘍	2	9	3	1	0	0	0	0	15
その他	6	5	3	11	16	5	3	3	52
小計	20	181	187	996	565	363	245	113	2670

(2) 入院手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
斜視	0	0	16	15	56	55	38	40	220
内反症	0	0	0	7	24	20	12	3	66
眼瞼下垂	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼瞼・眼窩疾患	0	1	2	9	7	3	2	0	24
結膜疾患（腫瘍）	0	0	0	0	1	1	0	1	3
角膜疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0
網膜疾患（腫瘍）	0	2	0	0	1	0	0	0	3
硝子体	0	0	0	1	0	0	0	0	1
鼻涙管閉鎖及び異常	0	0	1	5	1	0	1	0	8
眼瞼形成	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緑内障	0	1	3	0	3	0	0	1	8
白内障	0	4	0	6	2	1	0	0	13
未熟児網膜症	0	6	0	2	0	0	0	0	8
眼球振盪症	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外傷・検査・その他	0	0	0	2	3	1	0	0	6
合計	0	14	22	47	98	81	53	45	360

(3) 日帰り手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
検査	0	0	3	3	6	12	11	0	35
抜糸	0	5	2	22	33	24	14	2	102
その他									0
合計									137

2019年 訓練及び検査人数（合計 1007名）

PAT（プリズム検査）	79名
視野検査（GP）	252名 496眼
視野検査（ハンフリー）	76名 149眼
PL検査・TAC	358名
OCT	220名
ヘス（眼球運動検査）	13名
色覚検査	9名
合計	1007名

実習生受け入れ状況（合計2名）

学校名	人数	期間	実習場所
大阪医療福祉専門学校	2名	2月20日～2月28日	外来及び手術室（見学）

20. 耳鼻咽喉科

1. 外来診療

常勤医 2 人体制となり、外来診療は月曜・木曜が天津、火曜・金曜は勝沼がそれぞれ終日担当している。週一回言語聴覚士・補聴器技能者ととも補聴器外来を行っている。

新患数は 917 名、延べ患者数は 5438 人であった。内訳としては、例年同様、難聴疑い、滲出性中耳炎、反復性中耳炎、扁桃・アデノイド肥大、言葉の遅れの精査依頼などが多い。新生児聴覚スクリーニング検査の普及（兵庫県での受検率は 2018 年 86%）に伴い、聴力精査の乳幼児の受診は相変わらず増加傾向にあり年間約 100 件の精査依頼がある。高度難聴のみならず軽中等度難聴児も早期発見されるようになり、乳児期からの補聴器装用開始児が増えてきている。早期からの聴覚支援学校や難聴児通園施設との連携がますます重要となってきた。一方補聴器が安定装用できるようになった年長の感音難聴児の聴覚管理について、地域の医療機関との役割分担が今後の課題である。

聴力図の電子カルテへの登録方法には現時点で適切なものは開発されていない。当院の様に聴力検査件数の多い施設では、過去の聴力検査結果の閲覧性をどう確保するかは耳鼻科外来診療の最大の課題である。

2. 手術・入院診療

2017 年 6 月から入院手術枠が偶数週に半日、日帰り手術枠は 1 週間に約 1 時間増えたことにより、入院手術は扁桃摘出術であれば月 10 件、日帰り手術は鼓膜チューブ挿入術であれば月 24 件程度可能となった。このため手術待機が特に日帰り手術ではほぼ 1 カ月以内に短縮された。手術症例数は入院と日帰り合計して 370 例であった。3 歳以下の重症睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出術・アデノイド切除術は周術期の呼吸管理が重要であり術後数日間挿管管理を要することも多い。麻酔科や術後管理に尽力していただいている集中治療科・総合診療科各医師と集中系病棟看護スタッフの多大の協力に支えられている。引き続き医療安全に十分配慮しつつ手術治療に取り組みたい。

学術活動としては日本耳鼻咽喉科学会総会、日本小児耳鼻咽喉科学会などで発表を行った。地域貢献としては、兵庫県新生児聴覚検査専門家会議の委員として会議に参加した。また神戸、姫路、こばと（西宮市）聴覚特別支援学校だけでなく、今年からは豊岡聴覚特別支援学校とも補聴器装用児の検討会を開始して、医療と教育の間の連携を図っている。

入院手術（併施含む）

扁桃摘出術	106
アデノイド切除術	111
鼓膜チューブ挿入術	60
鼓室形成術、乳突削開術	1
鼻・副鼻腔内視鏡手術	1
舌根嚢胞開放術	2
膿瘍切開排膿	4
鼻涙管チューブ挿入（眼科と共同）	9
その他	7
合計症例数（他科入院 27 名含）	181

日帰り手術（併施を含む）

鼓膜チューブ挿入術	169
鼓膜穿孔閉鎖術・鼓膜形成術	14
鼓膜肉芽切除術、鼓膜切開等	8
舌小帯形成術	1
舌腫瘤切除	1
異物摘出術	2
その他	4
合計症例数	189

3. 言語聴覚療法について

【人員】

言語聴覚士（以下、ST）は年間を通して4名体制で従事できた。（3月末までは正規職員3名、代替え1名、4月以降は正規職員4名）。

平成28年5月の移転に伴い、STの所属はリハビリテーション科となったが、耳鼻科診察日は予約状況に応じ1～3名が外来業務に従事した。

【主な業務】

耳鼻科外来では①聴力検査、②補聴器外来を行った。健診でことばの遅れが指摘された児についてはその場で医師がリハビリテーション科のST処方を出し、耳鼻科外来で対応した。

【業務詳細】

①聴力検査

一般病院では行うことの難しい聴性行動反応聴力検査や条件詮索反応聴力検査、遊戯聴力検査などを対象児に合わせて実施している。さまざまな検査の結果、補聴器適応となれば、補聴器外来での予約をとるよう勧めている。

②補聴器外来

週一度実施している。新生児聴覚スクリーニング検査の普及により、早期からの補聴器装着ケースが増えているのにくわえ、これまで補聴器装用を勧めてこなかった軽度の難聴や、一側難聴であっても学習面での困難さや学校生活での不自由さから補聴器を求めるケースが増え、患者は増加傾向にある。補聴器を装用すれば聞こえの問題がすべて解決されるわけではなく限界もあることなどを保護者や本人に説明し、効果判定を含めながら支援を行っている。補聴器外来では各人の予約時間を長めに設定し、慎重な評価、親への心理面を含めたサポート、難聴児通園施設や聴覚特別支援学校など適切な機関への橋渡しがタイミングよく行えるように心がけている。

表1【2019年聴力検査件数】

2019年1月－12月	件数
標準純音聴力検査	1126
標準語音聴力検査	88
気導純音聴力検査	21
遊戯聴力検査	2182
補聴器適合聴力検査1回目	38
補聴器適合聴力検査2回目以降	414
発達および知能検査	32
	3901

2019年新患

	症例数	院内	耳鼻科	小児科	産科	健診	聾学校	その他	なし
言語発達遅滞	85	21	38	12		13			1
構音障害	49	9	26	11		3			
耳介奇形・小耳症	12	4	1	5	2				
外耳道閉鎖・狭窄	15	4	4	4	3				
急性乳様突起炎	1	1							
副耳	3	1	1	1					
先天性耳ろう孔	11	3	5	2				1	
外耳道異物	2	1	1						
外耳道損傷	1		1						
外耳炎	6	3	2	1					
耳垢栓塞	25	16	6	1		2			
急性中耳炎	46	36	10						
反復性中耳炎	14	3	11						
滲出性中耳炎	226	43	163	13		7			
慢性中耳炎	4	1	2	1					
真珠腫性中耳炎	2		2						
癒着性中耳炎	1		1						
先天性難聴(疑い含む)	105	28	26	27	14	7	1	2	
ムンプス難聴(疑い含む)	3		3						
心因性難聴	28	1	27						
突発性難聴	5	1	4						
高音障害型難聴	3	1	1	1					
低音障害型難聴	2		2						
難聴	250	43	178	18	4	5		1	1
難聴(疑い含む)	139	65	44	12		17			1
後迷路性難聴	1	1							
内耳奇形	6	2	3		1				
中耳奇形	2		1	1					
聴覚過敏	6	2	2	1		1			
耳鳴	6	1	4	1					
めまい	15	6	5	4					
顔面神経麻痺・顔面痙攣・下口唇麻痺	6	3	1			2			
慢性鼻・副鼻腔炎	86	26	37	18				4	1
急性鼻・副鼻腔炎	26	16	8	2					
アレルギー性鼻炎	158	30	98	25		2		3	
鼻出血	11	11							
鼻咽腔閉鎖不全	3		3						
後鼻孔閉鎖・狭窄/鼻腔狭窄	1	1							
鼻腔腫瘍	1	1							
先天性鼻欠損症	1			1					
アデノイド肥大	277	56	168	47		3		3	
扁桃肥大	203	37	120	42		3		1	
扁桃炎	20	5	9	6					
睡眠時無呼吸症候群	193	44	106	39		3		1	
咽頭外傷/口腔内損傷	5	5							
舌腫	1			1					
口唇粘液のう胞	4		2	2					
舌小帯短縮症	6		2	3		1			
がま腫	1		1						
耳下腺炎・顎下腺炎	4	1	1	2					
頸部膿瘍/咽後膿瘍/扁桃周囲膿瘍	8	6		2					
咽喉頭炎/声門下喉頭炎/声門下浮腫等	25	23		2					
喉頭蓋のう胞	4	4							
咽・喉頭異物	10	10							
喉頭軟化症	42	32	1	8		1			
反回神経麻痺	29	29							
声帯ポリープ・喉頭肉芽	17	13	2	2					
嚥下障害	23	21	1	1					
正中顎のう胞/側顎のう胞/甲状舌嚢	1	1							
頸部腫瘍	8	6	2						
頸部リンパ節炎	10	5	5						
口蓋裂	16	11	4	1					
サイトメガロウイルス感染症	3	2	1						
PFAPA症候群	6	2	3	1					
感染症チェック	44	44							
健診	88	4	47	4	1	32			
新スク後精密検査	77	21	17	23	12	2		2	
その他の	3	1	1					1	
新患数(重複除く)	917								

21. 泌尿器科

2019年3月に大饗政嗣、大西篤史が退職し、4月に安食淳、山下遥介が入職したので、2019年度も引き続き5人体制（杉多、春名、波越、安食、山下）で診療を行った。

外来新規・再診患者数、入院患者数、手術件数は2018年と同程度であった。

尿路結石治療のための細径の硬性鏡・軟性鏡を入手したこと、原泌尿器科病院の井上貴昭先生のご協力により、小児尿路結石治療（特に尿管結石治療）を開始した。これからも小児尿路結石診療に積極的に取り組んでいきたい。

学術活動は、例年よりも盛んで、Japanese-Korean Society of Pediatric Urologists（滋賀）、RNフォーラム（岡山）、日本泌尿器内視鏡学会単孔式ワークショップ（静岡）、日本泌尿器科学会総会（名古屋）、日本小児外科学会（久留米）、泌尿器科再建再生研究会（横浜）、日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会（岡山）、日本小児泌尿器科学会総会（佐賀）、日本小児内分泌学会（京都）、日本泌尿器科学会中部総会（大阪）、日本泌尿器内視鏡学会総会（京都）において、当科の手術成績等を発表した。また、春名が日本小児泌尿器科学会の学会賞（症例報告部門）を受賞した。

2020年度も安全・安心で良質な医療を心がけるとともに、積極的に学術活動を行いたい。（杉多記）

2019年手術実績【入院/309 外来/151】

【尿路系】

VUR手術（開腹）	51
VUR（気膀胱）	3
デフラックス注入	5
尿管尿管吻合	2
膀胱尿管新吻合	3
膀胱自己拡大術	2
膀胱全摘	1
尿管形成	3
尿管カテーテル抜去	25
開腹腎盂形成	8
腹腔鏡下腎盂形成	2
腎摘出	1
腎生検	1
尿膜管摘除	1
腎瘻造設術	6
膀胱腔瘻閉鎖術	1
膀胱切石術	1
膀胱結石	3
傍尿道のう胞	10
膀胱鏡（ステント留置含む）	25
その他	5
合計	159

【性器系】

尿道下裂形成	62
外陰部腫瘍切除	1
陰茎形成	12
傍尿道のう胞	10
尿道下裂瘻孔閉鎖	18
精巣固定	119
精巣捻転	8
精巣摘除	3
腹腔鏡下精巣血管結紮（F-S1期目）	5
腹腔鏡下精巣固定術（F-S2期目）	3
陰嚢水腫根治術	29
ヘルニア手術	6
高位精巣摘除	1
内精静脈結紮	5
包茎手術	13
包皮形成術	13
その他	0
合計	308

22. 小児歯科

診療内容として、全身疾患を有する患児や心身障害児の齲蝕予防・治療を行うことが大きな柱となっていることに変化はない。特に院内において先天性の疾患を有する患児に対しては低年齢（乳前歯萌出時期、1歳ごろ）からの定期受診により歯科疾患予防を積極的に行っている。

また、周術期における口腔管理が保険に組み込まれ数年たち周知されたことにより、歯科衛生士による周術期口腔ケア介入症例さらには増加傾向にあり、毎週火曜日に、歯科衛生士による病棟ラウンドを行っている。

人事面においては、常勤歯科医師一名（曾根由美子）の体制ではあるが、非常勤歯科医師として田村あゆみ歯科医師が昨年に引き続き、毎週金曜日に外来診察を担当している。

新患内訳 (2018)		院内紹介	院外紹介		紹介なし	計
			歯科	医科		
小児歯科関連	口腔内検診希望	43	8	0	1	52
	齲蝕	8	49	0	0	57
	乳歯晚期残存	8	1	0	0	9
	先天性歯	0	0	0	0	0
	その他	4	2	0	0	6
矯正歯科関連	不正咬合	7	1	0	0	8
	術前顎矯正	3	0	0	0	3
口腔外科関連	外傷	11	3	0	0	14
	埋伏歯・過剰歯	1	15	0	0	16
周術期口腔機能管理		68	0	0	0	68
その他（小児歯科以外）		1	0	0	0	1
計		154	79	0	1	234

全身麻酔下処置	歯科単独	他科合同	計
入院手術	0	1	1
外来手術	30	0	30
計	30	1	31

23. 麻酔科

1. 2019年の人事異動

医師の異動としては、神戸大学からは松本医師、原田医師、濱場医師、中山医師が転入した。香川大学からは白石医師、山田医師を迎えた。大阪市大から内本医師を、兵庫医大から岡本医師を迎えた。集中治療科からの麻酔科研修として、伊藤医師、金子医師を迎えた。公募医師であった長谷川医師が2年余の研修を終えて名古屋市立大学へ戻った。他、短期研修として、当院小児科から宍戸医師、近藤医師を迎えた。

2019年12月の時点では香川、高辻、大西、池島、鹿原、上嶋、末田、廣瀬（休職中）、藤原、田中、小西、神頭（育休中）、坪井、松本、原田、濱場、中山、内本、岡本、山田、金子（集中治療科）が従事している。

2. 活動状況

年間の手術件数、麻酔件数は例年並みであり、少子化にもかかわらず手術件数は減少していない。1日当たり、小児入院手術5列、日帰り手術、アンギオ、産科手術、病棟麻酔、術前診察、PACU、術後回診、および麻酔科統括の業務を行っている。また慢性痛や緩和ケアへの対応も行っている。

本年は当院スタッフで執筆している教科書の改訂作業を行った。日々の麻酔業務を振り返り、新しい知見を加えて文書にすることで、日常診療のレベルアップにつながると考えている。

3. 展望

当院麻酔科の使命として、①患者様に安全・快適な麻酔を提供すること、②手術・麻酔を必要とする患者様をいつでも受け入れるような体制を維持していくこと、③若手麻酔科医に対する教育や、よりよい麻酔に向けての研究を継続して行い、安全・快適な小児麻酔を提供することができる医師を育成すること、の3点が重要であり、継続して取り組んでいきたい。

4. 麻酔科 診療統計

年間総麻酔件数は4607件です。

麻酔法の内訳としては全身麻酔(主に小児)が4488件、脊椎麻酔・硬膜外麻酔(産科)が115件、その他4件でした。

場所の内訳として、手術室内で行われた麻酔は3929件(アンギオ室、日帰り手術を含む)、手術室外で行われた麻酔は678件(うちMRI検査19件、病棟での麻酔635件)でした。

年齢の区分では、新生児症例(生後1ヵ月未満)が115件、乳児症例(生後1ヶ月以上1才未満)が619件と全体の16%を占めています。

診療統計

【総麻酔件数】(麻酔科管理症例数) 2019.1.1～12.31

4607件

【ASA PS】(米国麻酔学会による麻酔のリスク分類)

予定手術 1	2	3	4	5	合計
2258	1757	214	2	0	4231
緊急手術 1E	2E	3E	4E	5E	合計
130	162	77	7	0	376

【手術部位】

a.脳神経・脳血管	97	h.頭頸部・咽喉部	1177
b.胸腔・縦隔	88	k.胸壁・腹壁・会陰	727
c.心臓・血管	357	m.脊椎	54
d.胸腔+腹部	6	n.股関節・四肢(含：末梢神経)	408
e.上腹部内臓	131	p.検査	900
f.下腹部内臓	360	x.その他	170
g.帝王切開	132	合計	4607

【麻酔法による内訳】

A.全身麻酔（吸入）	1780
B.全身麻酔（TIVA）	2015
C.全身麻酔（吸入）+硬・脊、伝麻	153
D.全身麻酔（TIVA）+硬・脊、伝麻	540
E.脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	5
F.硬膜外麻酔	0
G.脊髄くも膜下麻酔	110
H.伝達麻酔	1
X.その他	3
合計	4607

【年齢別内訳】

	男性	女性	合計
A.～1ヶ月	65	50	115
B.～12ヶ月	336	283	619
C.～5歳	1156	719	1875
D.～18歳	1002	810	1812
E.～65歳	21	165	186
F.～85歳	0	0	0
G.86歳～	0	0	0
合計	2580	2027	4607

24. 新生児内科

1. 医師の異動

前年より引き続いて山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、が在任した。フェローとして勤務していた片岡大医師が4月より正規スタッフとして勤務を継続した。以前スタッフとして勤務していた岩谷壮太医師が米国留学から帰国し勤務再開した。黒田淳平医師は1年間の研修を終えて東京都立小児総合医療センターへ帰任した。ローテート専攻医（後期研修医）として、宍戸亜由美、池谷紀子、小林孝生、遠藤理沙、青木萌子、合田由香利、各医師が3か月ずつ研修をおこなった。当科の特徴として女性医師も活躍できる診療体制をめざしており、時短勤務、夜間宿直免除などライフワークバランスを保ちながら勤務を継続している。一方、総合周産期母子医療センターとしてNICU21床の24時間365日の診療業務とフェロー、専攻医の研修教育という当施設に課せられた使命を全うするにはスタッフの負担はやはり過剰と言わざるをえず、持続可能な診療・教育体制の確保が引き続き急務である。

2. 診療活動

新生児病棟の診療統計は別表の通りである。前年から当院産科の母体搬送制限により母体搬送後の院内出生が著明に減少したが本年度は時間内母体搬送応需率が回復しつつあり、超早産、超低出生体重児の入院数も増加した。また、心疾患、外科疾患、染色体異常など県内で発生する集学的管理を要する児については入院要請にはすべて応需できている。当院ドクターカーによる新生児搬送は移転後約2倍に増加した。搬送要請から契約運転手の到着に約30分を要しており迅速な出動体制の整備が必要である。

3. 研究学会活動

日常診療における疑問の解決、稀な疾患管理、治療法の工夫などを臨床研究として医療チーム全体で取り組んでいる。それらの結果は順次、国内外の多くの学会で発表、および論文化しており、当院での成果を世界に発信する努力を続けている。

2019 年新生児科統計

I. 新生児病棟統計

1) 月別入院数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
37	36	31	36	41	35	37	37	34	42	40	33	439

2) 診療科別入院数

新生児科入院	426	新生児科からの転科	48
循環器内科	4	集中治療科	26
心臓血管外科	3	循環器内科	11
小児外科	3	総合診療科	4
総合診療科	2	小児外科	3
血液腫瘍科	1	代謝内分泌	2
		血液腫瘍科	1
		脳神経外科	1

3) 入院形態と紹介医療機関地域

	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	中播磨	西播磨	北播磨	淡路	丹波	但馬	県外	
院外出生	203	161	5	0	15	1	0	0	0	5	1	0
一次搬送	126	113	2	0	9	0	0	0	1	1	0	0
(14日以上)	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二次搬送	77	48	3	0	6	1	0	0	6	4	1	8
院内出生	223	218	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0
緊急母体	40	37	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0
非緊急母体	183	181	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
院内出生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日齢14未満一次搬送+院内出生	347	329	5	0	10	0	0	0	2	1	0	0

II. 新生児科統計

対象：新生児科入院（日齢14未満一次搬送入院及び院内出生323症例，転科例を含む）

1) 院内出生と院外出生

出生体重	患者数	院内	率	帰院	産科
500 g 未満	0	—	—	—	—
500-749 g	19	19	100%	0	0
750-999 g	5	5	100%	0	0
1,000-1,499 g	16	14	87.5%	0	0
1,500-1,999 g	48	40	83.3%	0	0
2,000-2,499 g	67	53	79.1%	0	0
2,500 g 以上	192	92	47.9%	8	35
計	347	223	64.3%	8	35

週数	患者数	院内	率	帰院	産科
22, 23	2	2	-100%	0	0
24, 25	13	13	100%	0	0
26, 27	9	8	89%	0	0
28, 29	5	4	80%	0	0
30, 31	13	13	100%	0	0
32, 33	16	16	100%	0	0
34-36	86	65	75.6%	0	0
37以上	203	102	50.2%	8	35
計	347	223	64.3%	8	35

2) 分娩方法・出生前ステロイド

出生体重	患者数	帝切	率	ANS	率
500 g 未満	0	—	—	—	—
500-749 g	19	16	84.2%	13	68.4%
750-999 g	5	5	100%	5	100%
1,000-1,499 g	16	10	62.5%	10	62.5%
1,500-1,999 g	48	35	72.9%	19	39.6%
2,000-2,499 g	67	48	71.6%	4	6.0%
2,500 g 以上	192	75	39.1%	4	2.1%
計	347	189	54.5%	55	15.9%

週数	患者数	帝切	率	ANS	率
22, 23	2	0	0.0%	1	50.0%
24, 25	13	13	100%	10	76.9%
26, 27	9	7	77.8%	6	66.7%
28, 29	5	4	80.0%	4	80.0%
30, 31	13	9	69.2%	11	84.6%
32, 33	16	11	68.8%	14	87.5%
34-36	86	64	74.4%	7	8.1%
37以上	203	81	39.9%	2	1.0%
計	347	189	54.5%	55	15.9%

3) 生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	0	—	—
500-749 g	19	2	89.5%
750-999 g	5	0	100%
1,000-1,499 g	16	0	100%
1,500-1,999 g	48	0	100%
2,000-2,499 g	67	0	100%
2,500 g 以上	192	0	100%
計	347	0	100%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	2	1	50.0%
24, 25	13	1	92.3%
26, 27	9	0	100%
28, 29	5	0	100%
30, 31	13	0	100%
32, 33	16	0	100%
34-36	86	0	100%
37 以上	203	0	100%
計	347	2	99.4%

4) 多胎割合 (品胎 1 組)

出生体重	患者数	多胎	率	品胎
500 g 未満	0	—	—	—
500-749 g	19	4	21.1%	2
750-999 g	5	1	20.0%	1
1,000-1,499 g	16	4	25.0%	0
1,500-1,999 g	48	21	43.8%	3
2,000-2,499 g	67	29	43.3%	0
2,500 g 以上	192	3	1.6%	0
計	347	62	17.9%	6

週数	患者数	多胎	率	品胎
22, 23	2	0	0.0%	0
24, 25	13	2	15.4%	0
26, 27	9	3	33.3%	3
28, 29	5	2	40.0%	0
30, 31	13	4	30.8%	0
32, 33	16	7	43.8%	3
34-36	86	40	46.5%	0
37 以上	203	4	2.0%	0
計	347	62	17.9%	6

5) 人工呼吸管理の割合

出生体重	患者数	MV	率	HFO	CPAP
500 g 未満	0	—	—	—	—
500-749 g	19	19	100%	9	17
750-999 g	5	5	100%	1	4
1,000-1,499 g	16	9	56.3%	1	11
1,500-1,999 g	48	11	22.9%	0	17
2,000-2,499 g	67	4	6.0%	0	10
2,500 g 以上	192	16	8.3%	0	216
計	347	64	18.4%	11	275

週数	患者数	MV	率	HFO	CPAP
22, 23	2	2	100%	2	1
24, 25	13	13	100%	7	12
26, 27	9	8	89%	1	8
28, 29	5	3	60%	0	3
30, 31	13	8	61.5%	1	12
32, 33	16	5	31.3%	0	9
34-36	86	13	15.1%	0	13
37 以上	203	12	5.9%	—	17
計	347	64	18.4%	11	75

6) 特殊治療

PDA 閉鎖術	17例 (+ 二次搬送 8 例)	低体温療法	7例
NO 吸入療法	18例	生後ステロイド全身投与	13例
NICU 内手術	1例	在宅酸素療法	8例
ECMO	0例	ROP レーザー	1例
CHDF	1例	ROP 抗 VEGF	4例 (転院例)
PD	0例		

7) 新生児搬送出動回数 123 回

入院	99	(へリ 4 回)	分娩立合い	0
転院	20		時間外搬送	42

8) 多胎生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率	品胎
500 g 未満	0	—	—	—
500-749 g	4	1	75%	2
750-999 g	1	0	0%	1
1,000-1,499 g	4	0	100%	0
1,500-1,999 g	21	0	100%	3
2,000-2,499 g	29	0	100%	0
2,500 g 以上	3	0	100%	0
計	62	1	98%	6

週数	患者数	死亡数	生存率	品胎
22, 23	0	—	—	—
24, 25	2	1	50%	0
26, 27	3	0	—	3
28, 29	2	0	—	0
30, 31	4	0	100%	0
32, 33	7	0	100%	3
34-36	40	0	100%	0
37 以上	4	0	100%	0
計	62	1	98%	6

25. 産 科

今年も大変厳しい状況でしたが大きなトラブルや事故もなく無事1年を終えることができ、産科スタッフ一同ならびに関連・関係各位に感謝いたします。

2019年は2018年3月末の医師の退職と欠員状態が解消されていないため時間外の母体搬送受け入れを制限しました（平日日勤帯ならびに常勤医師が当直をしている休日日勤帯は受け入れております）。

人事：2019年は、船越 徹周産期医療センター長、産科科長兼部長、荻野美智医長、窪田詩乃医長（産休明けのため週3日勤務）、角 健司フェロー（公募）、益子沙友里フェロー、岩田隆一専攻医（公募）の6人体制で始まりました。2月1日付けで金子めぐみ医長（産休明けのため週3日勤務）が入職し、3月1日から荻野医長が産休に入り、3月末に岩田専攻医が退職し、4月1日付けで平久進也医長が入職し、5月15日付けで角 健司フェローが退職しました。結果、5人体制となりました（一般的に総合周産期母子医療センター産科には当直が可能な医師が8人以上必要とされている）。

医師の補充については公募ならびに神戸大学産婦人科医局にお願いしていますが、全国的に産婦人科医師が不足しており（絶滅危惧種と言われております）厳しい状況が続いております。私立病院に比べて国公立病院は色々制約があり医師募集や勤務継続に対する何らかの方策やincentive的施策がとれないため苦戦が続いております。

5月16日以降のスタッフは

船越 徹 周産期医療センター長、産科科長兼部長 昭和60年卒

平久 進也 医長、産科病棟医長 平成15年卒

窪田 詩乃 医長 平成24年卒

金子 めぐみ 医長 平成24年卒

益子 沙友里 医長 平成25年卒

（荻野 美智 医長 平成23年卒：育休中）

となりました。

当院は総合周産期母子医療センターとしてハイリスク妊産婦のみを受け入れる紹介型医療施設です。病床はMFICU(母体胎児集中治療室)6床を含めて22床です。LDR1室、侵襲的検査処置室(羊水穿刺、羊水除去、胎児胸水穿刺等を施行する処置室)1室、陣痛室1室、分娩室2室あり、外来と病棟が隣接しています。また、産科専用手術室1室を有し、4D超音波断層装置が3台あり、2人当直制（第一当直の20～30%と第二当直は院外医師が担当）を行っています。染色体異常を含めた遺伝相談も行っております。また、「近畿ブロック周産期医療広域連携事業」における兵庫県の拠点病院として他府県からの母体搬送にも対応しています。

入院理由の上位は切迫早産、胎児形態異常、胎児発育不全、前期破水、多胎です。

本邦の出生数の減少(2019年86.4万人)、当院の須磨区からポートアイランドへの移転に伴う西区、垂水区、須磨区、長田区からの紹介患者の減少の上に、医師退職・欠員に伴い2018年4月から産科病床数・看護師数が減少したため診療制限を行ってまいりましたが、2018年10月より段階的に緩和したため、2019年の臨床統計は昨年より増加しました。

分娩数195、出産児数227、生産児数223、死産児数12、多胎30（DD双胎14、MD双胎14、品胎2）、胎児形態異常90、帝切数124（率63.9%）、早産数93（率47.7%）（22w0d-25w6d：16、26w0d-27w6d：6、28w0d-31w6d：15、32w0d-33w6d：12、34w0d-36w6d：44）、出生体重1,000g未満の児数27（率12.1%）、1000～1500gの児数14。病床稼働率1～12月78.4%、緊急母体搬送の受け入れ74件（受け入れ率80.4%）（福

知山市からヘリコプター搬送 1 件含む)。

妊娠 24 週未満切迫早産胎胞形成例の治療的頸管縫縮術も行っています (23 週 2 例)。

胎児機能不全等の適応があれば手術決定から 15 分以内の児の娩出を目指す「超緊急帝王切開」を関連部門・スタッフの協力を得て行なっています。2019 年の超緊急帝王切開は 4 件 (27、33、38、38 週) でした。病状が落ち着いた方や、紹介元で対応可能な妊娠週数となれば、紹介元へ戻っていただいております。2019 年のバックトランスファー (紹介元へ戻れた方) は 149 名でした (外来レベルで行われたものも含む)。

また、当院には産科以外の成人を診る常勤の専門医がおられませんので、母体合併症に関しては神戸大学医学部附属病院や神戸市立医療センター中央市民病院等をご紹介します。隣接する神戸市立医療センター中央市民病院も総合周産期母子医療センターですが、中央市民病院は母体合併症を、当院は胎児・新生児にフォーカスした診療の棲み分け、病病連携を行なっております。

小児循環器内科医師による「胎児心エコー」があります。2 年で産科の教科書に出てくるほとんどの症例を経験できます。当院は「周産期新生児医学会専門医制度」の母体胎児研修の基幹施設であり「周産期・新生児医学会専門医 (母体・胎児)」を育成しています。

12 月 18 日に「近畿厚生局による適時調査」を受審し産科病棟に特段の指摘事項はなかったです。1 か月前から医事企画課長、看護師長と準備を行いました。

窪田医師が 2019 年秋に母体保護法指定医に合格しました。

10 月 27 日に琵琶湖ホテルで開催された「第 141 回近畿産科婦人科学会学術集会周産期研究部会」の当番世話人を船越が担当し、「preterm PROM に関わる諸問題」をテーマとして 15 題 (3 セッション) が行われました。

12 月 14 日 (土) に当院講堂で「令和元年度兵庫県立こども病院周産期医療センター研修会」を開催し、「こども病院 NICU における家族ケア —プレネイタルビジット充実と面会拡大を中心に—」を NICU 看護師梁京玉が、「胎児発育不全の背景と生後の取り扱い」を新生児内科部長 三村仁美が発表しました。そして、大阪府立病院機構 大阪母子医療センター産科主任部長の石井桂介先生から「早産期胎児発育不全の予後因子から至適分娩時期を考える」の特別講演をいただきました。当日は兵庫県医師会館で行われた産婦人科の別のイベントと重なっていましたが多数の参加者を得ることができました。

神戸赤十字病院から臨床研修医 5 人が 1 か月ずつ産科の研修を行いました。

放射線科医師と胎児 MRI を撮影した症例の経過と MRI の読影、その後の経過を検討する「MRI カンファレンス」を 7 月 2 日に開催しました。新生児内科医師も参加しています。報告書からだけでは伺えない MRI の読み方について研修することができます。

今年度から「感染症内科との合同カンファレンス」を 6 月 12 日、10 月 21 日、12 月 2 日に開催しました。

英文雑誌の抄読会を行っています (2019 年 16 回開催)。

学会活動を奨励していますが、マンパワー不足のため遠方に出張困難な状況にあり発表回数が減少しています。

産科病棟の取組みとしては、2018 年から「周産期メンタルヘルス」をシステムティックに取組み始め、2019 年から当院で分娩した方に「バースプラン」、「バースレビュー」、「ねぎらい膳」を、通院中の思春期～成人患者に対し移行期支援の一つとして性教育等を行う「いちごクラス」を開始しました。また、「母乳外来」は、他院で分娩したが、児が当院入院・通院中の方の利用が増加しています。

1) 2019年産科診療状況

入院患者数*	270
うち緊急母体搬送によるもの	74
紹介元へ戻すまたは他院紹介**	149
分娩母体数(22週以降)***	195
正期産	102
早産	93
過期産	0
多胎妊娠	30
DD 双胎	14
MD 双胎	14
MM 双胎	0
品胎	2
経膈分娩	71
うち吸引分娩	7
うち骨盤位牽出術	2
帝王切開術	124
選 択	56
緊 急	68
うち超緊急	4
出産児数(22週以降、死産含む)***	227
正期産児	104
早産児	123
過期産児	0
低出生体重児(2,500g未満)	134
巨大児(4,000g以上)	1
そ の 他	
22週未満死産児	8
22週以降死産児	4

* 入院患者数は2019.1-12入院したもの
 ** 紹介元へ戻すまたは他院紹介は、外来で行なわれたものも含む
 *** 分娩母体数、出産児数は2019.1-12に出産したもの

2) 紹介元施設所在地別入院件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率	
阪神南	尼崎市	3	1%	中播磨	姫路市	4	2%	
	西宮市	18	8%		神崎郡	0	0%	
	芦屋市	11	5%		小 計	4	2%	
	小 計	32	14%	西播磨	相生市	0	0%	
阪神北	宝塚市	0	0%		たつの市	0	0%	
	三田市	0	0%		赤穂市	0	0%	
	川西市	0	0%		揖保郡	0	0%	
	伊丹市	0	0%		赤穂郡	0	0%	
	川辺郡	0	0%		佐用郡	0	0%	
小 計	0	0%	宍粟市		0	0%		
神戸市	中央区	66	28%		小 計	0	0%	
	西区	36	15%		但馬	豊岡市	5	2%
	須磨区	18	8%			美方郡	0	0%
	東灘区	14	6%	養父市		0	0%	
	北区	12	5%	朝来市		0	0%	
	長田区	3	1%	小 計		5	2%	
	灘区	1	0%	丹波	篠山市	0	0%	
	垂水区	0	0%		丹波市	2	1%	
	兵庫区	0	0%		小 計	2	1%	
	小 計	150	64%	淡路	洲本市	8	3%	
東播磨	明石市	30	13%		淡路市	4	2%	
	加古川市	7	3%		南あわじ市	0	0%	
	高砂市	1	0%	小 計	12	5%		
	加古郡	0	0%	他府県	大阪	6	3%	
	小 計	38	16%		東京	3	1%	
他	9	4%						
北播磨	西脇市	4	2%	小 計	18	8%		
	三木市	0	0%	海外	0	0%		
	小野市	5	2%	院内紹介	計	270		
	加西市	0	0%					
	加東市	0	0%					
	多可郡	0	0%					
	小 計	9	4%					

救急隊はその所属地域にカウントした

3) 取り扱い疾患（重複あり）

疾患名*	件数	率
切迫早産	135	50%
高齢妊娠(35歳以上)	102	38%
胎児形態異常	90	33%
胎児発育不全	41	15%
前期破水	35	13%
多胎	31	11%
既往帝王切開	25	9%
胎児機能不全	25	9%
羊水過多	13	5%
絨毛膜羊膜炎・子宮内感染	13	5%
胎位異常	12	4%
他科合併症(GDM、甲状腺疾患以外)	12	4%
妊娠糖尿病	11	4%
妊娠高血圧症候群	10	4%
甲状腺疾患	9	3%
B群溶連菌保菌者	8	3%
羊水過少	8	3%
胎児水腫	8	3%
羊水染色体検査	7	3%
頸管無力症	7	3%
心疾患	7	3%
胎児死亡	6	2%
切迫流産	5	2%
胎児染色体異常	4	1%
胎児不整脈	4	1%
常位胎盤早期剥離	4	1%
その他感染	4	1%
双胎胎児発育不均衡	2	1%
習慣流産	1	0%
その他	44	16%
計	683	

入院時、入院中に診断された疾患名
患者一人当たり2.5の疾患名を有した

4) 入院時間帯

時間帯	件数	率
時間内	217	80%
平日日勤帯		
時間外	53	20%
平日夜勤帯	19	7%
休日日勤帯	23	9%
休日夜勤帯	11	4%
計	270	

6) 分娩時間帯（流産、死産含む）

時間帯	件数	率
時間内	131	65%
平日日勤帯		
時間外	72	35%
平日夜勤帯	34	17%
休日日勤帯	19	9%
休日夜勤帯	19	9%
計	203	

8) 分娩時妊娠週数（流産、死産含む）

週数	件数	率	累積率
～21週	8	4%	4%
22～24週	11	5%	9%
25～28週	12	6%	15%
29～32週	18	9%	24%
33～36週	52	26%	50%
37～41週	102	50%	100%
42週～	0	0%	100%
不明	0	0%	100%
計	203	100%	

5) 入院時妊娠週数（母）

週数	件数	率	累積率
～21週	25	9%	9%
22～24週	39	14%	24%
25～28週	29	11%	34%
29～32週	43	16%	50%
33～36週	43	16%	66%
37週～	85	31%	98%
不明	0	0%	98%
産後	6	2%	100%
非妊娠	0	0%	100%
計	270		

7) 帝王切開時間帯

時間帯	件数	率
時間内	100	81%
平日日勤帯		
時間外	24	19%
平日夜勤帯	11	9%
休日日勤帯	9	7%
休日夜勤帯	4	3%
計	124	

9) 出産時児体重（流産、死産含む）

児体重	件数	率	累積率
～499g	10	4%	4%
500～999g	25	11%	15%
1000～1499g	14	6%	21%
1500～1999g	40	17%	38%
2000～2499g	53	23%	60%
2500～2999g	56	24%	84%
3000～3499g	26	11%	95%
3500～3999g	10	4%	100%
4000～4499g	1	0%	100%
4500～4999g	0	0%	100%
計	235	100%	

10) 緊急母体搬送依頼電話受信状況

月	依頼件数	受け入れ不能件数	受け入れ不能率
1	3	1	33%
2	4	2	50%
3	10	2	20%
4	5	0	0%
5	9	5	56%
6	9	4	44%
7	9	2	22%
8	8	0	0%
9	11	1	9%
10	8	0	0%
11	7	0	0%
12	8	1	13%
不明	4	0	0%
計	95	18	19%

患者状態により翌日の外来紹介となったもの3例含む

11) 年次別搬送受け入れ不能状況

年	依頼件数	受け入れ不能件数	受け入れ不能率	備考
平成6年	66	12	18%	10月開設(22床)
平成7年	240	38	16%	阪神・淡路大震災
平成8年	312	76	24%	
平成9年	340	111	33%	
平成10年	324	105	32%	
平成11年	326	55	17%	フルオープン(32床)
平成12年	362	100	28%	総合周産期センターに指定
平成13年	328	60	18%	
平成14年	394	110	28%	
平成15年	367	140	38%	
平成16年	298	126	42%	
平成17年	285	120	42%	MFICU6床整備
平成18年	316	124	39%	空床情報ネットワーク整備
平成19年	285	91	32%	
平成20年	259	65	25%	
平成21年	279	88	32%	
平成22年	276	85	31%	
平成23年	256	96	38%	
平成24年	225	83	37%	
平成25年	232	18	19%	
平成26年	221	71	32%	
平成27年	160	42	26%	
平成28年	152	41	27%	5月病院移転
平成29年	153	16	10%	
平成30年	92	30	33%	医師欠員のため病床32→22床
2019年	95	18	19%	

12) 搬送依頼施設所在地別受信件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率	
阪神南	尼崎市	2	2%	中播磨	姫路市	1	1%	
	西宮市	13	14%		神埼郡	0	0%	
	芦屋市	4	4%		小計	1	1%	
	小計	19	20%		相生市	0	0%	
阪神北	宝塚市	0	0%	西播磨	赤穂市	0	0%	
	三田市	1	1%		宍粟市	0	0%	
	川西市	0	0%		たつの市	0	0%	
	伊丹市	0	0%		揖保郡	0	0%	
	川辺郡	0	0%		赤穂郡	0	0%	
	小計	1	1%		佐用郡	0	0%	
	神戸市	須磨区	4		4%	但馬	小計	0
中央区		17	18%	豊岡市	1		1%	
西区		13	14%	養父市	0		0%	
垂水区		0	0%	朝来市	0		0%	
灘区		1	1%	美方郡	0	0%		
東灘区		6	6%	小計	1	1%		
北区		6	6%	丹波	篠山市	0	0%	
兵庫区		0	0%		丹波市	0	0%	
長田区		0	0%	小計	0	0%		
区不明		1	1%	淡路	洲本市	6	6%	
小計		48	51%		南あわじ市	0	0%	
東播磨		明石市	12	13%	他府県	淡路市	0	0%
		加古川市	0	0%		小計	6	6%
	高砂市	0	0%	京都		1	1%	
	加古郡	0	0%	愛知		1	1%	
	小計	12	13%	その他		0	0%	
北播磨	西脇市	2	2%	小計	2	2%		
	三木市	0	0%	海外	0	0%		
	小野市	1	1%	院内紹介	0	0%		
	加西市	0	0%	紹介なし	0	0%		
	加東市	0	0%	不明	2	2%		
	多可郡	0	0%	計	95			
	小計	3	3%					

救急隊はその所属地域にカウントした

13) 搬送依頼元施設種類別

施設種類	件数	率
総合周産期医療センター	6	6%
地域周産期医療センター	29	31%
一般病院	34	36%
診療所	22	23%
助産院	0	0%
救急隊	3	3%
他	0	0%
不明	1	1%
計	95	

他府県の施設も含む

14) 搬送依頼電話受信時刻

勤務帯		件数	率
時間内	平日・日勤帯	65	68%
	平日・夜勤帯	7	7%
時間外	休日・日勤帯	10	11%
	休日・夜勤帯	7	7%
不明		6	6%
計		95	

15) 搬送電話依頼時理由

搬送理由	件数	率
切迫早産	60	63%
前期破水	7	7%
胎児形態異常	3	3%
胎児機能不全	3	3%
多胎	2	2%
切迫流産	2	2%
胎児発育不全	1	1%
妊娠高血圧症候群	1	1%
前回帝切	1	1%
前置胎盤	1	1%
その他	13	14%
不明	1	1%
計	95	

主たる理由で分類

16) 搬送電話依頼時妊娠週数

妊娠週数	件数	率
22 週未満	9	9%
22 ～ 24 週	31	33%
25 ～ 28 週	17	18%
29 ～ 32 週	17	18%
33 ～ 36 週	13	14%
37 ～ 40 週	3	3%
41 週以降	0	0%
分娩後	2	2%
不明	3	3%
非妊娠	0	0%
計	95	

17) 受け入れ可否返事所要時間

所要時間	件数	累積率
～ 1 分	39	41%
～ 3 分	9	51%
～ 10 分	32	84%
～ 20 分	2	86%
～ 30 分	2	88%
～ 60 分	2	91%
～ 120 分	2	93%
～ 240 分	1	94%
不明	6	100%
計	95	

18) 受け入れ不能の理由

理由	件数	率
NICU 満床	0	0%
産科満床	2	11%
両方満床	0	0%
対象外	2	11%
その他	13	72%
不明	1	6%
計	18	

その他:搬送受け入れ制限中8
当直医が手術中、分娩中、外来対応中

26. 放射線診断科／放射線治療科

放射線診断科

1. 人事異動

放射線診断科のスタッフは赤坂好宣、杉岡勇典の2名。

フェローの田原潤子医師が3月末で退職し、しばらく続いた3名体制が2名になった。

応援の藤本雄介医師（月・木・金 AM：超音波検査担当）に今年度より金曜日午前にも入っていただくこととした。4月より兵庫県立尼崎総合医療センター放射線診断科の乗本周平医師に金曜日に兼務していただくこととなった。

2. 2019年の動向

今年度は久々に3名体制が2名となり多忙であった。退職した田原医師もその前任の松永医師も小児科専門医であったが放射線科専門医への転身を志し、成人の研修を行っているためでありやむを得ない。

2名になった影響で超音波検査の予約件数を制限せざるを得ない日が増えたが、年間を通しての件数は増えている。その他の検査も概ね増加しており、当院の患者数の増加が一因と考えられる。

学会活動にも積極的に参加するよう努めているが、2月には日本小児放射線学会・日本小児救急学会が主催・共催する教育セミナーのサテライト会場として施行した。当会場にも27名の参加があった。次年度以降も続けていく予定である。

院内、院外の小児科医を対象とした小児放射線研修も軌道に乗り、優秀で幅広い知識をもった小児科医の育成に貢献している。

放射線科医としても兵庫県立淡路病院、北野病院からの研修があり、小児放射線科医の重要性が高まってきている。

放射線診断科読影（施行）件数（2019年）

CT	2809 件
MRI	3273 件
RI	274 件
消化管造影	210 件
超音波検査	6912 件

放射線治療科

1. 人事異動

放射線治療科のスタッフは、副島俊典、福光延吉、出水祐介、美馬正幸の4名で2018年1月に福光医師が加入して以降変化なし。4名とも、隣接する県立粒子線医療センター附属神戸陽子線センター放射線治療科と兼務である。

2. 2019年の動向

副島医師と出水医師が放射線治療外来を担当しているが、陽子線センターでの小児治療開始（2018年3月）以降、従来は当院のリニアックで治療していた症例の多くを陽子線センターで治療することになったので、症例数は減っている。しかし、陽子線センターでは対応が難しい全身照射、また、対応が難しいことが多い全脳照射、全肺照射、全腹部照射といった照射範囲の広い治療法が必要な症例は一定数いるので、リニアッ

クの必要性は損なわれていない。

4名とも当院腫瘍カンファレンスに出席し、積極的に議論に参加している。小児がんには放射線治療が必要な疾患が多く、当科医師の意見が治療方針を左右することも珍しくない。

陽子線センターには神戸大学の学生が定期的に見学に訪れるが、当院リニアックも見学コースに含め、小児放射線治療に対する理解を深めてもらっている。

放射線治療件数（2019年）：24例

（内訳）

全身照射	11例
局所照射	6例
全脳照射	4例
全脳全脊髄照射	2例
全肺照射	1例

【参考】

陽子線治療件数（2019年）：59例

（内訳）

局所照射	41例
全脳全脊髄照射＋局所照射	8例
全脳室照射＋局所照射	5例
全脳室照射	3例
全脳全脊髄照射	1例
全腹部照射＋局所照射	1例

27. 小児集中治療科

【スタッフ】

2019年度の常勤医は黒澤寛史（診療科長）、長谷川智巳、青木一憲、制野勇介、長井勇樹の5名。フェローは宮下徳久、鴻池善彦、潮見祐樹、山下由理子、金子尚樹、花見洋太郎、山本和宏、市坂有基、白澤彩、系数大吾、村田慧、先瀆大、伊藤由作、増井美苗（非常勤）。集中治療の研修として、麻酔科への3～6ヶ月間の短期研修、救急科への2～4ヶ月間の短期研修を行った。専攻医（後期研修医）は2～3ヶ月の短期研修を3名受け入れた。

【資格】

集中治療専門医5名、小児科専門医15名（指導医3名）、麻酔標榜許可2名、救急科専門医2名（指導医1名）、外科学会専門医・心臓血管外科専門医・循環器専門医・脈管専門医・移植認定医 各1名
JPLS 講師1名、PALS インストラクター1名

【施設認定】

CICU8床、PICU6床、ICU11床の25床を担当し（Closed ICU）、関係各科と連携をとりながら重篤な症例の診療に当たった。平日日中は7～8名、夜間は3名体制。休日は日中6名、夜間3名体制

【診療体制】

- 集中治療医学会専門医研修施設
- 日本急性血液浄化学会認定指定施設

【集中治療科診療実績】

		2016 (8ヶ月)	2017	2018	2019
入室患者数		628	1,025	964	1,025
月齢 (中央値, 平均)		29, 55	25, 57	24.5, 54	25, 60.4
予測死亡率 (%)		2.6	2.6	1.8	2.2
実死亡率 (%)		1.9	1.5	1.1	0.8
MET コール後入室		NA	NA	NA	13
滞在日数 (中央値, 平均)		4, 8.2	4, 7.3	4, 7.3	4, 6.7
搬送手段	院内	503	797	735	765
	転院 (迎え搬送)	16	18	7	15
	転院 (他院同乗)	35	83	78	87
	救急車 (現場)	32	41	59	59
	ヘリコプター	20	19	21	19
	その他	22	67	64	80
入室理由	術後管理	394	634	570	565
	呼吸不全	90	156	160	200
	循環不全	53	53	47	66
	中枢神経系の異常	41	65	68	76
	心停止蘇生後	7	15	8	3
	モニタリング	31	86	96	108
	その他	12	16	12	7
治療内容	人工呼吸管理	280	452	381	415
	NPPV	69	75	61	40
	HFNC	16	130	192	222
	HFO	2	4	3	1
	iNO	58	59	60	68
	ECMO	10	10	13	6
	CRRT	2	3	11	7
	PEX	3	7	4	8
県外から直接入院		27	29	38	29

28. 病理診断科

病理診断科では、胎盤病理などの周産期の病理診断、小児外科領域の病理診断、小児固形腫瘍の病理診断を主体として、小児期の病理診断全般を行っている。小児固形腫瘍は日本小児がん研究グループ（JCCG）の病理委員会事務局である国立成育医療センターに病理標本や凍結腫瘍組織を送付して、中央病理診断や分子生物学的診断を受けている。腎生検は、電子顕微鏡の所見を加えた最終診断は腎臓内科が行っている。病理診断科では、検体のマクロ検索からミクロ検索までを一連の業務として取り組み、一例一例を大切に丁寧に診断することを心がけている。必要に応じて免疫染色や特殊染色、外部委託や小児固形腫瘍観察研究による分子生物学的検索、他施設へのコンサルテーション依頼等を行い、客観的で再現性のある標準化に則った病理診断を目指している。臨床カンファレンスを通じて、診断名のみならず所見の詳細を臨床に伝えることで診療に病理診断結果を活かしてもらえるように努めている。また病理診断は一時期の病変部のみの検索であるが、診療過程の全体を把握して病理診断にフィードバックしたいと考えている。大学のカンファレンスや全国の講習会や研究会に積極的に参加している。

2019年の動向

2019年3月29日に当院に心肺停止で搬送された行政解剖施行例1例について、救急科、兵庫県監察医務室、病理診断科で第2回CPAカンファレンスを行った。

2019年2月4日、10月28日に神戸市立医療センター神戸中央市民病院病理診断科の原重雄先生を講師にお招きした腎生検カンファレンスが腎臓内科主催で行われた。

2019年12月28日（土）に兵庫県立こども病院講堂において、第82回関西小児病理研究会を開催し、兵庫県立こども病院病理診断科が世話人を担当した。

2019年6月27日に院内CPCが行われ、臨床報告を新生児科の横田知之先生が、遺伝子報告を臨床遺伝科の森貞直哉先生が担当された。

がんゲノム医療が開始され、兵庫県立こども病院では2019年は5件が対象となった。兵庫県立がんセンターにプレパラートやパラフィンブロックを貸し出す形で行われた。

2019年の件数

組織診断件数 1114件（うち迅速72件、胎盤203件、腎生検28件、他院からの持ち込み18件、他院7件）

細胞診断件数 240件

剖検件数 3件（新生児科2件、血液腫瘍科1名）

29. 看護部

看護部理念

命を守り、育てることに努力し、安心と満足が得られる看護の提供に努めます。

看護部のスローガン

「小児看護」→「笑児看護（しょうにかんご）」

「みる・まもる・つなぐ・つたえる」で、こどもと家族の輝く笑顔を引き出そう！！

看護部方針

- こどもの権利を守り、患者・家族の思いを尊重した看護を提供します。
- 看護の質の向上を目指し、安全と安心に繋がる看護を提供します。
- 患者を中心としたチーム医療の調整役として、主体的に行動します。
- 真の優しさと逞しさを備えた人間性を養い、自己研鑽に努めます。

看護の体制

- より安全で質の高い看護を提供することを目的とし、パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）看護提供方式に取組み、PNSを推進しています。
- 患者様が治療や検査を理解し、確実に行えるように、プレパレーションやディストラクションを取り入れた看護を実践しています。
- 保育士と協働し、患者様の成長発達に応じた療育への支援を行っています。
- 患者様に少しでも快適で豊かな入院生活を送っていただけるよう様々なボランティアの皆様と季節折々の行事を実施しています。
- 看護系大学との事例検討会や共同研究を推進し、看護の質向上に向けて取り組んでいます。

看護部目標

MISSION 遂行へ！安定と進化の探求

「共働・共育・共創」

1. 共働：互いに尊重し支え合うチームづくりと安全な看護の提供
看護チームにおける協働連携の推進
2. 共育：全看護職が教え育む力を発揮し、共に成長する
クリニカルラダーを活用し、ステップアップを図る
3. 共創：看護の技の伝承と新たな挑戦を融合し専門性を高める
看護の成果を可視化（数値化）し、全看護職で共有し、次へ繋ぐ働き方を再考し、個々に応じたWLBを実現する

看護部の活動

5 階西病棟

小児外科・泌尿器科疾患を中心とした混合病棟として、周術期看護と内科系疾患の看護、確実な治療の提供、退院を見据えたセルフケアの支援など、短期入院、長期入院にかかわらず、診療科や他職種と協働し取り組んだ。泌尿器科のクリニカルパスを積極的に導入、新たに作成するなど看護の標準化を強化した。

5 階東病棟

在宅支援病棟として、在宅支援カンファレンス、訪問看護ステーションや在宅医を含めた地域とのカンファレンスを多職種と共に行った。在宅支援目的の転棟については転棟前訪問を行い、患者のケアを共有し、家族の思いを確認しながら転棟後の不安軽減に対し取り組んだ。また、家族への医療的ケア習得支援のため、看護師の看護技術勉強会を実施し、スキルアップに努めた。退院後同行訪問を定着させ、必要時は他職種も同行できるよう調整した。

6 階西病棟

安心で安全な看護の提供を目指し、互いに尊重し合いながら共に育つことを念頭に教育をすすめた。チーム医療の推進に努め、多職種との協働、病棟間・外来・地域との連携の強化を図り、継続した看護ケアを提供することができた。また、心臓カテーテル検査のクリニカルパスを作成し、看護の標準化を図ることができた。

6 階東病棟

内科外科混合病棟として代謝内科の糖尿病教育入院や腎臓病患者教室の実施、整形外科、脳神経外科の周術期看護などこどものセルフケアの向上に向けた支援や退院支援に取り組んだ。血液腫瘍科の陽子線治療を行う患者の受け入れを開始した。安全で安心な看護を目指し、各診療科や他部門との勉強会やカンファレンスを実施した。

7 階西病棟

小児がん拠点病院として、血液腫瘍科の患者を受け入れ、化学療法や造血細胞移植を安全に行い、また、患者、家族の不安や苦痛の軽減を図る看護ケアに取り組んでいる。多職種と協働しカンファレンスを開催し情報共有を行い、患者の自立を目指した生活支援や復学カンファレンス、退院支援、終末期の緩和に取り組んだ。

7 階東病棟

多職種と協働しながら、子どもにとっての最善を目指し、確実な治療と症状緩和、日常生活・療養環境の整備に取り組んだ。中でも、陽子線治療においては、陽子線センターと毎月定期カンファレンスを開催し、連携を図った。多職種とともに、症状緩和や環境調整、意思決定支援、地域との連携等を行い、終末期ケアの充実に努めた。また、きょうだい支援として、病棟独自にツールを作成し、成果がみられた。

CICU

刻々と変化する患者状況に応じタイムリーなケア介入ができるよう、医師とのベッドサイドカンファレンスを行っている。また、理学療法士との連携を強化し、早期リハビリテーションの実施を図るなどチーム医療の推進に取り組んだ。集中治療を必要とする患者・家族により良い看護が提供できるよう、教育支援を行い、日々トレーニングに努めた。

PICU

チーム医療を推進し、安全なクリティカルケアの提供を目指し、日々医師と共にベッドサイドカンファレンスを行い、個別的なケアの提供につなげている。また、理学療法士とも連携し早期リハビリテーションの実施に取り組んでいる。

集中治療を要する患者に対応し、より良い看護の提供ができるよう、日々トレーニングやシミュレーションに取り組んでいる。

ICU

全診療科を対象に、超急性期から回復期に向かう状態が不安定な患者の受け入れをおこない、その子らしい生活ができるような看護の提供に努めた。特に今年度は PNS の中で、指差し呼称の定着とリスク感性の向上、感染や急変時対応を考慮した療養環境整備の徹底に努め、安全な看護の提供を目指した。また、教育体制の見直しを検討し、病棟におけるタスクチェックリストを作成し各自の知識・技術の課題を可視化し、ICU 病棟における実践力の向上につなげられるようにした。

NICU

NICU での PNS 体制を見直し、ガイドラインに沿った実践と PNS マインドを再確認した。結果、教育支援が円滑に行えるようになり、実践経験が増えた。また、医師・GCU 病棟との話し合い・調整を重ねて面会時間の拡大を実現し、ファミリーセンタードケアの充実に努めた。

GCU

PNS 推進に向け業務改善に取り組み、働きやすい職場環境作りを行った。また、育児参加の拡大や、早期からの退院支援への取り組み、タッチケアの継続、リハビリ科との連携を行い、「赤ちゃんに優しい 家族に優しい」看護ケアの提供ができるよう取り組んでいる。

産科・MFICU

妊娠中から、母子への切れ目のない支援対策を行っている。出生前診断を受けた患者・家族に対し、新生児内科・循環器科と連携し、出生後の児の状態・育児に関する不安の軽減に繋がるようプレネイタルビジットを実施している。また、妊婦が主体的に分娩に臨めるよう、バースプランを聞き、ケアに繋いでいる。産後はバースレビューで、妊娠・分娩について振り返りを行っている。産後うつ指標（EPDS）を用いて、健診時に継続支援の必要な褥婦には、養育支援ネットを用いて地域へ繋ぐことができた。母乳外来では、他院で分娩された母親も対象とし、母乳栄養指導だけでなく母親の精神面での支援や、育児不安の緩和に努めることができた。

外来と連携し、思春期移行期支援として性教育を中心に指導を行うことができた。

手術室

WHOの指針に基づいた「手術室安全チェックリスト」を用い、安全な手術環境を整えると共に、チーム医療の質の向上に取り組んでいる。また、他職種、他部門と協働し、手術後回復期の PACU 運用など、術前・術中・術後の安全と安心に繋がる看護を推進している。

外来

在宅療養中の患者・家族の安全と多様化するニーズに対応していくことを目標とし、安全な外来診療と患者・家族からの相談に対応できる人材育成を目指した。前年度から開始した思春期にある患者の性教育の支援をはじめ、各診療科での移行期支援の充実に取り組んでいる。

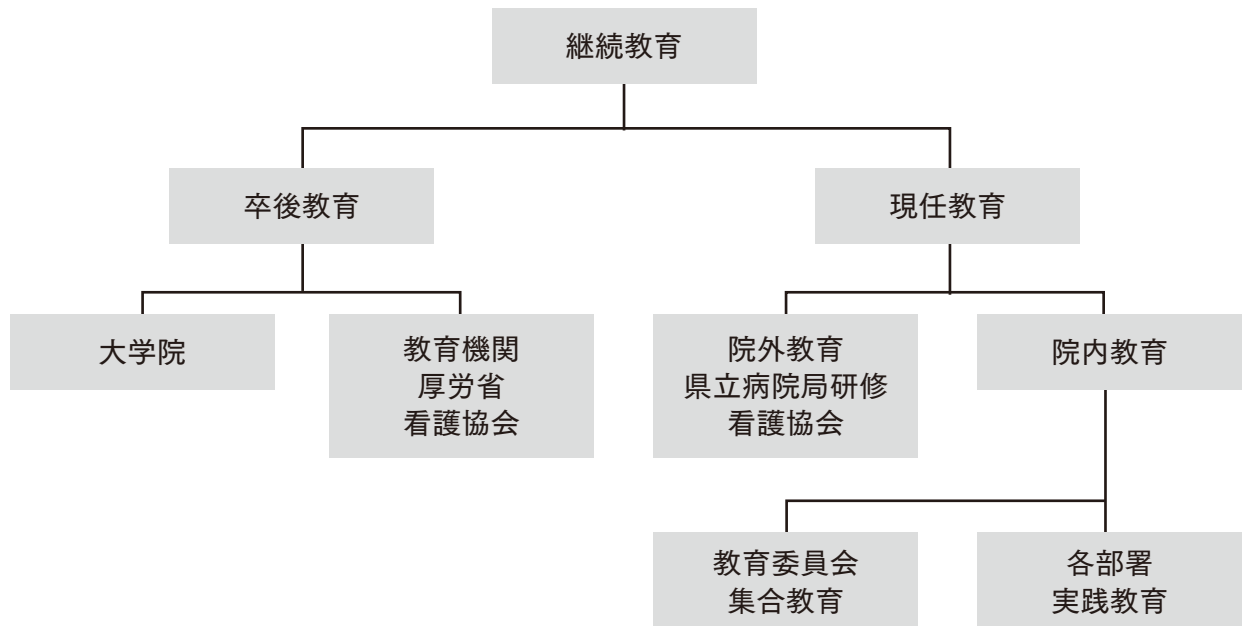
救急・HCU

救急外来患者及び救急・HCU 病棟に入院する患者・家族に対して、受診時から地域での生活を見据えながら必要なニーズ・支援を見だし、看護を提供することによって、子どもの安寧と健やかな成長発達を支援した。特に、療養環境の整備にも取り組み、遊びを通して「一緒にがんばり、こどもたちを笑顔にする」ことを実践できている。また、多職種連携により専門的な医療の提供を推進し、地域との連携を強めている。

こども病院看護部教育方針

1. 高度専門的な母子看護の知識・技術をもち、エビデンスに基づいた看護実践ができる看護師の育成
2. こどもの権利を守り、患者家族の思いを尊重できる看護師の育成
3. チーム医療の調整役として行動できる看護師の育成
4. 研究的視点で看護実践の改善がはかれる看護師の育成

こども病院看護部継続教育の位置づけ



看護部委員会

委員会名	開催回数	活動内容と結果
看護師長補佐会	12回	<p><目的> 各看護単位の円滑な運営と看護の質向上を図ることができる</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PNSを推進し、こども病院の看護提供方式を整備するとともに、看護の質を向上する 2. 災害に対するスタッフの意識向上が図れ、災害時の初動がイメージ化できる 3. 看護チームの一員としての看護補助者を育成し、効果的な協働を推進する 4. 患者サービスに対する意識の向上を図り、患者・家族が安心、満足できる看護が提供できる 5. 物品管理、コストに対する意識向上を図り、病院経営に参画できる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自主看護師長会のPNSグループと連携し、PNS監査を行い、その結果を踏まえたガイドラインの修正を行った。また各部署でPNSの啓蒙を継続しながら、PNS大会や院内スタッフ向けのマインド研修を開催しPNSの推進を図った 2. 被害状況リスト・災害ケアパッケージの作成と施行運用を行った。また、災害時アクションカードを作成し、看護師長補佐会内で災害机上シミュレーションを実施した後に全部署で開始した 3. 全部署が看護補助者との面談を実施し、その内容を看護師長補佐会内で共有し、看護補助者との協働のための業務整理や職場環境の整備を検討した。また、自主看護師長会看護補助者グループと連携し、マニュアルの作成を行った。補助者研修（安全・感染・災害）を全6回実施した 4. 患者様アンケートの目的・方法について明確化し、看護師長補佐会で共有した上で全部署で開始した。更に、患者・家族からの意見や要望を看護師長補佐会内で共有し、リフレクションを行った。また、接遇の向上に向け自己・他者チェックを行った 5. 診療報酬や経営に関する勉強会を企画し、各部署で実施した。また、各部署におけるSPD物品に関する問題解決のための啓蒙活動の実施を行った
教育委員会	14回	<p><目的> 看護職員のキャリア開発を支援するとともに、良質な看護を提供するための教育体系を整備、実践する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内集合研修の企画・運営・評価ができる 2. OJTとリンクした継続性のある教育の検討と実施ができる 3. 看護師個々のキャリアに応じた支援の検討と実施ができる 4. 新人看護師が現場に順応し、各自のペースに合わせて目標を達成していけるよう支援できる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTとリンクした継続性のある教育の検討と実施 3. 看護師個々のキャリアに応じた支援の検討と実施 4. 全スタッフで新人看護師を育成し、また共に学び続ける風土づくり・体制整備 5. 実地指導者・教育担当者の支援・育成

<p>臨地実習指導者会</p>	<p>6回</p>	<p><目的> 臨床指導者の育成と学生の効果的な臨地実習ができる</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟内の実習環境を調整し、実習目的を理解し全体で実習生を受け入れ指導することができるとともに、指導スキルの向上をはかる 2. 周手術期の患者の実習を一般病棟、手術室、集中系病棟が連携し支援する <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各学校と実習内容の調整、目的を共有し、各病棟で実習を受け入れた 2. スタッフ向けに実習案内ポスターを使用して周知し、PNSで継続した実習指導を展開することができた 3. 学生へのオリエンテーション方法を統一し、安全、感染、倫理面を考慮したスライドを作成した。次年度から活用し、評価、修正を行う 4. 「周手術期看護実習における取り決め」の周知と、修正した経過表を用いて、一般病棟から集中系病棟への実習の引き継ぎを実施し、評価修正を行った 5. 手術室・集中系病棟での実習の学びを周知する目的で「フィードバックシート」を作成、実施し評価修正を行った
<p>看護の質向上委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 看護の質向上に向けて、看護師の倫理綱領に基づき、患者の安全で安楽、権利と尊厳を守るケアを提供する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各部署で倫理意識が向上し、患者の倫理問題に気づくことができる 2. 倫理問題に気づき事例検討できる 3. 倫理ファイルの内容の見直しと整理ができる 4. 看護の質を考えられる看護師を増やし、当院の看護の質とはを考えることができる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年間計4回倫理新聞を発行、委員会活動とリンクさせこどもの権利・倫理原則の考え方・事例検討方法を提示した 2. 事例検討は、各部署毎月1回は行い、上半期は全部署同じ事例で事例検討し、下半期は各部署の事例で事例検討を行った 3. 倫理ファイルの見直しを行い、全部署統一したファイルとした
<p>プレパレーション部会</p>	<p>6回</p>	<p><目的> 看護の質向上委員会の下部組織として活動し、プレパレーションについて考え、プレパレーションの質向上を図る</p> <p><目標> プレパレーションの専門的知識と技術を習得し、こどもの権利を踏まえ実践を振り返ることができる</p> <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレパレーションの基本的知識と幼児期・学童期の発達段階に合わせたプレパレーションの勉強会を3回開催し知識の習得はできた 2. 事例検討を3回開催し、方法等を共有した 3. プレパレーションツールの一覧表を作成し、各部署で活用できるようにした

<p>感染対策委員会</p>	<p>11 回</p>	<p><目的> 1. 各看護単位での感染対策の役割を担う 2. 各看護単位での感染対策を検討・改善し、感染対策に関する看護の質を向上させる 3. ICC（院内感染対策委員会）やICT（感染対策チーム）、ICN（感染管理認定看護師）と連携し、院内感染対策を推進する <目標> 1. 感染症および耐性菌のアウトブレイクが昨年より減少する 2. 感染対策における実践モデルとしての役割がとれる <活動内容> 1. ICTと連携して手指衛生の直接観察と手指消毒剤の使用量調査を行い、質と量の両面から手指衛生の遵守率向上に寄与する活動を行った 2. 防護具の適正使用に関し、脱着ルールを部署に浸透させる活動を行った 3. 安全な療養環境作りのICTとともに環境ラウンドを実施し、改善活動に取り組んだ 4. 関連部署とともに医療器具関連感染症の発生率を調査し、対策を検討していった 5. 委員会内で実施したミニレクチャーの内容を各部署に浸透させるための活動により、スタッフへの教育介入を行った 6. 全職員対象感染対策研修会に向けて適切な手指衛生場面に関する視聴覚教材を計画的に作成し、企画・運営を行った 7. 「手指衛生」「環境整備」を主なテーマに「インフェクションコントロール」を参考にして根拠に基づく教育や勉強会開催など自部署への感染対策を行った</p>
<p>安全対策委員会</p>	<p>11 回</p>	<p><目的> 看護事故防止対策を検討し、全看護職員のリスク感性向上に向けて取り組むことを目的とする <目標> 1. 6Rを用いた確認・指さし呼称を行い、内服・注射に関する与薬の手順を遵守する 2. 安全確認を行い輸液管理（静脈ライン）の手順を遵守する 3. リスク感性を高め、安全な療養環境の提供を行う <活動内容> 1. 6Rを用いて与薬を確認している病棟の現状把握を行い、6R記載カードを活用しながら指さし呼称実施に向けて、啓蒙・周知を行い、監査を行った 2. 静脈ラインの安全確認方法の統一を図るため観察ポイントを作成し遵守を行った。観察が行いやすいIV固定テープへ変更を行った 3. 環境ラウンドを行い監査した結果を各病棟へフィードバックを行った。家族ヘリフレッツを用いた、転倒転落に関するオリエンテーションの実施を強化した 4. KYTの事例を整理し、全部署共通のKYTファイルを作成した</p>
<p>看護記録管理・ クリニカルパス推進委員会</p>	<p>11 回</p>	<p><目的> 1. 看護記録の質の管理を行い、看護実践の一連の過程の記録を実現する 2. 看護記録の倫理的側面の管理を行い、適切な看護記録を実現する 3. 医療の質改善に寄与するクリニカルパスを推進する <目標> 1. 医療の質向上に向けた個別的な看護計画が立案できる 2. 看護記録の質向上と正しく確実な記録ができる 3. クリニカルパス推進にて、医療内容の標準化とパス作成を通しての業務改善を図る</p>
<p>看護記録管理・ クリニカルパス推進部会</p>	<p>22 回</p>	<p><活動内容> 1. 標準看護計画27項目を検討、リハビリテーション、在宅支援などを具体的な計画になるように修正した。新規計画として8項目を追加し、患者・家族指導を充実を図った 2. 看護記録の監査を機械的、質的な側面で各3回、計6回実施した。監査を行うことでスタッフ全員が記録を見直し、看護記録について考える機会ができたことは、日々の看護記録の質向上に繋がった 3. 各診療科と協働して51個のクリニカルパスを作成、運用を開始できた。患者用パスの作成にも取りかかり、次年度、統一して活用を行っていく</p>

地域連携委員会	6回	<p><目的> 在宅療養支援に関する院内外の現状を知り、地域連携推進に取り組む</p> <p><目標> 1. 退院支援の見える化を図り、継続した退院支援ができる 2. 委員が在宅医支援に関する知識が向上し病棟へ還元できる 3. 地域の医療スタッフとの交流を図り、地域との繋がりを深めスムーズな連携に繋げる</p> <p><活動内容> 1. 退院支援ケアマップ（案）が作成できた。試用期間を得て評価修正していく 2. 委員会内で勉強会2回事例検討会は3回実施した。勉強会資料は、各部署のマニュアルに資料として保管し、必要時に活用していく 3. 医師会主催の在宅医療研修会に参加した。当院から在宅支援を行った事例の紹介と訪問看護ステーションの看護師、PTからの活動が紹介され共有した。地域の訪問看護師とのグループワークから、病院への要望など意見交換ができた</p>
専門・認定看護師会	11回	<p><目的> 医療・看護の質向上に向け、専門看護師・認定看護師が連携して問題解決への取り組みや支援を行う</p> <p><目標> 【CNS】 1. 所属部署または依頼のあった部署を中心に課題の明確化と問題解決に向けての取り組みができる 2. 専門看護師として自身の実践能力を向上させ、現場の看護の質を向上させる</p> <p>【CN】 1. 各認定分野において、組織・チームのリソースとなる 2. 研修を通してスタッフの人材育成を行う 3. 認定看護師として、自身の実践力を向上させ、現場でのケアの成果をあげる</p> <p>【CNS・CN】 1. CNS・CNがコラボレートすることで、ケアの発展ができる 2. 各専門・認定分野において地域のリソースとなる</p> <p><活動内容> 【CNS】 1. 依頼に応じて部署カンファレンスに参加した 2. 院内CNSで年間4回事例検討を行った</p> <p>【CN】 1. スキルアップ研修（創傷ケア/感染管理/集中ケア/摂食嚥下障害ケア/糖尿病看護）の開催と教育委員主催院内研修を担当し行った 2. 委員会内で各領域毎で活動報告や新規CNによる勉強会を2回実施した</p> <p>【CNS・CN】 1. 月間の活動報告の共有を行った。また、がん領域で院内多領域共同研修会を企画し開催した 2. 各領域で、小学校・保育園・看護学校・地域の薬剤師を対象に講義や研修会を実施した</p>
研究支援委員会	8回	<p><目的> スタッフが看護研究を意欲的かつ適切に実施できるように、研究の全過程にわたって支援する</p> <p><目標> 1. 看護研究の計画や実施において、スタッフが適切な倫理的配慮を行えるよう支援する 2. スタッフが、看護に関して科学的方法を用いて探求し、新しい知見を得るために、適切な指導と支援を行う</p> <p><活動内容> 1. 看護研究の倫理的配慮に対する指導・教育 2. 看護研究の計画・実施プロセスにおけるスタッフの支援</p>

皮膚・排泄ケア部会	11回	<p><目的> 皮膚排泄における専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 部会員が、皮膚排泄ケアに関する知識が習得でき部署への還元ができる 2. 院内勉強会を開催することでスタッフの褥瘡関連に関する知識が増える 3. 褥瘡発生時速やかにカンファレンスをおこない振り返りを行い、具体的な対策が立てれる 4. 褥瘡に関連するアセスメント記録の不備が昨年度より減少する <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚排泄ケア認定看護師が部会員対象に勉強会を実施した。部会員は自部署スタッフへ伝達講習を実施した 2. 勉強会の開催、10月褥瘡の基礎知識参加者48名、12月創傷被覆材について参加者46名であった。いずれも、98%が理解できたとの回答であった 3. 各部署で、部会員が中心となり褥瘡発生時のカンファレンス実施の推進に努めた 4. 褥瘡アセスメント記録に関して、毎月調査を行い不備率と不備の内容を検討した。広報誌にて看護スタッフへの周知を行った
呼吸障害ケア部会	11回	<p><目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸障害における専門知識を習得する 2. 呼吸障害におけるケアの質の向上を図る <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸障害におけるリスク感性を高め安全な呼吸ケアを提供できる 2. RST リンクナースとしてのRST活動の周知、知識の向上と定着化ができる 3. 事例検討を通し全スタッフの知識・技術の向上を図り質の高いケアを提供できる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸管理に関するヒヤリハットを共有し分析をもとに対策検討と周知を図った。ヒヤリハットを下に呼吸器安全チェックリストの修正、気切帯・マジックテープの安全性、院内対応の統一について検討中である 2. RSTと連携をとり、呼吸管理に関する勉強会の開催をした 3. 各部署の困りごとと疑問点を集約し事例検討を行った。RSTとも連携し必要な内容は各部署へフィードバックした
摂食障害ケア部会	11回	<p><目的> 摂食障害における専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食に関する知識を学び、各委員がリンクナースとしての役割を担うことができる 2. 事例検討を通して実際のケアを学び、病棟間及び外来との連携を充実させることで継続看護ができる 3. 口腔ケアが摂食ケアの基本の一つであることを全看護師が理解できる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各委員が自主的に摂食ケアについて学び、部署内で年に1回は勉強会が開催できた。また、部会内で委員が講師となって担当項目の講義を行った 2. グループ活動として口腔ケア、栄養剤の一覧表の作成、他部署の口腔ケアの見学を計画し実践できた 3. 毎回の部会で、部署での取り組みを発表し情報の共有をはかった。事例検討を計画通りに実施したことで情報交換ができ、さらに知識向上に繋げることができた

緩和ケア部会	11回	<p><目的> 緩和における専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和に関する最新の知識を学び共有する 2. 事例検討を行い、質の高い看護を提供する 3. 院内緩和ケア部会、緩和ケアチームと連携し、院内の緩和ケアの向上を図る <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 部会内緩和ケア勉強会の開催と各部署への伝達 2. 部会内事例検討の実施と各部署へのフィードバック 3. 院内緩和ケアチーム事例検討会への参加と事例提供
--------	-----	--

令和元年度 看護部院内研修

	研修会名	日程	時間	ねらい	参加数	講師		
新人	フォロー研修① 子どもの安全・感染	4月3日(水)	1日	1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけることができる 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	48名	竹井医療安全課長、中島CN、教育担当者		
	フォロー研修② 新生児・小児・母性の特徴	4月4日(木)	1日		48名	中谷CNS、梁CN、鳥井管理栄養士、教育担当者		
	フォロー研修③ 子どもの権利・プレパレーション・モニター操作・スキニング	4月5日(金)	1日		48名	栗林CNS、鎌田CN、コヴィディエン、教育担当者		
	フォロー研修④ 看護記録・電子カルテ操作演習・認証業務	4月9日(火)	1日		48名	武田看護部次長・宗和看護師長・富士通・教育担当者		
	フォロー研修⑤ 静脈注射・輸液ポンプ演習	4月10日(水)	1日		44名	谷澤医師、津田看護師、中島CN、テルモ、教育担当者		
	フォロー研修⑥ 防災・看護過程導入	4月22日(月)	AM0.5日		43名	中谷CNS、桑原設備主任		
	フォロー研修⑦ BLS・点滴管理	5月1日(水)	1日		43名	藤原CN、教育担当者		
	フォロー研修⑧ 周手術期看護・小児の呼吸と循環の基礎・鼻口腔吸引演習	5月24日(火)	1日		44名	新井CN、吉村CN、教育担当者		
	フォロー研修⑨ 褥瘡・摂食障害看護・気管内吸引・経管栄養管理演習	6月10日(月)	1日		44名	放射線部、検査部、森本CN、鎌田CN、教育担当者		
	フォロー研修⑩ 夜勤導入・家族看護	6月28日(金)	1日		42名	星尾看護師長補佐、教育担当者		
	フォロー研修⑪ ポジションニング・導尿	7月25日(木)	AM0.5日		42名	福田理学療法士、鎌田CN		
	フォロー研修⑫ PNS・コミュニケーション・ストレスマネジメント	8月23日(金)	PM0.5日		42名	岡田先生(外部講師)、伊丹看護師長、教育担当者		
	フォロー研修⑬ 看護技術発表・退院支援	9月20日(金)	1日		39名	深江家族支援地域連携部課長、教育担当者		
	フォロー研修⑭ 看護過程1	10月18日(金)	AM0.5日		41名	栗林CNS、板原看護師、教育担当者		
	フォロー研修⑮ 看護過程2	11月15日(月)	AM0.5日		40名	栗林CNS、板原看護師、教育担当者		
	フォロー研修⑯ 看護を考える	3月9日(月)	1日		40名	教育担当者		
	看護技術演習	5/7・21・27・6/18・8/20・9/4・17	各1時間		33名	佐藤看護師長、教育担当者		
	フィジカルアセスメント・救急蘇生研修	11/29・29・12/1・1/30・1/31	各1日		44名	藤原CN、坂本CN、インストラクター一他		
	既卒	既卒者研修①	5月23日(木)		2時間半	1. 職場への早期適応を図り、ワークライフハーパーモニーを基盤とし、専門職としてキャリア開発に主体的に取り組みことができる 1. 小児専門病院に必要な知識を習得し、実践につながる 1. ストーマケアに関する基礎知識を活用し、実践につなげられる 1. 血糖管理・糖尿病に関する基礎知識を活用し、実践つなげられる 1. 自己の役割を理解し、チームメンバーの一員として行動できる 1. フィジカルアセスメント能力を高め、看護実践に活用できる 1. 自らの看護実践を振り返り、自身がおこなった看護に意味を見出すことができる 1. 患者・家族・医療者の立場による価値観の違いを理解し、問題提起することができる 2. 倫理問題に気づき、こどもを主体とした看護を考えることができる 1. 退院後の生活を想定して、情報収集しアセスメントでき、助言を受けながら個別の看護計画を立案できる 2. 多職種と退院について情報共有ができる 1. 事例を通して自己の看護を振り返り、大切にしている看護を明確化できる	5名	檜垣副院長兼看護部部長、中村臨床心理士
		既卒者研修②	7月10日(水)		2時間		5名	浅井CNS
		既卒者研修③	10月29日(木)		2時間		5名	深江家族支援地域連携部課長
		経験者支援研修	1月28日(火)		2時間		2名	浅井CNS
		ストーマケア	10月30日(水)		110分		19名	鎌田CN
		血糖管理・糖尿病	10月30日(水)		70分		20名	泊CN
		メンバースhip/看護提供方式	5月13日(月)		各0.5日		35名	植山看護師長補佐・奈須看護師長補佐
		フィジカルアセスメント研修	5月30日(木)		各0.5日		39名	藤原CN
フィジカルアセスメント研修		7月24日(水)	各0.5日	40名	藤原CN			
リフレクション研修		9月14日(土)	PM0.5日	33名	東めぐみ教授(外部講師)			
ラダーII 研修	看護倫理	9月27日(金) 10月8日(火)	各0.5日	22名 18名	栗林CNS			
	退院支援研修	9月27日(金) 10月8日(火)	2時間	22名 18名	深江家族支援地域連携部課長			
ケーススタディ発表	12月9日(月) 12月25日(水)	3時間10分 2時間	16名 11名					

ラダーII 研修	プリセプターフォロー研修①	6月27日(木)	PM0.5日	1. プリセプターとしての役割を理解し、アソシエイトプリセプターの支援のもと、プリセプターと共育できる 1. プリセプターとしての役割を理解し、アソシエイトプリセプターの支援のもと、プリセプターと共育できる	23名	伊丹看護師長	
	プリセプターフォロー研修②	10月25日(木)	PM0.5日	1. 看護チームの中でリーダーシップが発揮できる 2. 自部署のPNSにおけるロールモデルになることができる	23名	佐藤看護師長	
ラダーIII 研修	リーダーシップ/看護提供方式	8月30日(金)	5時間	1. シミュレーション教育の知識を習得し、研修の企画運営に活かすことができる 2. シミュレーション教育の知識を習得し、自部署でシミュレーション教育が実践できる	25名	佐藤看護師長	
	シミュレーション研修	6月3日(月)	1日	1. 退院後の生活について、患者・家族と相談しながら個別性をふまえて、必要な介入を考え実践できる 2. 退院支援における意思決定に必要な情報提供や場の提供ができる	24名	梁CN、黒澤医師	
	退院支援研修	11月22日(金)	2時間	1. 部署の課題を把握し、自己の役割にむけて解決策にむけた計画立案・実践・評価ができる 1. 部署の課題を把握し、自己の役割にむけて解決策にむけた計画立案・実践・評価ができる	22名	深江家族支援地域連携部課長	
	マネジメント研修1	5月29日(水)	AM0.5日	1. 当院におけるPNSを推進できる	22名	檜垣副院長兼看護部長 松本看護部参事	
	マネジメント研修2	8月19日(月)	2時間	1. 看護リフレクションについて体験を通じて学び、ファシリテーションを学ぶことができる 2. 省察的実践者を育てていくための方法を知り、動機付けができる	21名	松本看護部参事	
ラダーIV・V 研修	看護提供方式	8月19日(月)	2時間	1. 退院調整のプロセスを経験し、退院支援における病棟看護師の役割を理解する	19名	奈須看護師長補佐	
	リフレクション研修	9月15日(日)	6時間	1. 自身の課題と部署の課題を明確にし、部署における退院支援推進者としての役割を理解する	28名	東めぐみ教授(外部講師)	
	アドバンス研修	6月11日(火)	2時間	1. 部署における課題について、スタッフが研究的に取り組めるよう指導・助言ができる	12名	深江家族支援地域連携部課長	
	アドバンス研修フォローアップ (前年度アドバンス研修参加者)	9月26日(木)	2時間	1. 小児の課題と部署の課題を明確にし、部署における退院支援推進者としての役割を理解する	11名	深江家族支援地域連携部課長	
	アドバンス研修フォローアップ 看護研究支援者研修	2月25日(火)	2時間	1. 摂食・嚥下の基本的なメカニズムについて知り、子どもにとってもっての食の意 味や食行動の理解を深めることができる 2. 当院に入院中の子どもたちの摂食・嚥下障害の原因について理解・推測し、 必要時、看護計画を立案及実施・展開することができる	12名	深江家族支援地域連携部課長	
スキル アップ 研修	創傷ケア	8月26日(月) 10月30日(水) 12月10日(水)	各0.5日 各0.5日 各0.5日	1. 小児によく見られるスキントラブル(褥瘡・医薬関連機器圧迫創傷・肛門 周囲皮膚炎・胃瘻周囲皮膚炎・テープ貼付による皮膚炎)に適切に対処す るために必要な知識と技術を習得する 1. 糖尿病の病態理解に基づいた支援を行うために、血糖調節機構と異常を説 明できる能力を身につける	9名	鎌田CN	
	糖尿病看護	8月26日(月) 10月21日(月) 12月16日(火)	各0.5日 各0.5日 各0.5日	2. 糖尿病の成因と病態を理解し、小児1型糖尿病の療養支援を実践できる自 信が持てる 3. 小児1型糖尿病患者に成長発達段階をふまえた看護の実際を考えることが できる	3名	泊CN	
	集中ケア	8月26日(月) 10月21日(月) 12月16日(火)	各0.5日 各0.5日 各0.5日	1. 適切な病態アセスメントと情報の共有、報告のスキルを身につけ、患者へ の適切なケアや治療につなげることで、児の急変や重症化、合併症を予防 することができる	12名	坂本CN	
	感染管理		8月28日(水) 10月30日(水) 12月10日(水)	各0.5日 各0.5日 各0.5日	1. ラダーII以上の看護師の感染対策に対するレベルが向上する 2. 現場における感染対策の風土を改善する 3. 受講者が、感染対策の基礎知識を基盤に、根拠を理解して看護ケアを展開 できる 4. 受講者が、役割モデルとして感染対策を実践、推進、スタッフへの指導が できる 5. 受講者が、常に問題意識をもって行動し、感染防止対策の改善策について 考えることができる	11名	中島CN・新谷CN

30. 薬剤部

1 薬剤部員異動

【転出者】次長	上田 里恵	県立淡路総合医療センター	(平成31年4月1日付)
課長補佐	大前 隆広	県立淡路総合医療センター	(平成31年4月1日付)
主任	三輪 祐太郎	県立ひょうごこころの医療センター	(平成31年4月1日付)
職員	中西 有璃	加東健康福祉事務所	(平成31年4月1日付)
【転入者】次長	垣尾 尚美	県立柏原病院(丹波医療センター)	(平成31年4月1日付)
課長補佐	寺崎 展幸	病院局経営課	(平成31年4月1日付)
主任	磯元 啓吾	県立尼崎総合医療センター	(平成31年4月1日付)
職員	井上 真穂	県立姫路循環器病センター	(平成31年4月1日付)
職員	池 啓伸	新規採用者	(平成31年4月1日付)
職員	石原 奈央子	新規採用者	(平成31年4月1日付)
職員	高橋 美賀	新規採用者	(平成31年4月1日付)
【退職】主任	山田 真人		(平成31年3月31日付)
職員	愛甲 佳未		(平成31年3月31日付)

2 2019年度活動報告

本年の主な取り組み概要を下記に記す。

(1) 地域連携への取り組み

連携の一環として、退院前の多職種で行われる在宅カンファレンスに参加し、主にその患者を対象として退院時に「施設間情報提供用紙」の交付を開始した。また、調剤薬局からの情報を受けるため、新たに「トレーニングレポート」を作成し、ホームページへ掲載することで、調剤薬局からより簡便に連絡を提供していただけるようにするなど、他施設との情報共有を開始した。

(2) 薬物治療の安全確保のためのヒヤリハット防止への取り組み

過去に当院で発生した事例を中心に、今年度は特に他院で対策後に再発した事例についても重点的に研修を行った。院内へは医療安全対策室とともに、処方量が10倍、10分の1量の疑義照会の減少を目指し、担当次長による研修会を行うなど、徐々に改善傾向が認められている。

(3) 抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の事務局としての活動

今年度の抗菌薬供給不安について、薬品の確保に努めると共に、ASTが中心となって治療への影響を最小限にとどめるよう院内の使用適正化に努めた。また、前年同様に院内外への研修会、勉強会の講師を務め、抗菌薬の適正使用についての知識の底上げを図ることも取り組んだ。

(4) 薬学生の長期実務実習及びレジデントの受け入れ

実務実習では7名の薬学生を、レジデントについては2名を受け入れ、教育、指導を行った。

(5) 人材育成と自己研鑽の推進

病棟業務を適正に進めるため担当病棟のグループ化を行い、情報共有を密に行うことでより患者の安全を図りながら、時間を有効に活用し指導件数の増加に努めた。また、新たに2名が「日病薬病院薬学認定薬剤師」の認定を取得した。

3 今後の展望

小児の薬物療法に関する部員全体の知識の向上に努め、病棟薬剤業務を中心として薬物療法の充実を図る。また、地域連携の強化も引き続き取り組んでいく。ヒヤリハット防止に向けて、部内の業務改善と院内への更なる医薬品の適正使用を推進する。

(1) 調剤件数

区 分	処 方 箋 数	合 計			内 用 薬			外 用 薬		
		処 方 数	調 剤 数	延 調 剤 数	処 方 数	調 剤 数	延 調 剤 数	処 方 数	調 剤 数	延 調 剤 数
入 院	61,738	91,170	102,189	799,539	58,412	61,816	336,572	32,758	40,373	462,967
外 来	18,250	22,232	36,680	277,042	9,402	21,359	136,965	12,830	15,321	140,077
計	79,988	113,402	138,869	1,076,581	67,814	83,175	473,537	45,588	55,694	603,044
一日平均	333.3	472.5	578.6	4,485.8	282.6	346.6	1,973.1	190.0	232.1	2,512.7

(2) 注射薬取扱件数

区 分	注 射 薬	
	処 方 箋 枚 数	延 本 数
入 院	127,203	772,816
外 来	12,141	21,438
計	139,344	794,254
一日平均	580.6	3,309.4

(3) 薬剤管理指導関係件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
薬剤管理指導	692	712	717	175	259	700	817	745	711	759	720	722	7,729
麻薬加算	8	18	8	1	0	4	3	2	2	1	7	9	63
退院指導	113	132	124	25	20	79	112	112	100	124	104	111	1,156

(4) 薬剤情報提供料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全 科	556	330	390	462	516	421	419	438	400	426	424	488	5,270

(5) 無菌製剤調製業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
抗がん剤	384	393	453	498	491	451	456	539	438	481	437	448	5,469
高カロリー	105	157	146	147	128	154	177	209	169	187	162	153	1,894
計	489	550	599	645	619	605	633	748	607	668	599	601	7,363

(6) TDM 件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全件数	14	14	9	0	0	4	21	6	4	2	6	34	114

(7) 院内D I 業務

① 電子メール・電子カルテ掲示板掲載による情報提供

掲 載 日	件 名
2019.1.25	医薬品・医療機器等安全性情報 No.358
2019.1.25	医薬品・医療機器等安全性情報 No.359
2019.2.6	医薬品安全対策情報 No.276
2019.2.6	医薬品・医療機器等安全性情報 No.360
2019.3.7	医薬品安全対策情報 No.277
2019.3.18	医薬品・医療機器等安全性情報 No.361
2019.4.19	医薬品安全対策情報 No.278
2019.5.7	医薬品・医療機器等安全性情報 No.362
2019.6.13	医薬品・医療機器等安全性情報 No.363
2019.6.25	医薬品安全対策情報 No.279
2019.7.5	医薬品・医療機器等安全性情報 No.364
2019.7.12	医薬品安全対策情報 No.280
2019.8.16	医薬品・医療機器等安全性情報 No.365
2019.8.16	医薬品安全対策情報 No.281
2019.9.25	医薬品・医療機器等安全性情報 No.366
2019.9.26	医薬品安全対策情報 No.282
2019.10.29	医薬品安全対策情報 No.283
2019.10.30	医薬品・医療機器等安全性情報 No.367
2019.11.13	医薬品安全対策情報 No.284
2019.11.26	医薬品・医療機器等安全性情報 No.368
2019.12.31	医薬品安全対策情報 No.285

② 主な問い合わせ内容

問 い 合 わ せ 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> ・注射薬配合変化について ・注射薬溶解後の安定性について ・注射薬のフィルター透過性について ・食品と薬剤の相互作用について ・内服薬の飲み易い飲み方について ・冷所保存医薬品の常温での安定性について 	<ul style="list-style-type: none"> ・抗がん剤の適切な投与方法について ・医薬品の副作用について ・血液製剤の投与方法について ・小児薬用量について ・錠剤の粉碎可否について

(8) 院内製剤

① 内用液剤

製 剤 名	製 剤 量 (単 位 /mL)
内服用ルゴール液	180
0.1%ミダゾラムシロップ	10000

② 軟 膏

製 剤 名	製 剤 量 (単 位 /g)
バリアー	40000
10% テストステロン軟膏	810
0.4% エストラジオール軟膏	300

③ 外用液剤

製 剤 名	製 剤 量 (単 位 /mL)
アセモトール	7000
1/2 カプトドロップ	1520
0.5% アトロピン点眼	0
25% グリセリン液	35800
20% 硝酸銀	0
30% 硝酸銀	40
40% 硝酸銀	0
10% ピオクタニン青液	150
1% ピオクタニン青液	0
0.2% ピオクタニン青液	150
30% アルコール	0
50% アルコール	0
ツェンテール液	50

④ 予製剤

製 剤 名	製剤量 (単位 /g)	製 剤 名	製剤量 (単位 /g)
(倍散→倍散)		ベラプロスト (× 50000)	0
0.01% ジゴシン散	100	ヒドロクロチアジド散 (× 10)	250
(錠→散)		フラジール散 (× 4)	0
インデラル散 (× 100)	200	オキシブチニン散 (× 100)	0
グリチロン散	300	コートリル散 (× 20)	2400
ロンゲス散 (× 100)	1400	デカドロン散 (× 1000)	1000
レバチオ散 (× 50)	4500	カタプレス (75 μ g/g)	2000

31. 検査・放射線部（検査部門）

1. 人事異動（平成 31 年 4 月 1 日付）

【転出者】

課長補佐	山崎 美保	がんセンターへ
主任	寺前 正純	病院局企画課へ

【転入者】

課長補佐	四元 寿江	西宮病院より
職員	清水 悠衣	尼崎総合医療センターより

2. 活動報告

(1) 臨床検査業務の充実

新病院移転後、患者数の増加とともに臨床検査件数も増加し、2019 年は対前年比 112.9%であった。新規業務として、産科外来の尿一般検査が追加された。

(2) ヒヤリハット防止への取り組み

ヒューマンエラーや環境・設備の不備に対する感受性を高めるため、危険予知トレーニング（KYT）を行い、行動目標を立案した。また、医療安全リーダーを中心に「指差し呼称 100%」を目指し、医療安全の向上に努めた。

(3) 院内感染対策

感染対策委員会事務局として本委員会を定期開催（年 12 回）した。感染対策チーム（ICT）の活動に力を入れ、感染管理加算 I 取得を継続している。

(4) 安全な輸血療法

輸血療法委員会事務局として本委員会を定期開催（年 6 回）した。適正な輸血療法の推進、血液製剤の有効利用を図り（廃棄率 1.0%）、輸血管理料 I 取得を継続している。

(5) 人材育成

学会や研修会・セミナー等に積極的に参加して知識を向上させ、県立病院相互研修制度を利用して技術の習得や運用改善を行った。また、業務到達度チェックリストを活用して各業務を評価し研鑽に努めた。

(6) ISO 15189 認定への取組み

ISO 15189 とは、臨床検査室に特化した国際的な第 3 者認定で、認定取得は検査結果の信頼性の向上や医療安全への貢献に繋がる。検査部門は、2019 年 10 月より、ISO 15189 の要求事項に基づき品質マネジメントシステムの運用を開始した。

2020 年秋の受審、そして 2021 年春の認定を目指す。

〈認定・資格〉

超音波検査士（循環器）	5名	超音波検査士（消化器）	4名
超音波検査士（体表臓器）	1名	超音波検査士（健診）	1名
認定血液検査技師	1名	認定輸血検査技師	1名
細胞検査士	2名	診療情報管理士	1名
臨床工学技士	1名	栄養管理士	1名
二級臨床検査士（微生物）	1名	二級臨床検査士（血液）	1名
有機溶剤作業主任者	1名		
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	2名		

3. 次年度の課題

医療法の一部改正では精度管理の充実、がんゲノム医療では病理検体の取り扱いの厳密化が求められている。これらを実現するためには、ISO 15189 認定の取得が効果的であり、2020年度は一致団結して取り組んでいく。

また、安全で適切な輸血療法の啓蒙や ICT（院内感染対策チーム）の活動などに積極的にかかわり、チーム医療を推進していく。

(1) 臨床検査実施状況

*メディスコードを用いた集計に変更

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
一般	3,033	1,977	3,493	3,393	2,968	3,125	4,393	4,444	3,328	3,571	3,188	3,609	40,522
血液	12,887	12,552	14,404	14,135	14,557	14,648	16,199	15,786	13,109	14,071	13,273	14,480	170,101
細菌	1,939	1,523	1,702	1,767	1,773	1,867	1,794	1,971	1,849	1,790	1,653	1,667	21,295
血清	5,282	5,049	5,887	5,540	5,480	5,827	6,641	6,410	5,349	5,722	5,215	5,720	68,122
生化学	51,215	49,092	57,433	55,545	56,162	56,153	64,690	66,737	53,434	57,042	53,472	58,011	678,986
病理	164	137	155	186	177	162	210	182	132	169	155	190	2,019
生理	1,113	1,212	1,687	1,420	1,090	1,085	1,571	1,983	1,299	1,332	1,240	1,343	16,375
外部委託	3,434	3,431	4,258	4,701	3,446	4,005	3,477	4,696	4,277	3,689	4,033	3,670	47,117
合計	79,067	74,973	89,019	88,706	85,653	86,872	98,975	102,209	82,777	87,386	82,229	88,690	1,046,556

(2) 時間外（日、当直）検査実施状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年度累計
休日日勤帯	839	681	749	925	1,174	827	706	781	916	654	721	882	7,586
準夜帯	739	695	905	1,035	944	940	863	829	722	923	756	698	7,710
深夜帯	1,840	1,945	1,807	2,244	2,409	2,270	2,593	2,198	1,864	2,170	1,900	2,041	19,689
合計	3,418	3,321	3,461	4,204	4,527	4,037	4,162	3,808	3,502	3,747	3,377	3,621	34,985

(3) 血液製剤使用状況

製剤		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
RCC	使用量 単位数	232	239	220	318	308	266	332	202	201	215	207	281	3,021
	廃棄量 単位数	2	2	2	0	0	4	0	4	8	8	0	0	30
	廃棄率 %	0.9	0.8	0.9	0.0	0.0	1.5	0.0	1.9	3.8	3.6	0.0	0.0	1.0
FFP	使用量 単位数	94	85	100	124	95	79	147	65	45	53	59	115	1,061
	廃棄量 単位数	0	1	3	5	0	2	4	2	2	0	0	0	19
	廃棄率 %	0.0	1.2	2.9	3.9	0.0	2.5	2.6	3.0	4.3	0.0	0.0	0.0	1.8
PC	使用量 単位数	955	1,370	1,495	1,420	1,265	970	1,310	940	830	1,090	970	1,190	13,805
	廃棄量 単位数	0	0	10	0	0	0	0	0	20	0	0	0	30
	廃棄率 %	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.2
ALB	単位数	837	771	644	573	879	731	889	1,016	819	739	681	701	9,280
FFP/RBC比		0.39	0.33	0.44	0.39	0.31	0.29	0.43	0.32	0.22	0.25	0.28	0.41	0.34
ALB/RBC比		3.61	3.14	2.58	1.79	2.40	2.73	2.29	4.57	4.03	3.21	3.00	2.50	2.88

(4) 血液培養検査

実施件数	3,095本
陽性率	7.1%

(5) 薬剤耐性（2018年の薬剤感受性試験実施株を対象）

黄色ブドウ球菌に占めるMRSA率	40.0%
大腸菌に占めるESBL産生率	25.2%
緑膿菌のイミペネム耐性率	3.0%
腸内細菌科細菌および緑膿菌のカルバペネマーゼ産生菌分離率	0.0%

32. 検査・放射線部（放射線部門）

1. 人事異動 平成 31 年 4 月 1 日付

【転出者】	主任放射線技師	原 誠	加古川医療センターへ
	職員	佐藤 衣莉	加古川医療センターへ
【転入者】	課長補佐	時 克志	西宮病院より
	職員	爰河 恵梨	淡路医療センターより

2. 活動状況

1) 放射線検査業務実績（表 1、2、3）

令和元年の放射線検査実績は、総検査人数 47,089 人で、前年より 3,066 人増加した。入院患者数が 2,329 人増加し、外来患者数も 737 人増加した。

時間外検査人数は 5,962 人で、前年より 993 人増加した。日勤検査帯と準夜帯検査人数が、それぞれ 834 人と 174 人増加し、深夜帯人数は、15 人減少した。

2) 機器の更新（表 4）

平成 22 年に導入され、8 年間稼働した医用画像システム（3 次元画像処理ワークステーション）を更新した。

3) 医療事故防止の取組み

ポータブル撮影における患者、部位間違いの防止に取り組んでおり、指差し呼称、認証機器を用いた認証作業の徹底を図り、患者・部位間違いとも減少している。

また、MRI 室への金属持ち込み防止に取り組む、金属探知機の適切な使用を推進する講習会を診療放射線技師や担当看護師に対して開催するなど、事故のない検査実施に努めている。

造影剤投与時の安全確認の徹底に取り組む、投与前に担当医、看護師と共に生理食塩水のテスト注入を行うなど、安全性向上に努めている。

4) チーム医療の推進

チーム医療推進の一環として疑義照会や依頼内容の確認を積極的に行っている。検査歴や過去画像の確認、患者の観察やコミュニケーションをとるなど、正確な検査結果を提供するよう努めている。また、疑義照会の分析結果やパニック画像報告の事例を部内で情報共有を行った。

5) 資質向上と教育

職員の資質向上を図るため、学会・研修会への積極的な参加と研究発表を行っている。

- ・学会・研修会発表 : 5演題
- ・学会・研修会等への参加 : 成育医療研修会(診療放射線技師コース)、日本放射線技術学会学術大会、小児放射線技術研究会、日本核医学技術学会、兵庫県放射線技師会学術大会、県立病院放射線技師部会

<認定資格>

第1種放射線取扱主任者	1名	放射線機器管理士	1名
医療画像情報精度管理士	2名	臨床実習指導教員	2名
情報処理技術者	1名	放射線治療専門放射線技師	1名
放射線治療品質管理士	1名	X線 CT 認定技師	1名
肺がんCT検診認定技師	1名	Ai 認定診療放射線技師	1名
救急撮影認定技師	1名	超音波検査士(循環器、消化器)	1名

3. 令和2年の課題

医療法施行規則の一部を改正する省令に基づき、診療用放射線に係る安全管理体制を整備し、医療被ばくの線量管理・記録システムの運用を開始し、検査におけるX線被ばくの低減を進める。また、放射線機器管理を適正に行い、チーム医療の推進を図り、医療事故防止について継続して取り組み、機器の安定稼働および安心安全な検査を継続する。

(1) 放射線検査人数 (表 1)

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
単純撮影	X線撮影	外来	1423	1355	1842	1593	1385	1332	1879	2067	1517	1493	1326	1546	18758
		入院	135	126	130	116	91	111	127	147	104	102	117	133	1439
		計	1558	1481	1972	1709	1476	1443	2006	2214	1621	1595	1443	1679	20197
	ポータブル	外来	46	49	49	68	47	54	46	55	55	68	47	36	620
		入院	933	810	969	1025	1030	994	996	872	873	930	804	910	11146
		計	979	859	1018	1093	1077	1048	1042	927	928	998	851	946	11766
単純撮影合計		外来	1469	1404	1891	1661	1432	1386	1925	2122	1572	1561	1373	1582	19378
		入院	1068	936	1099	1141	1121	1105	1123	1019	977	1032	921	1043	12585
		計	2537	2340	2990	2802	2553	2491	3048	3141	2549	2593	2294	2625	31963
造影撮影	消化器	外来	19	19	16	24	18	20	20	27	25	23	20	22	253
		入院	19	17	18	27	18	24	28	23	11	24	24	21	254
		計	38	36	34	51	36	44	48	50	36	47	44	43	507
	脳血管	外来													0
		入院	1	2	1	0	1	1	3	2	2	1	0	0	14
		計	1	2	1	0	1	1	3	2	2	1	0	0	14
	心臓血管	外来													0
		入院	21	26	31	29	21	20	37	31	28	29	23	22	318
		計	21	26	31	29	21	20	37	31	28	29	23	22	318
	その他血管	外来													0
		入院	1	6	2	1	1	0	0	1	1	0	0	0	13
		計	1	6	2	1	1	0	0	1	1	0	0	0	13
	泌尿器系	外来	21	31	24	28	28	35	39	41	32	36	40	30	385
		入院	8	6	4	3	3	4	2	3	6	6	0	4	49
		計	29	37	28	31	31	39	41	44	38	42	40	34	434
	その他造影	外来	1	0	1	3	2	1	1	1	3	2	0	3	18
		入院	3	5	3	3	3	3	1	3	5	4	2	2	37
		計	4	5	4	6	5	4	2	4	8	6	2	5	55
造影撮影合計		外来	41	50	41	55	48	56	60	69	60	61	60	55	656
		入院	53	62	59	63	47	52	71	63	53	64	49	49	685
		計	94	112	100	118	95	108	131	132	113	125	109	104	1341
CT検査		外来	116	121	128	117	102	133	161	166	128	118	103	106	1499
		入院	108	100	95	108	114	104	133	100	101	112	97	120	1292
		計	224	221	223	225	216	237	294	266	229	230	200	226	2791
MRI検査		外来	182	185	255	222	149	182	240	273	246	207	173	216	2530
		入院	68	74	51	62	72	54	59	50	55	70	62	66	743
		計	250	259	306	284	221	236	299	323	301	277	235	282	3273
核医学検査		外来	14	15	22	11	13	14	18	21	15	13	13	23	192
		入院	9	6	4	8	8	7	7	8	6	12	1	6	82
		計	23	21	26	19	21	21	25	29	21	25	14	29	274
放射線治療		外来												0	
		入院	1	47	42	0	15	14	19	31	19	36	25	5	254
		計	1	47	42	0	15	14	19	31	19	36	25	5	254
超音波検査		外来	452	451	594	454	420	412	560	636	440	467	475	514	5875
		入院	82	78	106	83	83	94	92	76	83	102	78	80	1037
		計	534	529	700	537	503	506	652	712	523	569	553	594	6912
骨塩定量		外来	7	6	28	19	12	8	20	55	18	13	18	26	230
		入院	1	4	3	5	3	7	10	1	2	9	1	5	51
		計	8	10	31	24	15	15	30	56	20	22	19	31	281
総合計		外来	2281	2232	2959	2539	2176	2191	2984	3342	2479	2440	2215	2522	30360
		入院	1390	1307	1459	1470	1463	1437	1514	1348	1296	1437	1234	1374	16729
		計	3671	3539	4418	4009	3639	3628	4498	4690	3775	3877	3449	3896	47089

(2) 時間外 時間帯別検査人数 (表 2)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日勤帯検査人数	302	234	282	321	386	263	236	231	252	240	193	256	3196
業務時間(時)	53	41	50	50	71	44	41	42	45	40	38	43	556
準夜帯検査人数	163	139	183	213	210	185	169	179	189	197	151	135	2113
業務時間(時)	49	41	58	66	57	62	53	53	58	60	46	44	644
深夜帯検査人数	49	51	61	63	59	68	58	54	58	49	42	41	653
業務時間(時)	20	23	27	27	27	35	26	24	25	24	19	19	294
検査人数(計)	514	424	526	597	655	516	463	464	499	486	386	432	5962
業務時間(計)	121	105	134	143	154	141	120	118	128	123	102	105	1494

(3) 時間外 検査種別検査人数 (表 3)

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ポータブル	394	292	377	420	434	359	311	317	327	338	268	304	4141
一般撮影	63	88	94	117	144	100	89	100	117	102	72	91	1177
C T	49	38	49	47	60	52	59	41	51	35	43	28	552
T V	6	1	3	6	10	4	2	5	4	8	1	6	56
M R I	2	5	3	7	6	1	2	1	0	3	2	3	35
アンギオ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	514	424	526	597	655	516	463	464	499	486	386	432	5962

(4) 新病院放射線機器 一覧表 (表 4)

機器名	製造・販売業者	装置名	購入年月
MRI 装置	フィリップス	Ingenia 1.5T CX	H28年3月
MRI 装置	フィリップス	Achieva 1.5T Nova Dual	H19年11月
全身用 CT 装置 (320 列)	東芝メディカルシステムズ	Aquilion PREMIUM	H23年3月
放射線治療位置決め用CT装置(80列)	東芝メディカルシステムズ	Aquilion PRIME	H28年3月
血管連続撮影装置	フィリップス	Allura Xper FD20/20	H21年11月
FPD システム (12 式)	富士フイルムメディカル	CALNEO Smart	H28年3月
長尺 FPD 装置 (2 台)	富士フイルムメディカル	CALNEO GL	H28年3月
泌尿器用 X 線テレビ装置	東芝メディカルシステムズ	Ultimax-i	H28年3月
消化器用 X 線テレビ装置	日立メディコ	CUREVISTA	H24年9月
診断用 X 線撮影システム (2 台)	島津製作所	RADspeed Pro	H28年3月
医用画像システム	富士フイルムメディカル	VINCENT	H31年2月
パノラマ・セファロ X 撮影装置	モリタ	Veraviewepocs 2DB	H28年3月
ガンマカメラ	GE 横河メディカル	Infinia	H20年12月
リニアック	シーメンス旭メデイテック	ONCOR Impression	H22年3月
治療計画装置	ELEKTA	Xio	H22年3月
移動型 X 線撮影装置 (2 台)	日立メディコ	Sirius 130HP	H28年3月
移動型 X 線撮影装置 (3 台)	日立メディコ	Sirius 130HP	H23年2月
線量モニタリングシステム	米国 Sun Nuclear	1137 型 IVD2	H28年3月
RI 対応安全キャビネット	日本エアータック	BHC-1307 II A2-RI-S	H28年3月
X 線骨密度測定装置	HOLOGIC	Horizon W	H28年3月
アンギオ用動画サーバー	ネクシス	Nahri AQUA	H28年3月
超音波画像診断装置	日立アロカメディカル	Ascendus	H28年3月
超音波診断装置	GE ヘルスケア・ジャパン	LOGIQ E9 with Xdclear	H25年12月
超音波診断装置	GE ヘルスケア・ジャパン	LOGIQ S8	H24年3月
外科用 X 線 C アーム装置	シーメンス	SIREMOBIL Compact-L	H23年2月
外科用 X 線 C アーム装置	シーメンス	ARCADIS Orbic	H26年4月
造影剤自動注入器 (アンギオ)	シーマン	ZONE MASTER MODELA	H21年12月
造影剤自動注入器 (MRI)	根本杏林堂	Sonic Shot GX	H19年11月
造影剤自動注入器 (MRI)	根本杏林堂	Sonic Shot 7	H28年3月
造影剤自動注入器 (CT)	根本杏林堂	Dual Shot GXV	H23年9月
造影剤自動注入器 (CT)	根本杏林堂	Dual Shot GX7	H28年3月
造影剤自動注入器 (TV)	シーマン	ZONE MASTER SR Fusion	H28年3月
キュリーメータ	アロカ	IGC-7E	H20年12月
分注器	安西	AZ-2000N	H20年12月

33. 栄養管理部

1. 主な活動報告

- ・平成 29 年 5 月より管理栄養士 1 名の増員を図り、アレルギー科患者等の栄養指導の充実を図った。
- ・NST（チーム医療）の円滑な稼働
- ・医療事故防止対策に関する取り組み（ヒヤリハット報告）
- ・褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- ・IT化の推進（給食オーダーリングシステムの安定稼働）
- ・患者給食のサービス向上のための給食イベントの開催「病棟夏祭り」等の実施
- ・知識や技能の資質を向上させるための調理・栄養関係研修会への参加と課内研修会の充実
- ・栄養管理業務に関する研究の成果として学術学会等への積極的な参加と発表

2. これからの展望

令和 2 年に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養管理課の基盤業務と共に診療部門との更なる連携強化を図った栄養指導・相談を行うなど患者サービスの充実・向上に努める。

3. 給食

(1) 調製乳 月別延数

① 調製乳 人数

(単位 人)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
調乳のみ人員(人)		1,772	1,717	1,914	1,832	2,018	2,188	1,803	1,495	1,412	1,533	1,442	1,375	20,501	77.4
調乳食事人員：調乳(人)		39	42	48	47	46	41	50	38	45	52	51	76	575	2.2
小計		1,811	1,759	1,962	1,879	2,064	2,229	1,853	1,533	1,457	1,585	1,493	1,451	21,076	79.6
調乳・食事人員(食事)		435	448	487	446	444	440	498	409	543	465	426	359	5,400	20.4
計		2,246	2,207	2,449	2,325	2,508	2,669	2,351	1,942	2,000	2,050	1,919	1,810	26,476	100.0

(注) 調乳・食事人員・・・調乳(人) 調製乳と食事が重複するもの

② 調製乳 種類及び本数

(単位 本)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
13% レーベンスミルク		8,759	8,572	9,485	10,744	10,434	10,724	9,529	7,499	8,141	8,901	8,301	6,528	107,617	57.6
15% LW		1,057	1,743	2,015	946	1,957	3,026	2,204	1,385	946	1,767	2,229	2,697	21,972	11.8
特殊乳	13% LW				4						1			5	
	6% レーベンスミルク		30											30	
	9% レーベンスミルク	63												63	
	10% レーベンスミルク	14								24				38	
	11% レーベンスミルク	161		98										259	
	12% レーベンスミルク	14												14	
	15% レーベンスミルク	389	676	538	703	779	506	447	377	896	863	596	542	7,312	
	16% レーベンスミルク	7	196	220		105	126	181	57	8		58	36	994	
	17% レーベンスミルク	576	92	150	432	479	589	410	691	851	1,130	614	660	6,674	
	18% レーベンスミルク	324	84	38										446	
	19% レーベンスミルク	558	468	635	478	279	270	220	21			48		2,977	
	21% レーベンスミルク					27								27	
	22% レーベンスミルク			13	270	279	180							742	
	12% E赤ちゃん	6	46	5	35	65	105			50	25			337	
	13% E赤ちゃん	150	108	63	13	79			36	128		7	1	585	
	13% ARミルク	326	161	180	192	207	95	240	323	208	63	69	64	2,128	
	15% ARミルク		12											12	
	17% ARミルク										90	117	279	486	
	13% MA -1			18										18	
	14% MA -1											151	99	250	
	15% MA -1	382	756	537	82	320	617	456	749	518	263	264	548	5,492	
	16% MA -1							189	153					342	
	17% MA -1							123	117	147	210	174	155	926	
	5% MCTフォーミュラ							9	36					45	
	14% MCTフォーミュラ	266	332	380	589	745	1,063	1,733	1,887	1,923	1,601	933	1,182	12,634	
	15% MCTフォーミュラ				27	63	9							99	
16% MCTフォーミュラ		63	123		280	287		64			27	139	983		
17% MCTフォーミュラ				81									92	173	
18% MCTフォーミュラ		54		99									9	162	
20% MCTフォーミュラ		27	93	70									54	244	
22% MCTフォーミュラ	279	252	440										971		
14% 必脂MCT(721)										36		29	65		
14% 必脂MCT										108	216		324		
17% 必脂MCT										45			45		
13% 8806 (低カルウム中リンフォーミュラ)			6						12				18		

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%	
特殊乳	10% エレンタール					10								10		
	13% エレンタール	24	48		8						6			86		
	15% エレンタール	18			4	4	15							41		
	17% エレンタール					8		54						62		
	18% エレンタール	12												12		
	19% エレンタール					20								20		
	20% エレンタール	72	4					6	51					133		
	23% エレンタール									227	169				396	
	25% エレンタール					4			18						22	
	26% エレンタール					24	24								48	
	27% エレンタール								12						12	
	5% エレンタールP												71		71	
	6% エレンタールP								27						27	
	7% エレンタールP					26	18		16			8			68	
	10% エレンタールP	308	16	198			27				27	6			582	
	12% エレンタールP							27	107	9					143	
	13% エレンタールP	306	86	250	18	153	116	193			208	26		9	1,365	
	14% エレンタールP								58			66			124	
	15% エレンタールP	26				270	126			40	68				530	
	16% エレンタールP	120	364	432	390	104						26			1,436	
	17% エレンタールP	63		18		23	63	9							176	
	18% エレンタールP	281	49	49	68	108	147	106			18	9	30	218	1,083	
	20% エレンタールP	258	200	32	20	81		6			12	6	134	37	786	
	21% エレンタールP	30		9											39	
	22% エレンタールP													8	8	
	24% エレンタールP	60	7					36							103	
	25% エレンタールP	20				33		5	10						68	
	26% エレンタールP	96	156	51				101	72		42	104	77	82	781	
	27% エレンタールP					60									60	
	8% ケトンフォーミュラ					65	40								105	
	10% ケトンフォーミュラ			5	15										20	
	11% ケトンフォーミュラ				15										15	
12% ケトンフォーミュラ				25										25		
13% ケトンフォーミュラ				30										30		
15% S-23 蛋白除		90	252	100										442		
特殊乳 小計	5,209	4,377	4,833	4,246	4,453	4,372	4,774	4,763	5,297	4,691	3,586	4,243	54,844	29.3		
濃厚流動食	GFO		8		12	11	27	42	40	31	12		1	184		
	アイソカルジュニア	228	169	116	171	140	124	113	105	145	160	70	94	1,635		
	MA-ラクフィア											5		5		
	ペプタメン スタンダード	22	22	4	30	29	29	40	33	29	16	1	9	264		
	濃厚流動食 小計	250	199	120	213	180	180	195	178	205	188	76	104	2,088	1.1	
滅菌水			17	18	28	38	115	90	27		22	14	369	0.2		
合計	15,275	14,891	16,470	16,167	17,052	18,340	16,817	13,915	14,616	15,547	14,214	13,586	186,890	100.0		
空瓶 大 200 c c	6,316	6,674	4,854	5,748	6,032	6,908	7,529	7,547	7,394	8,145	8,240	7,140	82,527	55.0		
空瓶 小 100 c c	5,280	4,520	5,592	5,184	6,480	5,952	5,556	6,048	5,424	5,328	6,168	5,976	67,508	45.0		
合計	11,596	11,194	10,446	10,932	12,512	12,860	13,085	13,595	12,818	13,473	14,408	13,116	150,035	100.0		

(2) 患者食事数

① 患者食事数

(単位 食)

区 分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
常食	学 童 食	2,300	2,577	2,679	2,417	2,086	2,231	3,097	3,607	2,464	2,565	2,297	3,156	31,476
	妊 産 婦 食	1,055	746	1,286	1,447	1,575	1,319	1,571	1,334	1,389	1,585	1,406	1,368	16,081
	小 計	3,355	3,323	3,965	3,864	3,661	3,550	4,668	4,941	3,853	4,150	3,703	4,524	47,557
軟菜・幼児・ 離乳	幼 児・ 離 乳 食	2,811	2,980	3,587	3,359	3,487	3,317	3,220	3,244	3,741	3,606	2,997	3,072	39,421
	軟 菜・ 流 動 食	779	1,044	1,130	1,011	1,105	1,304	1,292	1,651	1,321	1,474	1,274	1,139	14,524
	小 計	3,590	4,024	4,717	4,370	4,592	4,621	4,512	4,895	5,062	5,080	4,271	4,211	53,945
非加算特別食	ペ ー ス ト 食	143	153	192	244	193	156	214	310	308	341	259	148	2,661
	ア レ ル ギ ー 食													0
	自 由 食													0
	口 蓋 裂 食	20	1	75	43	20	1	83	203	6	33	21	16	522
	扁 摘 術 後 食	154	165	149	152	19	155	225	111	149	205	170	159	1,813
	移 植 対 応 食	439	507	543	366	425	427	411	397	293	430	514	572	5,324
	ク ロ ー ン 病 食													0
	低 残 査 食	7	23	9	33	43		7	3			54	14	193
	肥 満 食	61		15										76
	ケ ト ン 食					1	6		40	63			5	115
	減 塩 食													0
	そ の 他 特 別 食	322	306	426	405	386	604	549	509	428	477	565	555	5,532
小 計	1,146	1,155	1,409	1,243	1,087	1,349	1,489	1,573	1,247	1,486	1,583	1,469	16,236	
加算特別食	腎 臓 食	171	259	202	167	178	117	90	5	31	104	39		1,363
	肝 臓 食	103	17	121	12	21	40	209	196	184	91	63	117	1,174
	糖 尿 病 食	12	20	77	22	3	70	98	28	5	1	12	56	404
	乳 び 胸 食			34						6				40
	心 臓 食													0
	低ナトリウム食													0
	検 査 食 (加)													0
	妊 娠 中 毒 症 食	109	83	69	65	67	67	8	24	27		4	33	556
	妊 産 婦 糖 尿 病 食													0
	妊 産 婦 肝 臓 病 食													0
	高 尿 酸 血 症 食													0
小 計	395	379	503	266	269	294	405	253	253	196	118	206	3,537	
合 計		8,486	8,881	10,594	9,743	9,609	9,814	11,074	11,662	10,415	10,912	9,675	10,410	121,275
検食等	保 存 食	186	168	186	180	186	180	186	186	180	186	180	186	2,190
	検 食	261	235	261	252	261	252	259	260	253	260	252	261	3,067
	合 計	447	403	447	432	447	432	445	446	433	446	432	447	5,257
総 合 計		8,933	9,284	11,041	10,175	10,056	10,246	11,519	12,108	10,848	11,358	10,107	10,857	126,532

② 患者おやつ数

(単位 食)

区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
おやつ数	2,199	2,397	2,703	2,426	2,335	2,394	2,711	2,964	2,544	2,658	2,283	2,514	30,128

(3) 患者外食事数 (保育食)

(単位 食)

区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
保育児食	102	99	141	104	124	131	143	182	122	146	176	186	1,656

4. 栄養指導 月別種類別件数

(単位 件)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1型糖尿病		36	39	47	44	40	40	45	45	44	44	41	45	510
2型糖尿病		14	8	13	12	8	14	13	12	11	13	9	12	139
妊娠糖尿病			1		1					1			1	4
肥満		13	18	21	11	16	19	9	21	16	16	11	16	187
腎臓病		2	2	3	2	1	3	3	2	4	2	4	4	32
妊娠高血圧症候群				1			1							2
心臓病			4	7	3	2	2	3	2	5	7	3	4	42
肝臓病				1		1		1						3
膵臓病														0
フェニルケトン尿症		1	2	1	2	2	1	3		3		3	1	19
ガラクトース血症		1		2			2			1			1	7
脂質異常症		7	6	4	6	7	3	5	6	4	12	4	5	69
高尿酸血症				1									1	2
胃潰瘍食														0
低残渣食			1											1
小児食物アレルギー		35	26	29	36	42	39	46	45	35	45	37	39	454
貧血食		1		5	1		1		1			1	5	15
移植対応食		3	2	3	1	2		7	5	4	3	3	4	37
てんかん食(ケトン食)						1			1	1	1		1	5
がん		8	9	5	7	9	5	6	8	7	12	7	7	90
摂食・嚥下機能低下		2	2	1	1	4	2		1	2				15
ミキサー食(胃ろう)		3	1	1	1	1	2	4		1	2	1		17
低栄養		5	4	3	4	6	5	8	4	4	5	2	5	55
調乳(標準ミルク)														0
調乳(高濃度ミルク)		1	1	2			1	1		1				7
調乳(特殊ミルク)		2			1		2	1					1	7
その他		13	10	8	7	11	12	16	13	10	15	10	9	134
合計(件)		147	136	158	140	153	154	171	166	154	177	136	161	1,853
件数	外来	120	108	129	111	118	109	116	117	121	125	96	110	1,380
	入院	27	28	29	29	35	45	55	49	33	52	40	51	473
合計(件)		147	136	158	140	153	154	171	166	154	177	136	161	1,853
人数	外来	252	222	262	222	252	218	242	246	255	257	197	228	2,853
	入院	51	57	64	67	73	102	122	104	67	116	88	114	1,025
合計(人)		303	279	326	289	325	320	364	350	322	373	285	342	3,878

(注) 件数に比べ人数が多いのは、患者1人1件において、本人以外の親等にも栄養指導を行い、その人数に含めているためである。

34. 家族支援・地域医療連携部

I. 組織

2019年は、各スタッフが毎日担当病棟でのカンファレンスに参加し、入院時から退院への支援が行えるよう関わっている。各病棟との連携もさらに強化され、家族の支援に努めることができた。

また、地域との連携にも力を入れて、積極的に地域の医療機関との情報交換に努め、新たに連携する医療機関も増加した。

部長	宅見晃子（総合診療科医師）
課長	深江登志子（看護師）
看護師	渡邊千恵 坂本郁子 山田純子（4月から） 藤定睦子
MSW	小橋諒子 松尾さおり 進藤美佳

予約センターでは、委託業者が受診予約を担当している。

II. 2019年活動

< 2019年の主な活動 >

1. 新たな紹介病院、診療所の登録
 - 1 病院訪問による紹介依頼
2. 広報活動の推進（ホームページ更新、年報作成、広報誌「げんきカエル」作成）
3. 在宅療養支援の推進
 - 1 訪問看護ステーションとの連携強化（カンファレンス開催・研修会開催）
 - 2 地域医療機関との連携強化（カンファレンス開催・病院訪問）
 - 3 制度活用支援・医療機器等の購入支援
 - 4 周産期センターからの退院児への支援
 - 5 在宅支援病棟での在宅支援の後方支援
4. 院内各科の診療支援
 - 1 院内他部署への連絡調整・院外関係機関への連絡調整
 - 2 返書作成の支援
 - 3 家族背景へのケースワーク
5. 患者家族の不安への対応
 - 1 医療制度・福祉制度の説明
 - 2 在宅での医療資源・福祉資源の紹介
 - 3 各種手続きのサポート
 - 4 その他、治療や生活全般の不安に対する不安の解消への手助け

6. 発達支援・養育支援

- 1 虐待防止活動（委員会開催、地域との連携、家族支援）
- 2 事故予防活動（事故予防相談・地域との連携）
- 3 育児相談活動（評価、関わり方指導）

7. 教育支援

- 1 教育機関とのカンファレンス

<今後の活動目標>

- 1 医療的ケアを必要とする児と家族が安心して在宅生活を送れるように支援する
- 2 高度専門医療機関としての役割の広報に務め、地域との連携を強化していく
- 3 地域医療支援病院として、地域医療機関の研修に貢献するよう努める
- 4 疾病を抱えた子どもと家族の育児支援に努める
- 5 事故予防・虐待予防を含めた子育て支援に努める
- 6 子どもと家族の不安の解消に努める
- 7 入院時から退院後の生活を見据えた支援を行い、地域とともに子どもと家族の生活を支える
- 8 広報活動を強化し、患者獲得に努める

家族支援・地域医療連携部

表1 支援内容別業務統計

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年同月累計
1	療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助	228	241	221	212	198	236	282	279	270	238	257	268	2930	2704
2	退院援助	47	45	33	27	16	36	46	23	31	33	32	28	397	526
3	社会復帰援助	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4
4	受診・受療援助	14	17	24	24	23	22	24	26	13	15	17	17	236	153
5	経済的問題の解決・調整援助	57	61	54	66	54	59	75	65	48	67	57	58	721	817
6	地域活動	19	20	8	6	6	8	6	7	6	7	1	4	98	146
7	養育支援(虐待予防を省く)	3	9	5	8	7	8	8	7	5	5	3	4	72	75
8	虐待・虐待予防関連	3	2	2	5	3	5	7	3	1	1	2	4	38	49
9	一時保護	2	0	1	1	0	0	0	1	0	1	2	0	8	3
10	がん患者の社会的問題の解決・調整	35	32	90	75	61	69	66	67	65	73	57	64	754	421
11	その他	4	7	1	1	6	2	2	0	1	1	0	0	25	26
	合 計	412	434	441	425	374	445	516	478	440	441	428	447	5281	4925

表2 機関別延べ連絡調整数

	機 関	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年同月累計
1	教育機関	5	16	14	5	6	3	2	4	3	1	1	1	61	45
2	保健所・保健センター	54	43	57	44	40	50	65	65	48	60	39	51	616	509
3	福祉事務所	8	10	10	11	6	9	10	4	6	5	2	8	89	142
4	こども家庭センター(児童相談所)	33	10	9	25	2	13	23	8	7	10	19	6	165	152
5	児童福祉施設	10	16	11	6	10	17	16	8	10	12	12	15	143	102
6	訪問看護ステーション	53	55	60	31	40	59	54	40	51	74	63	53	633	530
7	地域医療機関	38	64	46	40	46	44	66	75	56	68	52	64	659	485
8	地域生活支援センター	4	2	2	0	3	1	5	7	1	1	2	9	37	15
9	相談支援専門員連携				8	5	1	10	6	0	1	2	3	36	
	合 計	205	216	209	170	158	197	251	217	182	232	192	210	2439	2054

表3 関係機関カンファレンス件数

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年同月累計
1	被虐待児等症例検討会	2	0	0	2	1	3	4	1	1	2	0	0	16	24
2	施設入所カンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0
3	在宅病棟移行前カンファレンス	0	1	0	2	2	1	3	1	2	2	0	0	14	18
4	在宅病棟カンファレンス	19	15	12	12	19	20	22	9	16	24	14	18	200	184
5	外泊前カンファレンス	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1
6	退院前カンファレンス	4	4	1	1	3	5	4	2	2	5	4	3	38	33
7	教育機関カンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
8	臓器提供Aカンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	その他	1	1	0	4	3	2	1	0	1	1	1	2	17	15
	合 計	26	22	13	21	28	31	34	15	24	34	19	23	290	276

4. その他

	機 関	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年同月累計
1	入退院支援加算3実績	30	30	26	32	32	33	38	41	23	43	39	32	399	355
2	入退院支援加算I実績				19	11	15	18	12	21	21	13	10	140	
3	電話相談(入力分以外)	5	3	7	13	13	8	16	7	13	16	15	10	126	113
	合 計	35	33	33	64	56	56	72	60	57	80	67	52	665	468

- ・業務実績に関しては相談件数・関係施設との連携件数・退院支援に関するカンファレンス件数共に増加傾向である。
- ・今年度より入退院支援加算1の施設基準を取得し、入退院支援の充実を図っている。

家族支援・地域医療連携部（予約センター）

予約センターは委託職員が従事し、主に初診患者の予約や受診報告書の発送、再診患者の予約業務を行っている。

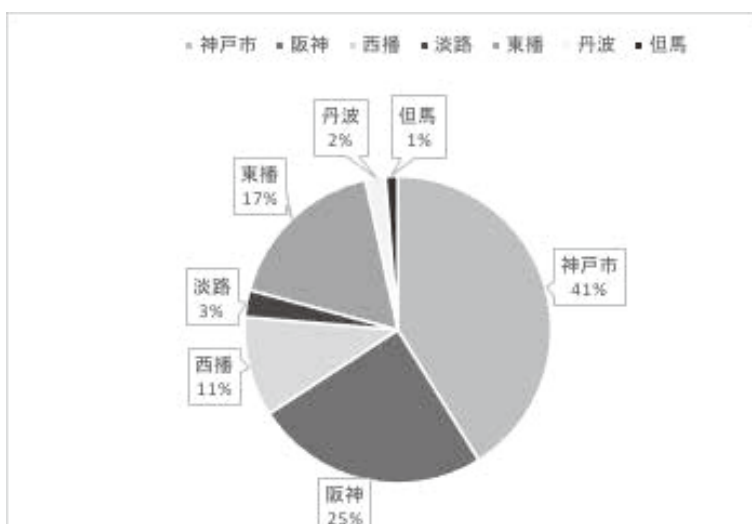
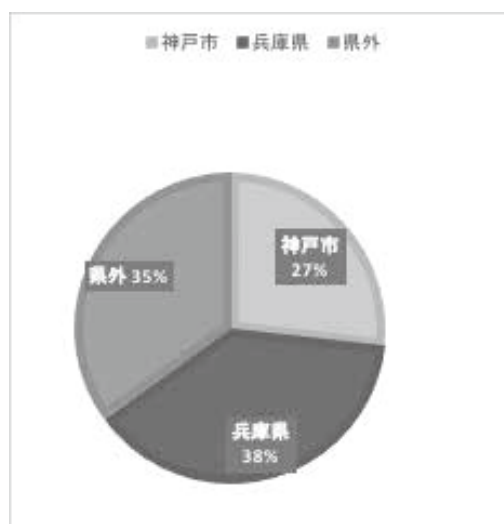
1. 業務内容

延べ数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計・平均	平成30年度
メール相談対応数	13	7	10	2	6	11	6	1	8	10	10	5	89	88
（内訳）各科医師相談	2	0	1	0	3	2	2	0	4	2	3	1	20	13
地域医療連携・他 部署で返答	11	7	9	2	3	9	4	1	4	8	7	4	69	75
セカンドオピニオン数	4	1	6	5	3	4	9	6	2	5	3	1	49	88
受診報告書発送数 （紹介状件数）	435	435	452	524	451	537	592	558	487	513	494	446	5924	5756
返書率	91.2	91.5	91.7	89.7	92.2	91.3	92.1	91.7	92.4	91.7	91.5	92.7	91.6	93.6
紹介医療機関全登録件数	24	18	25	24	24	26	24	23	23	17	24	20	248	300
新患 FAX 予約受付件数	361	406	528	414	431	503	547	438	412	401	417	352	5210	4840
新患電話予約受付件数	304	267	274	238	301	292	355	293	303	340	276	270	3513	3526
新患予約キャンセル受 付件数	11	12	19	10	17	9	20	26	19	20	23	18	204	210
再診対面・電話予約件数	2215	2016	1891	2012	2551	2207	2145	1855	1981	1922	1789	1876	24460	25844
その他 予約日確認な どの電話件数	673	699	710	744	768	703	874	759	638	648	569	692	8477	9191

※新患、再診ともに予約受付件数内に変更件数含む

2. 紹介元新規医療機関 * 新規医療機関の累計 5464 件（平成17年～令和1年12月）

	神戸市	阪神	西播	淡路	東播	丹波	但馬	合計	神戸市	兵庫県	県外
地域別登録件数（累計）	1463	877	374	101	620	75	46	5464	1463	2093	1908



紹介医療機関の新規登録数に関しては減少しているが、新患受付件数は増加傾向にある。地域別の紹介医療機関については全体の35%が県外からの紹介であり専門病院としての特性と考える。

35. ME 室

【スタッフ紹介】

主査 横山 真司 体外循環技術認定士 3学会合同呼吸療法認定士
 三坂 勇介 体外循環技術認定士 3学会合同呼吸療法認定士
 秋山 正太 3学会合同呼吸療法認定士
 土谷 海雲
 井原 智弘
 橋本 健太郎
 川相 俊太
 木場 貴子
 西田 匡志

【業務実績】

医療機器管理業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
院内修理	15	14	46	28	28	23	41	23	37	128	96	31	510
依頼点検	13	14	20	17	22	10	14	13	12	9	6	2	152
終業・定期点検	1840	1699	1912	1896	1893	2030	2308	2229	1920	2104	2049	22290	24134
メーカー修理・点検	2	1	1	0	1	1	3	2	2	0	0	1	14
CICU・PICU・ICU呼吸器ラウンド	72	72	76	70	84	70	84	85	79	80	80	79	931
病棟ラウンド	8	3	7	8	5	7	10	9	6	3	4	2	72
NICU呼吸器ラウンド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	38	38	111
アンビューバルブ点検	78	50	60	72	65	57	73	38	41	53	66	37	690
アイノフロー点検・準備	0	0	0	5	7	5	17	12	7	16	15	12	96

アイノフロー：一酸化窒素ガス供給システム

臨床業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
体外循環	16	14	12	13	19	14	17	12	8	8	12	21	166
ECMO	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	1	1	6
人工心臓・ECMOスタンバイ	6	2	0	1	3	1	2	1	4	4	1	0	25
血液浄化	0	21	13	5	13	0	3	7	4	4	1	0	82
自己血回収	16	15	13	14	20	16	17	12	10	10	12	22	177
MEP	0	1	1	1	2	1	0	0	3	2	0	1	12
SPECTRA	0	4	4	2	4	2	1	1	2	2	5	2	26
BMP	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
患者移送補助	0	0	0	3	0	0	2	0	1	1	1	0	8

各種委員会活動

仕様策定委員会 リスクマネジメント委員会
 感染対策委員会 手術室運営委員会
 集中治療室運営委員会 医療ガス安全管理委員会
 在宅医療機器検討委員会 呼吸療法委員会（RST）
 呼吸ケア部会

36. 医療安全管理室

医療安全管理室は、医療安全部長を室長、管理局長、看護部長を副室長、副院長、診療部長、薬剤部長、医療安全対策担当課長、実働メンバーとして13名の総括リスクマネージャーと総務部長、総務部次長で構成され、院内の安全管理を担っている。

Ⅰ. 主な活動内容

1. ヒヤリハット報告書に基づく評価・対策・周知について

- 1) 総括リスクマネージャー会議を毎週木曜日に開催し、送られてきたヒヤリハット報告書に基づき評価・分析、解決策の検討を行った。
- 2) 月1回のリスクマネジメント部会では、各部門が前月分のヒヤリハット内容と評価・対策を報告し、院内で起こったヒヤリハットについて集約し検討を行った。改善策を手順化し共有した。各科・各部門の医療安全の取り組み（指差し呼称遵守率100%を目指す）について、報告・検討した。
- 3) リスクマネジメント部会での報告・検討結果を医療事故防止委員会に報告した。

2. Morbidity & Mortality カンファレンスを2019年10月31日に開催した。

3. 患者が重症化するまでに早期に異常を察知し、METコールを行い対応することでコード99症例は、今年度は2件で年々減少している。

4. 院内ラウンドは、総括リスクマネジメント部会で1回/月定期的開催を行った。

5. ヒヤリハット報告

- 1) 2019年のヒヤリハット報告件数は、3683件で前年度より732件増加した。
- 2) レベル別報告数においては、レベル0は1152件31%（前年度より182件増）、レベル1は2235件61%（前年度より391件増）、レベル2は195件5%、レベル3aは46件1.2%であった。
- 3) レベル3bの医療事故報告が3件と前年度より2件増加した。内容は、輸液の血管外漏出と手術に関連するものであった。
- 4) 部門別にみると、看護部2913件79%（前年度より604件増）、診療部348件9.4%（前年度より123件増）、薬剤部45件1.2%（前年度より14件増）、放射線部207件5.6%（前年度より42件増）、検査部63件2.0%（前年度より3件増）、リハビリ43件1.1%（前年度より10件減）、栄養管理課37件1%（前年度より9件増）、臨床工学技士21件0.5%（前年度より58件減）、医事企画課6件0.1%（前年度より5件増）であった。
- 5) ヒヤリハット報告において診療部の報告が9.4%と上昇した。オカレンス報告も52件1.4%と報告件数は増加した。
- 6) ヒヤリハットについてリスクマネジメント部会で報告を行っているが、今後は部門・科を超えて検討する場を持ち安全な医療の提供を目指すことが課題である。

【レベル別報告件数】

レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	オカレンス
1152件(31%)	2235件(61%)	195件(5%)	46件(1.2%)	3件(0.08%)	52件(1.4%)

【部門別ヒヤリハット報告件数】

診療部	看護部	検査部	放射線部	薬剤部	臨床工学技士	リハビリ	栄養指導課	医事課
348件(9.4%)	2913件(79%)	63件(1.7%)	207件(5.6%)	45件(1.2%)	21件(0.5%)	43件(1.1%)	37件(1.0%)	6件(0.1%)

6. 医療安全地域連携加算 相互評価

- 1) I - I 連携：川崎病院（10月24日） 三菱神戸病院（11月14日）
- 2) I - II 連携：神戸徳洲会病院（2月20日）

II. 主な改善に向けた取り組み

1. 今年度の医療安全の取り組みとして「指差し呼称100%を目指す」とし、6月より各科・各部門で取り組みを行った。毎月のリスクマネジメント部会で報告検討を行い、目標の100%には到達しなかったが、72→90%に上昇した。今後も啓発活動を継続し、ヒヤリハットの減少を目指す。
 - 1) 啓発のために、職員に向けてポスターを作成し、病棟に掲示した。
 - 2) 電子カルテに、「6R 指差し呼称」のシールを貼付した。
 - 3) 「リーダーバッジ」作成し各科・各部門に配布した。リスクマネージャーが「本日の医療安全リーダー」を任命し、1日そのリーダーが中心となり取り組みを推進した。
 - 4) 病棟安全ラウンドにおいて、「医療安全リーダー」バッジの着用確認と、どのように活用しているか聞き取りを行った。
 - 5) 外来診察時の患者確認（診察室のドアに、入室時フルネームと生年月日と名乗って頂くよう掲示した）。
2. 尿道留置カテーテル挿入時の尿道損傷に対して、2年前にマニュアルを作成したが、再度マニュアルを見直し修正・周知した。
3. 造影剤投与時の血管外漏出が続いていたため、手順を作成し周知した。造影剤投与前に必ず全症例生食によるルートチェックを行うこととした。
4. 輸液の血管外漏出により、皮膚移植を必要とした医療事故が起った。刺入部及びその周囲の皮膚の観察ができるようフィルム剤の見直しや、観察項目の周知を行った

III. 医療安全研修会、勉強会の開催

テーマ	開催日	参加者
各部門の活動報告 オカレンスレポート制度導入と心臓血管外科手術の振り返り	3月11日	643名(83.9%)
医療安全研修会(eラーニング 4項目) ①患者確認と指差し呼称 ②外来での患者取り違えによる誤注射 ③電話での不十分な意思疎通による配膳ミス ④医師の処方ミス	8月1日～ 9月30日	全職員 811名(100%)
新採用医師安全教育	4月1日	47名
新採用看護師安全教育	4月3日	48名
新採用看護師安全フォローアップ研修	9月20日	43名
新採用補助者教育	採用時	約6名

IV. 医療安全情報の提供

日本機能評価機構からの医療安全情報の提供を月1回行った。

37. 感染対策室

室長：笠井正志（感染症内科）、感染管理認定看護師 中島由佳

感染予防対策に関する最高の審議機関である感染対策委員会は、委員長を副院長、副委員長を感染症科部長、看護部次長とし、委員を院長、総務部長、検査技師長、薬剤部長、栄養管理課長、看護部長、医療安全対策担当課長、感染管理認定看護師 2 名の他、診療部 8 名、看護部 4 名、検査部 3 名、薬剤部 1 名、放射線部 1 名、臨床工学技士 1 名、リハビリ部門 1 名、医事企画課 1 名で構成され、院内の感染管理を担っている。

感染対策の実働部隊である感染対策チーム（ICT）は、看護部 2 名、診療部 4 名（委員会外から 2 名）、検査部 1 名、薬剤部 1 名で活動している。

抗菌薬治療の適正化を支援・推進する実働部隊である抗微生物薬適正使用チーム（AST）は、薬剤部 4 名、診療部 9 名（委員会外から 4 名）、検査部 1 名、看護部 1 名で活動している。

活動内容

1. 定期的な会議、ラウンドの実施

1) 院内感染対策委員会（毎月第 2 金曜日）

病原微生物の分離状況、抗緑膿菌活性薬の使用状況、ICT および AST 活動などを報告、検討

2) ICT 関連

・ ICT 会議（毎週木曜日）

病原微生物の分離状況、ICT ラウンド結果の共有と検討、その他事項について検討

・ ICT ラウンド（毎週木曜日）

環境ラウンド、手指衛生直接観察ラウンドを実施

・ デバイスサーベイランスカンファレンス（毎週水曜日）

デバイス関連感染症の判定の他、感染対策の評価、改善策の検討と実施を CICU および PICU スタッフとともに実施

・ 微生物検査室ミーティング（毎日）

血液培養陽性例、迅速グラム染色結果、培養結果、ウイルス迅速検査結果、感染症科フォロー患者、感染対策が必要な患者などについて情報共有

3) AST 関連

・ AST 定例会議（毎月第 1 月曜日）

DOT 報告、ケースカンファレンス報告、その他抗菌薬適正使用のための取り組みについて報告

・ AST コアメンバー会議（毎週木曜日）

抗菌薬適正使用のための取り組み、AST 研修会の企画検討

・ AST ケースカンファレンス（毎週月・水・金）

特定抗菌薬（抗緑膿菌活性薬、抗 MRSA 薬）使用患者及び抗菌薬長期使用患者の抗菌薬適正使用について検討

2019 年度実績（2019 年 4 月～2020 年 2 月）

抗緑膿菌薬使用症例	抗 MRSA 薬使用症例	抗菌薬長期使用症例	その他
341	83	154	30

2019年度に取り組んだ事項

- ①ショートカンファレンスによる抗MRSA薬、抗緑膿菌薬等の使用状況モニタリング
- ②抗微生物薬適正使用に関する職員対象研修会を8回開催
- ③第2回兵庫抗菌薬適正使用のための地域医療連携研修会を開催
- ④抗菌薬供給制限への対応
- ⑤薬剤耐性菌対策の推進

2. 職員教育

4月	新規採用医師感染対策オリエンテーション、看護師新人フォロー研修、新規採用者防護具着脱演習
5月	AST研修会①、清掃・リネン業務職員対象研修会、
7月	第1回全職員対象感染対策研修会
7月～8月	第1回全職員対象感染対策研修 e-learning
9月	AST研修会②、看護師新人フォロー研修
10月	インフルエンザ研修会
11月	第2回全職員対象感染対策研修会
12月～2月	第2回全職員対象感染対策研修 e-learning
12月	ASTセミナー
2月	AST研修会③

3. 手指衛生遵守率向上のための取り組み

看護部感染対策委員会と連携して直接観察を実施し、結果を院内全体に広報した。必要時、現場での直接指導を行った。並行して手指消毒剤の使用量調査も継続した。また、ノンアルコール手指消毒剤の導入と皮膚保護クリームを導入した。

手指衛生遵守率の推移（％）

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
67	71	79	79	64	56	60	56	77	58	64	73

4. 各種サーベイランスの実施

CICU・PICUにおけるデバイスサーベイランス

	中心静脈カテーテル関連 血流感染症（/1000 デバイス日）			尿道留置カテーテル関連 尿路感染症（/1000 デバイス日）			人工呼吸器関連肺炎 （/1000 デバイス日）		
	2017	2018	2019	2017	2018	2019	2017	2018	2019
CICU	0.0	0.6	0.0	5.9	6.5	10.2	3.6	4.1	1.5
PICU	0.0	0.0	1.1	1.1	6.0	2.0	5.9	5.1	4.9

集中治療室感染対策チームおよび現場スタッフとともに予防バンドルを運用、尿道留置カテーテル挿入時の手順見直しを行ったが尿道留置カテーテル関連尿路感染症の低減には至らなかった。麻酔科や手術室の協力を得て、手術時の尿道留置カテーテル挿入の手順見直しを行った。

7F病棟におけるCLABSIサーベイランスと心臓血管外科SSIサーベイランスを開始した。

その他：一般外科消化器手術SSIサーベイランス、AURサーベイランス

5. 各種ガイドライン、マニュアルなどの作成

先天性風疹症候群対応マニュアルの作成、輸入感染症対策ガイドラインの作成、感染経路別予防策ガイドラインの改定

6. 感染症発生時の対応

- ・アウトブレイクが4回発生した。

4月：7W病棟のノロウイルス胃腸炎、4月：5E病棟のRSウイルス感染症

8月・11月：新生児病棟のMRSA保菌

- ・感染経路別予防策が必要な患者の発生時、適宜対応した。

空気感染予防策	1件	帯状疱疹濃厚接触1
飛沫感染予防策	119件	インフルエンザ85、RSウイルス感染症23、百日咳3、マイコプラズマ感染症1、アデノウイルス感染症6、A群溶連菌感染症1
接触感染予防策	47件	ノロウイルス胃腸炎17、ロタウイルス胃腸炎13、CDI3、ウイルス性胃腸炎8、腸管出血性大腸菌感染症(O157含む)5、EKC1
空気・接触感染予防策	7件	水痘4、播種性帯状疱疹1、麻しん疑い2
飛沫・接触感染予防策	79件	救急病棟におけるRSウイルス感染症79

職員のインフルエンザ発症は31例（アウトブレイクや患者への伝播なし）

7. 感染対策に関する各種相談への対応

予定入院患者の水痘ワクチン関連44件、患者・家族の感染症9件、職員の感染症6件、患者ケア2件、害虫5件、その他20件

8. 各種啓発活動

ICT NEWSの発行（8回）、院内の感染症発生情報（随時）、市中の感染症情報配信（随時）

9. ファシリティマネジメントとして、ファシリティ部門への助言と感染対策の強化

各種業務（清掃、リネン、滅菌）の定例会への出席

10. 職業感染防止の活動

- ・新規採用職員の抗体検査とワクチン接種を実施

抗体採血	麻疹ワクチン	水痘ワクチン	風疹ワクチン	ムンプスワクチン	MRワクチン
224名	74名	4名	18名	56名	18名

- ・職員対象のインフルエンザワクチンの接種（11月）
- ・職員対象のB型肝炎ワクチンの接種 34名（新規22名、）
- ・針刺し・切創、血液・体液曝露についての事象発生時の対応
30件（針刺し22件、切創4件、血液・体液曝露4件）

11. 院外活動

- ・感染防止対策加算関連

加算1：相互ラウンド実施（神戸市立西市民病院を8月に訪問、10月に神戸中央病院が来院）

加算2：みどり病院と施設間カンファレンス開催（5月、9月、11月、2月）

- ・小児総合医療施設協議会（JACHRI）小児感染管理ネットワーク多職種会議（2月）
- ・県立病院感染対策会議出席（11月）
- ・県立病院学会運営協力（テーマ：院内感染対策）
- ・神戸市新型インフルエンザ等対策病院連絡会参加（8月、11月、2月）

38. 褥瘡管理室

褥瘡対策委員会は、委員長を形成外科医師、副委員長を看護部次長とし、委員として小児外科医師、看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士、医事課職員により構成され、院内の褥瘡対策及び創傷ケアを検討し、トータルケアを行うことにより、創傷ケアの効果的な推進を図ることを目的としている。平成24年度より褥瘡管理者を置き、褥瘡ハイリスクケア患者ケア加算を導入した。

主な活動内容

1. 褥瘡対策状況

褥瘡対策委員会を月に1回開催し、褥瘡対策に関する報告、情報の共有を行い、褥瘡ケアの評価や対策の検討をおこなう。

1) 褥瘡発生率

2.35%（発生率は過去17年で最も低い値。過去の発生率は2.5%～4.0%）

褥瘡発生率＝褥瘡発生数÷総新規入院数

2) 褥瘡推定発生率

1.47%（過去12年で最も低い値 過去の発生率は1.4～2.7%）

月の1日を調査日とし、

褥瘡推定発生率＝（調査日に褥瘡を保有する患者数－院外発生患者数）÷調査日の入院患者数

3) 褥瘡リスクアセスメント実施数 6371件（月平均531件）

4) 褥瘡ハイリスク項目に該当する患者数（特定数）1125件（月平均94件）

5) 褥瘡予防治療計画件数 1125件（月平均94件）

6) 褥瘡ハイリスク患者実施件数 1051件（月平均88件）

7) 褥瘡発生詳細

褥瘡発生件数 156件

褥瘡発生個数 174個（自重関連褥瘡は56個、医療関連機器圧迫創傷は118個）

褥瘡発生件数の多い部署

PICU（45）、CICU（40）、ICU（19）、5東（11）、5西（8）

2. 褥瘡回診・カンファレンス状況

週1回木曜日午後に形成外科医師と皮膚・排泄ケア認定看護師（月1回は褥瘡対策委員会のメンバーも加わり拡大褥瘡回診としている）により、褥瘡発生者を中心に『褥瘡回診』と『カンファレンス』をおこなっている。回診、カンファレンスでは褥瘡予防治療計画書をもとに、褥瘡予防、治療方法を評価・検討している。

褥瘡回診・カンファレンス実施回数46回 患者数235名（のべ）

3. 新人看護師対象の褥瘡講義の実施

4. 領域別看護ケア向上委員会における事例検討と勉強会の実施

5. 各部署カンファレンスや病棟会における褥瘡勉強会の実施

39. がん相談支援室

がん相談支援室は、小児がん医療センター長のもと、血液腫瘍科医師、小児看護専門看護師、医療福祉相談員が小児がんに関する相談に応じている。

スタッフ

医師 石田敏章（血液腫瘍内科医師）
 看護師 中谷扶美・栗林佑季（小児看護専門看護師）
 医療福祉相談員（MSW） 松尾さおり、進藤美佳
 医師クラーク 松本

平成 31 年 / 令和元年 主な活動内容

1. 院内外の小児がんと診断された子どもと家族に対する対面相談、電話相談
 - ・小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供
 - ・小児がん患者の発育、教育及び療養上の相談
 - ・地域における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供 等
2. 小児がんの子どもと家族の療養環境の改善
 - ・がんサロン（名称：nanaくつろぎサロン）の開催（2か月に1回）
 - ・アロマサロンの開催（ボランティアによるマッサージの提供）の開催（毎月1回）
 - ・高校生の学習支援体制の検討、復学支援カンファレンスへの参加
 - ・相談室通信の発行（2か月に1回）
3. 院内外の医療従事者への小児がんに関する情報提供
 - ・小児がん看護研修会の企画、運営（小児がん看護推進ワーキング、緩和ケアチームとの共同開催）
 - ・近畿ブロック小児がん拠点病院相談員研修の開催（近畿ブロック5病院共催）
 - ・問い合わせに対する相談対応
4. 小児がんを対象とする患者会との調整窓口
5. 相談支援室会議
 - ・月1回開催、小児がんに関する情報の共有、相談支援室の活動の評価・検討
6. 小児がん中央機関、その他の小児がん拠点病院、成人がん診療病院との連携体制強化
 - ・小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会への出席、メーリングリストへの参加
 - ・中国四国ブロック小児がん相談支援部会（TV会議）への参加
 - ・兵庫県がん診療連携協議会情報・連携部会、神戸市がん相談支援センター連絡会への参加

平成 31 年 / 令和元年 がん相談支援室相談対応件数

	会議資料	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
がん相談件数 (院内)	相談総件数	55	45	64	68	76	50	54	57	56	65	73	50	713
	1) 対面相談	55	44	63	68	76	48	51	54	52	58	68	50	687
	2) 電話相談	0	1	1	0	0	2	3	3	4	7	5	0	26
院外電話相談		4	0	1	1	0	0	3	0	0	0	0	2	12
	計	59	45	65	69	76	50	57	57	56	65	73	52	725

40. 院内学級（神戸市立友生支援学校 病弱部門 みなと分教室・わらび訪問学級）

1. 体制

従前までは長期入院のため登校できない小中学生に、友生支援学校「わらび訪問学級」としてこども病院にも訪問指導を行っていたが、こども病院のポートアイランド移転(2016年)に伴い、友生支援学校の病弱部門の教員がこども病院の院内学級「みなと分教室」として常駐するようになった。こども病院に入院中の小中学生は院内学級「みなと分教室」に在籍し、市内の他病院に入院中の児童生徒は従前通り訪問指導として「わらび訪問学級」に在籍している。

院内学級の児童生徒は教室で授業を受けられるようになったとは言うものの、児童生徒の病状からほとんどがベッドサイドでの訪問指導を受けている状況であった。2017年度より、それまで教室に登校することを許可されていなかった児童生徒も、一定以上の抵抗力がある状態になれば、主治医の判断により登校できるようになり、教室での授業もかなり多くなった。

保護者への入級説明、小中学校との連絡調整などについては主治医や病棟の紹介を経て当部署が行っている。

なお、院内学級の職員は、こども病院外で入院治療中の児童生徒に対しては、従前通り訪問指導を継続している。

2. 在籍状況

2019年度 院内学級（みなと分教室） 在籍状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間実在籍者数
小学部	13	15	15	17	15	14	14	13	14	12	11	10	48
中学部	7	8	6	8	9	6	6	5	7	6	7	5	24
合計	20	23	21	25	24	20	20	18	21	18	18	15	72

※その月に1日でも在籍していれば1人と数える。また、「わらび訪問学級」の児童生徒は含んでいない。

3. 次年度の課題

2019年度末から、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休校となり、2020年度6月の学校再開まで、従来の教育活動を行うことができなくなった。さらにその間、面会制限もあり、教職員が直接児童生徒や保護者と接することができなかった。2020年度6月より、通常授業を再開しているが、今後も同じような事態が起きるかもしれない。そこで、院内学級として今後、ICTを活用した教育活動に本格的に取り組んでいかなければならないと考えている。2020年度中には、児童生徒1人に1台のパソコンかタブレットなどの端末が配布される予定である。そのため、病室内のWi-Fi環境の整備などのハード面の充実と、教職員及び、児童生徒のICT活用のスキルを向上させていく必要がある。様々な技術を取り入れ、児童生徒の学びの可能性を広げていきたい。

41. 医師事務作業補助者（医師クラーク）

医師の業務負担軽減を図り、診療に専念できる環境をつくることを目的に、2008年の診療報酬の改定に伴い医師事務作業補助体制加算が定義された。施設基準を満たした場合、医師事務作業補助者を採用することにより診療報酬の対象となる。

兵庫県立こども病院では2012年に本格的に導入され8名でスタートしたが、その後段階的に人員が補充され2019年現在21名が在籍。

医局に隣接した医局クラーク室で、診療部長の指導の下、診療科からの依頼を受け業務を行っている。2016年5月に病院が移転し電子カルテが導入されて以降、外来診療補助に携わる業務が増し、他部署とのコミュニケーションを図りながら業務に取り組んでいる。

（業務内容）

- ・ 外来診療補助
電子カルテへの入力補助、病名登録、診察・検査予約
患者様へのご説明、ご案内等
診察・手術・検査に関する電話 等
- ・ 文書作成補助
診断書、主治医意見書、生命保険会社の手続き書類、紹介状等の作成補助 等
- ・ 診療に関するデータ整理、管理に関する事務
新規患者、手術などの台帳管理及び入力、統計 等
- ・ 治験資料、学会等からの各種調査資料等の作成、管理に関する事務
- ・ 院内がん登録、手術症例登録等の統計、調査に関する事務
- ・ 研修やカンファレンスのための資料作成等の準備事務
- ・ その他所属長が必要と認める事務
症例検討会、講演会、抄読会等の準備
文献・画像等の取り込み、及び管理
医師宛の外線電話への対応 等

IV 学会・研究・教育活動

1) 書籍

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
小児の救急・搬送医療 「ネフローゼ症候群」	救急総合診療 科(総診)	南川将吾、 野津寛大、 飯島一誠		「小児内科」「小児外科」編 集委員会	小児内科増刊号	644	647	東京医学社	2019年
上肢外傷	救急総合診療 科(救急)	松井鋭		鉄原健一	こどもの外科救急	130	137	日本医事新報社	2019年12月
緊急輸血－主に超大 量出血への対応	救急総合診療 科(救急)	松井鋭		植松悟子	小児の救急・搬送医療 (小児内科増刊号)	171	175	東京医学社	2019年11月
静脈ラインの確保と輸 液の基本	救急総合診療 科(救急)	梶原伸介		小児科編集委員会	小児一次救急マニュアル	888	896	金原出版株式会社	2019年4月
電撃傷	救急総合診療 科(救急)	林卓郎		植松悟子	小児の救急・搬送医療 (小児内科増刊号)	241	244	東京医学社	2019年11月
頭部外傷	救急総合診療 科(救急)	林卓郎		鉄原健一	こどもの外科救急	65	80	日本医事新報社	2019年12月
顔面外傷	救急総合診療 科(救急)	染谷真紀		鉄原健一	こどもの外科救急	81	87	日本医事新報社	2019年12月
敗血症・敗血症性ショック (免疫療法の実際①) 皮下免疫療法	救急総合診療 科(救急)	染谷真紀		植松悟子	小児の救急・搬送医療 (小児内科増刊号)	684	688	東京医学社	2019年11月
小児の血液培養	アレルギー科	田中裕也	単著	診断と治療社	チャイルドヘルス			診断と治療社	2019年7月
小児の血液培養	感染症内科	笠井正志	単著	伊藤保彦、他	小児科	373	388	金原出版株式会社	2019年4月
小児感染症のトリセツ	感染症内科	笠井正志、 伊藤健太	共著	笠井正志	小児感染症のトリセツ			金原出版株式会社	2019年4月

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
病院における隔離予防 対策のポイント	感染症内科	金澤美弥子、 新井裕子、 遠藤康伸、 笠井正志、 笠松悠、 鞍谷沙織、 小塚雄民、 小森敏明、 佐々木富子、 白阪琢磨、 杉山香代子、 張慶哲、 藤田直久、 三浦正義、 明神翔太、 矢野篤次郎、 山之上弘樹、 由良温宣、 波多江新平	共著	波多江新平	診療と新薬	1	15	医事出版社	2019年6月
敗血症、敗血症性ショック	感染症内科	染谷真紀、 笠井正志、 黒澤寛史	共著	植松悟子	小児内科	684	668	東京医学社	2019年増刊
II-I 高熱・不明熱	感染症内科	明神翔太、 笠井正志	共著	市川光太郎	内科医・小児科研修医のための 小児救急治療ガイドライン 改訂 第4版	90	98	診断と治療社	2019年増刊
小児患者	感染症内科	明神翔太、 笠井正志	共著	渡辺 彰、他	感染と抗菌薬	37	42	ヴァンメデイカル	2019年3月

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
予防接種の考え方と医療従事者の免疫に関する最近の話題：「集団免疫」の理解を中心に	感染症内科	山之上弘樹、新井裕子、遠藤康伸、笠井正志、金澤美弥子、小塚雄民、小森敏明、佐々木富子、杉山香代子、藤田直久、三浦正義、由良温宣、波多江新平	共著	波多江新平	診療と新薬	843	956	医事出版社	2019年11月
Down症	臨床遺伝科	森貞直哉	共著	伊藤秀一	小児コモン60疾患実践的ガイドライン活用術	278	281	中山書店	2019年5月
単一遺伝子疾患	臨床遺伝科	森貞直哉	共著	福岡義光	新遺伝医学やさしい系統講義	103	119	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2019年9月
反復する熱性けいれんと発達の遅れを認める5歳女児	臨床遺伝科、神経内科	森貞直哉、豊嶋大作	共著	山本俊至	症例でわかる小児神経疾患の遺伝学的アプローチ	92	94	診断と治療社	2019年12月
髄芽腫に対する術後放射線治療として陽子線治療は推奨されるか？	脳神経外科	河村淳史	共著	公益社団法人日本放射線腫瘍学会、一般社団法人血液・がん学会	小児・AYA世代の腫瘍に対する陽子線治療診療ガイドライン2019年度版	44	48	金原出版	2019年4月
頭蓋内嚢胞性病変	脳神経外科	河村淳史	共著	新井一、齊藤延人、若林俊彦	脳神経外科レビュー	209	216	総合医学社	2019年8月
幼児期(受診時年齢1～6歳)	整形外科	薩摩真一	共著	稲葉裕、中島康晴	受診日年齢別 発育性股関節形成不全の診かた・治しかた	30	44	メディカルビュー社	2019年11月
どんとき、救急車を呼ぶ必要がありますか？	産科	船越徹	共	「周産期医学」編集委員会	周産期相談310お母さんへの回答マニュアル第3版	185	187	株式会社東京医学校	2019年12月
小児集中治療におけるPoint-of-Care超音波	小児集中治療科	潮見祐樹、染谷真紀、黒澤寛史	共著	野村岳志	Point-of-Care超音波	205	212	総合医学社	2019年2月
けいれん重積	小児集中治療科	黒澤寛史	共著	岡元和文	ICU治療指針I	229	234	総合医学社	2019年7月
複雑型熱性けいれんと急性脳症の鑑別	小児集中治療科	青木一憲	共著	日本小児集中治療研究会	小児救命救急・ICUピックアップ③神経集中治療	159	167	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2019年12月

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
呼吸不全	小児集中治療科	青木一憲	共著	「小児内科」「小児外科」編集委員会	小児の救急・搬送医療	317	321	東京医学社	2019年11月
ケアに活かす用品の知識 失禁用品	看護部	鎌田直子	単著	鎌田直子、浅沼宏、金森豊	小児創傷・オストミー・失禁(WOC)管理の実際 改訂版	81	86	東京医学社	2020年6月
強制排便法	看護部	鎌田直子	共著	鎌田直子、浅沼宏、金森豊	小児創傷・オストミー・失禁(WOC)管理の実際 改訂版	162	172	東京医学社	2020年6月
小児の褥瘡予防ケア・MDRPU	看護部	鎌田直子	単著	鎌田直子、浅沼宏、金森豊	小児創傷・オストミー・失禁(WOC)管理の実際 改訂版	212	239	東京医学社	2020年6月
膀胱尿管逆流患者の看護	看護部	鎌田直子	単著	繪本正憲、習田昭裕	ナーシンググングラフイカEX 疾患と腎/泌尿器/内分泌・代謝	238	238	メヂカ出版	2020年1月
尿道下裂患者の看護	看護部	鎌田直子	単著	繪本正憲、習田昭裕	ナーシンググングラフイカEX 疾患と腎/泌尿器/内分泌・代謝	240	241	メヂカ出版	2020年1月
停留精巣患者の看護	看護部	鎌田直子	単著	繪本正憲、習田昭裕	ナーシンググングラフイカEX 疾患と腎/泌尿器/内分泌・代謝	243	243	メヂカ出版	2020年1月
夜尿症患者の看護	看護部	鎌田直子	単著	繪本正憲、習田昭裕	ナーシンググングラフイカEX 疾患と腎/泌尿器/内分泌・代謝	245	245	メヂカ出版	2020年1月
ウイルス腫瘍患者の看護	看護部	鎌田直子	単著	繪本正憲、習田昭裕	ナーシンググングラフイカEX 疾患と腎/泌尿器/内分泌・代謝	246	246	メヂカ出版	2020年1月
小児泌尿器科腫瘍性疾患患者の看護	看護部	鎌田直子	単著	繪本正憲、習田昭裕	ナーシンググングラフイカEX 疾患と腎/泌尿器/内分泌・代謝	247	247	メヂカ出版	2020年1月
病棟での回復期の離床に向けたことへの支援	看護部 外来	栗林佑季	共著	片田範子	こどもセルフケア看護理論	210	214	医学書院	2019年7月
症例で学ぶ経腸栄養剤選択のポイント 小児	栄養管理部	鳥井隆志	共著	西條豪	Nutrition Care	137	143	メヂカ出版	2019年12月

2) 雑誌発表

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Sports activity and paediatric out-of-hospital cardiac arrest at schools in Japan	救急総合診療科 (救急)	Sado J, Kiyohara K, Kitamura T, Matsui S, Ayusawa M, Nitta M, Iwami T, Nakata K, Sobue T, Kitamura Y; SPIRITS investigators	Resuscitation	139		33	40		2019.6
Location of arrest and survival from out-of-hospital cardiac arrest among children in the public-access defibrillation era in Japan	救急総合診療科 (救急)	Matsui S, Kitamura T, Sado J, Kiyohara K, Kobayashi D, Kiguchi T, Nishiyama C, Okabayashi S, Shimamoto T, Matsuyama T, Kawamura T, Iwami T, Tanaka R, Kurosawa H, Nitta M, Sobue T	Resuscitation	140		150	158		2019.7
Sex Disparities in Receipt of Bystander Interventions for Students Who Experienced Cardiac Arrest in Japan	救急総合診療科 (救急)	Matsui S, Kitamura T, Kiyohara K, Sado J, Ayusawa M, Nitta M, Iwami T, Nakata K, Kitamura Y, Sobue T; SPIRITS Investigators	JAMA Netw Open	2	5	e195111			2019.5.3
Thermal epiglottitis: Acute airway obstruction caused by ingestion of hot food.	救急総合診療科 (救急)	Inaguma Y, Matsui S, Kusumoto M, Kurosawa H, Tanaka R	Pediatr Int	61	9	927	929		2019.9

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Nonconvulsive seizure detection by reduced-lead electroencephalography in children with altered mental status in the emergency department	救急総合診療科 (救急)	Yamaguchi H, Nagase H, Nishiyama M, Tokumoto S, Ishida Y, Tomioka K, Tanaka T, Fujita K, Toyoshima D, Nishimura N, Kurosawa H, Nozu K, Maruyama A, Tanaka R, Iijima K	J Pediatr	207		213	219		2019.4
Predicting the outcomes of targeted temperature management for children with seizure and/or impaired consciousness accompanied by fever without known etiology	救急総合診療科	Tanaka T, Nagase H, Yamaguchi H, Ishida Y, Tomioka K, Nishiyama M, Toyoshima D, Maruyama A, Fujita K, Nozu K, Nishimura N, Kurosawa H, Tanaka R, Iijima K	Brain development	41	7	604	613		2019.8
Extensive serum biomarker analysis in patients with macrophage activation syndrome associated with systemic lupus erythematosus.	リウマチ科	Usami M, Shimizu M, Mizuta M, Inoue N, Irabu H, Sakumura N, Nakagishi Y, Yachie A.	Clin Immunol.					Springer Science	Epub 2019 Aug 30
Comparison of serum biomarkers for the diagnosis of macrophage activation syndrome complicating systemic juvenile idiopathic arthritis.	リウマチ科	Takakura M, Shimizu M, Irabu H, Sakumura N, Inoue N, Mizuta M, Nakagishi Y, Yachie A.	Clin Immunol.					Springer Science	Epub 2019 Aug 23

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Intravenous abatacept in Japanese patients with polyarticular-course juvenile idiopathic arthritis: results from a phase III open-label study.	リウマチ科	Hara R, Umebayashi H, Takei S, Okamoto N, Iwata N, Yamasaki Y, Nakagishi Y, Kizawa T, Kobayashi I, Imagawa T, Kinjo N, Amano N, Takahashi Y, Mori M, Itoh Y, Yokota S.	Pediatr Rheumatol Online J.	17	1	17		BioMed Central	2019.4.30
Clinical features and characteristics of uveitis associated with juvenile idiopathic arthritis in Japan: first report of the pediatric rheumatology association of Japan (PRAJ).	リウマチ科	Yasumura J, Yashiro M, Okamoto N, Shabana K, Umebayashi H, Iwata N, Okura Y, Kubota T, Shimizu M, Tomita M, Nakagishi Y, Nishimura K, Hara R, Mizuta M, Yasumi T, Yamaide F, Wakiguchi H, Kobayashi M, Mori M.	Pediatr Rheumatol Online J.	17	1	15		BioMed Central	2019 Apr 11
Clinical significance of serum CXCL9 levels as a biomarker for systemic juvenile idiopathic arthritis associated macrophage activation syndrome.	リウマチ科	Mizuta M, Shimizu M, Inoue N, Nakagishi Y, Yachie A.	Cytokine.	119		182	187	Elsevier	Epub 2019 Apr 2.
Serum Leucine-Rich α 2-Glycoprotein as a Biomarker for Monitoring Disease Activity in Patients with Systemic Juvenile Idiopathic Arthritis.	リウマチ科	Shimizu M, Inoue N, Mizuta M, Nakagishi Y, Yachie A.	J Immunol Res.			3140204		Hindawi Publishing Corporation	2019 Feb 4

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
小児への急速皮下免疫療法における標準化ダニ抗原とハウスダスト抽出液の違い	アレルギー科	田中裕也、 岡藤郁夫、 大前沙織、 水戸部祐子、 土井雅津代、 鶴田悟	アレルギー	68	6	681	690	日本アレルギー学会	2019.7
Acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion accompanied by Takotsubo cardiopathy.	神経内科	Yamaguchi H, Nagase H, Yoshida S, Tokumoto S, Hayashi K, Toyoshima D, Kurosawa H, Tanaka T, Maruyama A, Iijima K.	Brain Dev.	41	3	305	309		2019.3
Spontaneous spinal epidural hematoma mimicking Guillain-Barre Syndrome.	神経内科	Kondo A, Yamaguchi H, Ishida Y, Toyoshima D, Azumi M, Akutsu N, Koyama J, Kurosawa H, Kawamura A, Maruyama A.	Brain Dev.	41	4	392	395		2019.4
Lipid and hormone levels in children with epilepsy treated with levetiracetam or carbamazepine: A prospective observational study.	神経内科	Nishiyama M, Takami Y, Ishida Y, Tomioka K, Tanaka T, Nagase H, Nakagawa T, Tokumoto S, Yamaguchi H, Toyoshima D, Maruyama A, Nozu K, Nishimura N, Iijima K.	Epilepsy Behav.	90		15	19		2019.1

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Nonconvulsive seizure detection by reduced-lead electroencephalography in children with altered mental status in the emergency department.	神経内科	Yamaguchi H, Nagase H, Nishiyama M, Tokumoto S, Ishida Y, Tomioka K, Tanaka T, Fujita K, Toyoshima D, Nishimura N, Kurosawa H, Nozu K, Maruyama A, Tanaka R, Iijima K.	J Pediatr.	207		213	219		2019.4
Clinical time course of pediatric acute disseminated encephalomyelitis.	神経内科	Nishiyama M, Nagase H, Tomioka K, Tanaka T, Yamaguchi H, Ishida Y, Toyoshima D, Fujita K, Maruyama A, Sasaki K, Oyazato Y, Nakagawa T, Takami Y, Nozu K, Nishimura N, Nakashima I, Iijima K.	Brain Dev.	41	6	531	537		2019.1
Predicting the outcomes of targeted temperature management for children with seizures and/or impaired consciousness accompanied by fever without known etiology.	神経内科	Tanaka T, Nagase H, Yamaguchi H, Ishida Y, Tomioka K, Nishiyama M, Toyoshima D, Maruyama A, Fujita K, Nozu K, Nishimura N, Kurosawa H, Tanaka R, Iijima K.	Brain Dev.	41	7	604	613		2019.8

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Empyema necessitatis due to <i>Peudomonas aeruginosa</i> in a child with cerebral palsy.	神経内科	Nishimura A, Yamaguchi H, Ito Y, Tokumoto S, Toyoshima D, Kasai M, Maruyama A.	J Infect Public Health	13	1	140	142		2020.1
Fibrocartilaginous embolism of the spinal cord in children: a case report and review of literature.	神経内科	Yamaguchi H, Nagase H, Nishiyama M, Tokumoto S, Toyoshima D, Akasaka Y, Maruyama A, Iijima K.	Pediatr Neurol.	99		3	6		2019.1
Detailed clinical course of fatal acute encephalopathy in children.	神経内科	Tomioka K, Nishiyama M, Nagase H, Ishida Y, Tanaka T, Tokumoto S, Yamaguchi H, Toyoshima D, Maruyama A, Fujita K, Aoki K, Seino Y, Nozu K, Nishimura N, Kurosawa H, Iijima K.	Brain Dev.	41	8	691	698		2019.9

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Discontinuation of L-asparaginase and poor response to prednisolone are associated with poor outcome of ETV6-RUNX1-positive pediatric B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia.	血液・腫瘍内科	Usami I, Imamura T, Takahashi Y, Suenobu SI, Hasegawa D, Hashii Y, Deguchi T, Hori T, Shimada A, Kato K, Ito E, Moriya-Saito A, Kawasaki H, Hori H, Yumura-Yagi K, Hara J, Sato A, Horibe K; Japan Association of Childhood Leukemia Study Group (JACLS).	Int J Hematol.	109	4	477	482		2019 Apr
Comparison of conditioning regimens for autologous stem cell transplantation in children with acute myeloid leukemia: A nationwide retrospective study in Japan.	血液・腫瘍内科	Sakaguchi H, Muramatsu H, Hasegawa D, Kudo K, Ishida H, Yoshida N, Koh K, Noguchi M, Shiba N, Tokimasa S, Fukuda T, Goto H, Miyamura T, Nakazawa Y, Hashii Y, Inoue M, Atsuta Y; Pediatric AML Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation.	Pediatr Blood Cancer.	66	1				2019 Jan
Impact of adjuvant lorazepam with granisetron on chemotherapy-induced nausea and vomiting in pediatric patients with acute lymphoblastic leukemia.	血液・腫瘍内科	Ono A, Kishimoto K, Hasegawa D, Goldman RD, Kosaka Y.	Support Care Cancer.	27	3	895	899		2019 Mar

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Early posttransplant plasma ADAMTS13 activity reduction in stem cell transplantation: a prospective study of 46 pediatric patients.	血液・腫瘍内科	Kishimoto K, Hasegawa D, Kawasaki K, Tamura A, Yamamoto N, Saito A, Kozaki A, Ishida T, Kosaka Y.	Bone Marrow Transplant.	54	12	1926	1929		2019 Dec
Pazopanib maintenance therapy after tandem high-dose chemotherapy for disseminated Ewing sarcoma.	血液・腫瘍内科	Tamura A, Yamamoto N, Nino N, Ichikawa T, Nakatani N, Nakamura S, Saito A, Kozaki A, Kishimoto K, Ishida T, Yoshida M, Akasaka Y, Hasegawa D, Kosaka Y.	Int Cancer Conf J.	8	3	95	100		2019 Feb
Clinical features in proven and probable invasive fungal disease in children and adolescents at a pediatric referral center: a 5-year experience.	血液・腫瘍内科	Kishimoto K, Kasai M, Kawamura N, Ito Y, Yoshida M, Hasegawa D, Kawasaki K, Kosaka Y.	World J Pediatr.	15	3	270	275		2019 Jan
Dynamics of Minimal Residual Disease in Neuroblastoma Patients.	血液・腫瘍内科	Uemura S, Ishida T, Thwin KKM, Yamamoto N, Tamura A, Kishimoto K, Hasegawa D, Kosaka Y, Nino N, Lin KS, Takafuji S, Mori T, Iijima K, Nishimura N.	Front Oncol.	9	455				2019 Jan

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Vitamin B12 deficiency anemia in an exclusively breastfed infant born to an ileum-resected mother.	血液・腫瘍内科	Tamura A, Nino N, Yamamoto N, Naito A, Matsubara K, Nakatani N, Ichikawa T, Nakamura S, Saito A, Kozaki A, Kishimoto K, Ishida T, Shigematsu Y, Hasegawa D, Kosaka Y.	Pediatr Neonatol.	60	5	579	580		2019 Oct
Presacral malignant teratoid neoplasm in association with pathogenic DICER1 variation.	血液・腫瘍内科	Nakano Y, Hasegawa D, Stewart DR, Schultz KAP, Harris AK, Hirato J, Uemura S, Tamura A, Saito A, Kawamura A, Yoshida M, Yamasaki K, Yamashita S, Ushijima T, Kosaka Y, Ichimura K, Dehner LP, Hill DA.	Mod Pathol.	32	12	1744	1750		2019 Dec

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Clinical characteristics, treatment, and survival outcome in pediatric patients with atypical teratoid/rhabdoid tumors: a retrospective study by the Japan Children's Cancer Group.	血液・腫瘍内科	Yamasaki K, Kiyotani C, Terashima K, Watanabe Y, Kanamori M, Koga Y, Hata N, Iwasaki E, Goto H, Koh K, Kurihara J, Tokunaga S, Arakawa Y, Hasegawa D, Kosaka Y, Hara J.	J Neurosurg Pediatr.			1	10		2019 Nov 15
Clinical practice recommendations for the diagnosis and management of human herpesvirus-6B encephalitis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation.	血液・腫瘍内科	Ogata M, Uchida N, Fukuda T, Ikegami K, Kaminura T, Onizuka M, Kato K, Kobayashi H, Sasahara Y, Sawa M, Sawada A, Hasegawa D, Masuko M, Miyamoto T, Okamoto S.	Bone Marrow Transplant.						2019 Nov 19

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Clinical outcomes after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in children with juvenile myelomonocytic leukemia: A report from the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation.	血液・腫瘍内科	Yoshida N, Sakaguchi H, Yabe M, Hasegawa D, Hama A, Hasegawa D, Kato M, Noguchi M, Terui K, Takahashi Y, Cho Y, Sato M, Koh K, Kakuda H, Shimada H, Hashii Y, Sato A, Kato K, Atsuta Y, Watanabe K; Pediatric Myelodysplastic Syndrome Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation.	Biol Blood Marrow Transplant.						2019 Nov 29
Level of seven neuroblastoma-associated mRNAs detected by droplet digital PCR is associated with tumor relapse/regrowth of high-risk neuroblastoma patients.	血液・腫瘍内科	Mon Thwin KK, Ishida T, Uemura S, Yamamoto N, San Lin K, Tamura A, Kozaki A, Saito A, Kishimoto K, Mori T, Hasegawa D, Kosaka Y, Nino N, Takafuji S, Iijima K, Nishimura N.	J Mol Diagn.	1578	19	30437-4.			

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Hematopoietic Stem Cell Transplantation in Solid Organ Recipients with Emphasis on Transplant Complications: A Nationwide Retrospective Survey on Behalf of the Japan Society for Hematopoietic Stem Cell Transplantation Transplant Complications Working Group.	血液・腫瘍内科	Shinohara A, Oshima K, Fuji S, Umeda K, Kako S, Kurokawa M, Tsukada N, Kasai M, Kondo T, Hashii Y, Nakamae H, Ikegame K, Kosaka Y, Shimada A, Nawa Y, Makoto Y, Yoshiko A, Fukuda T, Tanaka J, Ogata M.	Biol Blood Marrow Transplant.	8791	19	30561-0.			
Disordered hemostasis associated with severely depressed fibrinolysis demonstrated using a simultaneous thrombin and plasmin generation assay during L-asparaginase induction therapy in pediatric acute lymphoblastic leukemia.	血液・腫瘍内科	Ishihara T, Nogami K, Ochi S, Ishida T, Kosaka Y, Sawada A, Inoue M, Osone S, Imamura T, Hosoi H, Shima M.	Pediatr Blood Cancer.	67	1	e28016			
Predisposing factors and mortality in proven and probable invasive fungal disease in a pediatric referral center: a 5-year experience.	血液・腫瘍内科	Kishimoto K, Kasai M, Kawamura N, Ito Y, Yoshida M, Hasegawa D, Kawasaki K, Kosaka Y.	World J Pediatr.	15	3	270	275		
Robust programmed cell death-1 expression in a subset of Ewing sarcoma in contrast to Ewing-like sarcoma.	血液・腫瘍内科	Tamura A, Yoshida M, Yamamoto N, Nino N, Ichikawa T, Nakatani N, Nakamura S, Saito A, Kozaki A, Kishimoto K, Ishida T, Hasegawa D, Kosaka Y.	Clinic in Oncology	4	1586	1	4		

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Discontinuation of L-asparaginase and poor response to prednisolone are associated with poor outcome of ETV6-RUNX1-positive pediatric B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia.	血液・腫瘍内科	Usami I, Imamura T, Takahashi Y, Suenobu SI, Hasegawa D, Hashii Y, Deguchi T, Hori T, Shimada A, Kato K, Ito E, Moriya-Saito A, Kawasaki H, Hori H, Yumura-Yagi K, Hara J, Sato A, Horibe K; Japan Association of Childhood Leukemia Study Group (JACLS).	Int J Hematol.	109	4	477	482		
Hematopoietic Stem Cell Transplantation in Solid Organ Recipients with Emphasis on Transplant Complications: A Nationwide Retrospective Survey on Behalf of the Japan Society for Hematopoietic Stem Cell Transplantation Transplant Complications Working Group.	血液・腫瘍内科	Shinohara A, Oshima K, Fuji S, Umeda K, Kako S, Kurokawa M, Tsukada N, Kasai M, Kondo T, Hashii Y, Nakamae H, Ikegame K, Kosaka Y, Shimada A, Nawa Y, Makoto Y, Yoshiko A, Fukuda T, Tanaka J, Ogata M.	Biol Blood Marrow Transplant.	26	1	66	75		2020.1.26
Rare cases of mixed type total anomalous pulmonary venous connection with chambers encircling left atrium	循環器内科	Miki Y, Tanaka T, Matsuoka M, Kamei N, Ogawa Y, Tominaga K, Kido S, Oshima Y	Journal of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery	3	2	121	122	日本小児循環器学会	2019.7

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Determination of the pathogenicity of known COL4A5 intronic variants by in vitro splicing assay.	腎臓内科	Horinouchi T, Nozu K, Yamamura T, Minamikawa S, Nagano C, Sakakibara N, Nakanishi K, Shima Y, Morisada N, Ishiko S, Aoto Y, Nagase H, Takeda H, Rossanti R, Kaito H, Matsuo M, Iijima K.	Sci Rep	3	9			Springer Nature	2019.6
Comparison between conventional and comprehensive sequencing approaches for genetic diagnosis of Alport syndrome.	腎臓内科	Yamamura T, Nozu K, Minamikawa S, Horinouchi T, Sakakibara N, Nagano C, Aoto Y, Ishiko S, Nakanishi K, Shima Y, Nagase H, Rossanti R, Ye MJ, Nozu Y, Ishimori S, Morisada N, Kaito H, Iijima K.	Mol Genet Genomic Med	7	9			Wiley Online Library	2019.6

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Molecular assay for an intronic variant in NUP93 that causes steroid resistant nephrotic syndrome.	腎臓内科	Rossanti R, Shono A, Miura K, Hattori M, Yamamura T, Nakanishi K, Minamikawa S, Fujimura J, Horinouchi T, Nagano C, Sakakibara N, Kaito H, Nagase H, Morisada N, Asanuma K, Matsuo M, Nozu K, Iijima K.	J Hum Genet	64	7	673	679	Springer Nature	2019.7
Renal-hepatic-pancreatic dysplasia-1 diagnosed on comprehensive gene analysis.	腎臓内科	Inaguma Y, Kaito H, Morisada N, Iijima K, Tanaka R.	Pediatr Int	61	2	210	212	Wiley Online Library	2019.2
Pair analysis and custom array CGH can detect a small copy number variation in COQ6 gene.	腎臓内科	Nakanishi K, Okamoto T, Nozu K, Hara S, Sato Y, Hayashi A, Takahashi T, Nagano C, Sakakibara N, Horinouchi T, Fujimura J, Minamikawa S, Yamamura T, Rossanti R, Nagase H, Kaito H, Ariga T, Iijima K.	Clin Exp Nephrol	23	5	669	675	Springer	2019.5
Clinicopathological characteristics and renal outcomes of childhood-onset lupus nephritis with acute kidney injury: A multicenter study.	腎臓内科	Ishimori S, Kaito H, Shima Y, Kamioka I, Hamahira K, Nozu K, Nakanishi K, Tanaka R, Yoshikawa N, Iijima K.	Mod Rheumatol	29	6	970	976	Springer Japan	2019.11

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Lisinopril versus lisinopril and losartan for mild childhood IgA nephropathy: a randomized controlled trial (JSKDC01 study).	腎臓内科	Shima Y, Nakanishi K, Sako M, Saito-Oba M, Hamasaki Y, Hataya H, Honda M, Kamei K, Ishikura K, Ito S, Kaito H, Tanaka R, Nozu K, Nakamura H, Ohashi Y, Iijima K, Yoshikawa N; Japanese Study Group of Kidney Disease in Children (JSKDC).	Pediatr Nephrol	34	5	837	846	Springer	2019.5
A review of clinical characteristics and genetic backgrounds in Alport syndrome.	腎臓内科	Nozu K, Nakanishi K, Abe Y, Udagawa T, Okada S, Okamoto T, Kaito H, Kanemoto K, Kobayashi A, Tanaka E, Tanaka K, Hama T, Fujimaru R, Miwa S, Yamamura T, Yamamura N, Horinouchi T, Minamikawa S, Nagata M, Iijima K.	Clin Exp Nephrol	23	3	158	168	Springer	2019.2

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Clinical characteristics of HNF1B-related disorders in a Japanese population.	腎臓内科	Nagano C, Morisada N, Nozu K, Kamei K, Tanaka R, Kanda S, Shiona S, Araki Y, Ohara S, Matsumura C, Kasahara K, Mori Y, Seo A, Miura K, Washiyama M, Sugimoto K, Harada R, Tazoe S, Kourakata H, Enseki M, Aotani D, Yamada T, Sakakibara N, Yamamura T, Minamikawa S, Ishikura K, Ito S, Hattori M, Iijima K.	Clin Exp Nephrol	23	9	1119	1129	Springer	2019.9
M-Type Phospholipase A2 Receptor Staining in Children with Idiopathic Membranous Nephropathy	腎臓内科	Inaguma Y, Shiratori A, Nakagawa T, Kanda K, Yoshida M, Hara S, Kaito H, Nozu K, Iijima K, Yoshikawa N, Tanaka R	The Open Urology & Nephrology Journal	12		27	32	Benthan Open	2019.7
胃瘻造設と腹膜透析カテーテル留置の同時手術後にMRSA腹膜炎をきたした末期腎不全の1幼児例	腎臓内科	稲熊洋祐、貝藤裕史、堀之内智子、田中亮二郎	日本小児腎不全学会雑誌	39		100	103	日本小児腎不全学会	2019.7
低用量のカルペリチドの併用が浮腫に有効であったステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の1例	腎臓内科	稲熊洋祐、堀之内智子、貝藤裕史、田中亮二郎	日本小児液体液研究会誌	11		51	54	日本小児液体液研究会	2019.7

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
PAX2関連腎疾患の遺伝子型と臨床像	腎臓内科	森貞直哉、 Rossanti Rini、 貝藤裕史、野津寛大、 田中亮二郎、 飯島一誠	発達腎研究会誌	27	1	31	34	発達腎研究会	2019.7
Infective Endocarditis Due to Streptococcus gallolyticus subsp. pasteurianus with Pulmonary Vein Obstruction.	感染症内科	Nagao H, Yamaguchi H, Ito Y, Kasai M.	Indian J Pediatr.	86	2	192	192		2019 Feb
Nationwide study of outpatient oral antimicrobial utilization patterns for children in Japan (2013-2016).	感染症内科	Kinoshita N, Morisaki N, Uda K, Kasai M, Horikoshi Y, Miyairi I.	J Infect Chemother.	25	1	22	27		2019 Jan
Targets for Optimizing Oral Antibiotic Prescriptions for Pediatric Outpatients in Japan.	感染症内科	Uda K, Kinoshita N, Morisaki N, Kasai M, Horikoshi Y, Miyairi I.	Jpn J Infect Dis.	72	3	149	159		2019 May
Multidrug-resistant Gram-negative Bacterial Bloodstream Infections in Children's Hospitals in Japan, 2010-2017.	感染症内科	Aizawa Y, Shoji T, Ito K, Kasai M, Sakurai H, Toyofuku E, Minami K, Hoshino T, Horikoshi Y.	Pediatr Infect Dis J	38	7	653	659		2019 Jul
Escherichia coli O157 Enterocolitis Followed by Non-diarrheagenic Escherichia coli Bacteremia.	感染症内科	Kato H, Yamaguchi H, Ito Y, Imuta N, Nishi J, Kasai M.	Indian J Pediatr.	86	8	750	750		2019 Aug
The Volume of Pediatric Blood Culture.	感染症内科	Kusama Y, Shime N, Ito K, Ito Y, Kasai M.	Pediatr Infect Dis J.	38	12	e340	e341		2019 Dec
Pyogenic sacroiliitis caused by pneumococcal serotype 16F in a child.	感染症内科	Yamada Y, Yamaguchi H, Ito Y, Takeuchi N, Kasai M.	Pediatr Int.	61	12	1267	1288		2019 Dec

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
病院の検査室における血液培養検査対応の現状	感染症内科	日馬由貴、犬塚和久、舟橋恵二、奥平正美、松島由実、村松有紀、笠井正志、村木優一、大曲貴夫、八木哲也、三嶋廣繁	日本臨床微生物学会雑誌	29	2	88	91		2019.3
地方都市の休日夜間急患センターにおける15歳未満の小児への経口抗菌薬処方状況	感染症内科	明神翔太、神吉直苗、久呉真章、本郷彰裕、笠井正志	日本小児科学会雑誌	123	5	886	90		2019.5
Clinical spectrum of male patients with OFD1 mutations.	臨床遺伝科	Sakakibara N, Morisada N, Nozu K, Nagatani K, Ohta T, Shimizu J, Wada T, Shima Y, Yamamura T, Minamikawa S, Fujimura J, Horinouchi T, Nagano C, Shono A, Ye MJ, Nozu Y, Nakanishi K, Iijima K.	J Hum Genet.	64	1	3	9	Springer Nature	2019.1
Clinical and Genetic Characteristics in Patients With Gitelman Syndrome.	臨床遺伝科	Fujimura J, Nozu K, Yamamura T, Minamikawa S, Nakanishi K, Horinouchi T, Nagano C, Sakakibara N, Nakanishi K, Shima Y, Miyako K, Nozu Y, Morisada N, Nagase H, Ninchoji T, Kaito H, Iijima K.	Kidney Int Rep.	4	1	119	125	Elsevier	2019.1

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Phenotypic differences and similarities of monozygotic twins with maturity-onset diabetes of the young type 5.	臨床遺伝科	Ohara Y, Okada Y, Yamada T, Sugawara K, Kanatani M, Fukuoka H, Hirota Y, Maeda T, Morisada N, Iijima K, Ogawa W.	"J Diabetes Investig."	10	4	1112	1115	Wiley	2019.2
Renal-hepatic-pancreatic dysplasia-1 diagnosed on comprehensive gene analysis.	臨床遺伝科	Inaguma Y, Kaito H, Morisada N, Iijima K, Tanaka R.	Pediatr Int.	61	2	210	212	Wiley	2019.2
Association between the clinical presentation of congenital anomalies of the kidney and urinary tract	臨床遺伝科	Ishiwa S, Sato M, Morisada N, Nishi K, Kanamori T, Okutsu M, Ogura M, Sako M, Kosuga M, Kamei K, Ito S, Nozu K, Iijima K, Ishikura K.	Pediatr Nephrol.	34	8	1457	1464	Springer Nature	2019.4
Molecular assay for an intronic variant in NUP93 that causes steroid resistant nephrotic syndrome.	臨床遺伝科	Rossanti R, Shono A, Miura K, Hattori M, Yamamura T, Nakanishi K, Minamikawa S, Fujimura J, Horinouchi T, Nagano C, Sakakibara N, Kaito H, Nagase H, Morisada N, Asanuma K, Matsuo M, Nozu K, Iijima K.	J Hum Genet.	64	7	673	679	Springer Nature	2019.4

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Male CDPX2 patient with EBP mosaicism and asymmetrically lateralized skin lesions with strict midline demarcation.	臨床遺伝科	Horinouchi T, Morisada N, Uemura H, Kobayashi D, Nozu K, Okamoto N, Iijima K.	Am J Med Genet A.	179	7	1315	1318	Wiley	2019.7
Clinical characteristics of HNF1B-related disorders in a Japanese population.	臨床遺伝科	Nagano C, Morisada N, Nozu K, Kamei K, Tanaka R, Kanda S, Shiona S, Araki Y, Ohara S, Matsumura C, Kasahara K, Mori Y, Seo A, Miura K, Washiyama M, Sugimoto K, Harada R, Tazoe S, Kourakata H, Enseki M, Aotani D, Yamada T, Sakakibara N, Yamamura T, Minamikawa S, Ishikura K, Ito S, Hattori M, Iijima K.	"Clin Exp Nephrol."	23	9	1119	1129	Springer Nature	2019.9
An Orofaciodigital Syndrome 1 Patient and Her Mother Carry the Same OFD1 Mutation but Have Different X Chromosome Inactivation Patterns.	臨床遺伝科	Iijima T, Hayami N, Takaichi K, Morisada N, Nozu K, Iijima K, Sawa N, Hoshino J, Ubara Y.	Intern Med.	58	20	2989	2992	The Japanese Society of Internal Medicine	2019.10

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
A girl with CLOVES syndrome with a recurrent PIK3CA somatic mutation and pancreatic steatosis.	臨床遺伝科	Hanafusa H, Morisada N, Nomura T, Kobayashi D, Akasaka Y, Ye MJ, Nozu K, Nishimura N, Iijima K, Nakao H.	Hum Genome Var.	6	-	31	-	Springer Nature	2019.6
Comparison between conventional and comprehensive sequencing approaches for genetic diagnosis of Alport syndrome.	臨床遺伝科	Yamamura T, Nozu K, Minamikawa S, Horinouchi T, Sakakibara N, Nagano C, Aoto Y, Ishiko S, Nakanishi K, Shima Y, Nagase H, Rossanti R, Ye MJ, Nozu Y, Ishimori S, Morisada N, Kaito H, Iijima K.	"Mol Genet Genomic Med."	7	9	e883	-	Wiley	2019.9
Determination of the pathogenicity of known COL4A5 intronic variants by in vitro splicing assay.	臨床遺伝科	Horinouchi T, Nozu K, Yamamura T, Minamikawa S, Nagano C, Sakakibara N, Nakanishi K, Shima Y, Morisada N, Ishiko S, Aoto Y, Nagase H, Takeda H, Rossanti R, Kaito H, Matsuo M, Iijima K.	Sci Rep.	9	1	12696	-	Springer Nature	2019.9

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Rapidly Progressive Nephronophthisis in a 2-Year-Old Boy with a Homozygous SDCCAG8 Mutation.	臨床遺伝科	Watanabe Y, Fujinaga S, Sakuraya K, Morisada N, Nozu K, Iijima K.	Tohoku J Exp Med.	249	1	29	32	Tohoku University Medical Press	2019.9
IFT172 as the 19th gene causative of oral-facial-digital syndrome.	臨床遺伝科	Yamada M, Uehara T, Suzuki H, Takenouchi T, Fukushima H, Morisada N, Tominaga K, Onoda M, Kosaki K.	Am J Med Genet A.	179	12	2510	2513	Wiley	2019.12
De novo NSF mutations cause early infantile epileptic encephalopathy.	臨床遺伝科	Suzuki H, Yoshida T, Morisada N, Uehara T, Kosaki K, Sato K, Matsubara K, Takano-Shimizu T, Takenouchi T.	Ann Clin Transl Neurol.	6	11	2334	2339	Wiley	2019.11
Inherited salt-losing tubulopathy: an old condition but a new category of tubulopathy.	臨床遺伝科	Nozu K, Yamamura T, Horinouchi T, Nagano C, Sakakibara N, Ishikura K, Hamada R, Morisada N, Iijima K.	Pediatr Int.	Epub ahead of print				Wiley	2019.12
ネフロン病の最近の知見	臨床遺伝科	森貞直哉、野津寛大、飯島一誠	日本腎臓学会誌	61	7	1102	1107	日本腎臓学会	2019.10
こども病院における遺伝子診療部門の役割	臨床遺伝科	森貞直哉	兵庫県小児科医学会報	-	72	2	6	兵庫県小児科医学会	2019
病理診断で遺伝子検査を依頼されたら？	臨床遺伝科	榊原菜々、野津寛大、森貞直哉、飯島一誠	腎と透析	87	4	660	663	東京医学社	2019.10

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
新規PAX2遺伝子変異が同定された non-syndromic CAKUTの女児例	臨床遺伝科	櫻谷浩志、 藤永周一郎、 梅田千里、富井祐治、 渡邊佳孝、野津寛大、 森貞直哉、飯島一誠	日本小児腎不全学会雑誌	39	-	108	110	日本小児腎不全学会	2019.7
指節骨癒合症の1家系にみられた Pfeiffer症候群の1例	臨床遺伝科	倉信裕樹、鈴木将浩、 河場康郎、岡田隆好、 阿久津宣行、 小山淳二、森貞直哉、 飯島一誠	鳥取医学雑誌	47	1-2号	23	26	(公社)鳥取県医師会	2019.6
腎移植前精査中にHNF1B異常を同定した先天性腎尿路異常の1例	臨床遺伝科	久富隆太郎、 三浦健一郎、 神田祥一郎、 谷口洋平、長澤武、 伴英樹、白井陽子、 金子直人、藪内智朗、 高木陽子、 石塚喜世伸、 秋岡祐子、原太一、 森貞直哉、飯島一誠、 服部元史	日本臨床腎移植学会雑誌	7	1	96	98	日本臨床腎移植学会	2019.7
鯉耳腎症候群	臨床遺伝科	森貞直哉、飯島一誠	日本医師会雑誌	148	特別1	S298	-	日本医師会	2019.6
ここが知りたい!グレイゾーンの赤ちゃん(第3回) 気掛かりな症状がある赤ちゃん 遺伝科の立場から	臨床遺伝科	森貞直哉	with NEO	32	3	468	469	(株)メディカ出版	2019.6
PAX2関連腎疾患の遺伝子型と臨床像	臨床遺伝科	森貞直哉、 Rossanti Rini、 貝藤裕史、野津寛大、 田中亮二郎、 飯島一誠	発達腎研究会誌	27	1	31	34	発達腎研究会	2019.4
男性腎不全の家族歴からネフロン癆 関連シリオパターの診断に至った3歳男児例	臨床遺伝科	和田卓三、島友子、 浜武継、向山弘展、 鈴木啓之、森貞直哉、 野津寛大、飯島一誠、 中西浩一	発達腎研究会誌	27	1	9	11	発達腎研究会	2019.4
身体の病気を抱える子どもの感情	精神科	関口典子、藤井美有	こころの科学	204		60	64	日本評論社	2019.3

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Risk factors for the recurrence of perineal canal	小児外科	Kajihara K, Fukuzawa H, Fukumoto K, Urushihara N, Samejima Y, Uemura K, Nomura K, Kawahara I, Isono K, Morita K, Nakao M, Yokoi A, Maeda K.	Pediatr Surg Int	35	10	1137	1141	springer	2019.10
Mice conditionally expressing RET (C618F) mutation display C cell hyperplasia and hyperganglionosis of the enteric nervous system	小児外科	Okamoto M, Yoshioka Y, Maeda K, Bito Y, Fukumoto T, Uesaka T, Enomoto H.	Genesis	57	5	e23292			2019.5
Repair of type IV laryngotracheoesophageal cleft (LTEC) on ECMO	小児外科	Kawahara I, Maeda K, Samejima Y, Kajihara K, Uemura K, Nomura K, Isono K, Morita K, Fukuzawa H, Nakao M, Yokoi A.	Pediatr Surg Int	35	5	565	568		2019.5
Insulin Therapy for Hyperglycemia in Neonatal Sepsis Using a Preterm Mouse Model	小児外科	Miyauchi H, Fujioka K, Okubo S, Nishida K, Ashina M, Ikuta T, Okata Y, Maeda K, Iijima K, Bitoh Y.	Pediatr Int						2019.12
Dilatation of the common channel in pediatric congenital biliary dilatation remaining after radical operation	小児外科	Fukuzawa H, Akasaka Y, Maeda K.	J Hepatobiliary Pancreat Sci.	26	3	104	108		2019.3

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Potential role of the PD-L1 expression and tumor-infiltrating lymphocytes on neuroblastoma	小児外科	Zuo S, Sho M, Sawai T, Kanehiro H, Maeda K, Yoshida M, Tsukada R, Nomura M, Okuyama H.	Pediatr Surg Int	36	2	137	143		2020.2
Mechanism of pancreatic juice reflux in pancreaticobiliary maljunction: A fluid dynamics model experiment	小児外科	Fukuzawa H, Kajihara K, Tajikawa T, Aoki K, Ajiki T, Maeda K.	J Hepatobiliary Pancreat Sci.						2020.1
An update in the management of pediatric sarcoma	小児外科	Sandler G, Yokoi A, Hayes-Jordan A.	Curr Opin Pediatr.	31	3	368	377		2019.6
Triangular Cord Sign on Ultrasonography Does Not Indicate Disease Progression of Biliary Atresia	小児外科	Endo K, Yoshida M, Yokoi A.	Indian J Pediatr.	86	7	656	657		2019.7
Novel Risk Score for Fetuses with Congenital Diaphragmatic Hernia Based on Ultrasound Findings	小児外科	Terui K, Nagata K, Hayakawa M, Okuyama H, Amari S, Yokoi A, Masumoto K, Urushihara N, Okazaki T, Inamura N, Toyoshima K, Uchida K, Furukawa T, Okawada M, Sato Y, Usui N.	Eur J Pediatr Surg	30	1	51	58		2019.10

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
先天性食道閉鎖症 術中に下部食道・上部食道が見つからない	小児外科	前田貢作、藤枝悠希、竹内雄毅、黒田靖浩、植村光太郎、河原仁守、鮫島由友、岩出珠幾、森田圭一、福澤宏明、横井暁子、尾藤祐子	小児外科	51	10	987	991	東京医学社	2019.10
【気管切開術マニユアル】気管切開術に影響を及ぼす病態とその対応 気管軟化症	小児外科	前田貢作	JOHNS	36	2	161	163	東京医学社	2020.02
手術で必要な局所解剖(頭頸部・胸部編)】気管形成術(気管狭窄)	小児外科	森田圭一、前田貢作	小児外科	51	8	809	812	東京医学社	2019.08
先天性気管狭窄症非手術症例11例の検討	小児外科	谷本光隆、尾藤祐子、大片祐一、西島栄治、前田貢作	日本小児外科学会雑誌	55	2	248	252	日本小児外科学会	2019.04
チロシンキナーゼ阻害薬抵抗性の胃GISTを伴う不完全型Carney's triadの1例	小児外科	鮫島由友、福澤宏、河原仁守、梶原啓資、磯野香織、村上紫津、森田圭一、中尾真、横井暁子、前田貢作	日本小児外科学会雑誌	55	1	104	109	日本小児外科学会	2019.02
【新生児外科疾患の精神・身体発育】新生児気管狭窄症	小児外科	前田貢作、森田圭一、河原仁守	小児外科	51	1	39	41	東京医学社	2019.01
小児悪性固形腫瘍に対するinitial surgical interventionのあり方 小児肝腫瘍に対するPHIT Trial 外科療法ガイドライン	小児外科	本多昌平、菱木知郎、横井暁子、風間理郎、高間勇一、星野健、田口智章、繪山英三	日本小児血液・がん学会雑誌	56	2	107	112	日本小児血液・がん学会	2019.09
胆道閉鎖症の早期発見における便色カードの有用性の検討	小児外科	横井暁子、磯野香織	日本小児外科学会雑誌	55	5	945	950	日本小児外科学会	2019.06
Left Atrial Decompression by Minithoracotomy During Extracorporeal Life Support.	心臓血管外科	Yamamoto M, Oshima Y, Matsuhisa H, Higuma T, Iwaki R, Matsushima S, Murakami Y.	Ann Thorac Surg	107	3	e227	e228	The Society of Thoracic Surgeons	2019.3.1
Suture Annuloplasty and Simplified Root Wrapping in the Full Root Ross Operation	心臓血管外科	Matsushima S, Abeln KB, Karliova I, Zacek P, Schäfers HJ	Ann Thorac Surg	107	5	e361	e363	The Society of Thoracic Surgeons	2019.5.1

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Unicuspid valve repair-what technique, which patch for which patient?	心臓血管外科	Matsushima S, Giebels C, Glenske M, Karlova I, Schäfers HJ	Ann Cardiothorac Surg	8	3	430	432	AME publishing company	2019.5.4
Myosin binding protein H-like (MYBPHL): a promising biomarker to predict atrial damage	心臓血管外科	Lahm H, Dreßen M, Beck N, Doppler S, Deutsch MA, Matsushima S, Neb I, König KC, Sideris K, Voss S, Eschenbach L, Puluca N, Deisenhofer I, Doll S, Holdenrieder S, Mann M, Lange R, Krane M	Sci Rep	9	1	9986	9986	Springer nature	2019.7.10
Papillary Fibroelastoma in the Left Ventricular Outflow Tract: An Unusual Location	心臓血管外科	Tristan E, Matsushima S, Schneider U, Giebels C, Karlova I, Schäfers HJ	Ann Thorac Surg	108	3	e201	e201	The Society of Thoracic Surgeons	2019.9.1
The Konno Operation Is a Durable Option for Relief of Aortic Stenosis in Patients With Complex Left Ventricular Outflow Tract Obstruction-A Single-Center 20-Year Experience	心臓血管外科	Matsushima S, Burri M, Strbad M, Ruf B, Lange R, Hörer J, Cleuziou J	World J Pediatr Congenit Heart Surg	10	6	678	685	World Society for Pediatric and Congenital Heart Surgery	2019.11.8
Cusp Nadir Relocation by Root Remodeling in Unicuspid Aortic Valve Repair	心臓血管外科	Matsushima S, Heß A, Glenske M, Hoffmann K, Raddatz A, Schäfers HJ	Ann Thorac Surg	105	8	e409	e412	The Society of Thoracic Surgeons	2019.12.1
管による後頭蓋窩の穿通性頭部外傷の1例	脳神経外科	森達也、河村淳史、小山淳二、安積麻衣、阿久津宣行	脳神経外科速報	29	9	988	993	メディアカ出版	2019

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
特発性脊椎硬膜外血腫の小児例	脳神経外科	安積麻衣、河村淳史、 小山淳二、 阿久津宣行	小児の脳神経	44	3	288	291	一般社団法人 日本 小児神経外科学会	2019
Microsurgical confirmation of parenchymal contamination of hair in a pediatric patient with a penetrating head injury.	脳神経外科	Koyama J, Azumi M, Mori T, Akutsu N, Kawamura A.	Childs Nerv Syst.			doi: 10.1007/ s00381- 019-0441- 5, PubMed PMID: 31701279		Springer	2019.11
DIPG(diffuse intrinsic pontine glioma)に対する緩和治療における 脳神経外科医の役割:兵庫県立こども 病院において	脳神経外科	河村淳史	小児の脳神経	44	4	330	334	一般社団法人 日本 小児神経外科学会	2019.11
外傷性原発性脳幹部損傷により閉じ 込め症候群を呈した1例	脳神経外科	山西俊介	No Shinkei Geka	47	12	1255	1259	医学書院	2019.12
『こどもの運動器疾患—学校検診か ら日常診療まで』Perthes病	整形外科	薩摩眞一	整形外科	70	6	618	624	南江堂	2019.6
運動器疾患(小児)の治療法決定に 必要なキーポイント	整形外科	薩摩眞一	関節外科	38	10	13	20	メジカルビュー社	2019.10
小児整形外科疾患: 専門医試験をめざす症例問題トレー ニング	整形外科	薩摩眞一	整形外科	70	10	1094	1103	南江堂	2019.10
(境界領域の診療)整形外科的疾患 Osgood Schlatter病	整形外科	坂田亮介	小児内科	51	増刊	1610	1613	東京医学社	2019.10
内反母趾変形を伴う多趾症で、治療 に難渋した1例	整形外科	衣笠真紀	近畿小児整形外科	第31巻		35	38	近畿小児整形外科懇 話会	2019.1
股関節遺残屈脱臼の手術適応に対 する一考察 - 手術適応年齢で急 速に骨盤発育が加速した症例から -	整形外科	衣笠真紀	近畿小児整形外科	第31巻		46	48	近畿小児整形外科懇 話会	2019.1
小児に発症した踵骨骨髓炎の3例	整形外科	衣笠真紀	日本小児整形外科学会雑誌	第28巻	第1号	27	30	日本小児整形外科学 会	2019.9
呼吸障害を来した神経筋原性側弯 症の2例	整形外科	加藤蓮雄	日本小児整形外科学会雑誌	第29巻	第2号	77	80	日本小児整形外科学 会	2019.9
胸椎過前弯による呼吸障害を来した 神経筋原性側弯症の1例	整形外科	加藤蓮雄	近畿小児整形外科	第32巻		39	41	近畿小児整形外科懇 話会	2019.1

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
境界領域の診療 眼科的疾患 鼻涙管閉塞鼻涙管閉塞とその類縁 疾患－小児の流涙と眼脂－	眼科	野村耕治	小児内科	51	10	1419	1422	東京医学社	2019.10.1
中途失明の可能性のある疾患とその 検査/治療 7.小児眼科 眼振の患者はどこを診て、どう治療し たらよいでしょうか	眼科	野村耕治	あたらしい眼科	36	臨時 増刊	245	249	メディカル葵出版	2019.11.1
当院における未熟児網膜症の診療 状況ならびに光凝固術後の網膜形態 と機能への影響の検討	眼科	柳沢翠芳、野村耕治、 中村賢和、 中野由美子、 安武博樹	眼科臨床紀要	12	3	211	217	眼科臨床紀要会	2019.3.1
子供の頭、顔、くびの病気～コンサル トのタイミング「アデノイド増殖症」	耳鼻咽喉科	大津雅秀	小児科臨床	82	8	1043	1047	診断と治療社	2019. 8
【境界領域の診療】耳鼻咽喉科的疾 患 耳内異物、鼻腔異物(解説/特 集)	耳鼻咽喉科	勝沼紗矢香、 大津雅秀	小児内科	51	10	1373	1376	東京医学社	2019.10
Three-year prospective study on olfaction of patients with Parkinson's disease.	耳鼻咽喉科	Fujio H, Inokuchi G, Kuroki S, Tatehara S, Katsunuma S, Kowa H, Nibu KI.	Auris Nasus Larynx.	19	30115-4			日本耳鼻咽喉科学会	2019.09
尿管瘤	泌尿器科	杉多良文	泌尿器科外来マスタターバイブル			351	354	医学書院	2019.4.1
異所性尿管(尿管異所開口)	泌尿器科	杉多良文	泌尿器科外来マスタターバイブル			355	358	医学書院	2019.4.1
尿管瘤	泌尿器科	杉多良文	日本小児泌尿器科学会雑誌	28	臨時 増刊号	15	21	日本小児泌尿器科学会	2019.6.10
尿路管理における手術療法と合併症	泌尿器科	杉多良文	小児 創傷・オストミー・失禁 (WOC)管理の実際			59	69	東京医学社	2019.6.20
日帰り手術の麻酔	麻酔科	鹿原史寿子、 香川哲郎	小児外科	51	2	149	152	東京医学社	2019.02
先天性食道閉鎖症の麻酔	麻酔科	香川哲郎、 鹿原史寿子	小児外科	51	2	181	184	東京医学社	2019.02

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
National survey of attitudes and practices of endotracheal tube management in infants and small children in Japan	麻酔科	Masayuki Shibasaki, Yasuyuki Suzuki, Tetsuro Kagawa, Yasuhiro Kogure, Keiichiro Mizuno, Nobuaki Shime	Open Journal of Anesthesiology	9		9	22	Scientific Research Publishing	2019
PACUは患児の安全性・快適性向上に寄与する	麻酔科	香川哲郎、長谷川達也	LiSA	26	3	268	270	メデイカル・サイエンス・インターナショナル	2019.03
小児の麻酔関連心停止および周術期呼吸器有害事象	麻酔科	長谷川達也、香川哲郎	臨床麻酔	43	3	429	434	真興交易	2019.03
MRI検査の麻酔	麻酔科	上野健史、香川哲郎	Modern Physician	39	9	857	860	新興医学出版社	2019.9
喉頭気管食道裂Ⅳ型とゴールデンハ一症候群を合併した乳児の麻酔経験	麻酔科	秋泉春樹、高辻小枝子、香川哲郎	臨床麻酔	43	8	1077	1080	真興交易	2019.8
手術中の輸液管理	麻酔科	坪井ちづ、香川哲郎	小児外科	51	11	1101	1104	東京医学社	2019.11
Standardization of nitric oxide inhalation in extremely preterm infants in Japan.	新生児内科	Shiraishi J, Kusuda S, Cho K, Nakao A, Hiroma T, Sugiyura H, Suzuki S, Oshiro M, Yoshimoto S, Watabe S.	Pediatr Int.	61	2	152	157	Japan Pediatric Society	2019.2
18トリソミー児の高肺血流量性心疾患に対する心臓手術の有効性	新生児内科	玉置祥子、芳本誠司、横田知之、三村仁美、中尾秀人	日本周産期・新生児医学会雑誌	55	1	74	79	日本周産期新生児医学会	2019.5
画像診断 今月の症例	放射線診断科	杉岡勇典	小児科臨床	72	2	121	123	日本小児医事出版社	2019.2
知っていると役立つ小児画像診断における正常と異常の境界・消化器	放射線診断科	赤坂好宣	画像診断	39	14	1569	1578	秀潤社	2019.12
Beside ultrasound in the Pediatric intensive care unit: newer uses	小児集中治療科	Yuki Shiomi, Hiroshi Kurosawa	Current Pediatrics Reports	7	4	145	151	Springer	2019.11
18トリソミー患児に対する肺動脈絞扼術	小児集中治療科、循環器内科	長谷川智巳、佐藤有美、田中敏克	日本小児科学会雑誌	123	1	28	35	日本小児科学会	2019.1
二相性脳症	小児集中治療科	制野勇介、黒澤寛史	小児科診療	82	2	187	191	診断と治療社	2019.1

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
End-of-life care in the pediatric intensive care unit: Survey in Japan	小児集中治療科	Yusuke Seino, Hiroshi Kurosawa, Yuko Shiima, Takehiro Niitsu	Pediatric International	61	9	859	864	Japan Pediatric Society	2019.6.28
Location of arrest and survival from out-of-hospital cardiac arrest among children in the public-access defibrillation era in Japan	小児集中治療科、救急科	"Satoshi Matsui, Tetsuhisa Kitamura, Junya Sado, Kosuke Kiyohara,Daisuke Kobayashi, Takeyuki Kiguchi, Chika Nishiyama, Satoe Okabayashi, Tomonari Shimamoto, Tasuku Matsuyama, Takashi Kawamura, Taku Iwami, Ryojiro Tanaka, Hiroshi Kurosawa, Masahiko Nitta, Tomotaka Sobue,"	Resuscitation	140		150	158	The European Resuscitation Council	2019.5.11
肺軟骨腫の1例	兵庫県立こども病院 1)病理診断科、 2)小児外科、 3)血液腫瘍内科、 4)放射線診断科	1)吉田牧子、 2)福澤宏明、 2)前田貢作、 3)斎藤敦郎、 3)長谷川大一郎、 3)小阪嘉之、 4)赤坂好宣	日本小児血液・がん学会雑誌	第56巻	第1号	89	89	日本小児血液・がん学会	2019.4.12

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
分子診断からCNS neuroblastoma with FOXR2 activationと示唆された脳腫瘍の1例	兵庫県立こども病院 病理診断科1)、 脳神経外科2)、 血液腫瘍科3)、 放射線診断科4)、 放射線治療科5)	吉田牧子1)、 河村淳史2)、 小山淳二2)、 阿久津宣行2)、 安積麻衣2)、 石田敏章3)、 市川貴之3)、 長谷川大一郎3)、 小坂嘉之3)、 杉岡勇典4)、 赤坂好宣4)、 副島俊典5)	大阪母子医療センター雑誌	第34巻	第2号	135	135	大阪母子医療センター	2019.3
Low grade diffuse neuroepithelial tumor with IN11 deficiencyの1例	兵庫県立こども病院 病理診断科1)、 脳神経外科2)、 血液腫瘍科3)、 放射線診断科4)	吉田牧子1)、 河村淳史2)、 小山淳二2)、 阿久津宣行2)、 安積麻衣2)、 田村彰広3)、 長谷川大郎3)、 小坂嘉之3)、 杉岡勇典4)、 赤坂好宣4)	大阪母子医療センター雑誌	第34巻	第2号	145	146	大阪母子医療センター	2019.3
閉鎖型装置	看護部	鎌田直子	消化器ナーシング秋季増刊		317	96	96	メディカ出版	2019.10
開放型装置	看護部	鎌田直子	消化器ナーシング秋季増刊		317	97	97	メディカ出版	2019.10
逆流防止弁	看護部	鎌田直子	消化器ナーシング秋季増刊		317	103	103	メディカ出版	2019.10
尿路ストーマのケア	看護部	鎌田直子	WOC Nursing	7	8	49	56	医学出版	2019.8
小児集中治療室における医療器具関連感染症サーベイランス	看護部	中島由佳	小児外科	52	1	63	66	東京医学社	2020.1
マイカルテを用いた先天性心疾患の家族も含めた子どもへのセルフケア支援	看護部 6階西	安井愛理、藤井聡子、 河野早苗	こどもと家族のケア	14	6	8	12	日経研出版	2020.2
思春期にある透析患者と家族への看護実践	看護部 外来	栗林佑季	臨牀透析	35	11	85	90	日本メデイカルセンター	2019.4
頭部単純X線撮影条件に関する検討	放射線部	佐藤衣莉、廣瀬悦子、 中島宏樹	日本小児放射線技術研究会雑誌		44	32	35	日本小児放射線技術研究会	2019.3

3) 学会発表

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児の輸液 Common Disease	救急総合診療科 (総診)	南川将吾		よく分かる輸液セミナー 2019	東京	2019.9.15
インフリキシマブ導入後の当院における免疫グロブリン療法不応川崎病治療の現状	救急総合診療科 (総診)	広田幸穂1)、倉橋幸也1)、張慶哲1)、藤田杏子1)、津田雅世1)、中岸保夫2)、上村克徳1)、田中亮二郎1) 兵庫県立こども病院 1)救急総合診療科 2)リウマチ科	第277回	日本小児科学会兵庫県 地方会	神戸市	2019.5.11
Implementing appropriate anti-pseudomonas drugs for post-tracheostomy respiratory tract infection by increasing the number of pediatric hospitalists	救急総合診療科 (総診)	Y. Kurahashi, Y.Cho, K. Fujita, M. Tsuda, Y. Ito, M. Kasai, K. Kamimura, R. Tanaka	第37回	欧州小児感染症学会	リュブリャナ (スロベニア)	2019.05.10
生来健康な男児のサイトメガロウイルス(CMV)肺炎	救急総合診療科 (総診)	山田優里子、張慶哲、倉橋幸也、伊藤雄介、藤田杏子、津田雅世、笠井正志、上村克徳、田中亮二郎	第32回	近畿小児科学会	京都	2019.3.17
肉芽腫性口唇炎の小児例	救急総合診療科 (総診)	飯田尚樹、倉橋幸也、張慶哲、藤田杏子、津田雅世、笠井正志、上村克徳、田中亮二郎	第32回	近畿小児科学会	京都	2019.3.17
総合診療科専任医師が気管切開児の気道感染症診療に及ぼす影響	救急総合診療科 (総診)	倉橋幸也、張慶哲、藤田杏子、津田雅世、伊藤雄介、笠井正志、上村克徳、田中亮二郎	第122回	小児科学会	金沢市	2019.4.20
等張性電解質輸液(糖含有)製剤を選択しHolliday-Segar計算式とは異なる輸液量算出法を推奨する～pro～	救急総合診療科 (総診)	上村克徳	第122回	小児科学会	金沢市	2019.4.20
早期乳児におけるIVIG不応川崎病の治療選択の検討	救急総合診療科 (総診)	玉城倫、倉橋幸也、松村治、佐藤聖子、南川将吾、津田雅世、中岸保夫、上村克徳、田中亮二郎	第278回	日本小児科学会兵庫県 地方会	姫路市	2019.9.28
市民除細動時代における小児院外心停止発生の場所と予後の関係	救急総合診療科 (救急)	松井銳、北村哲久、佐道雅也、清原康介、石見拓、田中亮二郎、黒澤寛史、新田雅彦、祖父江友孝	第122回	日本小児科学会学術集会	石川県	2019.4.19
小児尿路感染症に対する救急外来での尿グラム染色の有用性について	救急総合診療科 (救急)	鯨島智大、梶原伸介、張慶哲、谷澤直子、松井銳、楠元真由美、林卓郎、伊藤雄介、笠井正志、田中亮二郎	第32回	近畿小児科学会	京都	2019.3.17
小児尿路感染症に対する救急外来での尿グラム染色の有用性について	救急総合診療科 (救急)	鯨島智大、梶原伸介、谷澤直子、松井銳、楠元真由美、林卓郎、笠井正志、田中亮二郎	第33回	日本小児救急医学会学術集会	大宮市	2019.6.22
地域の複数病院でRSウイルス感染症の入院日を調査することで、流行を早期察知することができる	救急総合診療科 (救急)	鯨島智大、笠井正志、大竹正悟、松井銳、田中亮二郎	第51回	小児感染症学会総会	旭川市	2019.10.27
小児救命救急センターの役割を果たすには一救命救急センターからの転送症例検討一	救急総合診療科 (救急)	林卓郎、松井銳、楠元真由美、梶原伸介、谷澤直子、染谷真紀、田中亮二郎	第22回	日本臨床救急医学会総会・学術集会	和歌山	2019.6.1

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児病院前救護トレーニングコース (pPMEC) の今後	救急総合診療科 (救急)	新田雅彦、賀来典之、林卓郎、安達晋吾、 塚原敏平、松浦治人、光銭大裕、六車崇、 守谷俊	第22回	日本臨床救急医学会総 会・学術集会	和歌山	2019.6.1
レボチロキシンナトリウム過量内服の小児2症例	救急総合診療科 (救急)	染谷真紀	第47回	日本救急医学会総会・ 学術集会	東京	2019.10.3
先天性胆道閉鎖症に後天性中枢性副腎不全を合併し た症例	代謝内分泌科 総合診療科	三星アカリ、永井正志、津田雅世、尾崎佳代	第277回	兵庫県地方会	神戸市	2019. 5.11
当院における21水酸化酵素欠損症46症例の治療中に 診られた中枢神経合併症の検討	代謝内分泌科 神経内科	尾崎佳代、三星アカリ、永井正志、丸山あずさ	第53回	日本小児内分泌学会学 術集会	京都市	2019.9.26-28
先天性胆道閉鎖症を合併し診断に苦慮したACTH単 独欠損症の1例	代謝内分泌科 総合診療科	三星アカリ、永井正志、津田雅世、尾崎佳代	第29回	臨床内分泌代謝Update	高知市	2019.11.29-30
抗MDA5抗体が高値であったが良好な臨床経過を得 られた間質性肺炎を合併した若年性皮膚筋炎の一例	リウマチ科	西村明紘、中岸保夫、浜田佳奈	第29回	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	札幌市	2019.10.5-6
全身性エリテマトーデスを合併したマクロプロファージ 活性化症候群症例の網羅的サイトカイン解析	リウマチ科	水田麻雄、清水正樹、宇佐美雅章、井上なつみ、 中岸保夫、谷内江昭宏	第29回	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	札幌市	2019.10.5-6
I型インターフェロロン症を疑う9歳の女児症例	リウマチ科	中岸保夫、西村明紘、浜田佳奈、岡本圭祐、 水田麻雄、本田吉孝、宮本尚幸、井澤利司、 貝藤裕史、黒澤寛史、清水正樹、森真直哉、 八角高裕、西小森隆太	第29回	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	札幌市	2019.10.5-6
トシリズムマブ治療中に発症した全身型若年性特発性 関節炎に合併したマクロプロファージ活性化症候群症例 の臨床的特徴	リウマチ科	清水正樹、水田麻雄、岡本奈美、八角高裕、 岩田直美、梅林宏明、大倉有加、金城紀子、 久保田知洋、中岸保夫、西村謙一、毛利万里子、 八代将登、安村純子、脇口宏之、森雅亮	第29回	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	札幌市	2019.10.5-6
関節型JIA患者における生物学的製剤の中止状況 TeMPRA共同研究	リウマチ科	久保田知洋、山崎雄一、西村謙一、中岸保夫、 井上なつみ、清水正樹、水田麻雄、金子詩子、 脇口宏之、橋本邦生、木澤敏毅、鈴木一雄	第29回	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	札幌市	2019.10.5-6
小児の膠原病および若年性特発性関節炎 全国小児 リウマチ中核施設の疫学調査結果を用いたMMP-3及 び骨密度についての検討	リウマチ科	薮花幸祐、岡本奈美、梅林宏明、岩田直美、 大倉有加、久保田知洋、清水正樹、中岸保夫、 西村謙一、水田麻雄、八代将登、八角高裕、 安村純子、脇口宏之、森雅亮	第63回	日本リウマチ学会総会・ 学術集会	京都市	2019.4.15-17
初発症状と反対側に再発した抗NMDAR抗体陽性非 ヘルペス性辺縁系脳炎の女児	神経内科	山口宏、徳元翔一、豊嶋大作、藤井栄一、 永瀬裕朗、田中恵子、高橋幸利、丸山あずさ、 飯島一誠	第65回	日本小児神経学会近畿 地方会	大阪市	2019.3.2
溶血性尿毒症症候群発症と同時に脳症を発症した一 例	神経内科	徳元翔一、山口宏、豊嶋大作、丸山あずさ、 黒澤寛史、稲熊洋祐、堀之内智子、貝藤裕史、 永瀬裕朗、飯島一誠	第65回	日本小児神経学会近畿 地方会	大阪市	2019.3.2
時間単位で評価した急性脳症のサイトカイン動態解 析(第1報)	神経内科	富岡和美、西山将広、永瀬裕朗、石田悠介、 田中司、徳元翔一、山口宏、豊嶋大作、 丸山あずさ、黒澤寛史、多田弘子、佐久間啓、 飯島一誠	第61回	日本小児神経学会学術 集会	名古屋市	2019.6.1

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
時間単位で評価した急性脳症のサイトカイン動態解析(第2報)	神経内科	西山将広、富岡和美、永瀬裕朗、石田悠介、田中司、徳元翔一、山口宏、豊嶋大作、丸山あずさ、起塚暉、親里嘉展、高見勇一、多田弘子、佐久間啓、飯島一誠	第61回	日本小児神経学会学術集会	名古屋市	2019.6.1
出血性ショック脳症候群(HSES)7症例の詳細な臨床経過の検討	神経内科	山口宏、徳元翔一、西山将広、豊嶋大作、永瀬裕朗、丸山あずさ、飯島一誠	第61回	日本小児神経学会学術集会	名古屋市	2019.6.1
有熱性難治性けいれん重積の治療プロトコル変遷による短期的予後の検討	神経内科	徳元翔一、山口宏、豊嶋大作、丸山あずさ、石田悠介、富岡和美、田中司、西山将広、永瀬裕朗、飯島一誠	第61回	日本小児神経学会学術集会	名古屋市	2019.5.31
小児けいれん重積に対する脳波モニタリング下ミダゾラム昏睡療法の有効性と安全性	神経内科	石田悠介、富岡和美、田中司、西山将広、永瀬裕朗、徳元翔一、山口宏、豊嶋大作、丸山あずさ、黒澤寛史、飯島一誠	第61回	日本小児神経学会学術集会	名古屋市	2019.5.31
小児難治てんかん重積における急性期の血中サイトカイン推移	神経内科	富岡和美、西山将広、山口宏、石田悠介、徳元翔一、豊嶋大作、丸山あずさ、永瀬裕朗、飯島一誠	第53回	日本てんかん学会学術集会	神戸市	2019.11.1
新規STXBPI変異を認め大田原症候群と診断したSTXBPI脳症	神経内科	山口宏、永瀬裕朗、西山将広、徳元翔一、豊嶋大作、丸山あずさ、森貞直哉、飯島一誠	第53回	日本てんかん学会学術集会	神戸市	2019.10.31
救急・集中治療におけるてんかん重積状態への対応 けいれん性てんかん重積治療における持続脳波モニタリング	神経内科	丸山あずさ、永瀬裕朗	第53回	日本てんかん学会学術集会	神戸市	2019.10.31
Post-Induction Minimal Residual Disease Measured By Flow Cytometry and Deep Sequencing of Mutant GATA1 Are Both Significant Prognostic Factors for Children with Myeloid Leukemia and Down Syndrome: A Nationwide Prospective Study of the Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group	血液・腫瘍内科	TakashiTaga,ShiroTanaka,KiminoriTerui,Shotarowamoto,HidefumiHiramatsu,TakakoMiyamura,YoshikoHashii,DaisukeHasegawa,HiroshiMoritake,HidekiNakayama,HiroyukiTakahashi,AkiraShimada,TomohikoTaki,TsutomuToki,EtsuroIto,KatsuyoshiKoh,DaiichiroHasegawa,AsahitoHama,AkikoMSaito,SouichiAdachi,andDaisukeTomizawa		61st Annual Meeting and Exposition, American Society of Hematology	Orland	2019.12.9
Outcome of Hematopoietic Stem Cell Transplantation in the Patients with Pediatric Acute Lymphoblastic Leukemia Enrolled in the Japan Association of Childhood Leukemia Study (JACLS) ALL-02	血液・腫瘍内科	MioYano,Hisashilshida,YoshikoHashii,AsahitoHama,YoshiyukiKosaka,TsukasaHori,JunichiHara,HiroshiKawaguchi,EtsuroIto,AkikoMSaito,AtsushiSato,HirokiHoriKeizoHoribe,andToshihikoImamura		61st Annual Meeting and Exposition, American Society of Hematology	Orland	2019.12.9
小児がんってどんな病気？大人のがんとどこが違うの？	血液・腫瘍内科	小阪嘉之	第33回	日本プライマリケア連合学会近畿地方教育講演	姫路市	2019.12.1

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
化学療法後に長期の好中球減少期間を呈する急性骨髄性白血病患児の予後はよい、 Predisposition to prolonged neutropenia after chemotherapy was associated with better prognosis in patients with acute myeloid leukemia	血液・腫瘍内科	青木孝浩、高橋浩之、田中司朗、柴徳生、長谷川大一郎、岩本彰太郎、照井君典、盛武浩、中山秀樹、嶋田明、藤勝好、後藤裕明、小阪嘉之、齋藤明子、堀部敬三、木下明俊、富澤大輔、多和昭雄、多賀崇、足立壮一	第61回	日本小児血液・がん学会 会学術集会	広島市	2019.11.14
JACLS ALL-02 研究における Acute Mixed Leukemia の遺伝子変異 Genetic Alterations in Acute Mixed Leukemia, Result of JACLS-ALL02 study	血液・腫瘍内科	嶋田明、長谷川大一郎、今村俊彦、金田眞、八木恵子、高橋良博、宇佐美郁哉、末延聡一、西村真一郎、橋井佳子、出口隆生、齋藤明子、加藤剛二、小阪嘉之、平山雅浩、井口晶裕、河崎裕英、堀浩樹、佐藤寛、中畑龍俊、小田慈、上野浩生、真田昌、小川誠司、原純一、堀部敬三	第61回	日本小児血液・がん学会 会学術集会	広島市	2019.11.14
JACLS ALL-02 登録例の寛解期造血幹細胞移植の検討 Outcome of hematopoietic stem cell transplantation in complete remission for patients enrolled in JACLS ALL-02 study	血液・腫瘍内科	石田悠志、矢野未央、宮村能子、瀧麻人、小阪嘉之、原純一、齋藤明子、佐藤寛、堀浩樹、堀部敬三、今村俊彦	第61回	日本小児血液・がん学会 会学術集会	広島市	2019.11.14
当施設における小児ALL 症例における中枢神経合併症についての検討 Central nervous system complications during hospital treatment in children with ALL	血液・腫瘍内科	市川貴之、石田敏章、片山大資、中谷尚子、野口隼、中村さやか、田村彰広、神前愛子、岸本健治、森健、長谷川大一郎、小阪嘉之	第61回	日本小児血液・がん学会 会学術集会	広島市	2019.11.14
小児患者へのネララビン投与による神経障害の検討 Nelarabine neurotoxicity in pediatric patient with T-cell acute lymphoblastic leukemia/ lymphoblastic lymphoma	血液・腫瘍内科	片山大資、石田敏章、市川貴之、中谷尚子、野口隼、中村さやか、田村彰広、神前愛子、齋藤敏郎、岸本健治、森健、長谷川大一郎、小阪嘉之	第61回	日本小児血液・がん学会 会学術集会	広島市	2019.11.14
頭蓋咽頭腫に対する陽子線治療 The role of proton beam therapy for relapsed pediatric craniopharyngioma	血液・腫瘍内科	河村淳史、小山淳二、阿久津直行、出水祐介、副島俊典、小阪嘉之	第61回	日本小児血液・がん学会 会学術集会	広島市	2019.11.14
気管切開を要した小児血液・腫瘍患者7例の臨床的検討 Airway management by tracheostomy in children with hematological and oncological diseases	血液・腫瘍内科	中谷尚子、齋藤敏郎、片山大資、市川貴之、野口隼、中村さやか、田村彰広、神前愛子、岸本健治、森健、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之	第61回	日本小児血液・がん学会 会学術集会	広島市	2019.11.14
当院で経験した上咽頭癌の3症例 Three cases of nasopharyngeal carcinoma in a single institute Department of Pediatrics, Kobe University Graduate School of Medicine Shotaro Inoue	血液・腫瘍内科	井上翔太郎、植村優、二野菜々子、高藤哲、山本暢之、西村範行、石田敏章、森健、長谷川大一郎、小阪嘉之、飯島一誠	第61回	日本小児血液・がん学会 会学術集会	広島市	2019.11.14
甲状腺に生じた先天性間葉腫 Congenital mesenchymoma of the thyroid gland	血液・腫瘍内科	野口隼、田村彰広、森健、片山大資、中谷尚子、市川貴之、中村さやか、齋藤敏郎、神前愛子、岸本健治、石田敏章、近藤亜弥、片岡大、芳本誠司、中尾秀人、吉田牧子、長谷川大一郎、小阪嘉之	第61回	日本小児血液・がん学会 会学術集会	広島市	2019.11.14

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
ダウン症候群に合併した急性白血病患者における中心静脈カテーテル関連合併症の検討 Central venous catheter-related complications in children with Down syndrome and acute leukemia	血液・腫瘍内科	近藤友里子、岸本健治、中村さやか、片山大資、市川貴之、中谷尚子、野口隼、田村彰広、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、森健、長谷川大一郎、小阪嘉之	第61回	日本小児血液・がん学会学術集会	広島市	2019.11.14
Vit B12 欠乏性貧血を呈した、回腸切除既往のある母体から出生した完全母乳の乳児例 VitB12 deficiency anemia in an infant born to ileum-resected mother	血液・腫瘍内科	松原康策、内藤昭嘉、田村彰広、二野菜々子、山本暢之、長谷川大一郎、小阪嘉之	第61回	日本小児血液・がん学会学術集会	広島市	2019.11.14
小児における視神経腫に伴う内分泌合併症の検討 Endocrine complications in children with Optic pathway glioma	血液・腫瘍内科	西村明紘、石田敏章、市川貴之、中谷尚子、野口隼、中村さやか、田村彰広、齋藤敦郎、神前愛子、岸本健治、森健、河村淳史、尾崎佳代、吉田牧子、赤坂好宣、副島俊典、長谷川大一郎、小阪嘉之	第61回	日本小児血液・がん学会学術集会	広島市	2019.11.15
びまん性内性橋神経腫に対する放射線再照射後の神経障害出現までの期間 Time course of neurological disability after re-RT for diffuse intrinsic pontine glioma	血液・腫瘍内科	中村さやか、岸本健治、片山大資、市川貴之、中谷尚子、野口隼、田村彰広、神前愛子、齋藤敦郎、石田敏章、森健、長谷川大一郎、河村淳史、副島俊典、小阪嘉之	第61回	日本小児血液・がん学会学術集会	広島市	2019.11.15
神戸陽子線センター～我が国初の小児がんに重点を置いた陽子線治療施設～の患者統計 Patient statistics of Kobe Proton Center-the first proton therapy facility mainly dedicated for pediatric cancers in Japan-	血液・腫瘍内科	出水祐介、美馬正幸、福光延吉、鈴木毅、河村淳史、小阪嘉之、副島俊典	第61回	日本小児血液・がん学会学術集会	広島市	2019.11.15
高リスク神経芽腫における7つのマーカーを用いたデジタルPCRで検出される微小残存病変は骨髄と末梢血で相関する Level of seven neuroblastoma-associated mRNAs analyzed by ddPCR is correlated between bone marrow and peripheral blood in high-risk neuroblastoma	血液・腫瘍内科	植村優、石田敏章、KyaemonthwinKhin, Sanlin Kyaw, 山本暢之、田村彰広、齋藤敦郎、岸本健治、森健、長谷川大一郎、小阪嘉之、二野菜々子、高藤哲、飯島一誠、西村範行	第61回	日本小児血液・がん学会学術集会	広島市	2019.11.15
アジアにおける小児ホジキンリンパ腫の臨床像 Clinical features and outcomes of pediatric Hodgkin lymphoma in Asia	血液・腫瘍内科	亀井美智、古賀友紀、Shihhsiang Chen, Chaoping Yang, 大木健太郎、深野玲司、田中文子、大隅朋生、田中真己人、森健、土持大一郎、堀大樹、藤田直人、角南勝介、三井哲夫、関水匡夫、森鉄也、小林良二	第61回	日本小児血液・がん学会学術集会	広島市	2019.11.15
小児白血病の認知機能—前向き縦断研究 Neurocognitive Performance of Children with Acute Lymphoblastic Leukemia: A Prospective Longitudinal Study	血液・腫瘍内科	佐藤聡美、高橋さと子、小阪嘉之、湯坐有希、佐藤篤、太田節雄、堀壽成、渡辺新、角南勝介、種山雄一、多賀崇、大六一志、瀧本哲也	第61回	日本小児血液・がん学会学術集会	広島市	2019.11.16

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
新たなDICER1 関連腫瘍と考えられた乳幼児仙骨部悪性奇形腫瘍腫瘍 Presacral malignant teratoid neoplasm in association with pathogenic DICER1 variation	血液・腫瘍内科	中野嘉子、長谷川大一郎、 Douglas R. Stewart, Kris Ann P. Schultz, Anne K. Harris, 平戸純子、 植村優、田村彰広、齋藤敦郎、河村淳史、 吉田牧子、小阪嘉之、山崎夏維、市村幸一、 Louis P. Dehner, D. Ashley Hill	第61回	日本小児血液・がん学 会学術集会	広島市	2019.11.16
Pharmacokinetic analysis for model-supported TDM of busulfan in pediatric SCT recipients	血液・腫瘍内科	岸本健治、長谷川大一郎、入江慶、岡田章、 田村彰広、山本暢之、齋藤敦郎、神前愛子、 石田敏章、福島昭二、小阪嘉之	第81回	日本血液学会学術集会	東京都 千代田区	2019.10.11
Clinical significance of TP53 mutations in pediatric B cell acute lymphoblastic leukemia	血液・腫瘍内科	上野浩生、吉田健一、塩澤裕介、飯高友加、 清河信敬、白石友一、千葉健一、田中洋子、 磯部友弥、関正史、木村俊介、片岡圭亮、 牧島秀樹、出口隆生、大木健太郎、佐藤篤、 高橋浩之、橋井佳子、時政定雄、原純一、 小阪嘉之、加藤剛二、犬飼岳史、滝田順子、 今村俊彦、宮野悟、真部淳、堀部恵三、 小川誠司、真田昌	第81回	日本血液学会学術集会	東京都 千代田区	2019.10.11
Programmed death-1 and programmed death-ligand 1 expression patterns in pediatric lymphoma	血液・腫瘍内科	田村彰広、吉田牧子、山本暢之、二野菜々子、 中谷尚子、市川貴之、中村さやか、齋藤敦郎、 神前愛子、岸本健治、石田敏章、森健、 長谷川大一郎、小阪嘉之	第81回	日本血液学会学術集会	東京都 千代田区	2019.10.13
DIFFERENT PROGRAMMED DEATH-1/ PROGRAMMED DEATH-LIGAND 1 EPRESSION PATTERNS FOR EACH PEDIATRIC LYMPHOMA SUBTYPE	血液・腫瘍内科	Akihiro Tamura, Makiko Yoshida, Nobuyuki Yamamoto, Nanako Nino, Naoko Nakatani, Takayuki Ichikawa, Sayaka Nakamura, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Kenji Kishimoto, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka		51st congress of the international society of paediatric oncology (SIOP)	Lyon France	2019.10.24
Sequential analyses of multiple GATA1 mutations in a patient with transient abnormal myelopoiesis	血液・腫瘍内科	山本暢之、田村彰広、二野菜々子、土岐力、 中谷尚子、市川貴之、中村さやか、神前愛子、 齋藤敦郎、岸本健治、石田敏章、 長谷川大一郎、照井君典、伊藤悦郎、小阪嘉之	第81回	日本血液学会学術集会	東京都 千代田区	2019.10.11
Successful treatment of MEF2D-BCL9-positive BCP-ALL by inotuzumab ozogamicin (InO)	血液・腫瘍内科	中谷尚子、齋藤敦郎、市川貴之、二野菜々子、 中村さやか、山本暢之、田村彰広、神前愛子、 岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、 永井淳一、後藤裕明、小阪嘉之	第81回	日本血液学会学術集会	東京都 千代田区	2019.10.12
Relapse and permanent consequences in children with Langerhans cell histiocytosis	血液・腫瘍内科	市川貴之、石田敏章、中谷尚子、二野菜々子、 中村さやか、田村彰広、山本暢之、神前愛子、 齋藤敦郎、岸本健治、長谷川大一郎、小阪嘉之	第81回	日本血液学会学術集会	東京都 千代田区	2019.10.13
小児専門医療機関における緩和ケアチームの展開	血液・腫瘍内科	関口典子、池島典之、神前愛子、岸本健治、 後藤恵美、塚田友紀、中谷扶美、乗松耕平、 大前隆広、藤井美有、小阪嘉之	第24回	日本緩和医療学会	神奈川県 横浜市	2019.6.19

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
治療歴のない血友病患者(PUPs)に対する半減期延長凝固因子製剤(EHL)の使用経験	血液・腫瘍内科	長谷川大一郎、市川貴之、中谷尚子、二野菜々子、中村さやか、山本暢之、齋藤敦郎、神前愛子、岸本健治、石田敏章、小阪嘉之	第41回	日本血栓止血学会	三重県津市	2019.6.21
当院のEwing肉腫及びEwing-like肉腫にPD-1/PD-L1の免疫染色を用いた検討	血液・腫瘍内科	吉田牧子、田村彰広、長谷川大一郎、小阪嘉之、前田貢作、河村淳史、薩摩眞一、赤坂好宣、副島俊典	第108回	日本病理学会	東京都千代田区	2019.5.9
Incidence and clinical features of herpes zoster among patients with malignancy	血液・腫瘍内科	TakahiroIshida, KenjiKishimoto, SayakaNakamura, Takayukilchikawa, NaokoNakatani, NanakoNino, NobuyukiYamamoto, AkihiroTamura, AtsuroSaito, AikoKouzaki, Toshiakishida, DaichiroHasegawa, YoshiyukiKosaka	第122回	日本小児科学会	金沢市	2019.4.19
高リスク神経芽腫患者における化学療法中の筋肉量減少	血液・腫瘍内科	岸奈津美、岸本健治、中村さやか、市川貴之、中谷尚子、二野菜々子、田村彰広、山本暢之、神前愛子、齋藤敦郎、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之	第122回	日本小児科学会	金沢市	2019.4.19
Atraumatic needle使用による腰椎穿刺後合併症の出現頻度	血液・腫瘍内科	菊池菜摘、岸本健治、市川貴之、中谷尚子、二野菜々子、中村さやか、田村彰広、山本暢之、神前愛子、齋藤敦郎、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之	第122回	日本小児科学会	金沢市	2019.4.19
兵庫県がん・生腫瘍ネットワークを通じた小児がん患者における卵巣凍結保存の取り組み	血液・腫瘍内科	山本暢之、脇本裕、中谷尚子、市川貴之、二野菜々子、中村さやか、田村彰広、神前愛子、齋藤敦郎、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、柴原浩章、小阪嘉之	第122回	日本小児科学会	金沢市	2019.4.19
術前検査における凝固異常の頻度	血液・腫瘍内科	森健、植村優、高藤哲、石河慎也、青砥悠哉、西村範行、太田國隆、飯島一誠	第122回	日本小児科学会	金沢市	2019.4.19
Vit B12欠乏性貧血を呈した、回腸切除既往のある母体から出生した完全母乳の乳児例	血液・腫瘍内科	内藤昭嘉、松原康策、田村彰広、二野菜々子、山本暢之、長谷川大一郎、小阪嘉之、重松陽介	第32回	近畿小児科学会	京都市	2019.3.17
診断・治療選択に難渋した全身型若年性黄色肉芽腫の新生児例	血液・腫瘍内科	西村明紘、石田敏章、市川貴之、太原鉄平、横田知之、長谷川大一郎、小阪嘉之	第32回	近畿小児科学会	京都市	2019.3.17
小児におけるOptiaを用いた末梢造血幹細胞採取の安全性と採取予因子の検討	血液・腫瘍内科	石田敏章、秋元明日香、岸本健治、横山真司、市川貴之、中谷尚子、二野菜々子、中村さやか、山本暢之、田村彰広、齋藤敦郎、神前愛子、長谷川大一郎、小阪嘉之	第41回	日本造血細胞移植学会 学術集会	大阪市	2019.3.8.
The safety and predictors of peripheral blood stem cell collection with the Optia device in children	血液・腫瘍内科	岸本健治、長谷川大一郎、中村さやか、市川貴之、中谷尚子、二野菜々子、田村彰広、山本暢之、神前愛子、齋藤敦郎、石田敏章、小阪嘉之	第41回	日本造血細胞移植学会 学術集会	大阪市	2019.3.8.
Flu/Mel/低線量TBIによる強度減弱前処置を受けた小児同種移植患者における移植後合併症	血液・腫瘍内科	神前愛子、長谷川大一郎、市川貴之、中谷尚子、二野菜々子、中村さやか、山本暢之、田村彰広、齋藤敦郎、岸本健治、石田敏章、小阪嘉之	第41回	日本造血細胞移植学会 学術集会	大阪市	2019.3.8.
Early and late-onset complications after allogeneic SCT with Flu/Mel/low-dose TBI regimen	血液・腫瘍内科	小児造血幹細胞移植後の二次がんに関する単一施設での後方視的検討	第41回	日本造血細胞移植学会 学術集会	大阪市	2019.3.8.
Secondary malignancies after hematopoietic stem cell transplantation in childhood	血液・腫瘍内科		第41回	日本造血細胞移植学会 学術集会	大阪市	2019.3.8.

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
タンデム自家移植併用大量化学療法を施行した転移性ユーン肉腫の小児例2例 Tandem high-dose chemotherapy and autologous PBSCT for metastatic Ewing sarcoma of children	血液・腫瘍内科	中谷尚子、齋藤敦郎、市川貴之、二野菜々子、中村さやか、山本暢之、田村彰広、神前愛子、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、小坂嘉之	第41回	日本造血細胞移植学会 学術集会	大阪市	2019.3.8.
集学的治療を行った転移性ユーン肉腫(BSFT)の2例	血液・腫瘍内科	中谷尚子、齋藤敦郎、市川貴之、二野菜々子、中村さやか、山本暢之、田村彰広、神前愛子、岸本健治、石田敏章、坂田亮介、吉田牧子、長谷川大一郎、小坂嘉之	第41回	近畿小児血液・がん研究会	京都市	2019.2.16
血友病未治療例(PUPs)に対する半減期延長凝固因子製剤(EHL)の使用経験	血液・腫瘍内科	市川貴之、中谷尚子、二野菜々子、中村さやか、山本暢之、田村彰広、齋藤敦郎、神前愛子、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、小坂嘉之	第41回	近畿小児血液・がん研究会	京都市	2019.2.16
小児がん相談支援室を訪れる思春期・若年成人(Adolescent and young adult,AYA)がん患者のニーズ	血液・腫瘍内科	長谷川大一郎、中谷扶美、石田敏章1、松尾さおり、谷本江利子、市川貴之、中谷尚子、二野菜々子、中村さやか、山本暢之、田村彰広、神前愛子、齋藤敦郎、岸本健治、小坂嘉之	第276回	日本小児科学会兵庫県 地方会	尼崎市	2019.2.2
小児がん陽子線治療における病院間連携	血液・腫瘍内科	石田敏章、出水祐介、福光延吉、副島俊典、鈴木毅、長谷川大一郎、小坂嘉之	第17回	兵庫県立病院学院学会	神戸市	2019.9.7
フォントラン術後遠隔期血行動態予後における肺動脈サイズの影響:肺動脈最小径の重要性	循環器内科	田中敏克、城戸佐知子、林賢、久保慎吾、上村和也、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、大嶋義博	第21回	日本成人先天性心疾患 学会	岡山	2019.1.11
TAPVR術後の肺静脈狭窄(PVS)に対するPlain Balloon AngioplastyとDrug-coated Balloon Angioplastyの比較	循環器内科	田中敏克、松岡道生、林賢、久保慎吾、上村和也、三木康暢、亀井直哉、城戸佐知子、大嶋義博	第30回	JPIC学会学術集会	埼玉	2019.1.25
2mm未満の動脈管に対するコイル以外のデバイスを使用した症例の検討	循環器内科	久保慎吾、田中敏克、林賢、上村和也、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第30回	JPIC学会学術集会	埼玉	2019.1.24
バルーン付マイクロカテーテルを用いたバルーン閉塞下コイル塞栓術	循環器内科	林賢、上村和也、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子、田中敏克	第30回	JPIC学会学術集会	埼玉	2019.1.24
小径ステントを留置した症例の短・中期治療成績の検討	循環器内科	松岡道生、田中敏克、林賢、久保慎吾、上村和也、三木康暢、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第30回	JPIC学会学術集会	埼玉	2019.1.25
心室のdirect punctureによりバルーン肺動脈弁形成術(BVP)を施行した低出生体重児、心臓脱、DIRV、valvular PS.の一例	循環器内科	田中敏克、久保慎吾、亀井直哉、林賢、上村和也、三木康暢、松岡道生、城戸佐知子、松久弘典	第30回	JPIC学会学術集会	埼玉	2019.1.25
門脈性肺高血圧を呈した肝外門脈閉塞症の一例	循環器内科	田中敏克、上村和也、福澤宏明、林賢、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第276回	日本小児科学会 兵庫 県地方会	尼崎市	2019.2.2
Alveolar capillary dysplasia with misalignment of pulmonary veinsが疑われた高度な肺動脈性肺高血圧症を呈した心房中隔欠損症の乳児例<症例>	循環器内科	久保慎吾、田中敏克、上村和也、林賢、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第25回	日本小児肺循環研究会	東京	2019.2.9

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
独立型小児病院における CIED 植込みと管理 兵庫県立こども病院では・・・	循環器内科	田中敏克	第11回	植込みデバイス関連冬季大会	品川	2019.2.15
Con の立場から：初期治療におけるステロイド併用は有用ではない	循環器内科	三木康暢	第43回	近畿川崎病研究会	大阪	2019.3.2
繰り返す肺静脈狭窄 (PVS) に対してステント内ステント留置が有効であった無脾症候群、総肺静脈還流異常症術後の一例	循環器内科	上村和也、亀井直哉、藤田秀樹、三木康暢、松岡道生、小川禎治、富永健太、城戸佐知子、田中敏克	第33回	日本小児循環器学会近畿・中四国地方会	大阪	2019.3.3
タコトボ型心筋症と考え治療した3症例	循環器内科	林賢、田中敏克、上村和也、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第32回	近畿小児科学会	京都	2019.3.17
難治性の気道出血に対し肺部分切除を施行した遺伝性出血性毛細血管拡張症 (HHT) の一例	循環器内科	田中敏克、上村和也、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第122回	日本小児科学会学術集会	石川	2019.4.21
主肺動脈・左右肺動脈が完全に血栓により充塞された百日咳肺炎の乳児例	循環器内科	小川禎治、林賢、上村和也、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第30回	日本心エコー学会	松本市	2019.5.12
パルスドプラーを用いた、下行大動脈における収縮期順行性・拡張期逆行性血流 VTI 測定による肺体血流比 (Qp/Qs) の推定	循環器内科	田中敏克、林賢、上村和也、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第30回	日本心エコー学会	松本市	2019.5.10
短腸症候群に合併した貧血・カルニチン欠乏による心不全の1例	循環器内科	三木康暢、田中敏克、林賢、上村和也、久保慎吾、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第277回	日本小児科学会 兵庫県地方会	神戸市	2019.5.11
フォンタン型手術後患者の思春期心理特性	循環器内科	城戸佐知子、林賢、上村和也、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、田中敏克	第55回	日本小児循環器学会	札幌市	2019.6.27
タコトボ型心筋症 (Takotsubo cardiomyopathy; TTC) と考え治療した3症例	循環器内科	林賢、上村和也、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第55回	日本小児循環器学会	札幌市	2019.6.27
急性心筋炎にて当院 Cardiac ICU 入室となった症例の長期予後の検討	循環器内科	富永健太、林賢、上村和也、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、田中敏克、城戸佐知子	第55回	日本小児循環器学会	札幌市	2019.6.27
混合型総肺静脈還流異常症修復術後の遺残垂直静脈により症候性門脈体循環シャントをきたした1例	循環器内科	矢野由美、林賢、上村和也、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第55回	日本小児循環器学会	札幌市	2019.6.27
純型肺動脈閉鎖 (重症肺動脈弁狭窄症を含む) の初期治療	循環器内科	三木康暢、林賢、上村和也、久保慎吾、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第55回	日本小児循環器学会	札幌市	2019.6.27
フォンタン術後遠隔期における右左短絡の検討	循環器内科	田中敏克、林賢、上村和也、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第55回	日本小児循環器学会	札幌市	2019.6.28
Amplatzer Vascular Plug- II を用いた PDA 閉鎖術後に肺動脈にデバイスが脱落し、経カテーテル的に回収した乳児の一例	循環器内科	田中敏克、林賢、上村和也、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第55回	日本小児循環器学会	札幌市	2019.6.28

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児病院の移行問題 ～小児病院連絡協議会のアンケート調査～	循環器内科	城戸佐知子	第55回	日本小児循環器学会	札幌市	2019.6.28
当院における肺静脈狭窄と肺高血圧の関連について	循環器内科	松岡道生、林賢、上村和也、久保慎吾、三木康暢、亀井直哉、小川禎治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第55回	日本小児循環器学会	札幌市	2019.6.28
小児循環器科医が行うOD(起立性調節障害)外来	循環器内科	小川禎治、林賢、上村和也、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第55回	日本小児循環器学会	札幌市	2019.6.28
長い動脈管に対するカテーテル治療の工夫	循環器内科	田中敏克、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、三木康暢、林賢、上村和也、久保慎吾、富永健太、城戸佐知子	第55回	日本小児循環器学会	札幌市	2019.6.29
急性心筋炎13症例の心電図変化と臨床像の検討、または Investigation of electrocardiography and clinical features of patients with acute myocarditis	循環器内科	広田幸穂、林賢、上村和也、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第55回	日本小児循環器学会	札幌市	2019.6.29
フォトン術後蛋白漏出性胃腸症に対して budesonide 腸溶性顆粒充填カプセルを使用した4症例の経験	循環器内科	上村和也、林賢、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第55回	日本小児循環器学会	札幌市	2019.6.29
FOXF1 遺伝子のミセンス変異により Alveolar capillary dysplasia with misalignment of pulmonary veins(ACD/MPV)が疑われた一例	循環器内科	久保慎吾、林賢、上村和也、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第55回	日本小児循環器学会	札幌市	2019.6.29
小児の一過性意識消失の診断の内訳とその特徴	循環器内科	小川禎治、田中敏克、城戸佐知子	第10回	失神研究会	東京	2019.7.6
タコツボ型心筋症 (Takotsubo cardiomyopathy; TTC) と考え治療した3症例	循環器内科	林賢、上村和也、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第17回	兵庫県立病院学院学会	神戸市	2019.9.7
循環管理に難渋したHCM合併ASDに対し開窓付き閉鎖術が有効であった一例	循環器内科	林賢、田中敏克、長谷川智巳、堀口祥、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第5回	日本小児循環器集中治療研究会	福岡	2019.9.14
高血圧を契機に診断に至った Mid-aortic syndrome の一例	循環器内科	岡崎沙也香、堀口祥、林賢、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第278回	日本小児科学会 兵庫県地方会	姫路市	2019.9.28
SCN5A 遺伝子変異が判明した完全房室ブロック合併の劇症型心筋炎の1例	循環器内科	三木康暢、小川禎治、田中敏克、堀口祥、林賢、久保慎吾、松岡道生、亀井直哉、富永健太、城戸佐知子	第28回	日本小児心筋疾患学会	大阪	2019.10.19
Comparison of drug coated balloon and plain balloon angioplasty for the treatment of pulmonary vein stenosis after total anomalous pulmonary venous connection repair	循環器内科	ToshikatsuTanaka, MichioMatsuoka, YasunobuMiki		2019 American Heart Association Scientific Sessions Meeting	Philadelphia	2019.11.17
非同期に起因する左心機能低下にフレカイニドが奏効したB型WPW症候群の一例	循環器内科	堀口祥、田中敏克、林賢、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子、鈴木福敏	第24回	日本小児心電学会	松山市	2019.11.29

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児急性心筋炎における伝導障害	循環器内科	広田幸穂、三木康暢、林賢、上村和也、久保慎吾、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第24回	日本小児心電学会	松山市	2019.11.29
ペースメーカー植え込み術後にブロックが改善した先天性高度房室ブロックの一例	循環器内科	田中敏克、小川禎治、堀口祥、林賢、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、富永健太、城戸佐知子	第24回	日本小児心電学会	松山市	2019.11.30
紫斑病性腎炎の経過中に溶連菌感染後急性糸球体腎炎を発生した一例	腎臓内科	永井貞之、稲熊洋祐、堀之内智子、貝藤裕史、毎原敏郎、田中亮二郎	第276回	日本小児科学会兵庫県地方会	尼崎市	2019.2.2
＜分野別シンポジウム＞全身性疾患と腎合併症＞腎臓関連検査の見方・考え方	腎臓内科	貝藤裕史	第122回	日本小児科学会学術集会	金沢市	2019.4.19
小児の腎腫瘍患者における片腎摘出の腎予後と腎障害との関連因子の検討	腎臓内科	稲熊洋祐、貝藤裕史、堀之内智子、中谷尚子、齋藤敦郎、長谷川大一郎、小坂嘉之、田中亮二郎	第122回	日本小児科学会学術集会	金沢市	2019.4.19
多嚢胞性異形成腎患児の臨床的検討	腎臓内科	堀之内智子、貝藤裕史、稲熊洋祐、森貞直哉、飯島一誠、田中亮二郎	第122回	日本小児科学会学術集会	金沢市	2019.4.19
溶連菌感染後急性糸球体腎炎を契機に明らかとなった両側腎臓痕の一例	腎臓内科	石河慎也、貝藤裕史、稲熊洋祐、田中亮二郎	第277回	日本小児科学会兵庫県地方会	神戸市	2019.5.11
小児IgA腎症における蛋白尿再燃因子の検討	腎臓内科	島友子、中西浩一、浜武継、貝藤裕史、野津寛大、田中亮二郎、飯島一誠、吉川徳茂	第62回	日本腎臓学会学術集会	名古屋	2019.6.21
集学的治療を要した小児腎腫瘍患者の腎予後とその関連因子の検討	腎臓内科	稲熊洋祐、貝藤裕史、堀之内智子、齋藤敦郎、長谷川大一郎、小坂嘉之、田中亮二郎	第62回	第62回日本腎臓学会学術集会	名古屋	2019.6.24
常染色体劣性Alport症候群39家系46人の臨床遺伝学的検討	腎臓内科	堀之内智子、野津寛大、石河慎也、青砥悠哉、榎原菜々、長野智那、南川将吾、山村智彦、貝藤裕史、森貞直哉、飯島一誠	第54回	日本小児腎臓病学会学術集会	大阪市	2019.6.7
小児特発性ネフローゼ症候群におけるインフルエンザウイルスワクチン接種とネフローゼ病勢との関連多施設共同研究	腎臓内科	石森真吾、堀之内智子、藤村順也、南川将吾、山村智彦、松野下夏樹、神吉直苗、小椋雅夫、貝藤裕史、野津寛大、亀井宏一、石倉健司、飯島一誠	第54回	日本小児腎臓病学会学術集会	大阪市	2019.6.7
ネフローゼ症候群患児にみられた三次リンパ組織の形成機序	腎臓内科	田中亮二郎、稲熊洋祐、堀之内智子、貝藤裕史、佐藤有紀、柳田素子、飯島一誠	第54回	日本小児腎臓病学会学術集会	大阪市	2019.6.7
小児IgA腎症の組織学的軽症例と重症例における多剤併用療法の効果に関する比較	腎臓内科	青砥悠哉、野津寛大、石河慎也、榎原菜々、長野智那、藤村順也、南川将吾、山村智彦、神吉直苗、石森真吾、島友子、中西浩一、吉川徳茂、貝藤裕史、飯島一誠	第54回	日本小児腎臓病学会学術集会	大阪市	2019.6.7
もやもや病に合併した腎血管性高血圧の4症例の臨床的検討	腎臓内科	稲熊洋祐、貝藤裕史、堀之内智子、田中敏克、田中亮二郎	第54回	日本小児腎臓病学会学術集会	大阪市	2019.6.7
膿尿を契機に明らかとなった常染色体劣性多発性嚢胞腎の一例	腎臓内科	石河慎也、貝藤裕史、稲熊洋祐、田中亮二郎	第278回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路市	2019.9.28
I型インターフェロロン症を疑う9歳の女児症例	腎臓内科	中岸保夫、西村明紘、浜田佳奈、岡本圭祐、水田麻雄、本田吉孝、宮本尚幸、井澤和司、貝藤裕史、黒澤寛史、清水正樹、森貞直哉、八角高裕、西小森隆太	第29回	日本小児リウマチ学会総会・学術集会	札幌市	2019.10.4

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
The correlation between chromosome X-inactivation and clinical severity in female Fabry disease	腎臓内科	Rossanti Rini, Nozu Kandai, Minamikawa Shogo, Yamamura Tomohiko, Fujimura Junya, Nakanishi Keita, Horinouchi Tomoko, Nagano China, Sakakibara Nana, Kaito Hiroshi, Iijima Kazumoto	18th	Congress of the International Pediatric Nephrology Association	Venice, Italy	2019.10.20
Factors related to proteinuria relapse in childhood IgA Nephropathy	腎臓内科	Shima Yuko, Nakanishi Koichi, Hama Taketsugu, Tanaka Yu, Wada Takuzo, Mukaiyama Hironobu, Sato Masashi, Nozu Kandai, Kaito Hiroshi, Tanaka Ryojiro, Suzuki Hiroyuki, Iijima Kazumoto, Yoshikawa Norishige	18th	Congress of the International Pediatric Nephrology Association	Venice, Italy	2019.10.20
Mechanism of tertiary lymphoid tissue formation in children with nephrotic syndrome	腎臓内科	Tanaka Ryojiro, Inaguma Yosuke, Kaito Hiroshi, Sato Yuki, Yanagita Motoko, Iijima Kazumoto	18th	Congress of the International Pediatric Nephrology Association	Venice, Italy	2019.10.20
Prospective examination of relationship between clinical features and relapse of nephrotic syndrome after flu vaccines	腎臓内科	Ishimori Shingo, Horinouchi Tomoko, Fujimura Junya, Minamikawa Shogo, Yamamura Tomohiko, Matsumoshita Natsuki, Kamiyoshi Naohiro, Ogura Masao, Kaito Hiroshi, Nozu Kandai, Kamei Koichi, Ishikura Kenji, Iijima Kazumoto	18th	Congress of the International Pediatric Nephrology Association	Venice, Italy	2019.10.20
腹膜透析カテター関連腹膜炎と鑑別困難であった糞便性イレウスによる穿孔性腹膜炎の1例	腎臓内科	稲熊洋祐、貝藤裕史、黒澤寛史、前田真作、田中亮二郎	第41回	日本小児腎不全学会学術集会	高知市	2019.11.28
15歳未満への内服抗菌薬処方状況調査と適正使用に向けた取り組み(口演)	感染症内科	明神翔太, 神吉直宙, 久具真章, 本郷彰裕, 笠井正志	第276回	日本小児科学会兵庫県地方会	尼崎市	2019.2.2
抗菌薬適正使用への取り組み(第2報)(口演)	感染症内科	穴戸 亜由美、笠井正志、木村誠、石橋和人、石田明人	第276回	日本小児科学会兵庫県地方会	尼崎市	2019.2.2
スウェーデンから学ぶ薬剤耐性菌対策(口演)	感染症内科	鞆谷沙織、明神翔太、張慶哲、笠井正志	第276回	日本小児科学会兵庫県地方会	尼崎市	2019.2.2
小児血液培養ボトルへの血液接種量「0.5mL」の有効性の検討	臨床検査科、感染症内科	亀山和明、笠井正志、伊藤雄介、寺前正純、大上朋子	第30回	臨床微生物学会総会・学術集会	東京都	2019.2.3
NICUにおけるASPとAST～薬剤師の立場から～(口演)	薬剤部、感染症内科	三輪祐太郎、笠井正志	第13回	新生児感染症管理予防研究会	神戸市	2019.2.23
姫路市休日夜間急病センターでの小児への経口抗菌薬処方状況と適正使用への取り組み(口演)	感染症内科	明神翔太, 神吉直宙, 久具真章, 本郷彰裕, 笠井正志	第32回	近畿小児科学会	大阪市	2019.3.17
神戸子ども初期急病センターでの抗菌薬動向調査と適正使用への取り組み(口演)	感染症内科	穴戸 亜由美、笠井正志、木村誠、石橋和人、石田明人	第32回	近畿小児科学会	大阪市	2019.3.17
発熱性好中球減少症における抗微生物薬の適正使用～overuseを防ぐ工夫～(シンポジウム)	感染症内科	笠井正志、山田真人、岸本健治	第93回	日本感染症学会総会	名古屋	2019.4.4
重要だからこそ焦らずじっくり市民啓発(シンポジウム)	感染症内科	笠井正志	第122回	第122回日本小児科学会学術集会	金沢市	2019.4.20

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
こどもに優しい微生物検査～小児呼吸器感染症におけるパネル検査の有用性～(教育セミナー)	感染症内科	笠井正志	第122回	第123回日本小児科学会学術集会	金沢市	2019.4.20
ナショナルデータベースを用いた本邦小児の抗菌薬処方実態調査(口演)	感染症内科	宇田和宏、大久保祐輔、木下典子、森崎菜穂、笠井正志、堀越裕歩、宮入烈	第122回	第124回日本小児科学会学術集会	金沢市	2019.4.20
神戸市における初期急病センターでの抗菌薬処方動向調査(口演)	感染症内科	矢戸 亜由美、笠井正志、木村誠、石橋和人、石田明人	第122回	第125回日本小児科学会学術集会	金沢市	2019.4.20
地方都市の休日夜間急病センターでの小児内服抗菌薬処方状況と適正使用への取り組み(ポスター)	感染症内科	明神翔太、神吉直宙、久具真章、本郷彰裕、笠井正志	第122回	第126回日本小児科学会学術集会	金沢市	2019.4.20
Influence on therapy for post-tracheostomy respiratory tract infection by increasing the number of pediatric hospitalists (ポスター)	感染症内科	Yukiya Kurahashi, Yoshiaki Cho, Kyoko Fujita, Masayo Tsuda, Yusuke Ito, Masashi Kasai, Katsunori Kamimura, Ryojito Tanaka	第37回	Annual Meeting of the European Society for Paediatric Infectious Diseases	Slovenija	2019.5.6-11
ANTIMICROBIAL STEWARDSSHIP PROGRAM IN A PICU (ポスター)	感染症内科	Yusuke Ito, Masashi Kasai	第37回	Annual Meeting of the European Society for Paediatric Infectious Diseases	Slovenija	2019.5.6-11
Survey result of antibiotic prescribing behavior toward children in Himeji- city Emergency Medical Center for Nights and Holidays(ポスター)	感染症内科	Shota Myojin, Masashi Kasai	第37回	Annual Meeting of the European Society for Paediatric Infectious Diseases	Slovenija	2019.5.6-11
Research of ensure blood culture positive rate with small specimen volume(ポスター)	感染症内科	Aya Kondo, Yusuke Ito, Masashi Kasai	第37回	Annual Meeting of the European Society for Paediatric Infectious Diseases	Slovenija	2019.5.6-11
小児診療の日常の疑問に答えます-感染症-(ワークショップ)	感染症内科	笠井正志	第10回	日本プライマリ・ケア連合学会学術大会	京都市	2019.5.19
「血流感染マネジメントバンドル」の使い方―血培にあんまり興味がない方々のために―(教育セミナー)	感染症内科	笠井正志	第55回	周産期・新生児学会	松本市	2019.7.14
今そこにあるAMR危機=こどもの未来の危機(教育講演)	感染症内科	笠井正志	第55回	中日小児科学会	富山市	2019.8.25
地域でAMR対策を展開していくために必要なコト(ワークショップ)	感染症内科	笠井正志	第29回	外来小児科学会	福岡市	2019.9.1
小児病院における多項目呼吸器パネル検査の有用性―こどもに優しい微生物検査―(口演)	感染症内科	笠井正志、大竹正悟、亀山和明	第17回	県立病院学会	神戸市	2019.9.7
SSI予防抗菌薬使用の手引き及び経口第三セフェム系抗菌薬許可制導入によるSSI予防に対する有用性の評価(口演)	薬剤部、感染症内科	渡邊駿子、磯元啓吾、寺崎展幸、石田達彦、垣尾尚美、福井由美子、大竹正悟、笠井正志	第17回	県立病院学会	神戸市	2019.9.7
「小児 AMR 対策事業に協力する前の 小児初期救急施設における内服抗菌薬処方割合と処方医師プロフィールとの関係」(口演)	感染症内科	木村誠、石橋和人、矢戸亜由美、笠井正志、野津寛大、石田明人	第46回	小児薬理学会	札幌市	2019.9.28

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
Bacteroides fragilis 菌血症に対しCefepimeが臨床的に有効かつ感性であった一例(口演)	感染症内科	田中友理佳、大竹正悟、笠井正志	第278回	日本小児科学会兵庫県 地方会	姫路市	2019.9.28
抗菌薬が使えない！-こども達の今と未来の危機- (教育講演)	感染症内科	笠井正志	第278回	日本小児科学会兵庫県 地方会	姫路市	2019.9.28
姫路市の小児における多剤耐性対策の普及と気道感染症に伴う重症細菌感染の発生率についての検討(口演)	感染症内科	仲嶋健吾、明神翔太、畑中由香子、笠井正志、久呉真章	第278回	日本小児科学会兵庫県 地方会	姫路市	2019.9.28
化膿性肝膿瘍を発症した自己免疫性好中球減少症の2症例	感染症内科	玉城倫、大竹正悟、笠井正志	第68回	日本感染症学会東日本 地方会学術集会	仙台市	2019.10.16-18
血液培養3セット中1セットが陽性となったA群溶血性連鎖球菌菌血症、単関節炎の一例	感染症内科	遠藤理紗、大竹正悟、笠井正志	第68回	日本感染症学会東日本 地方会学術集会	仙台市	2019.10.16-18
夜間急病センターの処方動向から検討する地域での抗菌薬適正使用の進め方	感染症内科	大竹正悟、笠井正志、岡田広、辰巳憲、森雅人、平本龍吾	第51回	日本小児感染症学会総 会・学術集会	旭川市	2019.10.26-27
夜間小児急病センターの処方動向から評価した薬剤耐性対策アクションプランの効果	感染症内科	大竹正悟、笠井正志、岡田広、辰巳憲、森雅人、平本龍吾	第51回	日本小児感染症学会総 会・学術集会	旭川市	2019.10.26-27
兵庫県小児医療機関における急性胃腸炎での外来内服抗菌薬処方意識調査 (ポスター)	感染症内科	近藤友里子、笠井正志、八若博司、岡藤隆夫	第51回	日本小児感染症学会総 会・学術集会	旭川市	2019.10.26-27
兵庫県小児医療機関における急性咽頭炎での外来内服抗菌薬処方意識調査 (ポスター)	感染症内科	近藤友里子、笠井正志、八若博司、岡藤隆夫	第51回	日本小児感染症学会総 会・学術集会	旭川市	2019.10.26-27
ペニシリン系薬(教育講演)	感染症内科	大竹正悟	第51回	日本小児感染症学会総 会・学術集会	旭川市	2019.10.26-27
本邦小児敗血症の現状と未来 (教育講演)	感染症内科	笠井正志	第52回	日本小児感染症学会総 会・学術集会	旭川市	2019.10.26-28
どうなっているの今のRSV-RSV感染症の現状と未来 (教育セミナー)	感染症内科	笠井正志	第53回	日本小児感染症学会総 会・学術集会	旭川市	2019.10.26-29
兵庫県の休日夜間急病センターにおける小児への経口抗菌薬処方動向調査と適正使用に向けた介入	感染症内科	明神翔太、笠井正志	第62回	日本感染症学会中日本 地方会学術集会	浜松市	2019.11.9
兵庫県の休日夜間急病センターにおける小児に対する経口抗菌薬適正使用に向けた取り組み(シンポジウム)	感染症内科	明神翔太、穴戸亜由美、笠井正志	第10回	日本医師会・日本獣医 師会による連携シンポ ジウム	東京都	2019.11.25
OFDI1に変異を有する生存男児4例の遺伝子型と臨床像	臨床遺伝科	森貞直哉、榎原菜々、清水順也、長谷幸治、大田敏之、和田卓三、島友子、中西浩一、野津寛大、飯島一誠	第41回	日本小児遺伝学会	名古屋	2019.1.11-12
The causative genes of congenital anomalies of the kidney and urinary tract (CAKUT) in Japan	臨床遺伝科	Naoya Morisada, Kandai Nozu, Kazumoto Iijima	The 17th	Japan-Korea-China Pediatric Nephrology Seminar 2019	Hangzhou	2019.4.13
ネフロン病関連シオリオパチー(NPHP-RC)の原因遺伝子と臨床像	臨床遺伝科	森貞直哉、榎原菜々、長野智那、野津寛大、飯島一誠	第122回	日本小児科学会	金沢市	2019.4.19-21

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
ネフロン病関連シリオリパチーの原因遺伝子と臨床症状	臨床遺伝科	森貞直哉、野津寛大、飯島一誠	第62回	日本腎臓学会	名古屋	2019.6.21-23
ADTKD-MUC1/UMODの抗体診断法確立へ向けた検討	臨床遺伝科	岡田 絵里、森貞直哉、李紀廉、森維久郎、福田亜純、上原正樹、川口武彦、首村守俊、北村博司、野津寛大、飯島一誠、今澤俊之	第62回	日本腎臓学会	名古屋	2019.6.21-23
ネフロン病5例の臨床病理学的検討	臨床遺伝科	藤丸季可、久富隆太郎、松田百代、野津寛大、飯島一誠、森貞直哉	第62回	日本腎臓学会	名古屋	2019.6.21-23
遺伝性腎疾患に対するプレジジョンメディスン小児腎疾患における遺伝子診断の現状	臨床遺伝科	森貞直哉、野津寛大、飯島一誠	第54回	日本小児腎臓病学会	大阪市	2019.6.7-8
常染色体劣性Alport症候群39家系46人の臨床遺伝学的検討	臨床遺伝科	堀之内智子、野津寛大、石河慎也、青砥悠哉、榊原菜々々、長野智那、南川将吾、山村智彦、貝藤裕史、森貞直哉、飯島一誠	第54回	日本小児腎臓病学会	大阪市	2019.6.7-8
学校検尿を契機に診断されたARPKDの16歳女児例	臨床遺伝科	森口駿、神田祥一郎、森貞直哉、梶保祐子、張田豊、飯島一誠、岡明	第54回	日本小児腎臓病学会	大阪市	2019.6.7-8
異状分節性糸球体硬化症(FSGS)を合併した6番染色体短腕中間部欠失症候群の一例	臨床遺伝科	松野下夏樹、元生和宏、徳田央士、山本寛子、竹中佳奈栄、川崎圭一郎、森貞直哉、榊原菜々々、南川将吾、野津寛大、飯島一誠	第54回	日本小児腎臓病学会	大阪市	2019.6.7-8
心不全・腎不全で診断された頭蓋外胚葉異形成(CED)の姉妹例	臨床遺伝科	齊藤綾子、泉維昌、鈴木竜太郎、塚越隆司、佐藤敬郎、林立申、塩野淳子、堀米仁志、稲垣隆介、濱田陸、幡谷浩史、緒方謙太郎、森貞直哉、飯島一誠、須藤崎 亮	第54回	日本小児腎臓病学会	大阪市	2019.6.7-8
次子の着床前診断を検討している遺伝性腎疾患の2家系	臨床遺伝科	久富隆太郎、松田百代、中西浩一、森貞直哉、野津寛大、飯島一誠、藤丸季可	第54回	日本小児腎臓病学会	大阪市	2019.6.7-8
IFT140遺伝子異常によるネフロン病患者の1例 走査電子顕微鏡を用いた繊毛形状観察	臨床遺伝科	吉岡祐也、神田祥一郎、堀田茂、大野真由子、森貞直哉、野木歩美、白井陽子、三浦健一郎、横山美貴、飯島一誠、服部元史	第54回	日本小児腎臓病学会	大阪市	2019.6.7-8
IGF2遺伝子変異に起因するシルバラーラッセル症候群の臨床的特徴 6例での検討	臨床遺伝科	増永陽平、矢本香織、才津浩智、井上毅信、中川憲夫、中島久和、長谷川龍志、大幡泰久、難波範行、鞍嶋有紀、佐藤恭弘、磯島豪、小川英伸、山口有、吉橋博史、森貞直哉、飯島一誠、栗林長多、鈴木宏、藤澤泰子、鏡雅代、深見真紀、緒方勤	第92回	日本内分泌学会	仙台市	2019.5.9-11
兵庫県立こども病院におけるゲノム医療体制の構築～先天異常、出生前診断、がんゲノムと遺伝カウンセリング～	臨床遺伝科	森貞直哉、平久進也、船越徹、長谷川大一郎、小阪嘉之、飯島一誠	第17回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.7
遺伝学的に診断できた常染色体劣性多発性嚢胞腎の遺伝型と臨床像	臨床遺伝科	森貞直哉、野津寛大、中西浩一、飯島一誠	第28回	発達腎研究会	東京都	2019.9.14
全前脳胞症 microform を合併したCurrarino症候群の1女児例	臨床遺伝科	森貞直哉、福澤宏明、小山淳二、野津寛大、飯島一誠	第278回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路市	2019.9.28

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
1型インターフェロン症を疑う9歳の女児症例	臨床遺伝科	中岸保夫、西村明紘、浜田佳奈、岡本圭祐、水田麻雄、本田吉孝、宮本尚幸、井澤和司、貝藤裕史、黒澤寛史、清水正樹、森貞直哉、八角高裕、西小森隆太	第29回	日本小児リウマチ学会	札幌市	2019.10.4-6
小児科領域の遺伝性腎疾患と遺伝カウンセリング	臨床遺伝科	森貞直哉	第49回	日本腎臓学会東部学術大会	東京都	2019.10.4-5
X染色体不活化と腎病変に顕著な差を認めたOrofaciocigital syndrome 1の母子	臨床遺伝科	渡邊佳孝、藤永周一郎、遠藤翔太、梅田千里、西野智彦、仲川真由、村上仁彦、森貞直哉、野津寛大、飯島一誠	第49回	日本腎臓学会東部学術大会	東京都	2019.10.4-5
遺伝学的に診断できた常染色体劣性多発性嚢胞腎の遺伝型と臨床像	臨床遺伝科	森貞直哉、野津寛大、中西浩一、飯島一誠	第27回	嚢胞性腎疾患研究会	東京都	2019.10.5
新規PAX2遺伝子変異が同定されたnon-syndromic CAKUTの女児例	臨床遺伝科	櫻谷浩志、藤永周一郎、梅田千里、富井祐治、渡邊佳孝、野津寛大、森貞直哉、飯島一誠	第41回	日本小児腎不全学会	高知市	2019.11.28-29
生直後に先天性胆道拡張症が疑われたZellweger症候群の一例	臨床遺伝科	山本青葉、久枝義也、鶴川寿子、山田浩之、竹田知洋、天方秀輔、中尾厚、中原さおり、森貞直哉、飯島一誠、野津寛大	第46回	日本小児栄養消化器肝臓学会	奈良市	2019.11.1-3
新規STXBP1変異を認め大田原症候群と診断したSTXBP1脳症	臨床遺伝科	山口宏、永瀬裕朗、西山将広、徳元翔一、豊嶋大作、丸山あずさ、森貞直哉、飯島一誠	第53回	日本てんかん学会	神戸市	2019.10.31-11.2
遺伝性腎疾患の包括的遺伝子解析	臨床遺伝科	森貞直哉、野津寛大、飯島一誠	第64回	日本人類遺伝学会	長崎市	2019.11.6-9
UMOD変異による常染色体優性間質性腎疾患(ADTKD)を合併したKBG症候群の1女性例	臨床遺伝科	田中悠、森貞直哉、鈴木智大、大橋佳隆、野津寛大、飯島一誠	第64回	日本人類遺伝学会	長崎市	2019.11.6-9
当科で遺伝学的に診断を確定したCFC症候群5例の臨床像	臨床遺伝科	長坂美和子、森貞直哉、飯島一誠	第64回	日本人類遺伝学会	長崎市	2019.11.6-9
FOXJ2近傍領域欠失による眼瞼裂狭小症候群の1女児例	臨床遺伝科	矢戸亜由美、森貞直哉、小野田素大、清水健司、大橋博文、飯島一誠	第64回	日本人類遺伝学会	長崎市	2019.11.6-9
P-Fスタディの有効な活用について —医療分野におけるP-Fスタディ	精神科	藤井美有	第38回	日本心理臨床学会	横浜市	2019.6.6
小児専門医療機関における緩和ケアチームの展開	精神科、麻酔科、血液内科、看護部、薬剤部	関口典子、池島典之、神前愛子、岸本健治、塚田友紀、後藤真美、中谷扶美、乗松耕平、藤井美有、小阪嘉之	第24回	日本緩和医療学会	横浜市	2019.6.22
シンポジウム 先天性気管狭窄症の外科的治療	小児外科	森田圭一、前田眞作	第29回	気管食道科学会 専門医大会	東京都	2019.2.24
新生児外科疾患の治療—最近の我々の工夫—	小児外科	前田眞作	第40回	石川県周産期・新生児研究会	金沢市	2019.2.24
総肺静脈還流異常症の修復術後に門脈肺静脈短絡が残存した1例	小児外科	梶原啓資、福澤宏明、植村光太郎、野村皓三、飯島田友、河原仁守、磯野香織、森田圭一、中尾真、横井暁子、前田眞作	第32回	小児脾臓・門脈研究会	仙台市	2019.3.2
Anterior-posterior cricoid split for children with subglottic stenosis	小児外科	Akiko Yokoi, Yuko Bitoh, Makoto Nakao	第52回	PAPS2019(太平洋小児外科学会)	Christchurch NZ	2019.3.9-14

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
A case of communicating bronchopulmonary foregut malformation associating with tracheal stenosis which ended up with tracheobronchial reconstruction failure, and why	小児外科	Kotaro Uemura, Akiko Yoko, Kosaku Maeda	第52回	PAPS2019(太平洋小児外科学会)	Christchurch NZ	2019.3.9-14
Stoma complications of cloacal extrophy	小児外科	Kaori Isono, Akiko Yokoi, Keisuke Kajihara, Kotaro Uemura, Kozo Nomura, Yoshitomo Samejima, Insu Kawahara, Keitichi Morita, Hiroaki Fukuzawa, Makoto Naka, Kosaku Maeda	第52回	PAPS2019(太平洋小児外科学会)	Christchurch NZ	2019.3.9-14
Clinical analysis of airway management in laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure: A single tertiary center experience	小児外科	Tamaki Iwade, Masao Yasufuku	第52回	PAPS2019(太平洋小児外科学会)	Christchurch NZ	2019.3.9-14
Recent advance of surgical outcome of slide tracheoplasty in patients with congenital tracheal stenosis: Review of recent 49cases	小児外科	Kosaku Maeda, Keitichi Morita, Insu Kawahara, Hiroaki Fukuzawa, Akiko Yokoi	第52回	PAPS2019(太平洋小児外科学会)	Christchurch NZ	2019.3.9-14
原因不明の腹腔内出血を繰り返す1乳児例	小児外科	梶原啓資、福澤宏明、植村光太郎、野村皓三、鯨島由友、河原仁守、磯野香織、森田圭一、中尾真、横井暁子、前田眞作	第81回	小児外科わからん会	大阪市	2019.3.23
先天性気管狭窄症に対するスライド気管形成術後の流体解析による定量的機能評価	小児外科	森田圭一、福澤宏明、武石直樹、和田成生、前田眞作	第119回	日本外科学会学術集会	大阪市	2019.4.18-20
小児先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡手術は低侵襲か？	小児外科	福澤宏明、野村皓三、植村光太郎、梶原啓介、鯨島由友、河原仁守、磯野香織、森田圭一、中尾真、横井暁子、前田眞作	第119回	日本外科学会学術集会	大阪市	2019.4.18-20
兵庫県立こども病院における国際医療交流について	小児外科	前田眞作		神戸市・天津市国際医療交流会議	天津市	2019.5.15-17
正中顎嚢胞と頬皮嚢胞は超音波診断で鑑別可能か？画像的特徴について当院43例の検討	小児外科	鯨島由友、梶原啓資、植村光太郎、野村皓三、河原仁守、磯野香織、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井暁子、前田眞作	第54回	日本小児外科学会学術集会	久留米市	2019.5.23-25
上大静脈症候群を伴った乳児頸部・縦隔リンパ管腫の治療経験	小児外科	野村皓三、前田眞作、梶原啓資、植村光太郎、鯨島由友、河原仁守、磯野香織、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井暁子	第54回	日本小児外科学会学術集会	久留米市	2019.5.23-25
術後AFP-L3分画の推移は肝芽腫の再発予測因子となる	小児外科	福澤宏明、漆原直人、野村皓三、植村光太郎、梶原啓資、鯨島由友、河原仁守、森田圭一、中尾真、横井暁子、前田眞作	第54回	日本小児外科学会学術集会	久留米市	2019.5.23-25
一期的閉鎖が可能であった胸骨裂の2例	小児外科	野村皓三、前田眞作、梶原啓資、植村光太郎、鯨島由友、河原仁守、磯野香織、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井暁子	第54回	日本小児外科学会学術集会	久留米市	2019.5.23-25
Rex シンチト手術を行った肝外門脈閉塞症の2例	小児外科	磯野香織、梶原啓資、植村光太郎、野村皓三、鯨島由友、河原仁守、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井暁子、前田眞作	第54回	日本小児外科学会学術集会	久留米市	2019.5.23-25

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
重症心身障碍児に対して施行した喉頭気管分離術後合併症の検討	小児外科	中尾真、前田眞作、横井暁子、福澤宏明、森田圭一、磯野香織、河原仁守、鮫島由友、野村皓三、梶原啓資、植村光太郎	第54回	日本小児外科学会学会集会	久留米市	2019.5.23-25
先天性心疾患に併存する声門下腔狭窄症の治療戦略	小児外科	植村光太郎、横井暁子、前田眞作、梶原啓資、野村皓三、鮫島由友、河原仁守、磯野香織、森田圭一、福澤宏明、中尾真	第54回	日本小児外科学会学会集会	久留米市	2019.5.23-25
鎖肛を伴わない直腸腔前庭瘻において瘻管は直腸内翻転・結紮にとどめるべきである	小児外科	梶原啓資、福澤宏明、福本弘二、漆原直人、鮫島由友、植村光太郎、野村皓三、河原仁守、磯野香織、森田圭一、中尾真、横井暁子、前田眞作	第54回	日本小児外科学会学会集会	久留米市	2019.5.23-25
C型食道閉鎖症を合併した気管無形成に対する気道と消化管の多段階再建術の経験	小児外科	植村光太郎、鮫島由友、河原仁守、森田圭一、福澤宏明、横井暁子、前田眞作	第54回	日本小児外科学会学会集会	久留米市	2019.5.23-25
人工肛門犬咬傷の1例	小児外科	植村光太郎、鮫島由友、河原仁守、森田圭一、福澤宏明、横井暁子、前田眞作	第33回	日本小児ストーム・排泄・創傷管理研究会	岡山市	2019.6.15
小児の肺・気道病変	小児外科	前田眞作		九州大学医学部小児外科学4年生特別講義	福岡市	2019.7.3
小児気道疾患における気管支鏡の有用性	小児外科	横井暁子	第46回	日本小児内視鏡研究会	名古屋	2019.7.7
先天性甲状腺腫瘍の1例	小児外科	近藤亜耶、片岡大、近藤友里子、山内貴未、黒田淳平、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、横井暁子、芳本誠司、前田眞作、中尾秀	第55回	日本周産期・新生児医学学会学術集会	松本市	2019.7.13-15
胎児・新生児卵巣腫瘍の治療方針 過去10年間に当センターで入院管理した新生児卵巣腫瘍15例	小児外科	玉置祥子、岩谷壮太、片岡大、山内貴未、松井紗智子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人、前田眞作	第55回	日本周産期・新生児医学学会学術集会	松本市	2019.7.13-15
先天性横隔膜ヘルニアに対する最適な人工呼吸法の検討 AMED 奥山班多施設共同研究より	小児外科	冬木真規子、奥山宏臣、白井規朗、田口智章、早川昌弘、増本幸二、金森豊、漆原直人、植村昇、横井暁子、岡崎任晴、豊島勝昭、古川泰三、照井慶太、内田恵一	第55回	日本周産期・新生児医学学会学術集会	松本市	2019.7.13-15
鎖肛術後長期排便管理の問題点	小児外科	黒田靖浩	第10回	KSH研究会	神戸市	2019.7.20
直腸肛門奇形と肛門管	小児外科	植村光太郎	第10回	KSH研究会	神戸市	2019.7.20
小児気道狭窄症の診断と治療－多職種連携の重要性について－	小児外科	前田眞作	第33回	筑波大学小児外科セミナー	つくば市	2019.7.25
当院で経験した先天性梨状窩嚢胞の5例	小児外科	鮫島由友、森田圭一、福澤宏明、黒田靖浩、藤枝悠希、植村光太郎、竹内雄毅、河原仁守、岩出珠幾、横井暁子、前田眞作	第55回	日本小児外科学会近畿地方会	奈良市	2019.8.24
当院における先天性食道閉鎖症治療の現況	小児外科	藤枝悠希、前田眞作、黒田靖浩、竹内雄毅、植村光太郎、岩出珠幾、鮫島由友、河原仁守、森田圭一、福澤宏明、横井暁子	第55回	日本小児外科学会近畿地方会	奈良市	2019.8.24
骨盤内膿瘍を伴う虫垂炎に対して経直腸ドレナージが奏功した1例	小児外科	竹内雄毅、岩出珠幾、黒田靖浩、藤枝悠希、植村光太郎、鮫島由友、河原仁守、森田圭一、福澤宏明、横井暁子	第55回	日本小児外科学会近畿地方会	奈良市	2019.8.24

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
総排泄腔遺残にて直腸利用造脛術後、膈口狭窄に対して口腔粘膜利用膈口形成術を施行し、自然妊娠した1例	小児外科	春名晶子、山下遥介、安食 淳、波越朋也、杉多良文、河原仁守、前田貢作、益子沙友里、船越 徹	第55回	日本小児外科学会近畿 地方会	奈良市	2019.8.24
Multistage reconstruction of aero-digestive tract of tracheal agenesis and Type C esophageal atresia	小児外科	Kosaku Maeda, Keiichi Morita, Insu Kawahara, Kotaro Uemura, Yoshitomo Samejima, Keisuke Kajihara, Kozo Nomura, Kaori Isono, Hiroaki Fukuzawa, Makoto Nakao, Akiko Yokoi	第32回	ISPSR(国際小児外科 リサーチシンポジウム) 2019	福岡市	2019.9.8-9
Diagnosis and management of the spectrum of laryngotracheal malformations associated with esophageal atresia	小児外科	Kosaku Maeda, Keisuke Kajihara, Keiichi Morita, Shizu Miura, Insu Kawahara, Yoshitomo Samejima, Kaori Isono, Hiroaki Fukuzawa, Makoto Nakao, Akiko Yokoi	第32回	ISPSR(国際小児外科 リサーチシンポジウム) 2019	福岡市	2019.9.8-9
Computational fluid dynamic assessment of tracheal flow after slide tracheoplasty for congenital tracheal stenosis	小児外科	Keiichi Morita, Hiroaki Fukuzawa, Naoki Takeishi, Shigeo Wada, Kosaku Maeda	第32回	ISPSR(国際小児外科 リサーチシンポジウム) 2019	福岡市	2019.9.8-9
晩期合併症・トランジション 胆管非拡張型膽・胆管合流異常に対する胆嚢摘出後の胆管径の変化に関する検討	小児外科	上田泰弘、味木徹夫、津川大介、柳本泰明、橋本悠、藏満薫、寺井祥雄、田中基文、木戸正浩、外山博近、福本巧、福澤宏明	第42回	日本胆・胆管合流異常 研究会	仙台市	2019.9.21
MULTIDISCIPLINARY APPROACH TO THE ADVANCEMENT OF SURGICAL OUTCOME OF TRACHEOPLASTY IN PATIENTS WITH CONGENITAL TRACHEAL STENOSIS	小児外科	Kosaku Maeda, Keiichi Morita, Insu Kawahara, Yoshitomo Samejima	第12回	Asean society of pediatric surgeons2019	Hanoi vietnum	2019.9.25-27
TREATMENT OF INFANT CERVICAL AND MEDIASTINAL LYMPHANGIOMA WITH SUPERIOR VENA CAVA SYNDROME	小児外科	Kosaku Maeda	第12回	Asean society of pediatric surgeons2019	Hanoi vietnum	2019.9.25-27
出血壊死が認められなかった劇症型 NEC の1例、機序は？!	小児外科	鮫島由友、横井暁子、森田圭一、黒田靖浩、藤枝悠希、植村光太郎、竹内雄毅、河原仁守、岩出珠幾、福澤宏明、前田貢作	第82回	小児外科わからん会	大阪市	2019.9.28
上大静脈症候群を伴った乳児頸部・縦隔リンパ管腫に対する漢方治療	小児外科	前田貢作、野村皓三、植村光太郎、鮫島由友、河原仁守、森田圭一、福澤宏明、横井暁子	第24回	日本小児外科漢方研究会	大阪市	2019.10.17
小児集中治療における鎮静薬としての抑肝散の使用経験	小児外科	前田貢作、森田圭一、河原仁守、鮫島由友	第24回	日本小児外科漢方研究会	大阪市	2019.10.17
気管狭窄症に対し腕頭動脈離断及び気管つり上げを行った脳性まひ・吸気性喘鳴の1例	小児外科	小幡悠、帯刀英樹、前田貢作、塩瀬明、田口智章	第30回	日本小児呼吸器外科研 究会	大阪市	2019.10.18
両大血管右室起始症を合併した気管無形成症例に対する気道管理	小児外科	長井勇樹、制野勇介、青木一憲、長谷川智巳、黒澤寛史、前田貢作	第30回	日本小児呼吸器外科研 究会	大阪市	2019.10.18
縦隔腫瘍に対する外科的アプローチ	小児外科	河原仁守、福澤宏明、森田圭一、岩出珠幾、鮫島由友、竹内雄毅、植村光太郎、藤枝悠希	第61回	日本小児血液・がん学 会学術集会	広島市	2019.11.14
ヒト RET51 (C618F)を Ret promoter 下で条件的発現するマウスは甲状腺 C 細胞過形成及び腸管神経節細胞増加を呈する	小児外科	岡本光正、吉岡裕太、前田貢作、尾藤祐子、福本巧、上坂俊裕、榎本秀樹	第61回	日本小児血液・がん学 会学術集会	広島市	2019.11.16

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
ストーマ脱出に対するボタン固定術	小児外科	前田貢作、鮫島由友、竹内雄毅	第30回	近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会	宇治市	2019.11.24
安全な気管切開の方法とその管理(小児) 乳幼児に 対する気管切開とその管理	小児外科	前田貢作、森田圭一、福澤宏明、河原仁守、 鮫島由友、横井暁子	第71回	日本気管食道科学会学術講演会	宇都宮市	2019.11.28
当院で開腹胆道造影検査を施行した20症例の後方視 的解析	小児外科	竹内雄毅、福澤宏明、福澤宏明、黒田靖浩、 藤枝悠希、植村光太郎、竹内雄毅、鮫島由友、 河原仁守、森田圭一、岩出珠幾、横井暁子、 前田貢作	第46回	日本胆道閉鎖症研究会	広島市	2019.11.30
腸管重複症が原因と考えられた腹腔内動脈性出血の 乳児の2例	小児外科	福澤宏明、藤枝悠希、岩出珠幾、横井暁子、 前田貢作	第81回	日本臨床外科医学会	高知市	2019.11.14
先天性胆道拡張症について語る：小児外科・成人外科 (開腹vs鏡視下)の立場から 先天性胆道拡張症における開腹手術と腹腔鏡手術の 違い	小児外科	福澤宏明、黒田靖浩、藤枝悠希、植村光太郎、 竹内雄毅、鮫島由友、河原仁守、森田圭一、 岩出珠幾、横井暁子、前田貢作	第81回	日本臨床外科医学会	高知市	2019.11.15
胎児胸腔-羊水腔シャントチューブの胎児胸腔内遺残 を胸腔鏡下に摘出した3例	小児外科	竹内雄毅、森田圭一、藤枝悠希、植村光太郎、 鮫島由友、河原仁守、岩出珠幾、福澤宏明	第32回	日本内視鏡外科学会総会	横浜市	2019.12.5
小児内視鏡外科手術におけるMiniLapの応用	小児外科	植村光太郎、藤枝悠希、竹内雄毅、鮫島由友、 河原仁守、岩出珠幾、福澤宏明	第32回	日本内視鏡外科学会総会	横浜市	2019.12.5
先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡下根治術 knock & pitfall 当院の腹腔鏡下胆道拡張症手術の工夫	小児外科	福澤宏明、藤枝悠希、黒田靖浩、竹内雄毅、 植村光太郎、鮫島由友、河原仁守、森田圭一、 岩出珠幾	第32回	日本内視鏡外科学会総会	横浜市	2019.12.5
腹腔鏡下噴門形成術 我々の術式 腹腔鏡下噴門形 成術について術式を定型化したことのメリット	小児外科	河原仁守、福澤宏明、森田圭一、岩出珠幾、 鮫島由友、竹内雄毅、植村光太郎、藤枝悠希	第32回	日本内視鏡外科学会総会	横浜市	2019.12.5
胆管非拡張型胆管合流異常に対する腹腔鏡下胆嚢 摘出後の胆管径の変化に関する検討	小児外科	上田泰弘、味木徹夫、津川大介、柳本泰明、 橋本悠、寺井祥雄、植村光太郎、田中基文、 外山博近、木戸正浩、福本巧、福澤宏明	第32回	日本内視鏡外科学会総会	横浜市	2019.12.5
一般演題(口演)7 外科 座長	心臓血管外科	大嶋義博	第21回	日本成人先天性心疾患 学会総会・学術集会	岡山市	2019.1.11-13
総肺静脈還流異常に対する外科治療の長期成績	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智恵、岩城隆馬、 村上優、城戸佐知子、田中敏克	第21回	日本成人先天性心疾患 学会総会・学術集会	岡山市	2019.1.11-13
尿中L型脂脂肪酸結合蛋白によるFontan 周術期腎機能 評価	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智恵、岩城隆馬、 村上優、黒澤寛史、制野勇介、菅谷健	第49回	日本心臓血管外科学会 学術総会	岡山市	2019.2.11-13
純型肺動脈閉鎖症に対する長期成績とエコーによる 治療基準の策定	心臓血管外科	村上優、岩城隆馬、日隈智恵、松久弘典、 大嶋義博	第49回	日本心臓血管外科学会 学術総会	岡山市	2019.2.11-13
第5セッション 左室流出路・大血管外科治療 座長	心臓血管外科	大嶋義博	第33回	日本小児循環器学会 近畿・中四国地方会	大阪市	2019.3.3
Posterior TGA type DORV に対する original Jatene 手術	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智恵、岩城隆馬、 村上優、久保慎吾、田中敏克、城戸佐知子	第33回	日本小児循環器学会 近畿・中四国地方会	大阪市	2019.3.3
Right atrial isomerism に対するダブルスウィッチ手術の 経験	心臓血管外科	日隈智恵、村上優、岩城隆馬、松久弘典、 大嶋義博	第33回	日本小児循環器学会 近畿・中四国地方会	大阪市	2019.3.3

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
DORV (doubly-committed VSD) の遠隔成績	心臓血管外科	村上優、岩城隆馬、日隈智憲、松久弘典、大嶋義博	第33回	日本小児循環器学会 近畿・中四国地方会	大阪市	2019.3.3
Symmetric Bicuspidization and Annuloplasty Provide a Functioning Valve Configuration to Unicuspid Aortic Valve	心臓血管外科	Matsushima S, Igarashi T, Shimizu A, Ehrlich T, Karljova I, Schäfers HJ		The Heart Valve Society Annual Meeting 2019	Barcelona	2019.4.11-13
3DCTを用いた総肺静脈還流異常に対する治療戦略	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、岩城隆馬、村上優、田中敏克、芳本誠司	第17回	日本周産期循環管理研究会	神戸市	2019.5.25-26
一般演題および特別講演 座長	心臓血管外科	大嶋義博	第67回	神戸心臓外科研究会 (KCCS)	神戸市	2019.5.29
大動脈弁下狭窄および冠状動脈起始異常に対する修復術	心臓血管外科	長谷川翔太、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、松島峻介、和田侑星	第72回	兵庫心臓外科懇話会	神戸市	2019.6.7
Case presentation award 心臓I6 先天性2座長	心臓血管外科	大嶋義博	第62回	関西胸部外科学会	徳島市	2019.6.13-14
要望演題 心臓4 フロー-四徴症 座長	心臓血管外科	松久弘典	第62回	関西胸部外科学会	徳島市	2019.6.13-14
Norwood型手術後のarch再介入における補助循環とアプローチ	心臓血管外科	日隈智憲、村上優、岩城隆馬、松久弘典、大嶋義博	第62回	関西胸部外科学会	徳島市	2019.6.13-14
フロー-四徴症に対するNunn弁を用いたTransannular patchの中期成績	心臓血管外科	村上優、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、岩城隆馬	第62回	関西胸部外科学会	徳島市	2019.6.13-14
Taussig-Bing奇形に対する動脈スイッチ手術の遠隔成績	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、岩城隆馬、村上優、城戸佐知子、田中敏克、山口真弘	第55回	日本小児循環器学会 総会・学術集会	札幌市	2019.6.27-29
先天性心疾患におけるMICSは可能か-心房中隔欠損閉鎖術に見る術式別検討-	心臓血管外科	日隈智憲、村上優、岩城隆馬、松久弘典、大嶋義博、芳村直樹	第55回	日本小児循環器学会 総会・学術集会	札幌市	2019.6.27-29
側開胸手術における術野留置カテーテルによる持続傍脊椎ブロックの有用性	心臓血管外科	日隈智憲、村上優、岩城隆馬、松久弘典、大嶋義博	第55回	日本小児循環器学会 総会・学術集会	札幌市	2019.6.27-29
生後早期に手術を要した巨大右冠動脈右室瘻の早産見例	心臓血管外科	和田侑星、長谷川翔太、松島峻介、日隈智憲、松久弘典、大嶋義博		Kobe Cardiovascular Conference 2019	神戸市	2019.7.3
Computed Tomography Based Surgical Strategy for Total Anomalous Pulmonary Venous Connection	心臓血管外科	Hironori Matsuhisa, Yoshihiro Oshima, Tomonori Higuma, Shunsuke Matsushima, Shota Hasegawa, Yuson Wada, Michio Matsuoka, Toshikatsu Tanaka	第33回	Annual Meeting of the European Association for Cardio-Thoracic Surgery	Lisbon	2019.10.3-5
境界領域における治療戦略-低形成右室の長期予後	心臓血管外科	大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、松島峻介、長谷川翔太、和田侑星、山口真弘、圃尾文子、芳村直樹	第72回	日本胸部外科学会 定期学術集会	京都市	2019.10.30-11.2
口演31 右室流出路再建 座長	心臓血管外科	大嶋義博	第72回	日本胸部外科学会 定期学術集会	京都市	2019.10.30-11.2
冠状動脈移植法から見た動脈スイッチ手術の遠隔成績	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、岩城隆馬、長谷川翔太、和田侑星	第72回	日本胸部外科学会 定期学術集会	京都市	2019.10.30-11.2
AP window および右肺動脈大動脈起始症の遠隔期成績	心臓血管外科	日隈智憲、和田侑星、長谷川翔太、松島峻介、松久弘典、大嶋義博、山口真弘	第72回	日本胸部外科学会 定期学術集会	京都市	2019.10.30-11.2
小児患者での1尖弁に対する2尖弁化を用いた大動脈弁形成術	心臓血管外科	松島峻介、Schäfers HJ	第72回	日本胸部外科学会 定期学術集会	京都市	2019.10.30-11.2

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
右側房室弁の straddling を伴う AVSD に対する閉鎖術	心臓血管外科	村上優、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、岩城隆馬	第72回	日本胸部外科学会定期学術集会	京都市	2019.10.30-11.2
大動脈縮窄症に対する再狭窄のない大動脈弓再建-CT画像を用いた幾何学的解析から更なる改善を目指して-	心臓血管外科	長谷川翔大、松島峻介、和田侑星、日隈智憲、松久弘典、大嶋義博	第72回	日本胸部外科学会定期学術集会	京都市	2019.10.30-11.2
気管狭窄を合併した先天性心疾患に対する治療の成績	心臓血管外科	和田侑星、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、松島峻介、長谷川翔大	第72回	日本胸部外科学会定期学術集会	京都市	2019.10.30-11.2
心室中隔欠損症に伴う大動脈弁冠尖逸脱の effective height を用いた形成の経験	心臓血管外科	松島峻介、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、長谷川翔大、和田侑星	第73回	兵庫県心臓外科懇話会	神戸市	2019.11.8
出生時頭蓋内出血を来した完全大血管転位症 I 型に対する治療戦略	心臓血管外科	和田侑星、長谷川翔大、松島峻介、日隈智憲、松久弘典、大嶋義博	第68回	神戸心臓外科研究会 (KCCS)	神戸市	2019.11.15
エアバッグ外傷による乳児脊髄損傷の1例	脳神経外科	勝部毅、安積麻衣、阿久津宣行、小山淳二、河村淳史	第42回	日本脳神経外傷学会	淡路市	2019.3.8-9
術中急性脳腫脹を来した小児後頭蓋窩穿通性外傷	脳神経外科	小山淳二、森達也、勝部毅、安積麻衣、阿久津宣行、河村淳史	第42回	日本脳神経外傷学会	淡路市	2019.3.8-9
前大動脈血栓化動脈瘤により若年発症の脳内出血をきたした1例	脳神経外科	池内祐介、小山淳二、安積麻衣、阿久津宣行、河村淳史	第77回	日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	大阪	2019.4.6
Radiation-induced glioblastoma following treatment for medulloblastoma: report of three cases	脳神経外科	Junji Koyama, Nobuyuki Akutsu, Atsufumi Kawamura	the 3rd	the 3rd Congress of Asian-Australasian Society for Pediatric Neurosurgery	Incheon, Korea	2019.5.10-12
低悪性の組織像を伴った Atypical teratoid/ rhabdoid like tumor の1例	脳神経外科	安積麻衣、阿久津宣行、小山淳二、河村淳史	第47回	日本小児神経外科学会学術集会	新潟	2019.6.14-15
小児再発頭蓋咽頭腫における陽子線治療の役割	脳神経外科	河村淳史、小山淳二、阿久津宣行、安積麻衣、出水祐介、副島俊典	第47回	日本小児神経外科学会学術集会	新潟	2019.6.14-15
発生学的分類に基づいた脊髄円錐部脂肪腫の術後長期成績の比較	脳神経外科	小山 淳二、阿久津宣行、安積麻衣、河村淳史、長嶋達也	第47回	日本小児神経外科学会学術集会	新潟	2019.6.14-15
小児に発生した巨大鞍上部長類上皮腫の1例	脳神経外科	池内祐介、小山淳二、阿久津宣行、河村淳史	第49回	兵庫県脳神経外科懇話会	神戸市	2019.7.20
慢性硬膜下血腫術後にくも膜嚢胞の併発が示唆され、皮下髄液貯留が合併した小児の1例	脳神経外科	山西俊介、小山淳二、阿久津宣行、河村淳史	第78回	日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	大阪	2019.9.5
当院における過去11年間の小児水頭症シャント手術症例の検討	脳神経外科	池内祐介、阿久津宣行、小山淳二、河村淳史	第78回	日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	大阪	2019.10.9-12
当施設における髄芽腫治療の現状と予後	脳神経外科	河村淳史、小山淳二、阿久津宣行、池内祐介	第78回	日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	大阪	2019.10.9-12
脊髄脂肪腫長期経過例の生活・診療状況と移行期の問題	脳神経外科	小山淳二、阿久津宣行、河村淳史	第78回	日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	大阪	2019.10.9-12
兵庫県立こども病院における陽子線治療の実際	脳神経外科	河村淳史、小山淳二、阿久津宣行、出水祐介、副島俊典	第36回	日本こども病院神経外科医会研修会	山口	2019.11.2-3
The role of proton beam therapy for relapsed pediatric craniopharyngioma	脳神経外科	Atsufumi Kawamura, Junji Koyama, Nobuyuki Akutsu, Yuske Demizu, Toshinori Soejima, Yoshiyuki Kosaka	第61回	日本小児血液・がん学会学術総会	広島	2019.11.14-16

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
Prognosis and delayed complications of Medulloblastoma in Kobe Children's Hospita	脳神経外科	Atsufumi Kawamura, Junji Koyama, Nobuyuki Akutsu, Shunsuke Yamanish	第37回	日本脳腫瘍学会学術集会	石川	2019.12.1-3
小児の脳腫瘍に対する脳神経外科治療と高次機能障害～ある小児神経外科医の悩み～(講演)	脳神経外科	河村淳史	第7回	小児がんの子どもの認知心理学的支援プログラム(聖路加国際大学)	東京	2019.8.10
口唇交差皮弁を用いた口蓋様変形の一期的修正方法	形成外科	小野田素大	第62回	日本形成外科学会 総会・学術集会	札幌市	2019.5.15
小児後頭部に対称性に生じた脂肪腫の1例	形成外科	平山泰樹	第123回	関西形成外科学会学術集会	京都市	2019.12.8
先天性内反足に対する Ponseti 法治療10年以上の成績	整形外科	薩摩真一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀、河本和泉、加藤達雄	第92回	日本整形外科学会	横浜市	2019.5.9-12
兵庫県神戸市における乳児股関節健診への取り組み	整形外科	薩摩真一、三品浩基、山下仁司	第32回	日本臨床整形外科学会	神戸市	2019.7.14-15
一般社団法人日本小児整形外科学会 学会あり方委員会	整形外科	薩摩真一	第30回	日本小児整形外科学会	大阪市	2019.11.21-23
小児科医が遭遇する整形外科疾患の診かた—外傷から先天性疾患まで—	整形外科	薩摩真一		高槻病院教育研修講演会	高槻市	2019.1.18
見逃してはいけない小児整形外科疾患	整形外科	薩摩真一	第32回	JCOA 学術集会、まほろば関西	神戸市	2019.7.15
内反足治療の過去・現在・未来	整形外科	薩摩真一		京整会秋季研修会	京都市	2019.8.24
日本小児整形外科学会健診委員会の取り組み	整形外科	薩摩真一		乳児股関節エコーセミナー	松本市	2019.9.28
小児の足部変形に対する骨性手術あれこれ	整形外科	薩摩真一	第30回	日本小児整形外科学会	大阪市	2019.11.22
治療が必要な脚長差のマネージメントと創外固定	整形外科	薩摩真一	第4回	理研、こども病院合同カンファレンス	神戸市	2019.12.21
整形外科外来での小児疾患ブライマイケブ—one 診断と疼痛マネージメント—	整形外科	小林大介	第40回	石見整形外科医会	益田市	2019.3.16
40分でわかるソルター骨盤骨切り術	整形外科	小林大介	第163回	神戸地区症例検討会 Review	神戸市	2019.3.7
当院における骨系統疾患に対する観血的治療	整形外科	小林大介、薩摩真一、坂田亮介、衣笠真紀、河本和泉、加藤達雄	第92回	日本整形外科学会	横浜市	2019.5.9-12
先天性内反足の遺残変形に対する後内方解離術	整形外科	小林大介、薩摩真一、坂田亮介、衣笠真紀、河本和泉、劉正夫	第30回	日本小児整形外科学会	大阪市	2019.11.21-23
Postero-medial release for the residual deformity in the patients with clubfoot	整形外科	小林大介、坂田亮介、劉正夫	第56回	日本リハビリテーション医学会学術集会	神戸市	2019.6.12-16

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
重度外反扁平足に対する Calcaneal Lengthening Osteotomy などによる治療経験	整形外科	小林大介、坂田亮介、劉正夫	第2回	秋季日本リハビリテー ション医学会学術集会	静岡	2019.11.15-17
仮骨延長法により大きな延長量を獲得しえた両側第 一中足骨短縮症の2症例	整形外科	坂田亮介、薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀、 河本和泉、加藤達雄	第63回	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2019.1.26
二分脊椎における足部変形の治療経験	整形外科	坂田亮介、小林大介	第56回	日本リハビリテーショ ン医学会学術総会	神戸市	2019.6.12-16
当院におけるペルテス病に対する大腿骨内反骨切りの 治療成績	整形外科	坂田亮介、薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀、 河本和泉、劉正夫	第58回	日本小児股関節研究会	長崎市	2019.6.28-29
二分脊椎の病態と足部変形	整形外科	坂田亮介、薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀、 河本和泉	第36回	日本二分脊椎研究会	仙台市	2019.7.13
先天性内反足初期治療後の変形再発・遺残に対する治 療 先天性内反足に対する Ponseti 法の治療成績	整形外科	坂田亮介、薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀、 河本和泉、劉正夫	第44回	日本足の外科学会学術 集会	札幌市	2019.9.26-27
初期治療後の先天性内反足に対する前脛骨筋腱外側 移行術の治療成績	整形外科	坂田亮介、薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀、 河本和泉、劉正夫	第30回	日本小児整形外科学会 学術集会	大阪市	2019.11.21-23
両側DDHの診断と初期治療	整形外科	衣笠真紀、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、 河本和泉、劉正夫	第58回	日本小児股関節研究会	長崎市	2019.6.28-29
二分脊椎症に伴う麻痺性内反足に対し、中足骨骨切り を行った1症例	整形外科	衣笠真紀、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、 河本和泉、劉正夫	第64回	近畿小児整形外科懇話会	奈良市	2019.7. 20
DDHにおけるIHDI分類による評価	整形外科	衣笠真紀、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、 河本和泉、劉正夫	第30回	日本小児整形外科学会	大阪市	2019.11.21-23
Turner症候群に伴う発育性股関節形成不全 - その特 徴について -	整形外科	河本和泉、小林大介、劉正夫、衣笠真紀、 坂田亮介、薩摩眞一	第58回	日本小児股関節研究会	長崎市	2019.6.29
血友病Bを合併した特発性側弯症の1例	整形外科	河本和泉、小林大介、劉正夫、衣笠真紀、 坂田亮介、薩摩眞一	第64回	近畿小児整形外科学会	奈良市	2019.7.20
DDHに対する観血的整復術がSecondary ossification centerの出現に及ぼす影響について	整形外科	河本和泉、小林大介、劉正夫、衣笠真紀、 坂田亮介、薩摩眞一	第30回	日本小児整形外科学会	大阪市	2019.11.21
腓骨偽関節部周囲に発生した desmoid type fibromatosisの1例	整形外科	劉正夫、小林大介、河本和泉、衣笠真紀、 坂田亮介、薩摩眞一	第64回	近畿小児整形外科懇話会	奈良市	2019.7.20
麻痺性股関節脱臼に対し股関節周囲筋群解離術と大 腿骨減捻内反骨切り術を併用した2例の検討	整形外科	劉正夫、小林大介、坂田亮介	第3回	日本リハビリテーショ ン医学会秋季学術集会	静岡	2019.11.15
総排泄腔外反症の腹壁閉鎖に際し腸骨前方骨切り術 と創外固定を行った1例	整形外科	劉正夫、薩摩眞一、河本和泉、衣笠真紀、 坂田亮介、小林大介	第30回	日本小児整形外科学会 学術集会	大阪市	2019.11.22
小児集中治療病棟における経口摂取支援の取り組み 報告	リハビリテーショ ン科	住友亜佐子、小松岳、都倉明乃、北瀬幸子、 細川泰徳、小林大介	第20回	日本語聴覚学会	大分	2019.6.28
先天性心疾患児の理学療法介入の現状	リハビリテーショ ン科	下之園いづみ、細川泰徳、福田哲也、小林大介	第17回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.74
哺乳障害を呈した22q11.2欠失症候群乳児に対する摂 食嚥下支援の経験	リハビリテーショ ン科	小松岳、住友亜佐子、都倉明乃、北瀬幸子、 大津雅秀、小林大介	第17回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.74

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児眼科疾患の特性	眼科	野村耕治	第3回	兵庫県立こども病院－ 理化学研究所生命機能 科学研究センター ジョイントシンポジウム	神戸市	2019.1.12
乳幼児健診で見つけた小児眼疾患	眼科	野村耕治	第123回	神戸市医師会 講演	神戸市	2019.2.16
硝子体播種が主体で成長が緩徐な網膜芽細胞腫の1例	眼科	別所佳世子、野村耕治、中野由美子、柳沢翠芳	第44回	日本眼科学会総会	東京	2019.4.19
オプトクローヌスを合併した先天白内障の1例	眼科	松野裕樹、野村耕治	第7回	日本小児眼科学会総会	浜松市	2019.6.14
小児眼科・弱視斜視のポイントを押さえよう 小児器 質疾患における弱視管理	眼科	野村耕治	第191回	眼科実践臨床講座	東京	2019.8.18
当院周産期センターにおける新生児聴覚スクリーニ ング検査の検討	耳鼻咽喉科	大津雅秀、勝沼紗矢香	第120回	日本耳鼻咽喉科学会兵 庫県地方部会	姫路市	2019.3.24
自宅連日検査によるペンドレッド症候群の聴力変化 の記録とその解析検討	耳鼻咽喉科	山野邊義晴、藤岡正人、西山崇経、野口勝、 鈴木成尚、細谷誠、矢部はる奈、吉浜圭祐、 勝沼紗矢香、鈴木法臣、野口佳裕、川島慶之、 藤川太郎、神崎晶、大石直樹、小川郁	第120回	日本耳鼻咽喉科学会総 会学術講演会	大阪市	2019.05.-12
3歳児健康診査を経て当院当科を初診した児の検討	耳鼻咽喉科	勝沼紗矢香、大津雅秀	第14回	日本耳鼻咽喉科学会総 会学術講演会	大阪市	2019.05.-11
当院NICU/GCUにおける新生児聴覚スクリーニング 検査の検討	耳鼻咽喉科	大津雅秀、勝沼紗矢香	第14回	日本小児耳鼻咽喉科学 会	福岡市	2019.5.23-24
当院におけるCHARGE症候群の聴覚管理の現状	耳鼻咽喉科	勝沼紗矢香、大津雅秀	第14回	日本小児耳鼻咽喉科学 会	福岡市	2019.5.23-24
3歳児健康診査を経て当院当科を初診した児の検討	耳鼻咽喉科	勝沼紗矢香、大津雅秀	第192回	日本耳鼻咽喉科学会兵 庫県地方部会	神戸市	2019.07.20
こどもの難聴診断と治療について	耳鼻咽喉科	大津雅秀		神戸市新生児聴覚検査 医師等研修会	神戸市	2019.9.5
きこえているの？～こどもで注意すべき難聴をきた す疾患～	耳鼻咽喉科	勝沼紗矢香	第11回	神戸市西部 小児科 JOINT会	神戸市	2019.09.28
自宅連日検査によるPendred症候群の臨床像の探索 と解析	耳鼻咽喉科	山野邊義晴、藤岡正人、伴田かおり、細谷誠、 長谷部夏希、鈴木成尚、西山崇経、野口勝、 勝沼紗矢香、鈴木法臣、南修司郎、神崎晶、 大石直樹、小川郁	第64回	日本聴覚医学会総会・ 学術講演会	大阪市	2019.11.06-08
新生児聴覚スクリーニングと滲出性中耳炎	耳鼻咽喉科	大津雅秀	第120回	神戸小児臨床研究会	神戸市	2019.12.04
A case of phimosis developed severe dysuria	泌尿器科	春名晶子	第16回	日韓小児泌尿器科学会	滋賀	2019.1.12
逆流性巨大尿管児の長期経過	泌尿器科	波越朋也	第27回	日本逆流性腎症フォー ラム	大阪	2019.2.9
Reduced port surgeryによる小児腹腔鏡下手術の初期 経験	泌尿器科	大西篤史	第8回	泌尿器単孔式、Reduced port 腹腔鏡下手術ワー クショップ	静岡	2019.3.9
〈後期研修で経験したい手術手技〉精巣固定術、陰嚢水 腫根治術	泌尿器科	杉多良文	第107回	日本泌尿器科学会	名古屋	2019.4.18

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児腹腔鏡下腎盂形成術の手術成績	泌尿器科	杉多良文	第107回	日本泌尿器科学会	名古屋	2019.4.19
小児水腎症(腎盂尿管移行部通過障害以外)の診断と治療	泌尿器科	杉多良文	第107回	日本泌尿器科学会	名古屋	2019.4.19
尿管瘤に対する手術	泌尿器科	杉多良文	第56回	小児外科学会	久留米	2019.5.24
総排泄腔遺残にて直腸利用造膈術後、膈口狭窄に対して口腔粘膜利用膈口形成術を施行し自然妊娠した1例	泌尿器科	春名晶子	第16回	泌尿器科再生再生研究会	横浜市	2019.6.8
膀胱皮膚瘻造設を施行した30例の臨床的検討	泌尿器科	春名晶子	第33回	日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会	岡山	2019.6.15
陰嚢内に発生したPanTrk染色陽性の小児間葉系腫瘍の1例	泌尿器科	安食 淳	第28回	日本小児泌尿器科学会	佐賀	2019.7.4
尿管形成術を施行した原発性閉塞性巨大尿管症の術後VURに関する臨床的検討	泌尿器科	波越朋也	第28回	日本小児泌尿器科学会	佐賀	2019.7.4
「尿管形成と再建:成功のカギを探る」	泌尿器科	杉多良文	第28回	日本小児泌尿器科学会	佐賀	2019.7.5
高度排尿障害、両側水腎症、膀胱憩室を来した包茎の1例	泌尿器科	春名晶子	第28回	日本小児泌尿器科学会	佐賀	2019.7.5
総排泄腔遺残にて直腸利用造膈術後、膈口狭窄に対して口腔粘膜利用膈口形成術を施行し自然妊娠した1例	泌尿器科	春名晶子	第55回	日本小児外科学会近畿地方会	奈良	2019.8.24
ここまですでできるDSDの外科治療	泌尿器科	杉多良文	第53回	日本小児内分泌学会学術集会	京都	2019.9.28
埋没陰茎に対する包皮形成術	泌尿器科	山下遥介	第69回	日本泌尿器科学会中部総会	大阪	2019.11.1
総排泄腔遺残にて直腸利用造膈術後、膈口狭窄に対して口腔粘膜利用膈口形成術を施行し自然妊娠した1例	泌尿器科	春名晶子	第69回	日本泌尿器科学会中部総会	大阪	2019.11.1
包茎・急性陰嚢症	泌尿器科	杉多良文	第69回	日本泌尿器科学会中部総会	大阪	2019.11.2
逆流性巨大尿管児の長期経過	泌尿器科	波越朋也	第71回	西日本総会	松江市	2019.11.7
腹腔鏡下腎盂形成術後に腎盂内血腫を来した3例	泌尿器科	山下遥介	第33回	日本泌尿器内視鏡学会総会	京都	2019.11.21
総排泄口腔外反症術後に発生し、経尿道的に碎石した膀胱結石」の2例	泌尿器科	安食 淳	第33回	日本泌尿器内視鏡学会総会	京都	2019.11.21
当院における腹腔鏡下腎盂形成術	泌尿器科	春名晶子	第32回	内視鏡外科学会	横浜市	2019.12.5
上顎正中部逆生理伏過刺歯における臨床的検討	小児歯科	曾根由美子	第78回	日本矯正歯科学会学術大会	長崎市	2019.11.20-22
末梢神経ブロックを用いた小児の術後鎮痛:現実的なアプローチ	麻酔科	香川哲郎	第6回	日本区域麻酔学会	高知市	2019.4.19
Ultrasound guided dorsal penile nerve block in children, In-plane technique	麻酔科	藤原孝志、香川哲郎	第15回	アジア・オセアニア区域麻酔学会	高知市	2019.4.19

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児の気道 緊急性が高く特別な対応が必要となる疾患に対して 先天性気管狭窄	麻酔科	藤原孝志	第66回	日本麻酔科学会	神戸市	2019.5.30
小児急性リンパ性白血病に対する中心静脈カテーテル挿入術における全身麻酔方法と化学療法への治療反応性の検討	麻酔科	金子隆彦、香川哲郎、畑澤佐知、横尾知樹、廣瀬宗孝	第66回	日本麻酔科学会	神戸市	2019.5.30
PACU(Postanesthesia care unit)開設が小児手術後の有言事象に対する病棟での対応に与える影響	麻酔科	長谷川達也、藤原孝志、田中康智、廣瀬徹也、上嶋江利、香川哲郎	第66回	日本麻酔科学会	神戸市	2019.5.30
小児頭頸部腫瘍患者に対する陽子線治療目的の鎮静時における上気道確保の問題点	麻酔科	鈴木毅、副島俊典、福光延吉、出水祐介、美馬正幸	第66回	日本麻酔科学会	神戸市	2019.5.30
Anesthetic management of an infant with type IV laryngotracheo-esophageal cleft and Goldenhar syndrome	麻酔科	秋泉春樹、高辻小枝子、香川哲郎		International Anesthesia Research Society	カナダ、モントリオール	2019.5.16-20
肥厚性幽門狭窄症に対するRamstead手術における腹直筋鞘ブロックの有効性について:後方視的検討	麻酔科	岡本琢磨、坪井ちづ、田中康智、大西広泰、香川哲郎	第25回	日本小児麻酔科学会	米子市	2019.11.16-17
小児区域麻酔での持続カテーテル留置におけるアロニアルファA®の有効性の検討	麻酔科	小西麻意、内本明宏、末田彩、香川哲郎	第25回	日本小児麻酔科学会	米子市	2019.11.16-17
先天性上下顎癒合症を合併した膝窩翼状片症候群の麻酔経験	麻酔科	藤原孝志、秋泉春樹、池島典之、香川哲郎	第25回	日本小児麻酔科学会	米子市	2019.11.16-17
総肺脈還流異常症を合併した先天性気管狭窄症に対する乳児期同時手術の麻酔経験	麻酔科	長谷川達也、畑澤佐知、廣原史寿子、香川哲郎	第25回	日本小児麻酔科学会	米子市	2019.11.16-17
先天性胸骨裂に対する胸骨閉鎖術の麻酔経験	麻酔科	喜多條真穂、上野健史、横尾知樹、廣瀬徹也、上嶋江利、香川哲郎	第25回	日本小児麻酔科学会	米子市	2019.11.16-17
小児の股関節離断術に対して多角的鎮痛を行った1例	麻酔科	白石敏、高辻小枝子、松本友里、香川哲郎	第25回	日本小児麻酔科学会	米子市	2019.11.16-17
総排泄遺残に対する腔形成術後妊婦の帝王切開の麻酔経験	麻酔科	鹿原史寿子、高辻小枝子、香川哲郎	第123回	日本産科麻酔科学会	東京都品川区	2019.11.23-24
早産児の乳児血管腫に対するプロプラノロール内服の有害事象の検討	新生児内科	近藤友里子、横田知之、片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第276回	日本小児科学会兵庫県地方会	尼崎市	2019.2.2
日齢7発症の新生児尿路感染症(UTI) - 排尿時膀胱造影(VCG)の必要性について	新生児内科	近藤亜耶、片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第276回	日本小児科学会兵庫県地方会	尼崎市	2019.2.2
NO(一酸化窒素)吸入療法はこんなに普及した	新生児内科	芳本誠司	第122回	日本小児科学会	金沢市	2019.4.19
当センターにおける新生児膜型人工肺療法(ECMO)管理の時代的変遷	新生児内科	芳本誠司、片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、岩谷壮太、横田知之、三村仁美、中尾秀人	第122回	日本小児科学会	金沢市	2019.4.20
先天性乳び胸に対するオクトレオチド早期投与は予後を改善するか	新生児内科	玉置祥子、片岡大、山内貴未、松井紗智子、岩谷壮太、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第122回	日本小児科学会	金沢市	2019.4.19

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
超早産児におけるHMS-1望乳強化からHMS-2母乳強化に変更した効果	新生児内科	横田知之、片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、岩谷壮太、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第122回	日本小児科学会	金沢市	2019.4.19
胎児・新生児卵巣腫瘍の治療方針 過去10年間に当センターで入院管理した新生児卵巣腫瘍15例	新生児内科	玉置祥子、片岡大、山内貴未、松井紗智子、岩谷壮太、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第55回	日本周産期新生児医学 会学術集会	松本市	2019.7.13-15
早産児の乳児血管腫に対するプロブロンロール内服の有害事象の検討	新生児内科	近藤友里子、片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、岩谷壮太、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第55回	日本周産期新生児医学 会学術集会	松本市	2019.7.13-15
ECMOにて救命した最重症先天性横隔膜ヘルニア症例の成人期への課題	新生児内科	芳本誠司、片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、岩谷壮太、横田知之、三村仁美、中尾秀人	第55回	日本周産期新生児医学 会学術集会	松本市	2019.7.13-15
生後72時間の低ナトリウム血症と脳室周囲白質軟化症の関連	新生児内科	玉置祥子、片岡大、山内貴未、松井紗智子、岩谷壮太、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第55回	日本周産期新生児医学 会学術集会	松本市	2019.7.13-15
FLP(胎児鏡下レーザー凝固術)適応外で経過した大児に多嚢胞性脳軟化症をきたした一絨毛膜二羊膜双胎例	新生児内科	三村仁美、片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、岩谷壮太、横田知之、芳本誠司、中尾秀人	第55回	日本周産期新生児医学 会学術集会	松本市	2019.7.13-15
当院における新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法の実状	新生児内科	片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、岩谷壮太、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第55回	日本周産期新生児医学 会学術集会	松本市	2019.7.13-15
出生時から重度肺高血圧症を呈したHypotrichosis-lymphedema-tekangiectasia syndromeの早産児の1例	新生児内科	横田知之、片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、岩谷壮太、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第55回	日本周産期新生児医学 会学術集会	松本市	2019.7.13-15
先天性甲状腺腫瘍の1例	新生児内科	近藤重耶、片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第55回	日本周産期新生児医学 会学術集会	松本市	2019.7.13-15
早産児の早発型敗血症における血清IL-6値の経時的変化	新生児内科	小林孝生、岩谷壮太、片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第278回	日本小児科学会兵庫県 地方会	姫路市	2019.9.28
三次周産期医療施設のNICUにおける高直接ビリルビン血症の頻度	新生児内科	片岡大、岩谷壮太、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第18回	日本黄疸管理研究会	神戸市	2019.10.4
新生仔モデルマウスにおいてLPS投与はHO-1誘導によりビリルビン産生を亢進させる	新生児内科	岩谷壮太、RonaldJWong、芳本誠司、中尾秀人、DavidKStevenson	第64回	日本新生児生育医学 会学術集会	鹿児島	2019.11.27
18トリソミーと胆汁鬱滞の関連	新生児内科	横田知之、小林孝生、片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、岩谷壮太、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第64回	日本新生児生育医学 会学術集会	鹿児島	2019.11.27
三次周産期医療施設のNICUにおける高直接ビリルビン血症の頻度	新生児内科	片岡大、岩谷壮太、小林孝生、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第64回	日本新生児生育医学 会学術集会	鹿児島	2019.11.27

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
臍帯血IL-6は在胎週数が小さいほど胎児炎症症に対して上昇する	新生児内科	岩谷壮太、小林孝生、片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第64回	日本新生児生育医学学会学術集会	鹿児島	2019.11.28
早産児の早発型敗血症における血清IL-6値の経時的変化	新生児内科	小林孝生、岩谷壮太、片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第64回	日本新生児生育医学学会学術集会	鹿児島	2019.11.28
過去10年間に当センターで入院管理した細菌性髄膜炎9例の検討	新生児内科	山内貴未、片岡大、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、岩谷壮太、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第64回	日本新生児生育医学学会学術集会	鹿児島	2019.11.28
平成29年(2017年)「兵庫県周産期医療システム母体紹介・搬送情報提供書」の集計結果	産科	船越徹	平成30年度	兵庫県周産期母子医療センター・協力病院等連絡懇談会	神戸市	2019.3.9
過去10年間に管理した胎児形態異常1,033例の分析	産科	船越徹	第71回	日本産科婦人科学学会学術講演会	名古屋	2019.4.11-14
本邦における臍帯穿刺に関する実態調査 多施設共同研究	全国周産期医療連絡協議会、産科(1)	笹原淳、石井桂介、宮下進、濱田洋実、鳥場一憲、左合治彦、大西庸子、中田雅彦、須波玲、高桑好一、吉田志朗、村越毅、小谷友美、高橋雄一郎、近藤英治、味村和哉、廣瀬雅哉、船越徹(1)、田中宏幸、長谷川雅明、原田崇、加地剛、越智博、前田和寿、永井立平、日高庸博、月森清巳、野見山亮、土井宏太郎	第71回	日本産科婦人科学学会学術講演会	名古屋	2019.4.11-14
出生前診断し得た心臓逸脱症の1例	産科	益子沙友里、荻野美智、船越徹	第140回	近畿産科婦人科学学会学術集会	大阪市	2019.6.15-16
10年間に管理した胎児形態異常1,024例の分析	産科	船越徹	第93回	兵庫県産科婦人科学学会学術集会	神戸市	2019.6.30
多胎における胎児形態異常例の分析	産科	船越徹	第55回	日本周産期・新生児医学学会学術集会	松本市	2019.7.13-15
多胎における胎児形態異常の分析	産科	船越徹	2019年度	位育会臨床セミナー	神戸市	2019.8.4
胎児モニタリングと分娩管理	産科	船越徹	令和元年	兵庫県看護協会 CLoCMIPレベルIII認証申請のための研修	神戸市	2019.9.4
助産師のための超音波診断のスキル	産科	平久進也	令和元年	兵庫県看護協会 II-2資質向上研修/組織的役割遂行能力	神戸市	2019.9.30
異なる児の転機を呈したアングジオネンシンⅡ受容体拮抗薬内服中の自然妊娠2例	産科	船越徹	第43回	日本栄養代謝学会学術集会	神戸市	2019.9.5-6
過去5年間の妊娠34週未満前期破水例の検討	産科	船越徹	第141回	近畿産科婦人科学学会学術集会	大津市	2019.10.27
周産期研究部メメーリングリストによる早産期前期破水に関するアンケート結果	産科	船越徹	第141回	近畿産科婦人科学学会学術集会	大津市	2019.10.27

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
線維軟骨塞栓の病態により一過性神経障害を来したと思われる一例	放射線診断科	杉岡勇典、赤坂好宣、山口宏、丸山あずさ	第55回	日本小児放射線学会学術集会	神戸市	2019.6.21-22
白質病変を伴ったMERSの一例	放射線診断科	杉岡勇典、赤坂好宣	第55回	日本医学放射線学会秋季臨床大会	名古屋	2019.10.18-20
single shot時代の胎児MRI	放射線診断科	赤坂好宣	第57回	山陰外科内科周産期研究会	米子市	2019.2.16
小児科医の放射線研修 ver.4	放射線診断科	赤坂好宣	第17回	奈良県画像診断・IVR研究会	奈良市	2019.3.1
腎・尿路、男性生殖器の先天疾患	放射線診断科	赤坂好宣	第78回	日本医学放射線学会総会	横浜	2019.4.11-14
ちよつとライトな小児腫瘍の画像診断	放射線診断科	赤坂好宣	第55回	日本小児放射線学会	神戸市	2019.6.21-22
維持輸液 4-2-1 ruleは妥当か	小児集中治療科	楠本耕平、黒澤寛史、長谷川智巳、青木一憲、制野勇介、長井勇樹	第46回	日本集中治療医学会	京都市	2019.3.1-3
Clinical considerations in pediatric sepsis	小児集中治療科	黒澤寛史	第93回	日本感染症学会	名古屋	2019.4.5
Future direction of pediatric resuscitation research in Japan and Asia	小児集中治療科	黒澤寛史	第112回	日本小児科学会	金沢	2019.4.19
小児の呼吸管理入門	小児集中治療科	黒澤寛史	第5回	東海小児呼吸管理懇話会	名古屋	2019.3.16
Clinical significance of CO2 monitoring	小児集中治療科	黒澤寛史	第18回	International conference on emergency medicine	Seoul, Korea	2019.6.14
小児の呼吸管理入門 HFNCを適切に使っていますか？	小児集中治療科	黒澤寛史	第27回	小児集中治療ワークショップ	大阪市	2019.10.18
胸骨圧迫の評価と効果的なデブリーフリング	小児集中治療科	黒澤寛史	第47回	日本救急医学会	東京	2019.10.3
胸骨圧迫の評価と効果的なデブリーフリング	小児集中治療科	黒澤寛史	第21回	日本救急看護学会	千葉	2019.10.4
小児心臓手術後の集中治療管理における予測死亡率 Paediatric Index of Mortality 3スコアリング	小児集中治療科	長谷川智巳、黒澤寛史、青木一憲、制野勇介、長井勇樹	第46回	日本集中治療医学会学術集会	京都	2019.3.1
小児開心術後の利尿剤使用に関する検討(シンポジウム)	小児集中治療科	長谷川智巳	第55回	日本小児循環器学会学術集会	札幌	2019.6.27
心臓外科医の私実践した集中治療専門医へのキャリアプラン	小児集中治療科	長谷川智巳	第5回	日本小児循環器集中治療研究会	博多	2019.9.14
一般演題2 座長	小児集中治療科	長谷川智巳	第5回	日本小児循環器集中治療研究会	博多	2019.9.14
パネルディスカッション 小児の人工呼吸管理の未来 -より適切な換気圧・量をどのように設定するか？-	小児集中治療科	青木一憲、黒澤寛史	第46回	日本集中治療医学会	京都市	2019.3.1-3
気道疾患を合併した心疾患術後管理	小児集中治療科	青木一憲	第27回	小児集中治療ワークショップ	大阪市	2019.10.19-20
気管支鏡ハンズオン	小児集中治療科	青木一憲、潮見祐樹、市坂有基	第28回	小児集中治療ワークショップ	大阪市	2019.10.19-20

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児専門病院におけるRST(呼吸ケアサポートチーム)の役割	小児集中治療科	制野勇介、津田雅世	第122回	日本小児科学会学術集会	金沢市	2019.4.21
臨床倫理 成人と小児の終末期は異なる	小児集中治療科	制野勇介	第27回	小児集中治療ワークショップ	大阪市	2019.10.19
ミニ基礎講座 呼吸	小児集中治療科	制野勇介	第27回	小児集中治療ワークショップ	大阪市	2019.10.20
心停止後の小児患者における神経学的予後予測因子としてのL-FABP	小児集中治療科	制野勇介、長井勇樹、青木一憲、長谷川智巳、黒澤寛史	第47回	日本救急医学会学術集会	東京都	2019.10.2
気管無形成に対する気道管理	小児集中治療科	長井勇樹	第30回	小児呼吸器外科学会	大阪市	2019.10.18
百日咳感染に二次性血栓性微小血管症(TMA)を合併した早期乳児の一例	小児集中治療科	潮見祐樹、青木一憲、長井勇樹、制野勇介、黒澤寛史	第33回	日本小児救急医学会学術集会	大宮市	2019.6.21-22
百日咳感染に二次性血栓性微小血管症(TMA)を合併し体外式膜型人工肺(ECMO)管理に難渋した早期乳児例	小児集中治療科	潮見祐樹、青木一憲、長井勇樹、制野勇介、黒澤寛史	第27回	小児集中治療ワークショップ	大阪市	2019.10.19-20
救命できなかつた百日咳の一例 指定発言	小児集中治療科	潮見祐樹、青木一憲、長井勇樹、制野勇介、黒澤寛史	第27回	小児集中治療ワークショップ	大阪市	2019.10.19-21
重度の葉酸欠乏から呼吸不全を来たした乳児の1例	小児集中治療科	山下由理子、宮下徳久、長井勇樹、制野勇介、青木一憲、長谷川智巳、黒澤寛史、三木康暁、田中敏克、市川真之、石田敏章	第46回	日本集中治療医学会学術集会	京都市	2019.3.1-3.3
小児救急における終末期での家族とのShared Decision Making(共同意思決定)への取り組み	小児集中治療科	山下由理子、制野勇介、長井勇樹、青木一憲、黒澤寛史、坂本佳津子	第47回	日本救急医学会総会・学術集会	千代田区	2019.10.2-10.4
瞳孔記録計により適切なタイミングで治療介入ができた頭蓋内出血の1例	小児集中治療科	金子尚樹、青木一憲、長井勇樹、制野勇介、黒澤寛史	第33回	日本小児救急医学会学術集会	大宮市	2019.6.21-22
腸重積後の腸管壊死による腹部コンパートメント症候群を呈した一例	小児集中治療科	市坂有基、青木一憲、長井勇樹、制野勇介、黒澤寛史	第27回	小児集中治療ワークショップ	大阪市	2019.10.19-20
食道異物を契機に見えられた dysphagia lusoria の1例	小児集中治療科	山本和宏、長谷川智巳、長井勇樹、制野勇介、青木一憲、黒澤寛史	第277回	日本小児科学会兵庫県地方会	神戸市	2019.5.11
脳腫瘍の1例	兵庫県立こども病院 病理診断科1)、 病理解剖科2)、 脳神経外科3)、 血液腫瘍科3)、 放射線診断科4)	吉田牧子1)、河村淳史2)、小山淳二2)、阿久津宣行2)、安積麻衣2)、田村彰広3)、長谷川大一郎3)、小坂嘉之3)、杉岡勇典4)、赤坂好宣4)	第80回	関西小児病理研究会	大阪市	2019.1.12
脳腫瘍の1例	兵庫県立こども病院 病理診断科1)、 病理解剖科2)、 脳神経外科3)、 血液腫瘍科3)、 放射線診断科4)	吉田牧子1)、河村淳史2)、小山淳二2)、阿久津宣行2)、安積麻衣2)、田村彰広3)、長谷川大一郎3)、小坂嘉之3)、杉岡勇典4)、赤坂好宣4)	第84回	日本病理学会近畿支部学術集会	吹田市	2019.2.2

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
当院のEwing肉腫及びEwing-like肉腫にPD-1/PD-L1の免疫染色を用いた検討 Immunohistological study of PD-1/PD-L1 in Ewing sarcoma/Ewing-like sarcoma treated in our hospital.	兵庫県立こども病院 1)病理診断科、 2)血液腫瘍、 3)小児外科、 4)脳神経外科、 5)整形外科、 6)放射線診断科、 7)放射線治療科	吉田牧子1)、田村彰広2)、長谷川大一郎2)、小坂嘉之2)、前田真作3)、河村淳史4)、藤原真一5)、赤坂好直6)、副島俊典7)	第108回	日本病理学会総会	東京都千代田区	2019.5.10
肺高血圧症の1剖検例	兵庫県立こども病院 病理診断科1)、 新生児科2)、 臨床遺伝科3)	吉田牧子1)、横田知之2)、芳本誠司2)、森貞直哉3)	第81回	関西小児病理研究会	大阪市	2019.7.27
脳腫瘍	兵庫県立こども病院 病理診断科	吉田牧子	2019年度	小児腫瘍症例検討会	東京都世田谷区	2019.9.6
脳腫瘍の1剖検例	兵庫県立こども病院 病理診断科1)、 血液腫瘍科2)、 脳神経外科3)、 放射線診断科4)、 放射線治療科5)	吉田牧子1)、藤原隆弘2)、齋藤敦郎2)、長谷川大一郎2)、小坂嘉之2)、河村淳史3)、阿久津直行3)、杉岡勇典4)、赤坂好直4)、副島俊典5)	第39回	日本小児病理研究会	東京都世田谷区	2019.9.7
肺高血圧症の1剖検例	兵庫県立こども病院 病理診断科1)、 新生児科2)、 臨床遺伝科3)	吉田牧子1)、横田知之2)、芳本誠司2)、森貞直哉3)	第86回	日本病理学会近畿支部 学術集会	吹田市	2019.9.21
甲状腺腫瘍の1例	兵庫県立こども病院 病理診断科1)、 新生児科2)、 小児外科3)、 放射線診断科4)	吉田牧子1)、片岡大2)、芳本誠司2)、中尾秀人2)、横井暁子3)、前田真作3)、赤坂好直4)	第87回	日本病理学会近畿支部 学術集会	神戸市	2019.12.7
縦隔腫瘍の1例	兵庫県立こども病院 病理診断科1)、 小児外科2)、 脳神経外科3)、 血液腫瘍科4)、 放射線診断科5)	吉田牧子1)、植村光太郎2)、森田圭一2)、前田真作2)、小山淳二3)、河村淳史3)、市川貴之4)、石田敏章4)、長谷川大一郎4)、小坂嘉之4)、赤坂好直5)	第82回	関西小児病理研究会	神戸市	2019.12.28
低出生体重児のスキャンケア	看護部	鎌田直子		愛育会周産期医療研修 5看護コース NICU・ 大阪編	大阪市	2019.2.20

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
ストーマケア	看護部	鎌田直子		神戸市立摩耶小学校ストーマケア研修	神戸市	2019.4.5
ストーマケア	看護部	鎌田直子		神戸市立本多間小学校ストーマケア研修	神戸市	2019.4.17
便失禁の対応 失禁用品と洗腸・洗腸方法の実際	看護部	鎌田直子	第24回	日本小児ストーマ・排泄・創傷管理セミナー	岡山市	2019.6.14
ストーマケア	看護部	鎌田直子		丹波篠山市立古市小学校ストーマケア研修	丹波篠山市	2019.7.30
小児専門病院における 血管留置カテーテル関連によるMDRPUの現状とその対策	看護部	鎌田直子	第21回	日本褥瘡学会	京都市	2019.8.23
小児ストーマケア	看護部	鎌田直子		日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会	東京都	2018.6.30
当院における二分脊椎患者の排便管理の移行期支援	看護部	鎌田直子	第41回	関西ストーマケア講習会	神戸市	2019.9.16
ストーマケア	看護部	鎌田直子		新生キッズホームストーマケア研修	神戸市	2019.12.4
防ぎきれない褥瘡』シンポジスト「小児病院における防ぎきれない褥瘡を考える	看護部	鎌田直子	第49回	日本創傷治癒学会	さいたま市	2019.12.11
小児がん患者のニーズに応じた食支援	看護部 7階西	浦瀬望未、板原遥香、鞠美幸、藤田真理子、堀田亮子、鳥井隆志	第17回	県立病院学会	神戸市	2019. 9.7
セルフケアシート活用によるAYA世代がん患者のセルフケアに対する意識の変化	看護部 7階東	金恵淑、四方沙耶加、福西直哉、濱田米紀	第29回	日本小児看護学会学術集会	札幌市	2019.8.3-4
入院中からのマイカルテ作成による先天性心疾患の子どもと家族へのセルフケア支援	看護部 6階西	藤井聡子、安井愛理	第29回	日本小児看護学会学術集会	札幌市	2019.8.3-4
PICUにおける早期リハビリテーションに対する看護師の意識と知識の向上に向けた取り組み	看護部 PICU	堀江真衣、岡本悠、坂本佳津子、伊丹照美	第17回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.7
デバイス固定法実演	看護部 PICU	吉村尚樹		小児集中治療ワークショップ	大阪府	2019.10.19
ダウン症のこどもをもつ家族と社会資源の利用について	看護部 CICU	牧野彩夏、藤井わかば、本田順子	第26回	日本家族看護学会	京都市	2019.9.14-15
小児救急外来におけるトリアージの現状	看護部 救急・HCU	長澤友希、高田一美、藤原健太、宗和里美	第17回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.7
熱性痙攣で受診した家族の不安を軽減するためのホームケア指導	看護部 救急・HCU	山田直哉、藤岡敦子、高田一美、宗和里美	第17回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.7
A病院NICUにおける面会者拡大の取り組みによる家族への影響	看護部 NICU	岩間紗貴、井谷洋美、梁京玉、内海裕子、清水称喜	第29回	日本新生児看護学会学術集会	鹿児島市	2019.11.28-29
継続的な産前訪問を通じた両親への支援	看護部 NICU	梁京玉、石井亜季、野上聡子、井谷洋美、清水称喜	第29回	日本新生児看護学会学術集会	鹿児島市	2019.11.28-29
関節型若年性特発性関節炎を学童期で発症した子どもと家族へ治療初期からのセルフケア支援	看護部 外来	辻田利香、中谷扶美、開保津直美	第29回	日本小児看護学会学術集会	札幌市	2019.8.3-4

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
これからの家族を見据えた家族看護について考えてよう	看護部 外来	浅井桃子、野々山敦夫、永富宏明、佐藤律子、山内文、井上敦子、堀美帆、小泉織絵	第29回	日本小児看護学会学術集会	札幌市	2019.8.3-4
小児専門病院における小児慢性疾患患者への妊娠に関する移行期支援の取り組み	看護部 外来	栗林佑季、辻田利香、沼菊子、中谷扶美、新宅佳子、中田敦子、大納綾	第15回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.7
家族支援専門看護師による多職種連携の実践報告	看護部 外来	浅井桃子、大納綾	第15回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.7
フラッシュコロスモニタリングシステム(FGM)を使用する患者のスキケアの検討	看護部 外来	泊菊子	第56回	日本糖尿病学会 近畿地方会	大阪市	2019.11.9
PACUに携わる手術室看護師への教育の取り組み	看護部 手術室	山田彩未、新井良子、白川潤一郎	第33回	日本手術看護学会年次大会	岡山県	2019.10.11-12
こどもの医療処置場面におけるホスピタルプレイスペシャリストの役割ーホスピタルプレイを導入してー	看護部 病棟保育士	中村公光子、奥田早苗	第17回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.7
小児体外循環中における乳酸値上昇の予測因子の検討ーGold Directed Perfusionからみた後方的検討ー	ME室	三坂勇介、横山真司	第45回	日本体外循環技術医学大会	名古屋	2019.10.5-6
手指衛生直接観察の理想と現実	感染対策チーム	新谷茜、中島由佳、笠井正志、伊藤雄介、倉橋幸也、大竹正吾、三輪祐太郎、廣瀬晃子、渡辺綾子、河村規子、寺前正純、亀山和明	第17回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.7
当院における薬剤乳汁移行性一覧表の作成と活用について	薬剤部	須藤由菜	第41回	日本病院薬剤師会近畿学術大会	神戸市	2020.2.15-16
当院における小児在宅薬物治療支援の取組み	薬剤部	八幡菜由	第41回	日本病院薬剤師会近畿学術大会	神戸市	2020.2.15-16
薬剤情報ネットワークシステムによる情報共有及び発信の有用性について	薬剤部	寺崎展幸	第17回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.7
チーム医療において多職種が看護師に期待すること	栄養管理部	鳥井隆志		2019年度兵庫県立病院看護師ラダーⅢ・Ⅳチーム医療推進研修Ⅱ	神戸市	2018.07.02 2018.07.09
障がい児の栄養管理	栄養管理部	鳥井隆志		2019年度兵庫県肢体不自由教育研究協議会	明石市	2019.07.03
管理栄養士の立場で早期動脈硬化を予防するには	栄養管理部	鳥井隆志	第51回	日本動脈硬化学会第22回診断技術向上セミナー	京都市	2019.07.11
小児の家族性高コレステロール血症について	栄養管理部	鳥井隆志	第51回	日本動脈硬化学会総会・学術集会	京都市	2019.07.12
食物アレルギーにおける食事療法の実際	栄養管理部	鳥井隆志		2019年度日本臨床栄養学会認定臨床栄養医会研修会	大阪市	2019.07.28
障がい児の栄養について	栄養管理部	鳥井隆志		令和元年度三木市立特別支援学校学校保健委員会	三木市	2019.08.05
保育所におけるアレルギー対応ガイドラインについて	栄養管理部	鳥井隆志		兵庫県保育協会淡路支部洲本市ブロック調理部会研修会	洲本市	2019.09.09

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児腎臓病患児への移行期支援における管理栄養士の関わり	栄養管理部	鳥井隆志	第41回	日本臨床栄養学会総会	名古屋	2019.10.26
保育所におけるアレレギー対応ガイドラインについて	栄養管理部	鳥井隆志		兵庫県保育協会保育士等キャリアアップ研修	神戸市	2019.10.30
小児血液培養ボトルへの血液接種量「0.5mL」の有効性の検討	検査・放射線部	亀山和明、大上朋子、寺前正純、伊藤雄介、笠井正志	第30回	日本臨床微生物学会総会・学術集会	東京都	2019.2.1-3
Escherichia coli のキノロン耐性化に関するST131-fimH30とその特徴	検査・放射線部	寺前正純、窪田衣里子、大澤佳代	第30回	日本臨床微生物学会総会・学術集会	東京都	2019.2.1-3
小児におけるPulmonary artery acceleration time からの肺動脈圧の推定	検査・放射線部	藤本恵子、山崎美保、山本正子、橋本恵美、池田百香、小川禎治	第29回	日本心エコー図学会・学術集会	松本市	2019.5.10-12
ヒヤリ・ハット報告の収集と分析	検査・放射線部	幸福淳子		県立病院検査技師研修会	神戸市	2019.6.22
難聴児の早期発見に向けて	検査・放射線部	池田百香、藤本恵子、四元春江、山本正子、橋本恵美、笹川のせ子、八杉秀美、幸福淳子、大津雅秀	第17回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.7
血球計数における精度保証の検討	検査・放射線部	田中桃子、野口啓子、筑紫和江、芳井佳奈、佐野恵子、大上伸子、山内由里子、幸福淳子	第17回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.7
血中エンドトキシン・β-Dグルカン測定における安定性の検討	検査・放射線部	亀山和明、大上朋子、清水悠衣、八杉秀美、幸福淳子	第17回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.7
外来採血関連ヒヤリハットの分析	検査・放射線部	八杉秀美	第17回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.7
赤血球系疾患	検査・放射線部	田中桃子		兵庫技血液検査新人研修会	神戸市	2019.9.14-15
県立こども病院における新生児聴覚スクリーニング検査の現状	検査・放射線部	池田百香		県立病院生超音波部会研修会	西宮市	2019.10.5
血液細胞フォトサーベイ	検査・放射線部	田中桃子		県立病院血液部会研修会	明石市	2019.11.23
検査室外に設置している分析装置の管理	検査・放射線部	幸福淳子	第37回	小児臨床検査研究会	東京都	2019.11.30
CT画像を診る！番外編～造影検査に関する調査報告	放射線部	前田啓明	第57回	兵庫県放射線技師会西播支部西播イメージング研究会	姫路市	2019.6.22
DMQCファントムを使用した乳房撮影装置のCNR基準値・管理幅の設定	放射線部	爰河惠梨	第57回	兵庫県放射線技師会西播支部西播イメージング研究会	姫路市	2019.6.22
頭部単純X線撮影条件に関する検討 - VPシャントバルブ確認目的に対する至適撮影条件 -	放射線部	廣瀬悦子、前田啓明、中島宏樹	第17回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.7
造影剤の漏出事例について - 県立病院における実態調査 -	放射線部	前田啓明、伊関恵美子、岸本欣也、中島宏樹、小川勤、藤井康司、吉野朗、伊関嘉一、水口健二郎、久保田晴元、川上徳実、加藤康彰、竹鼻宏明、矢能稔啓、鳥居誠司	第17回	兵庫県立病院学会	神戸市	2019.9.7
X線CT造影検査に関する調査報告～続編～	放射線部	前田啓明	第58回	兵庫技血液検査新人研修会	姫路市	2019.11.9

4) 報道

テーマ	所属科	発表者名	報道媒体	報道年月日
兵庫の医療 医療的ケア児	家族支援・地域医療連携部	宅見晃子	神戸新聞	2019.3.9
新生児聴覚スクリーニング	耳鼻咽喉科	大津雅秀	ラジオ関西「みんなの健康相談」兵庫県医師会提供	2019.12.21

5) 実習生・研修生受け入れ状況

①実習生

診療部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸大学	6年生学外実習	1	2週間	精神科
兵庫教育大学	公認心理士実習	2	12日間	精神科
神戸大学医学部	5、6年生学外臨床実習	3	4週間	こども病院小児外科
熊本大学医学部	4、5年生学外臨床実習	2	1週間	こども病院小児外科
東北大学医学部	5、6年生学外臨床実習	2	1週間	こども病院小児外科
神戸大学	6年次個別計画実習	1	4.1-4.12	心臓血管外科診療場所全般
神戸大学	6年次個別計画実習	1	7.15-7.26	心臓血管外科診療場所全般
神戸大学医学部	BSL 実習	4、5年次	2019.4-2020.2	整形外科及び手術室
神戸総合医療専門学校	言語聴覚士学生実習	1	8.19-9.20	リハビリテーション科および耳鼻咽喉科外来・病棟・手術室見学
神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科		2名	1.9-1.25	歯科外来・他
神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科		2名	1.29-2.8	歯科外来・他
神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科		1名	5.22-6.14	歯科外来・他
神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科		1名	6.19-7.12	歯科外来・他
神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科		2名	12.6-12.20	歯科外来・他

看護部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学看護学部	総合看護 (小児)	7	5/20～6/13(19日間)	病棟 (7東 5西)
		15	7/8～7/18(8日間)	病棟 (7西 5東 救急 HCU)
	17	10/7～10/17(8日間)	病棟 (7西 7東 6西 救急 HCU)	
	17	10/21～10/31(9日間)	病棟 (7西 6東 救急 HCU)	
	17	11/5～11/14(8日間)	病棟 (7西 6東 5西 救急 HCU)	
	17	11/18～11/28(9日間)	病棟 (7東 6西 6東 5東)	
	16	12/2～12/12(9日間)	病棟 (7東 6西 5東 救急 HCU)	
	7	8/19～9/30(10日間)	病棟 (7西 6東 5西 5東 救急 HCU)	
	5	5/20～6/13(19日間)	病棟 (産科 NICU GCU)	

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所	
兵庫県立総合衛生学院	生涯広域看護（母性）	9	6/24～7/4(9日間)	病棟（産科 NICU GCU）	
		9	7/8～7/19(8日間)	病棟（産科 NICU GCU）	
		9	10/21～10/31(9日間)	病棟（産科 NICU GCU）	
		8	11/5～11/14(8日間)	病棟（産科 NICU GCU）	
		8	11/18～11/28(9日間)	病棟（産科 NICU GCU）	
		8	12/2～12/12(9日間)	病棟（産科 NICU GCU）	
	小児看護学（看護学科全日制）	実践研究（母性）	2	8/13～9/30(14日間)	病棟（産科）
			4	7/30～8/9(8日間)	病棟（5西）
			5	8/27～8/30(8日間)	病棟（5西）
			3	9/17～9/27(8日間)	病棟（5西）
小児看護学（看護学科定時制）		4	8/27～9/6(8日間)	病棟（6西）	
		3	9/10～9/20(8日間)	病棟（6西）	
		4	10/15～10/25(8日間)	病棟（5東）	
		3	9/18～9/20(3日間)	病棟（NICU GCU）	
神戸常磐大学 神戸常磐短期大学部 姫路大学	助産診断・技術学実習Ⅲ	3	1/7～1/9(3日間)	病棟（NICU GCU）	
		3	1/15～1/17(3日間)	病棟（NICU GCU）	
	総合実習	8	6/10～6/27(12日間)	病棟（7西 6東）	
		9	8/15～16(2日間)	病棟（7西 7東 6西 6東 5西）	
	短期大学通信制課程	総合実習	10	6/24～7/5(10日間)	病棟（7東 5西）
			4	9/30～10/4(5日間)	病棟（5西）
	関西国際大学	小児看護学実習	3	10/7～10/11(5日間)	病棟（5西）
			4	10/21～10/25(5日間)	病棟（7東）
			3	10/28～11/1(5日間)	病棟（7東）
			5	12/2～12/6(5日間)	病棟（5西）
4			1/14～1/17(4日間)	病棟（7東）	
4			2/10～2/14(4日間)	病棟（5西）	
総合看護実習（小児看護学）		4	6/10～6/21(10日間)	病棟（6西）	
		7	7/22～8/2(10日間)	病棟（7東 6西）	
		6	8/26～9/11(10日間)	病棟（産科 NICU GCU）	
		5	9/2～9/19(10日間)	病棟（産科 NICU GCU）	

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所	
神戸市看護大学	ウイメンズヘルス看護	3	9/30～10/1(2日間)	病棟 (NICU GCU)	
		2	10/2～10/3(2日間)	病棟 (NICU GCU)	
		2	10/7～10/8(2日間)	病棟 (NICU GCU)	
		3	10/9～10/10(2日間)	病棟 (NICU GCU)	
		3	10/15～10/16(2日間)	病棟 (NICU GCU)	
		3	10/17～10/18(2日間)	病棟 (NICU GCU)	
		2	10/21～10/23(2日間)	病棟 (NICU GCU)	
		3	10/24～10/25(2日間)	病棟 (NICU GCU)	
		6	5/7～5/17(9日間)	病棟 (6東 5東)	
		7	5/20～5/31(10日間)	病棟 (6東 5東)	
神戸女子大学	統合実習 (小児)	12	7/29～8/8(9日間)	病棟 (6東 5東)	
	成育看護実習Ⅱ (小児)	12	9/30～10/10(9日間)	病棟 (6東 5東)	
	課題探求 (小児)	4	8/19～8/30(10日間)	病棟 (6東 5東)	
	総合実習 (助産)	3	9/17～9/27(8日間)	病棟 (6東 5東)	
	姫路獨協大学	小児看護学実習	3	9/24～9/26(3日間)	病棟 (産科 NICU GCU)
			5	1/20～1/24(4日間)	病棟 (5西)
5			1/27～1/31(4日間)	病棟 (5西)	
5			2/3～2/7(4日間)	病棟 (7東)	
5			2/10～2/14(4日間)	病棟 (7東)	
兵庫医療大学	小児看護学実習	5	2/17～2/21(4日間)	病棟 (7東)	
		5	2/25～2/27(3日間)	病棟 (7東)	
		8	1/6～1/10(5日間)	病棟 (7西 5東)	
		10	1/14～1/17(4日間)	病棟 (7西 6西 5東)	
		7	1/20～1/24(5日間)	病棟 (7西 6西)	
		8	1/27～1/31(5日間)	病棟 (6西 5東)	
		10	2/3～2/7(5日間)	病棟 (7西 6西 5東)	
		8	2/10～2/14(4日間)	病棟 (7西 5東)	
		4	2/17～2/21(5日間)	病棟 (6西)	

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
甲南女子大学	母子看護実習Ⅱ小児看護学領域	5	9/3～9/10(6日間)	病棟(7西 6東)
		5	9/12～9/19(5日間)	病棟(7西 6東)
松江総合医療専門学校	小児看護学	60	8/30	
園田学園女子大学	育成看護学(小児)	25×2	9/17 9/30	
平成淡路看護専門学校	小児看護学	35	1/29	

大学院生

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学大学院	小児高度実践看護実習Ⅱ	1	5/10～8/30(週2回)	主な病棟(7西 7東 5東 外来)
	小児高度実践看護実習Ⅲ		10/8～1/31(不定期)	
大阪府立大学大学院	小児看護学実習Ⅰ	1	5/9～6/21	主な病棟(7西 7東)
	小児看護学実習Ⅱ		7/1～8/10(不定期)	
大阪府立大学大学院	家族看護学実習Ⅰ	1	9/10～9/13	外来
	家族看護学実習Ⅰ		1/27～1/31	

保育

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
大阪保育福祉専門学校	障害児病児保育専攻	1	6/17～7/5	病棟(6西)
姫路獨協大学	こども保健学科	1	2/10～2/21	病棟(6東 5西)
川崎医療福祉大学	子ども医療福祉学科	3	2/17～2/21	病棟(7西 6西 5東)

薬剤部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸学院	薬学生実務実習	1	5.27～8.9	薬剤部と主な部署
神戸薬科大学	薬学生実務実習	2	5.27～8.9	薬剤部と主な部署
大阪薬科大学	薬学生実務実習	1	8.26～11.11	薬剤部と主な部署
神戸薬科大学	薬学生実務実習	2	8.26～11.11	薬剤部と主な部署
神戸学院	薬学生実務実習	1	11.25～2.14	薬剤部と主な部署

栄養管理部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
同志社女子大学	臨床栄養学及び給食経営管理	2	2/18～3/1	栄養管理部
兵庫県立大学	臨床栄養臨地実習 給食経営管理臨地実習	2	3/4～3/15	栄養管理部
武庫川女子大学	隣地実習Ⅱ（臨床栄養学実習）	2	5/27～6/7	栄養管理部
神戸松蔭女子大学	臨床栄養学 臨地実習	2	6/10～6/21	栄養管理部
神戸学院大学	管理栄養士臨地実習	2	7/1～7/12	栄養管理部
神戸学院大学	管理栄養士概論実習	96	7/3, 7/8, 7/22	講堂、栄養相談室
甲子園大学	隣地実習Ⅲ・Ⅳ（臨床栄養学）	2	8/5～8/16	栄養管理部
甲南女子大学	臨床栄養見学	4	8/26	栄養管理部
神戸女子大学	臨床栄養学臨地実習	2	9/2～9/13	栄養管理部
同志社女子大学	臨床栄養学及び給食経営管理	2	2/17～3/2	栄養管理部
兵庫県立大学	臨床栄養臨地実習 給食経営管理臨地実習	2	3/2～3/13	栄養管理部

家族支援・地域医療連携部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫大 学 社会福祉学科	医療ソーシャルワーク演習	1	2019.3.4～2019.3.15	家族支援・地域医療連携部
神戸女子大 学看護学部	総合実習	14	2019.5.8・15・22・29	家族支援・地域医療連携部

検査・放射線部（検査）

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸学院大 学 栄養学部 栄養学科	臨床検査 臨地実習	1	1.8～1.29	検査部
神戸常盤大 学 保健科学部 医療検査学科	臨床検査 臨地実習	2	1.15～3.8	検査部
神戸学院大 学 栄養学部 生命栄養学科	臨床検査 臨地実習	1	8.13～9.17	検査部
神戸大 学 医学部 保健学科	臨床検査 臨地実習	2	10.29～11.15	検査部
神戸大 学 医学部 保健学科	臨床検査 臨地実習	2	12.1	検査部
神戸学院大 学 栄養学部 生命栄養学科	臨床検査 見学実習	3	3.22	検査部
神戸常盤大 学 保健科学部 医療検査学科	臨床検査 見学実習	3	5.24	検査部
神戸常盤大 学 保健科学部 医療検査学科	臨床検査 見学実習	8	6.18	検査部

②研修生
診療部

依頼元	研修科	研修生数	研修期間	研修場所
フィリピン総合病院	小児外科研修	1	5/1-5/28	こども病院小児外科
神戸赤十字病院	"神戸赤十字病院臨床研修プログラム (2年目初期研修医)"	6	各人1カ月ずつ、2019年10月、 11月、12月、2020年1月、2月、3月	産科病棟・外来・手術室

看護部

依頼元	研修科	研修生数	研修期間	研修場所
兵庫県立尼崎総合医療センター	県立病院長期研修	1	2019.4.1～2020.3.31	こども病院 NICU
兵庫県立尼崎総合医療センター	県立病院長期研修	1	2019.4.1～2020.3.31	こども病院 7西

③長期院外研修

診療部

研修先施設名	研修名	研修者名	研修期間
シアトル小児病院	シアトル小児病院長期研修（小児集中 治療科）	山下由理子	2019.5.13～2019.6.9

看護部

研修先施設名	研修名	研修者名	研修期間 Z
シアトル小児病院	シアトル小児病院長期研修（PICU）	坂本佳津子	2019.5.13～2019.6.9
兵庫県立淡路医療センター	県立病院長期研修	佐々木舞	2019.4.1～
兵庫県立西宮病院	県立病院長期研修	和久望美	2018.4.1～2020.3.31

6) 研修 (2019年)

1) 公開研修会

名称	主催	開催日	時間	場所	院内参加数	院外参加数	合計	テーマ	発表者 / 担当	所属科名
第264回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	1月10日	17:45-18:30	2階講堂	20	3	23	『小児の外陰部疾患』	波越朋也	泌尿器科
第10回こども病院 内研修会	研修教育委員会	1月24日	17:45-18:30	2階講堂	26	1	27	『今日から使える配合変化の話』	三輪祐太郎	薬剤部
第265回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	2月14日	17:45-18:30	2階講堂	18	1	19	『当院における一側難聴児への対応と取り組み〜クロス補聴器装着時の検査法の検討〜』	言語聴覚士： 都倉明乃	リハビリテーション科
第11回こども病院 内研修会	研修教育委員会	2月28日	17:45-18:30	2階講堂	29	1	30	『採血 〜正しい検査結果を得るために〜』	(株)セキスイハイム イカル那須哲 也様 検査部 八杉秀美	臨床検査部
第266回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	3月14日	17:45-18:30	2階講堂	20	0	20	『一絨毛膜三洋膜性品胎の一例』	岩田隆一	産科
第267回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	4月11日	17:45-18:30	2階講堂	24	2	26	『足関節の腫脹と歩行障害を認めた2幼児例』	河本和泉	整形外科
第12回こども病院 内研修会	研修教育委員会	4月25日	17:45-18:30	2階講堂	41	0	41	『血漿分画製剤のウイルス安全対策 過去・現在・未来』	日本血液製剤 機構研究開発 本部参事 柚木幹弘	薬剤部
第268回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	5月9日	17:45-18:30	2階講堂	27	4	31	『神経内科からみた一過性意識消失発作の臨床〜それは本当にてんかんですか〜』	豊嶋大作	神経内科
第13回こども病院 内研修会	研修教育委員会	5月23日	17:45-18:30	2階講堂	28	0	28	『術後回復室 (PACU) が周術期管理にもたらした変化』	長谷川達也	麻酔科
第269回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	6月13日	17:45-18:30	2階講堂	23	6	29	『抗核抗体陽性患者のコンサルト』	症例提示： 小児科 算攻 医 西村明 紘、解説：リ ウマチ科 中岸保夫	リウマチ科
第14回こども病院 内研修会	研修教育委員会	6月28日	17:45-18:30	2階講堂	33	2	35	『CPC：生下時より心筋肥厚と重症肺高血圧症を呈した新生児の剖検例』	臨床担当： 横田知之、 臨床遺伝子 担当： 森貞直哉、 病理担当： 吉田牧子	病理診断科

第270回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	7月11日	17:45-18:30	2階講堂	27	0	27	『小児1型糖尿病の多職種連携』	尾崎佳代、 三星アカリ、 秦ほのか、 泊菊子、 竹谷菜美	代謝内分泌科
第271回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	8月8日	17:45-18:30	2階講堂	21	3	24	『コンサルテーションを契機に発達障害が明らかとなった症例』	持田啓	精神科
第15回こども病院院 内研修会	研修教育委員会	8月22日	17:45-18:30	2階講堂	28	1	29	『夜間当直にて役立つ画像の読影知識』	杉岡勇典	放射線診断科
第16回こども病院院 内研修会	研修教育委員会	9月26日	17:45-18:30	2階講堂	23	0	23	『WOCケアの最近の話題 ～スキンケアとMDRPUを中心に。発生状況とケア 方法などお伝えします!』	鎌田直子	皮膚・排泄ケア 認定看護師
第272回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	10月10日	17:45-18:30	2階講堂	34	1	35	『複数科の連携により根治術に到達できた頭蓋内出血 を合併した 完全大血管転位症Ⅰ型の一例』	和田侑星	心臓血管外科
第17回こども病院院 内研修会	研修教育委員会	10月24日	17:45-18:30	2階講堂	51	0	51	『がんゲノム診療と検体の取扱いについて』 ・当院におけるがんゲノム医療について ・がんゲノム診療用病理組織検体の取扱いについて ・採血検体の取扱いについて	血液・腫瘍 内科 長谷川大一郎、 病理診断科 吉田牧子、 検査部 山内由里子	検査部
第273回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	11月14日	17:45-18:30	2階講堂	11	2	13	『小児悪性腫瘍に対する集学的治療 幼児右側脳室 巨大脈絡叢瘤の一例』	小山淳二	脳神経外科
第18回こども病院院 内研修会	研修教育委員会	11月28日	17:45-18:30	2階講堂	15	1	16	『本には載っていないMRIのA・B・C ～テスラってなんですか?～』	田島将行	放射線部
第274回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	12月12日	17:45-18:30	2階講堂	21	1	22	『敗血症ショックの乳児例 ～ショックに対する輸液・カテコラミンの使い方・考え 方～』	長井勇樹	集中治療科
第2回予防接種基礎 講座	予防接種センタ ー	3月10日	9:00-17:00	当院講堂	10	30	40	予防接種	笠井正志、 他	感染症内科
初学者のための第4 回兵庫小児感染症セ ミナー	感染症内科	6月8日	13:00-17:00	兵庫県立尼崎 総合医療セン ター	10	40	50	こどもに優しい小児感染症診療	大竹正悟、 他	感染症内科
第1回 兵庫抗菌薬 適正使用のための 地域連携研修会 (HART)	AST・感染症 内科	2月16日	15:30-17:30	当院講堂	10	60	70	多職種で見直す外来小児感染症診療	笠井正志、 他	薬剤部、感染症 内科
第2回 兵庫抗菌薬 適正使用のための 地域連携研修会 (HART)	AST・感染症 内科	12月9日	10:30-12:30	当院講堂	20	70	90	多職種・地域で取組む 外来小児感染症治療	大竹正悟、 他	薬剤部、感染症 内科

令和元年度兵庫県立こども病院周産期医療センター研修会	産科・新生児内科	12月14日	14:00-17:30	2階講堂	30	60	90	1) こども病院 NICU における家族ケア 2) プレネイタルビジット充実と面会拡大を中心にした一 2) 胎児発育不全の背景と生後の取り扱い 3) 早産期胎児発育不全の予後因子から至適分娩時期を考える	1) 梁京玉 2) 三村仁美 3) 石井桂介 院産科主任部長	1) NICU 看護師 2) 新生児内科 3) 大阪府立病院産科主任部長
症例検討会	研修教育委員会	12月12日	17:45-18:30	2階講堂	30	5	35	敗血症ショックの乳児例	長井勇樹	小児集中治療科
第38回呼吸セミナー初級コース	兵庫県臨床工学士会	3月24日	11:10-12:10	兵庫医科大学平成記念会館	0	200	200	こどもの呼吸管理の基礎	青木一憲	小児集中治療科
PALS 講習会	小児集中治療研究会	7月20-21日	2日間	高槻病院	0	24	24	小児二次救命処置	青木一憲	小児集中治療科
PALS 講習会	小児集中治療研究会	8月24-25日	2日間	大阪府立母子センター	0	24	24	小児二次救命処置	青木一憲	小児集中治療科
PALS 講習会	小児集中治療研究会	9月7-8日	2日間	神戸中央市民病院	0	24	24	小児二次救命処置	青木一憲	小児集中治療科
PEARS 講習会	小児集中治療研究会	9月28日	1日間	市立総合医療センター	0	12	12	小児二次救命処置 看護師対象	青木一憲	小児集中治療科
県立病院新生児病棟交流会	新生児集中ケア認定看護師	1月25日	13:00-16:00	看護部会議室	9	9	18	家族看護	梁京玉 野上聡子 井谷洋美	NICU GCU
小児がん看護研修基礎編	看護部がん相談支援室緩和ケアチーム	7月6日	10:00-16:30	講堂	22	61	83	「小児がんの特徴と最新の動向」 「小児がんの代表的疾患と治療概論」 「小児がん看護概論」 「小児がんをもつ子どもの症状マネジメント」	小阪嘉之 石田敏章 濱田米紀 塚田友紀	血液腫瘍内科 看護部
小児がん看護研修実践編①	看護部がん相談支援室緩和ケアチーム	9月14日	13:00-16:40	講堂	12	17	29	小児がんをもつ子どもの補完代替療法	三宅一代	兵庫県立大学看護学研究科博士後期課程
小児がん看護研修実践編②	看護部がん相談支援室緩和ケアチーム	10月19日	13:00-16:40	講堂	20	26	46	「小児がん治療後の晩期合併症と長期フォローアップ」 「長期フォローアップにおける看護ケア」	森健 竹之内直子	血液腫瘍内科 神奈川県立こども医療センター
小児がん看護研修実践編③	看護部がん相談支援室緩和ケアチーム	9月14日	13:00-16:40	講堂	17	37	54	終末期にある子どもと家族の看護	松岡真里	京都大学准教授
在宅医療研修会	在宅推進委員会	9月21日	13:30-16:00	講堂	13	19	32	事例検討		在宅推進委員会 看護部地域連携委員会
小児在宅医療実技講習会	医師会	12月1日	13:00-17:15	兵庫県医師会館				小児在宅に関連した社会資源について	小橋諒子	家族支援

2) 院内全体研修

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	講師 / 発表者	所属
第11回アジアトル小児病院院研修報告会	国際交流推進委員会	7月4日	17:30-18:30	講堂	71	Seattle Children's Hospital 研修報告	山下由理子 坂本佳津子	小児集中治療科 看護部
第1回RST勉強会	RST・呼吸療法委員会	5月17日	17:45-18:45	北館 スキルラボ	50	今さら聞けない?!「酸素療法」	制野勇介	小児集中治療科
第2回RST勉強会	RST・呼吸療法委員会	8月16日	17:45-18:45	講堂	46	DOPEって?	津田雅世	救急総合診療科
第3回RST勉強会	RST・呼吸療法委員会	12月20日	17:45-18:45	講堂	46	呼吸リハビリ	福田哲也	リハビリテーション部
第4回RST勉強会	RST・呼吸療法委員会	2月21日	17:45-18:45	講堂	32	人工呼吸管理 実践編～呼吸アセスメントへの道のり～	制野勇介	小児集中治療科
第1回医療安全研修会	医療安全管理室	8月1日～ 9月30日	40分	各自	811	e-ラーニング(患者確認と指差し呼称・医師の処方ミス・外来での患者取り違えによる誤注射・電話での不十分な意思疎通による配膳ミス)	無し	無し
新規採用医師 感染対策オリエンテーション	感染対策委員会	4月1日	15:30-16:00	総務部前 会議室	40	小児専門病院の感染対策	笠井正志	感染対策チーム
新規採用者防護具着脱演習	感染対策委員会	4月3日	12:50-16:40	講堂	5	防護具の正しい着脱について演習	中島由佳	感染対策チーム
第1回院内AST研修会	感染対策委員会	5月20日 6月4日 6月6日	17:40-18:20	講堂	102	かしこい抗菌薬の使い方(基礎編)	笠井正志	抗菌薬適正 使用支援チーム
清掃・リネン業務職員対象感染 対策研修会	感染対策委員会	5月28日 6月3日	12:00-12:30	看護部会 議室	25	嘔吐物の処理方法	中島由佳	感染対策チーム
第1回全職員対象感染対策研 修会	感染対策委員会	7月24日	17:30-18:30	講堂	181	今、私たちがやるべき3つのゴ○○ * 当日参加者以外はe-learningで受講	笠井正志 新谷茜	感染対策チーム
第2回院内AST研修会	感染対策委員会	9月11日 9月13日 9月17日	17:40-18:20	講堂	83	抗菌薬各論 -あ の抗菌薬のあんなこともこんなことも-	笠井正志	抗菌薬適正 使用支援チーム
インフルエンザ研修会	感染対策委員会	10月21日	17:30-18:30	講堂	46	当院におけるインフルエンザ対策	笠井正志	感染対策チーム

第2回全職員対象感染対策研修会	感染対策委員会	11月18日	15:00-16:00	講堂	51	あなたはだいたいじょうぶ?5つのアカン!手指衛生 *当日参加者以外はe-learningで受講	中島由佳 新谷茜 リングナース	感染対策チーム 看護部 感染対策委員会
第2回兵庫抗菌薬適正使用のための地域連携研修会(HART)	感染対策委員会	12月8日	10:30-12:30	講堂	81	多職種・地域で取り組む外来小児感染症治療	石田達彦 寺崎展幸 笠井正志 新谷茜 亀山和明 渡邊稜子 大竹正悟 岸本健治	抗菌薬適正 使用支援 チーム
委託職員対象新型コロナウイルス感染症講習会	感染対策委員会	2月28日	15:00-15:30	講堂	42	新型コロナウイルスCOVID-19	合田由香利 中島由佳	感染対策 チーム

3) 複数科合同カンファレンス

名称	対象科	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
発達行動勉強会	総合診療科、神経内科、精神科	2月6日	16:30-18:00	精神科外来	10	リスデキサファンエタミン	関口典子
発達行動勉強会	総合診療科、神経内科、精神科	7月4日	16:30-18:00	精神科外来	10	症例検討	関口・徳本
発達行動勉強会	総合診療科、神経内科、精神科	7月18日	19:00-20:00	精神科外来	10	ADHDの治療指針	関口典子
発達行動勉強会	総合診療科、神経内科、精神科	9月5日	16:30-18:00	精神科外来	10	症例検討	関口・豊嶋
発達行動勉強会	総合診療科、神経内科、精神科	11月11日	16:30-18:00	精神科外来	8	発達障害と遺伝性疾患	森貞・豊嶋
小児外科術前検討会	小児外科、放射線診断科	毎水曜日	8:00-	5階カンファレンス室	15名程度	小児外科術前症例の検討	小児外科
小児外科術後報告会	小児外科、病理診断科、放射線診断科	毎火曜日	8:00-	5階カンファレンス室	15名程度	小児外科術後症例の報告と病理学的検討	小児外科・病理診断科
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、小児外科、他関連各科	毎火曜日	17:00-	2階講堂	30名程度	血液腫瘍、固形腫瘍に関する治療方針の検討	血液腫瘍科 他
周産期カンファレンス	産科、新生児科、小児外科	毎月曜日	16:00-	NICUカンファレンス室	15名程度	出生前症例の検討	産科、新生児科
麻酔科・心臓外科・循環器科・集中治療科合同カンファレンス	麻酔科、心臓外科、循環器内科、集中治療科、看護師、臨床工学技士	通年、毎日	7:55-8:10	CICU	30	当日の心臓外科症例についてのカンファレンス	手術・麻酔担当医
モーニングカンファレンス	産科、看護師、薬剤部	毎日	8:30-8:45	産科病棟詰所	10	当直報告と産科入院症例の状態報告、連絡事項	
周産期カンファレンス	産科、新生児科、麻酔科、病理診断科、看護師、検査技師、薬剤部	毎月 (月が休日の場合は火)	16:00-16:20	新生児カンファレンス室1	18~22	未分娩妊婦の症例提示と新生児の経過報告	
ウィークエンドカンファレンス	産科、看護師、薬剤部	毎金	16:00-16:20	産科病棟詰所	8~9	産科入院症例の状態報告	
産科・感染症内科合同カンファレンス	産科、感染症内科、看護師	4、5回/年	17:00-17:40	産科カンファレンスルーム	12~13	周産期領域の感染に関する情報交換	
MRIカンファレンス	産科、放射線科、新生児内科	2回/年	17:00-17:40	産科カンファレンスルーム	14~16	胎児MRIを撮影した症例の経過とMRIの読影、その後の経過	
周産期合同カンファレンス	産科、新生児内科、麻酔科、循環器内科、心臓外科、小児外科、病理診断科、看護師、検査技師、薬剤部	月の周産期医療カンファレンスの後に	16:15-16:35	新生児カンファレンス室1	24~28	周産期・新生児期に多科に関わり高度医療を要する症例の情報交換	
EPDSカンファレンス	精神科・産科	6月5日	15:00-16:00	産科カンファレンス室	4	EPDSで支援の必要な患者について、支援方法について	EPDSチーム

EPDSカンファレンス	精神科・産科	8月7日	15:00-16:00	産科カンファレンス室	6	EPDSで支援が必要な患者について、支援方法について	EPDSチーム
EPDSカンファレンス	精神科・産科	11月13日	15:00-16:00	産科カンファレンス室	5	EPDSで支援が必要な患者について、支援方法について	EPDSチーム
EPDSカンファレンス	精神科・産科	12月11日	15:00-16:00	産科カンファレンス室	6	EPDSで支援が必要な患者について、支援方法について	EPDSチーム
プレネイタルビジットカンファレンス	産科・新生児・循環器科	5月10日	9:00-9:30	新生児科	4	プレネイタルビジットの必要な患者の抽出・支援方法	プレネイタル担当
プレネイタルビジットカンファレンス	産科・新生児・循環器科	6月7日	9:00-9:30	新生児科	4	プレネイタルビジットの必要な患者の抽出・支援方法	プレネイタル担当
プレネイタルビジットカンファレンス	産科・新生児・循環器科	7月5日	9:00-9:30	新生児科	5	プレネイタルビジットの必要な患者の抽出・支援方法	プレネイタル担当
プレネイタルビジットカンファレンス	産科・新生児・循環器科	8月2日	9:00-9:30	新生児科	4	プレネイタルビジットの必要な患者の抽出・支援方法	プレネイタル担当
プレネイタルビジットカンファレンス	産科・新生児・循環器科	9月6日	9:00-9:30	新生児科	4	プレネイタルビジットの必要な患者の抽出・支援方法	プレネイタル担当
プレネイタルビジットカンファレンス	産科・新生児・循環器科	10月4日	9:00-9:30	新生児科	4	プレネイタルビジットの必要な患者の抽出・支援方法	プレネイタル担当
プレネイタルビジットカンファレンス	産科・新生児・循環器科	11月1日	9:00-9:30	新生児科	4	プレネイタルビジットの必要な患者の抽出・支援方法	プレネイタル担当
プレネイタルビジットカンファレンス	産科・新生児・循環器科	12月6日	9:00-9:30	新生児科	4	プレネイタルビジットの必要な患者の抽出・支援方法	プレネイタル担当
MMカンファレンス	全職員	10月31日	17:30-18:30	講堂	83	①事例検討:METコールがあった病棟急変症例 ②MRT活動報告	①津田雅世 ②榎野勇介 /医療安全室
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科 泌尿器科、作業療法士 皮膚・排泄ケア認定看護師	1月25日	15:35-16:00	整形外科ギブス室	8	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者13名	
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科 泌尿器科、作業療法士 皮膚・排泄ケア認定看護師	2月22日	15:35-15:40	整形外科ギブス室	7	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者5名	
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科 泌尿器科、作業療法士 皮膚・排泄ケア認定看護師	5月24日	15:35-15:55	整形外科ギブス室	14	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者8名	
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科 泌尿器科、作業療法士 皮膚・排泄ケア認定看護師	10月25日	15:35-16:30	整形外科ギブス室	9	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者16名	
在宅カンファレンス	総合診療科・新生児内科・ 5E・該当診療科・ 該当病棟・リハビリ・ 薬剤師等	毎週水曜日	15:45～16:15	5Fカンファレンスルーム	20	症例検討・情報共有	総合診療科

4) 部署別勉強会・カンファレンス

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
熱病カンファレンス	総合診療科・感染症内科	毎週月曜日	12:30-13:00	カンファ3	5-20名	感染症トピックス	笠井正志・大竹正悟
心理勉強会	精神科	5月25日	10:00-12:00	精神科外来	10	症例検討	沖村・観音堂
心理勉強会	精神科	7月27日	10:00-12:00	精神科外来	13	症例検討	沖村・観音堂
心理勉強会	精神科	9月28日	10:00-12:00	精神科外来	13	症例検討	藤井・観音堂
心理勉強会	精神科	11月23日	10:00-12:00	精神科外来	14	症例検討	沖村・観音堂
小児外科抄読会	小児外科	毎金曜日	7:45-	5階カンファレンス室	11名	小児外科領域のトピック	小児外科
補聴器外来カンファレンス	耳鼻咽喉科	1月9日	15:00-16:00	耳鼻科処置室	4名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	大津・勝沼
補聴器外来カンファレンス	耳鼻咽喉科	2月6日	15:00-16:00	耳鼻科処置室	4名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	大津・勝沼
補聴器外来カンファレンス	耳鼻咽喉科	3月6日	15:00-16:00	耳鼻科処置室	4名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	大津・勝沼
豊岡聴覚特別支援学校カンファレンス	耳鼻咽喉科	3月20日	15:00-16:55	耳鼻科処置室	7名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	大津・勝沼
補聴器外来カンファレンス	耳鼻咽喉科	4月3日	15:00-16:30	耳鼻科処置室	4名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	大津・勝沼
補聴器外来カンファレンス	耳鼻咽喉科	8月7日	15:00-16:00	耳鼻科処置室	5名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	大津・勝沼
補聴器外来カンファレンス	耳鼻咽喉科	9月4日	15:00-16:15	耳鼻科処置室	5名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	大津・勝沼
姫路聴覚特別支援学校カンファレンス	耳鼻咽喉科	10月11日	16:00-18:30	2階リハビリ言語室	8名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	大津・勝沼
神戸聴覚特別支援学校カンファレンス	耳鼻咽喉科	11月20日	15:00-17:30	2階リハビリ言語室	8名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	大津・勝沼
麻酔科カンファレンス	麻酔科	毎日	8:30-9:00	麻酔科医局	20	毎日の麻酔症例についての検討	麻酔科統括
麻酔科重症症例カンファレンス	麻酔科	毎週金曜日	16:30-17:30	麻酔科医局	16	次週の重症症例についての検討	麻酔科統括
麻酔科抄読会	麻酔科	隔週月曜日	8:20-8:40	麻酔科医局	20	重要論文を挙げて紹介する	麻酔科担当 医師
産科抄読会	産科	2回/月	17:00-17:40	産科カンファレンスルーム	6~7	英文医学雑誌から産科関連論文の紹介	
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	1月9日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、岸本、 明石、三坂、 坂本、中野、 笠木、松元

蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	1月16日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、岸本、 明石、三坂、 坂本、中野、 笠木、松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	1月21日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、岸本、 明石、三坂、 坂本、中野、 笠木、松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	1月29日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、岸本、 明石、三坂、 坂本、中野、 笠木、松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	2月8日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、岸本、 明石、三坂、 坂本、中野、 笠木、松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	2月21日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、岸本、 明石、三坂、 坂本、中野、 笠木、松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	2月27日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、岸本、 明石、三坂、 坂本、中野、 笠木、松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	3月12日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 明石、三坂、 坂本、中野、 笠木、松元

蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	3月18日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 明石、三坂、 坂本、中野、 笠木、松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	3月25日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 明石、三坂、 坂本、中野、 笠木、松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	4月25日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 明石、三坂、 坂本、中野、 笠木、松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	5月14日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 明石、三坂、 坂本、中野、 笠木、松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	5月20日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 明石、三坂、 坂本、中野、 笠木、松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	5月31日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 明石、三坂、 坂本、中野、 笠木、松元

蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	6月14日	17:30-18:30	PICU		約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	6月18日	17:30-18:30	PICU		約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	6月28日	17:30-18:30	PICU		約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	7月9日	17:30-18:30	PICU		約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	7月17日	17:30-18:30	PICU		約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	7月29日	17:30-18:30	PICU		約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	8月13日	17:30-18:30	PICU		約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元

蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	8月21日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	8月28日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	9月9日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	9月18日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	9月25日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	9月30日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	10月9日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	10月17日	17:30-18:30	PICU	約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元

蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	10月25日	17:30-18:30	PICU		約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	11月11日	17:30-18:30	PICU		約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	11月19日	17:30-18:30	PICU		約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	11月25日	17:30-18:30	PICU		約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、岸本、 三坂、坂本、 中野、笠木、 松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	12月9日	17:30-18:30	PICU		約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、市坂、 村田、岸本、 三坂、坂本、 中野、宮丸、 笠木、松元
蘇生・急変シミュレーション	集中治療科/ CICU/PICU/ICU	12月23日	17:30-18:30	PICU		約10名	蘇生・急変シミュレーション	黒澤、青木、 宮下、金子、 山本、市坂、 村田、岸本、 三坂、坂本、 中野、宮丸、 笠木、松元
ECMOシミュレーション	集中治療科/臨床 工学技士室	3月9日	10:30-16:00	CICU/PICU		約10名	ECMOトラブルシューティング、搬送シミュレーション	青木、宮下、 三坂
ECMOシミュレーション	集中治療科/臨床 工学技士室	12月8日	10:30-16:00	CICU/PICU		約10名	ECMOトラブルシューティング、搬送シミュレーション	青木、宮下、 三坂
人工呼吸勉強会	小児集中治療科	1月25日	17:00-18:30	集中治療医師控え室		7	Mechanical ventilation chapter 5,7,8	金子、山下、 長井
人工呼吸勉強会	小児集中治療科	2月18日	17:00-18:30	集中治療医師控え室		7	Mechanical ventilation chapter 9-11	制野、山本、 長井

人工呼吸勉強会	小児集中治療科	3月14日	17:00-18:30	集中治療医師控え室	7	Mechanical ventilation chapter 12-14	山下、長井、 制野
人工呼吸勉強会	小児集中治療科	4月16日	17:00-18:30	集中治療医師控え室	7	Mechanical ventilation chapter 15-17	長井、制野、 青木
人工呼吸勉強会	小児集中治療科	7月10日	17:00-18:30	集中治療医師控え室	7	Mechanical ventilation chapter 18-20	長井、制野、 青木
人工呼吸勉強会	小児集中治療科	8月27日	17:00-18:30	集中治療医師控え室	7	Mechanical ventilation chapter 21-23	制野、山下、 潮見
人工呼吸勉強会	小児集中治療科	9月19日	17:00-18:30	集中治療医師控え室	7	Mechanical ventilation chapter 24-26	制野、長井、 青木
人工呼吸勉強会	小児集中治療科	10月23日	17:00-18:30	集中治療医師控え室	7	Mechanical ventilation chapter 27,28	制野、潮見、 山下
人工呼吸勉強会	小児集中治療科	11月20日	17:00-18:30	集中治療医師控え室	7	Mechanical ventilation chapter 29-31	制野、長井、 青木
人工呼吸勉強会	小児集中治療科	12月28日	17:00-18:30	集中治療医師控え室	7	Mechanical ventilation chapter 32-34	伊藤、制野、 山下
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	2月14日	18:00-19:00	CICUカンファ室	7	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	制野
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	3月14日	18:00-19:00	CICUカンファ室	7	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	長井
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	4月3日	18:00-19:00	CICUカンファ室	7	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	青木
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	5月15日	18:00-19:00	CICUカンファ室	7	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	制野
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	6月5日	18:00-19:00	CICUカンファ室	7	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	長井
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	7月3日	18:00-19:00	CICUカンファ室	7	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	青木
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	8月7日	18:00-19:00	CICUカンファ室	7	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	制野
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	9月4日	18:00-19:00	CICUカンファ室	7	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	長井
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	10月2日	18:00-19:00	CICUカンファ室	7	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	青木
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	11月6日	18:00-19:00	CICUカンファ室	7	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	制野
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	12月4日	18:00-19:00	CICUカンファ室	7	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	青木
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	5月8日	17:00-18:00	CICUカンファレンス室	約10	真菌感染症 ECMO症例/白血病の輸血	潮見/山下
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	6月5日	17:00-18:00	CICUカンファレンス室	約10	septic shockと骨髄路/肺高血圧患者の蘇生	白澤/村田
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	7月3日	18:00-19:00	CICUカンファレンス室	約10	ECPR時の初期対応	市坂
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	8月7日	18:00-19:00	CICUカンファレンス室	約10	腹部コンパートメント症候群	市坂
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	9月3日	17:30-18:00	CICUカンファレンス室	約10	症例振り返り	金子
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	10月1日	17:00-18:00	CICUカンファレンス室	約10	劇症肝不全/重症頭部外傷	花見/先濱
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	11月9日	17:00-18:00	CICUカンファレンス室	約10	溶血性尿毒症症候群と腎代替療法	先濱、宮下
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	12月4日	17:00-18:00	CICUカンファレンス室	約10	アスピリン中毒/胸郭変形と気管支軟化	先濱/花見
超緊急帝王切開のシミュレーション	産科/OP室	7月9日	15:00-16:00	産科・OP室	18	超緊急帝王切開のシミュレーション	産科災害担当

薬剤部勉強会	薬剤部	2月19日	17:30～18:30	薬剤部	15	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	2月19日	17:30～18:30	薬剤部	15	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	2月20日	17:30～18:30	薬剤部	14	製品勉強会「レフィキシア」	
薬剤部勉強会	薬剤部	2月27日	17:30～18:30	薬剤部	15	製品勉強会「ビムパット」	
薬剤部勉強会	薬剤部	3月11日	17:30～18:30	薬剤部	15	製品勉強会「イストダックス」	
薬剤部勉強会	薬剤部	3月12日	17:30～18:30	薬剤部	16	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	3月13日	17:30～18:30	薬剤部	18	製品勉強会「モビコール」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月24日	17:30～18:30	薬剤部	16	製品勉強会「メサベイン」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月25日	17:30～18:30	薬剤部	17	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月27日	17:30～18:30	薬剤部	15	輸液勉強会	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月23日	17:30～18:30	薬剤部	14	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月21日	17:30～18:30	薬剤部	16	ワクチン勉強会	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月26日	17:30～18:30	薬剤部	16	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	9月12日	17:30～18:30	薬剤部	15	製品勉強会「ヘムライブラ」	
薬剤部勉強会	薬剤部	9月18日	17:30～18:30	薬剤部	16	製品勉強会「イノラス」	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月25日	17:30～18:30	薬剤部	16	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月20日	17:30～18:30	薬剤部	12	肺高血圧症治療薬勉強会	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月25日	17:30～18:30	薬剤部	12	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月27日	17:30～18:30	薬剤部	15	栄養勉強会	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月10日	17:30～18:30	薬剤部	13	症例検討会	
患者サポートカンファレンス	家族支援・地域医療連携 携部	毎週木曜日	16:00～16:30	家族支援・地域医療連携 携部	9名～10名	情報共有・意見交換	家族支援・ 地域医療連 携部
検査部研修会	検査部	1月29日	16:30-17:00	検査部会議室	14	小児の失神と心電図	小川医師 (循環器内科)
検査部研修会	検査部	3月4日	16:30-17:00	検査部会議室	18	神戸大学研修参加報告	田中
検査部研修会	検査部	3月7日	16:00-16:30	検査部会議室	11	小児血液培養ボトルへの血液接種量の検討	亀山
検査部研修会	検査部	4月23日	16:30-17:00	検査部会議室	13	臓器移植時の技師の役割	八杉
検査部研修会	検査部	5月28日	16:30-17:00	検査部会議室	13	小児の肺動脈圧の推定	藤本
検査部研修会	検査部	6月12日	16:30-17:00	検査部会議室	15	新生児聴覚スクリーニング	大津医師 (耳鼻咽喉科)
検査部研修会	検査部	7月9日	16:00-16:30	検査部会議室	14	KYT(緊急輸血)	八杉
検査部研修会	検査部	7月23日	16:00-17:00	検査部会議室	19	凝固検査の基本	シスメックス
検査部研修会	検査部	7月26日	16:00-16:45	検査部会議室	11	渡航者感染症	荒木医師(都 立小児医療セ ンター)

検査部研修会	検査部	8月27日	16:00-16:50	検査部会議室	8	SOP作成セミナー	八杉
検査部研修会	検査部	9月3日	16:00-16:50	検査部会議室	14	血球計数における精度保証の検討 他	田中 他
検査部研修会	検査部	9月4日	15:45-16:00	検査部会議室	21	院内消防訓練の伝達講習	池田
検査部研修会	検査部	9月4日	16:00-16:50	検査部会議室	5	ISO15189規格説明会	八杉
検査部研修会	検査部	9月10日	16:00-16:30	検査部会議室	8	KYT(血清分注)	八杉
検査部研修会	検査部	9月18日	16:00-16:30	検査部会議室	15	臨地実習報告	神戸学院大学 学生
検査部研修会	検査部	10月23日	16:00-16:30	検査部会議室	14	RCPC	中本
検査部研修会	検査部	10月30日	16:00-16:30	検査部会議室	27	接遇	藤本
検査部研修会	検査部	11月15日	16:00-16:30	検査部会議室	13	臨地実習報告	神戸大学学生
検査部研修会	検査部	11月26日	16:00-16:30	検査部会議室	12	かぜウイルスのスキ・キライ	亀山
検査部研修会	検査部	12月3日	16:00-16:30	検査部会議室	24	内部監査について	八杉
検査部研修会	検査部	12月17日	16:00-16:30	検査部会議室	9	KYT(採血)	八杉
検査部研修会	検査部	12月19日	16:00-16:30	検査部会議室	10	KYT(ラベルの確認)	八杉
検査部研修会	検査部	12月24日	16:00-16:30	検査部会議室	17	劇毒物の使用について	川畑
検査部研修会	検査部	12月26日	16:00-16:30	検査部会議室	18	成育医療研究センター見学報告・ISO勉強会	八杉
放射線部勉強会	放射線部	1月21日	17:00-17:30	放射線部	13	Deep Learning再構成技術	
放射線部勉強会	放射線部	1月28日	17:00-17:30	放射線部	12	Compressed SENSE法を使用した救急撮影について	
放射線部勉強会	放射線部	2月18日	17:00-17:31	放射線部	13	フルデオキシングルコース(18F)静注「FRI」について	
放射線部勉強会	放射線部	3月11日	17:00-17:32	放射線部	10	EI設定に向けた取り組みについて	
放射線部勉強会	放射線部	6月24日	17:00-17:33	放射線部	13	ソフトウェア線量検証システムとコミッションングサポートサービスについて	
放射線部勉強会	放射線部	7月29日	17:00-17:34	放射線部	12	IQon Spectral Ctについて	
放射線部勉強会	放射線部	8月5日	17:00-17:35	放射線部	13	SPECT/CT装置のファントム実験について	
放射線部勉強会	放射線部	8月26日	17:00-17:36	放射線部	9	パニック画像報告について	
放射線部勉強会	放射線部	12月7日	17:00-17:37	放射線部	14	Drug Coated Balloon(DCB)について	

看護部部署内勉強会（2019年度）

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
新人勉強会	7階東西	4月8日	15:30-16:00	7階カンファレンス室	7	小児がん拠点病院の役割・小児がん医療の特徴	長谷川医師/板原
新人勉強会	7階東西	4月8日	16:00-17:00	7階カンファレンス室	7	小児がんの代表的疾患と治療概要・知っておくべき視点について	長谷川医師/板原
新人勉強会	7階東西	4月11日	9:00-10:00	7階カンファレンス室	6	白血病の治療の経過について	二田水/板原
新人勉強会	7階東西	4月11日	10:00-11:00	7階カンファレンス室	6	CV管理方法・輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱いについて	赤塚/中野
新人勉強会	7階東西	4月11日	11:00-12:00	7階カンファレンス室	6	化学療法と看護の概論	中野/板原
新人勉強会	7階東西	4月11日	13:30-14:00	7階カンファレンス室	6	IT・マルクの方法と看護	高木/板原
新人勉強会	7階東西	4月22日	16:00-17:00	7階カンファレンス室	6	化学療法中の子どもの栄養	鞠
新人勉強会	7階東西	5月11日	16:00-17:00	7階カンファレンス室	6	放射線療法と看護概論	古賀/中野
新人勉強会	7階東西	6月18日	17:30-18:30	7階カンファレンス室	7	小児の脳腫瘍について	中村医師/板原
新人勉強会	7階東西	7月24日	17:30-18:30	7階カンファレンス室	6	高リスク神経芽腫治療時の看護	石田医師/中野
新人勉強会	7階東西	11月15日	17:30-18:30	7階カンファレンス室	6	がんリハビリについて	戒田/板原
新人勉強会	7階東西	1月14日	17:30-18:30	7階カンファレンス室	7	家族支援について	清水/板原
新人勉強会	7階西	7月5日	8:30-12:30	北館教育研修室	7	救急シミュレーション①夜勤に向けて	アソシエイト アプリセプター
新人勉強会	7階西	10月18日	17:30-18:30	7階カンファレンス室	5	呼吸療法（気管切開患者の看護）	樋野/板原
病棟スタッフ勉強会	7階西	11月15日	17:30-18:30	7階カンファレンス室	5	肛門周囲皮膚炎の予防とケア	二田水
7階東西病棟合同災害勉強会	7階東	5月14日	17:30-18:15	7階東	24	避難経路の確認	中央監視室
7階東西病棟合同災害勉強会	7階東	5月16日	17:30-18:15	7階東	10	避難経路の確認	中央監視室
7階東西病棟合同災害勉強会	7階東	5月22日	17:30-18:15	7階東	11	避難経路の確認	中央監視室

7階東西病棟合同災害勉強会	7階東	5月23日	17:30-18:15	7階東	6	避難経路の確認	中央監視室
7階東西病棟合同災害勉強会	7階東	5月29日	17:30-18:15	7階東	7	避難経路の確認	中央監視室
新人対象勉強会	7階東	6月7日	19:00-20:00	7階カンファレンス室	2	夜勤前オリエンテーション	中野
勉強会	7階東	6月14日	17:30-18:15	北館研修室	20	救急蘇生	岩崎
勉強会	7階東	8月23日	17:30-18:15	7階東	14	災害訓練	岩崎
新人対象勉強会	7階東	10月31日 11月2日	17:30-18:00	7階カンファレンス室	2	尿崩症	四方・鎌田
勉強会	7階東	11月11日	17:30-18:15	7階東	11	救急蘇生	岩崎
勉強会	7階東	12月18日	17:30-18:15	7階東	20	災害訓練	岩崎
新人対象勉強会	7階東	1月17日 1月24日	17:30-18:00	7階カンファレンス室	2	網膜芽細胞腫	福西・瀬戸
7階東西病棟合同勉強会	7階東	2月14日	17:30-18:30	北館研修室	12	エンゼルケア	塚田CN
7階東西病棟合同勉強会	7階東	3月9日	17:30-18:30	7階カンファレンス室	10	アピアランス	中村医師
家族看護勉強会	6階西	6月17日	17:30-18:00	6階カンファレンス室	21	患者家族に対して具体的な介入方法	浅井CNS/ 福井、植山
心エコー勉強会	6階西	8月21日	17:30-18:30	6階カンファレンス室	27	心エコー検査の基本的な知識	松岡医師/菊池、林
呼吸ケア勉強会	6階西	11月15日	17:30-18:00	6階カンファレンス室	23	呼吸ケア	吉村集中ケアCN/川端・加藤
在宅支援勉強会	6階西	12月18日	17:30-18:00	6階カンファレンス室	25	退院支援を必要とする患者・家族への適切な支援	渡邊Ns地域連携部/笠作
不整脈勉強会	6階西	1月23日	17:30-18:00	CICUカンファレンス室	17	危険な不整脈	小川医師/ 菊池、福井
整形勉強会	6階東	5月15日	17:30-18:30	リハビリ室	23	歩行介助に必要な基本的考え 部分荷重・松葉杖歩行の介助	理学療法士: 福田/宮崎
整形勉強会	6階東	6月12日	17:30-18:30	6階カンファレンス室	15	ペルテラス勉強会	劉医師/宮崎
救急勉強会	6階東	9月25日	17:30-18:30	6階観察室	12	DOPE、緊急時初期対応	宮崎
腎臓内勉強会	6階東	9月26日	17:30-18:30	5階カンファレンス室	16	ネフローゼ症候群、リツキシマブ(JSKDC10)について	石河医師/ 森野

代謝内科勉強会	6階東	11月27日	17:30-18:30	6階カンファレンス室	12	糖尿病患者指導	松下/宮崎
新人看護師勉強会	6階東	1月30日	17:40-18:50	5階カンファレンス室	12	看護の学びの発表 大腿骨頭すべり症・ネフロローゼ症候群	尾川・桑原/ アソブリ松下
新人対象看護ケア勉強会①	5階西	5月8日	15:00-15:30	病棟	5	尿道カテーテル管理方法	助永
救急蘇生勉強会①	5階西	6月11日	17:30-18:00	病棟	7	救急カート・急変対応	清水
疾患別勉強会	5階西	6月14日	17:30-18:00	カンファレンス室	22	肝外門脈閉鎖症の病態	福澤医師
救急蘇生勉強会②	5階西	6月27日	17:45-18:50	北館研修室	7	救急蘇生シミュレーション	新人支援者
防災訓練①	5階西	7月18日	17:30-18:00	カンファレンス室	9	避難方法、避難経路	丸岡
防災訓練②	5階西	7月29日	18:10-18:40	カンファレンス室	9	避難方法、避難経路	丸岡
新人対象看護ケア勉強会②	5階西	8月20日	17:30-18:00	カンファレンス室	5	ストーマ管理	菅原
新人対象看護ケア勉強会③	5階西	10月15日	17:30-18:00	カンファレンス室	6	胸腔ドレージ	助永・田原
新人対象看護ケア勉強会④	5階西	12月12日	17:30-18:00	カンファレンス室	6	呼吸管理	清水・坂井
疾患別勉強会	5階西	2月26日	17:30-18:00	カンファレンス室	10	敗血症	越智・池田
新人対象勉強会	5階東	5月15日	17:30-18:00	リハビリ室	6	リハビリテーション 体位	勉強会チーム
新人対象勉強会	5階東	5月17日	17:30-18:30	病棟	4	酸素療法について	勉強会チーム
新人対象勉強会	5階東	5月22日	14:00-14:30	病棟	6	鼻口腔内吸引	勉強会チーム
プレパレーション	5階東	7月9日	17:30-18:30	病棟	6	プレパレーション	勉強会チーム
呼吸管理	5階東	7月25日	17:30-18:30	病棟	6	気管切開・気管内吸引	勉強会チーム
小児の特徴	5階東	7月31日	17:30-18:30	病棟	6	小児の呼吸の特徴	勉強会チーム
呼吸器	5階東	8月23日	17:30-18:30	病棟	6	呼吸器(トリロジエの取り扱い)	勉強会チーム
看護	5階東	11月27日	17:30-18:30	病棟	17	皆で考えよう 日々の気づきから始まる看護	看護師長補佐

勉強会	CICU	6月26日	1時間	CICUカンファレンス室	7	アセスメント会 (VSD)	坂出
シミュレーション	CICU	7月25日	1時間	CICUカンファレンス室	15	BLS	岸本
勉強会	CICU	8月2日	1時間	CICUカンファレンス室	16	ハートセンター勉強会 (チアノーゼ・非チアノーゼ)	岸本
1年目勉強会	CICU	8月7日	1時間	CICUカンファレンス室	3	心不全管理 (基礎の振り返り)	野田
勉強会	CICU	8月9日	1時間	CICUカンファレンス室	18	ハートセンター勉強会 (VSD・ASD・PDA)	岸本
勉強会	CICU	8月22日	1時間	CICUカンファレンス室	15	ECMO管理	坂出・ME
勉強会	CICU	8月27日	1時間	CICUカンファレンス室	11	アセスメント会 (グレン術後)	坂出
勉強会	CICU	8/22～5日間	各30分	スタッフステーション	計20	摂食ケアの基礎と間接訓練体験	山田
勉強会	CICU	9月6日	1時間	CICUカンファレンス室	20	ハートセンター勉強会 (TOF・TGA・TAPVC)	岸本
1年目勉強会	CICU	9月18日	1時間	CICUカンファレンス室	3	呼吸管理・循環管理 (症例の振り返り)	野田
勉強会	CICU	9月20日	1時間	CICUカンファレンス室	15	ハートセンター勉強会 (SV・HLHS)	岸本
シミュレーション	CICU	9月27日	1時間	CICUカンファレンス室	20	ECPRシミュレーション①	岸本
1年目勉強会	CICU	10月10日	1時間	CICUカンファレンス室	4	呼吸管理・循環管理 (症例の振り返り)	野田
勉強会	CICU	10月13日～5日間	各30分	スタッフステーション	計15	VAP予防に対する口腔ケア	三坂
勉強会	CICU	10月25日～5日間	各30分	スタッフステーション	計15	加温加湿器について	三坂
勉強会	CICU	10月25日	1時間	CICUカンファレンス室	8	アセスメント会 (PDA依存性疾患)	坂出
勉強会	CICU	10月30日～5日間	各30分	スタッフステーション	計20	経腸栄養剤の種類について	山田
勉強会	CICU	10月26日 10月29日	各20分	スタッフステーション	計15	緩和ケア概論・オピオイドについて	坂出
勉強会	CICU	11月26日	1時間	CICUカンファレンス室	20	ECPRシミュレーション②	岸本

勉強会	CICU	11月30日	1時間	CICUカンフアレンス室	23	ECPRシミュレーション③	岸本
勉強会	CICU	12月19日	1時間	総務前会議室	18	CICU・PICU合同勉強会①（心疾患）	補佐
勉強会	CICU	12月15日 12月21日	20分	スタッフステーション	15	緩和ケア マッサージ	坂出
勉強会	CICU	12月25日	1時間	CICUカンフアレンス室	10	アセスメント会 (ROSS)	坂出
CICU勉強会	CICU	12月27日	1時間	会議室	15	こどもの呼吸管理	青木一憲
勉強会	CICU	1月29日	1時間	総務前会議室	18	CICU・PICU合同勉強会③ (姑息術・右心バイパス手術)	補佐
勉強会	CICU	2月27日	1時間	CICUカンフアレンス室	17	ブレネイタルビジット	野田
1年目勉強会	CICU	2月29日	1時間	CICUカンフアレンス室	4	VSD・COA・TAPVRについて	野田
勉強会	CICU	2月10日～	各10分	スタッフステーション	計26	環境整備について	守谷
勉強会	PICU	7月25日	18:10-18:40	カンフアレンスルーム3	21	せん妄	高見
勉強会	PICU	8月22日	17:40-18:10	カンフアレンスルーム3	16	ショック・体温管理	吉村
勉強会	PICU	11月27日	17:30-18:00	カンフアレンスルーム3	19	ケトアシドosis	教育グループ 集中治療科宮下徳久
勉強会	PICU	11月14日	17:30-18:30	カンフアレンスルーム3	15	集中治療室における血液疾患の看護	教育グループ 血液腫瘍内科 岸本健治
勉強会	PICU	12月20日	15:10-15:40	PICU④	14	側弯症の治療	教育グループ 整形外科 河本和泉
勉強会	PICU	1月22日	17:30-18:00	看護部会議室	19	RCA分析	山内
PICU・CICU合同勉強会	PICU	12月27日	17:30-18:30	総務課前会議室	4	呼吸不全	集中治療科青木一憲 坂本佳津子
PICU・CICU合同勉強会	PICU	1月23日	17:30-18:30	総務課前会議室	8	血液浄化療法	坂本
PICU・CICU合同勉強会	PICU	2月26日	17:30-18:30	総務課前会議室	8	脳平温・低体温療法	吉村
シミュレーション	PICU	12月9日	17:30-18:30	PICU④	4	DCレクチャー・シミュレーション	シミュレーショングループ

シミュレーション	PICU	12月23日	17:30-18:30	PICU④	3	DCレクチャー・シミュレーション	シミュレーショングループ
シミュレーション	PICU	1月17日	17:30-18:30	PICU④	2	DCレクチャー・シミュレーション	シミュレーショングループ
シミュレーション	PICU	1月28日	17:30-18:30	PICU④	2	DCレクチャー・シミュレーション	シミュレーショングループ
シミュレーション	PICU	2月12日	17:30-18:30	PICU④	7	DOPEシミュレーション	シミュレーショングループ
シミュレーション	PICU	2月20日	17:30-18:30	PICU④	2	DOPEシミュレーション	シミュレーショングループ
グループカンファレンス	PICU	7月26日	17:30-18:30	カンファレンスルーム3	10	グループカンファレンス	家族ケアグループ
グループカンファレンス	PICU	11月15日	17:40-19:15	総務課前会議室	8	グループカンファレンス (5階東と合同)	家族ケアグループ
グループカンファレンス	PICU	12月3日	17:40-18:40	カンファレンスルーム3	8	グループカンファレンス	家族ケアグループ
勉強会	ICU	4月10日	12:30-13:00	カンファレンスルーム3	4	気管切開患者の看護	星尾
勉強会	ICU	9月11日	18:35-18:50	カンファレンスルーム3	9	口腔ケア	中津
勉強会	ICU	11月12日	18:20-18:35	カンファレンスルーム3	6	口腔ケア	笠木
勉強会	ICU	11月15日	17:30-18:30	カンファレンスルーム3	6	多重業務	松元
勉強会	ICU	11月20日	17:50-18:05	カンファレンスルーム3	11	口腔ケア	星尾
勉強会	ICU	11月27日	17:30-18:30	ベッドサイド	5	DOAP/PAT	工藤
勉強会	ICU	12月12日	17:30-18:30	カンファレンスルーム3	9	ショックについて	吉村CN
勉強会	ICU	12月20日	17:30-18:30	カンファレンスルーム1	9	敗血症	松元
勉強会	ICU	12月26日	14:30-14:45	スタッフステーション	6	RS感染症	神渡
勉強会	救急・HCU	6月24日	17:30-18:20	病棟	15	呼吸・循環について	津田医師
勉強会	救急・HCU	7月16日	17:30-18:20	病棟	20	心電図・不整脈・ペースメーカー	岡本
勉強会	救急・HCU	9月9日	17:30-18:20	病棟	17	呼吸器疾患と理学療法	津田医師 福田PT

HCU勉強会	救急・HCU	10月24日	17:00-18:00	カンファレンス室	30	こどもの呼吸管理	青木一憲
勉強会	救急・HCU	10月28日	17:30-18:20	病棟	14	小児の呼吸の特徴	津田医師
勉強会	救急・HCU	12月4日	17:30-18:20	病棟	20	全前脳胞症の児の看護	長澤・蔽
勉強会	救急・HCU	1月14日	17:30-18:20	病棟	15	腫瘍性病変のある児と家族の看護	宗和看護師長
初療シミュレーション	救急・HCU	6月19日	17:30-18:30	救急外来	9	C P A	実践力向上チーム
初療シミュレーション	救急・HCU	7月17日	17:30-18:30	病棟	17	窒息	実践力向上チーム
初療シミュレーション	救急・HCU	8月13日	17:30-18:30	病棟	9	アナフィラキシーショック	実践力向上チーム
初療シミュレーション	救急・HCU	9月26日	17:30-18:30	救急外来	19	搬送事例①	実践力向上チーム
初療シミュレーション	救急・HCU	10月16日	17:30-18:30	病棟	18	痙攣	実践力向上チーム
初療シミュレーション	救急・HCU	11月21日	17:30-18:30	救急外来	18	外傷	実践力向上チーム
初療シミュレーション	救急・HCU	12月18日	17:30-18:30	救急外来	14	トリアージ	実践力向上チーム
初療シミュレーション	救急・HCU	1月15日	17:30-18:30	病棟	18	気切カニューレ予定外抜去	実践力向上チーム
初療シミュレーション	救急・HCU	2月20日	17:30-18:30	救急外来	15	搬送事例②	実践力向上チーム
フォントタン術後妊婦管理について	産科	4月16日	18:00-19:00	産科カンファレンス室	16	フォントタン術後妊婦の管理について	城戸医師/陸本
産後うつについて	産科	4月17日	14:30-15:00	産科病棟スタッフステーション	15	産後うつについて	玉岡医師/メソナルヘルスG
バクリバルン勉強会	産科	6月10日 6月17日	17:30-18:00	産科カンファレンス室	7	バクリバルンの取り扱い	東機賢/山下
メデラ勉強会	産科	7月17日	15:30-16:00	産科カンファレンス室	8	搾乳器の消毒について	メデラ/山下
臍帯血採取	産科	8月7日	16:30-17:30	産科カンファレンス室	8	臍帯血貯血について	ステムセル研究所/山下
NIPT勉強会	産科	9月26日	17:30-18:30	産科カンファレンス室	10	NIPTとは	平久医師/NIPTチーム
CTGの深度について	産科	10月4日 10月16日	17:00-18:15	産科	18 8	CTGモニターの深度による違い	アトム/山下

産科病棟避難経路・消防/防災見学ツアー	産科	10月10日	14:30-15:15	こども病院内	14		桑原/災害チーム	
産科病棟避難経路・消防/防災見学ツアー	産科	10月11日	14:30-15:15	こども病院内	10		桑原/災害チーム	
産科病棟避難経路・消防/防災見学ツアー	産科	10月18日	14:30-15:15	こども病院内	7	こども病院の災害時の避難経路について、防災設備について理解する	桑原/災害チーム	
産科病棟避難経路・消防/防災見学ツアー	産科	10月29日	14:30-15:15	こども病院内	8		桑原/災害チーム	
産科病棟避難経路・消防/防災見学ツアー	産科	10月30日	14:30-15:15	こども病院内	7		桑原/災害チーム	
産科病棟避難経路・消防/防災見学ツアー	産科	10月31日	14:30-15:15	こども病院内	10		桑原/災害チーム	
産科病棟避難経路・消防/防災見学ツアー	産科	11月6日	17:30-18:40	産科カンファレンス室	12		いちごクラス開催のためのロールプレイ	新開/産科外来チーム
いちごクラスシミュレーション	産科/外来	11月6日	17:10-18:10	産科カンファレンス室	13		妊娠と薬について	寺崎薬剤師/産科外来チーム
妊娠と薬について	産科/外来	12月2日	17:30-18:40	産科カンファレンス室	10		母子感染と妊娠	笠井医師/船越
母子感染と妊娠	産科/感染症内科	12月6日	18:00-18:30	産科外来	15		帝王切開クラス開催のためのロールプレイ	松下/産科外来チーム
パースクラス シミュレーション	産科	2月13日	17:30-18:30	産科カンファレンス室	18	Late Preterm児の母乳支援について	井谷CN/大亀	
Late Preterm児の母乳支援について	産科	5月17日	17:15-17:45	産科カンファレンス室	5	経腹エコーについて	平久医師/前田	
1年生勉強会	産科	5月28日	17:15-17:45	産科カンファレンス室	4	PROMについて	福本/前田	
1年生勉強会	産科	6月28日	17:30-18:45	産科カンファレンス室	9	帝王切開後の看護について	1年生/新開・寺田	
1年生勉強会	産科	7月24日	17:30-19:00	産科カンファレンス室	6	乳房ケアについて・NCPRに沿った新生児蘇生について	1年生/寺田・山崎	
1年生勉強会	産科	7月25日	15:00-17:15	産科カンファレンス室	4	EPDSについて	津田	
1年生勉強会	産科	8月26日	17:30-18:45	産科カンファレンス室	7	産褥指導について、直接間接介助のシミュレーション	1年生/谷川・山崎	
1年生勉強会	産科	12月27日	17:30-18:30	産科カンファレンス室	8	妊娠高血圧症候群の看護①	1年生/新開・寺田	
1年生勉強会	産科	1月27日	17:30-18:30	産科カンファレンス室	7	妊娠高血圧症候群の看護②	1年生/谷川・寺田	
1年生勉強会	産科	2月25日	17:50-18:45	産科カンファレンス室	9	緊急入院シミュレーション	1年生/前田・山崎	

NICU勉強会	NICU	6月17日	17:30-19:00	講堂	32	NICUにおける終末期ケアを考える	清水/日高
NICU勉強会	NICU	7月1日	17:30-19:00	講堂	29	NICUにおける終末期ケアを考える	清水/日高
NICU勉強会	NICU	9月19日	17:30-19:00	教育研修室	20	週末期の具体的なチーム医療	清水/日高
NICU勉強会	NICU	12月16日	17:30-19:00	NICUカンファ室	4	週末期の具体的なチーム医療	清水/日高
NICU勉強会	NICU	2月19日	17:30-18:40	NICUカンファ室	17	子どもの最善の利益とグリーフケア	清水/日高
NICUグリーフカンファレンス	NICU	12月2日	17:30-18:30	NICUカンファ室	9	グリーフカンファレンス	清水/日高
NICU2年目勉強会	NICU	9月25日	17:30-18:30	NICUカンファ室	9	早産児の管理	小林/薦尾
NICU2年目勉強会	NICU	11月22日	17:30-18:30	NICU面談室	8	周手術期の看護	伊東/李
NICU2年目勉強会	NICU	12月6日	17:30-18:30	NICU面談室	8	CLDの看護	潮/玉垣
NICU2年目勉強会	NICU	2月17日	17:30-18:30	NICU面談室	8	心疾患の看護	荻野/薦尾
NICU3年目勉強会	NICU	7月15日	17:30-20:00	NICU面談室	6	28週未満の急性期の看護①	石井
NICU3年目勉強会	NICU	9月17日	17:30-19:00	NICU面談室	6	29週未満の急性期の看護②	石井
NICU3年目勉強会	NICU	12月16日	17:30-19:00	NICU面談室	6	心疾患(DORV)のある児の看護	石井
新人勉強会	NICU	10月18日	9:30-12:30	NICU面談室	8	人工呼吸器管理 知識編	清水/岩間
新人勉強会	NICU	10月30日	17:30-18:30	NICU面談室	13	人工呼吸器管理 技術編	岩間
新生児病棟勉強会	NICU	10月21日	17:30-18:30	NICU面談室	20	Late Preterm	石井
新生児病棟勉強会	NICU	12月6日	17:30-18:30	NICU面談室	15	新生児の理学療法	石井
新生児病棟勉強会	NICU	2月6日	17:30-18:30	NICU面談室	25	先天性心疾患	石井
NICU4年目勉強会	NICU	7月6日	17:30-18:30	NICU面談室	6	呼吸管理(早産児)	浅田/竹原
NICU4年目勉強会	NICU	9月20日	17:30-18:30	NICU面談室	6	不整脈	原口

NICU 4 年目勉強会	NICU	1月31日	17:30-18:30	NICU面談室	6	低体温療法	板谷／中山
GCU1年目勉強会	GCU	6月11日	17:30-18:30	沐浴室	11	母乳・直接授乳	西原・新田
GCU1年目勉強会	GCU	6月28日	17:30-18:30	沐浴室	9	救急蘇生	西森・伊尾木
GCU病当会	GCU	10月18日	14:30-15:15	GCU固室	8	HFNCの管理	日本メデイカ ルネグレスト
NICU・GCU病棟勉強会	NICU・GCU	10月21日	17:30-18:30	看護部会 議室	19 (G)	Late preterm児の管理	横田Dr
NICU・GCU病棟勉強会	NICU・GCU	12月6日	17:30-18:30	北館研修室	14 (G)	リハビリ勉強会	下之園・小松
GCU病棟勉強会	GCU	1月30日	17:30-18:30	北館研修室	10	救急蘇生	賀本・井谷
NICU・GCU病棟勉強会	NICU・GCU	2月7日	17:30-18:30	北館研修室	6 (G)	循環器疾患についての基礎	富永Dr
糸針①	手術室	4月27日	16:30-17:00	手術室	10	丸針と角針の違い、使用用途が分かる	北川・前・ 神代
ソノペット	手術室	5月21日	17:00-17:30	手術室	20	ソノペットの使用手法、組み立て方法が分かる。 本体との接続、設定方法が分かる。	前
災害	手術室	6月21日	16:30-16:55	手術室	9	避難経路、消火設備が分かる	竹野・山本
RCA基礎	手術室	6月5.10日 7月8日	16:30-17:00	スタッフス テーション	31	RCA分析方法が理解できる	増田・堤田
カニキュレーション	手術室	5月31日	9:00-16:30	OP1	7	シミュレーション形式でカニキュレーションの手法が理解 できる	呉羽・池田
心電図・DC	手術室	6月24日	16:20-17:00	OP4	9	心電図の正常・異常が分かり、緊急時対応が行動レベル で理解できる	前・生田
VSD	手術室	6月13日	17:00-17:40	OP1	7	VSDの病態、手術手法について根拠をもとに理解を深 め、実際の器械出し時の準備に活用する	湯浅・呉羽
シミュレーション (多重課題)	手術室	11月15日	15:40-17:00	手術室	6	シミュレーションを行い、応援要請や優先順位を考慮し て行動することの必要性が分かる	呉羽・湯浅
輸血	手術室	7月30.31日	16:00-17:00	スタッフス テーション	15	血液製剤の取り扱い、投与方法、注意点が理解できる	池田
IV漏れの対応について	手術室	9月13日	16:30-17:00	スタッフス テーション	5	IV漏れのリスク、初期行動が分かり、適切に記録できる	井口・田中・ 西海・堤田
体位確保 (仰臥位)	手術室	9月13日	16:00-16:45	手術室	7	褥瘡発症部位と良肢位が分かり、体位物品の使用方法が 理解できる	北川
体位確保 (特殊体位)	手術室	10月11.15日	16:00-16:45	手術室	砕石位：4 腹臥位：6	褥瘡発症部位と良肢位が分かり、体位物品の使用方法が 理解できる	井口・田中・ 谷川・西海・ 花井・前田・ 山本

緊急ECMOシミュレーション	手術室	手術室	9月17日	17:00-17:30	手術室	12	緊急ECMO装着時の必要物品が分かり、適切な準備が理解できる	呉羽
人工心臓	手術室	手術室	11月11日	16:00-17:00	カンファレンス室1	10	人工心臓の仕組みが分かり、手術進行に合わせた必要な物品が理解できる	ME井原・白川
糸針②	手術室	手術室	11月19日	16:30-17:00	手術室	4	各科で使用する糸針の特性が分かり、器械出し時に活用する	井口・田中・谷川・西海・花井・前田・藤澤
緊急対応シミュレーション	手術室	手術室	1月23日	16:00-17:00	OP10	12	緊急ECMO移行時のフローに沿った動きが分かる	村上
呼吸器の取り扱いについて	手術室	手術室	1月17.21日	16:30-17:00	スタッフステーション	18	呼吸器の設定、トリロジーの取り扱いが理解できる	呉羽
ブロック勉強会	外来	外来	4月16日	16:30-17:00	外来計測室	11	血液腫瘍内科における外来看護（概論）	小澤・中谷
ブロック勉強会	外来	外来	4月23日	16:30-17:00	外来計測室	12	看護相談外来（概論）	中谷
ブロック勉強会	外来	外来	4月25日	16:50-17:10	外来計測室	10	リユープリン注射について	泊
ブロック勉強会	外来	外来	5月8日	16:30-17:00	外来計測室	25	アレルギー内科 SLIT・SCIT今後の動向	辻田・堀井
ブロック勉強会	外来	外来	5月15日	16:30-17:00	外来計測室	10	予定外入院の対応について	横田
移行期支援事例検討	外来	外来	5月28日	16:30-17:00	外来計測室	25	難治性ネフローゼ症候群の思春期の患者と家族の支援	栗林・伊賀
ブロック勉強会	外来	外来	5月29日	16:30-17:00	外来計測室	9	気管切開チューブ・胃瘻ボタン①交換について	平塚・松下
ブロック勉強会	外来	外来	6月3日	16:30-17:00	外来計測室	9	成長ホルモン療法を受けることでの支援①	泊・鎌田
ブロック勉強会	外来	外来	6月13日	16:30-17:00	外来計測室	15	成長ホルモン療法を受けることでの支援②	泊・鎌田
ブロック勉強会	外来	外来	6月19日	16:20-17:05	外来計測室	22	SLEベンリスター自己注射指導について	辻田
ブロック勉強会	外来	外来	6月25日	16:20-16:50	外来計測室	20	急変時シミュレーション（アナフィラキシー症例）	平塚・新宅
ブロック勉強会	外来	外来	6月26日	16:30-17:00	外来計測室	22	アレルギー内科 デュピクセント在宅自己注射	堀井
ブロック勉強会	外来	外来	7月3日	16:30-17:00	外来ギブス室	16	先天性内反症について	相川
ブロック勉強会	外来	外来	7月18日	16:00-16:40	外来レーザー室	18	レーザー照射治療について	前川・石本
移行期支援事例検討	外来	外来	7月31日	16:30-17:00	外来計測室	20	気管切開をしている学童前期の児と家族の関わり	松下・平塚

移行期支援事例検討	外来	9月5日	16:30-17:00	外来計測室	16	ターナー症候群の告知について	平塚・辻田
ブロック勉強会	外来	9月17日	16:30-17:00	外来計測室	22	外来での感染対策について	横田
ブロック勉強会	外来	9月19日	16:35-16:55	外来計測室	8	リュウブリンについて	泊
ブロック勉強会	外来	9月26日	16:30-17:00	外来計測室	18	安全・安楽・確実に化学療法を行うために	塚田・小澤
ブロック勉強会	外来	10月2日	16:30-17:00	外来計測室	26	スキケンアの基礎知識	堀井
ブロック勉強会	外来	10月9日	16:25-16:55	外来計測室	18	アクテムラについて	平塚・辻田
ブロック勉強会	外来	10月23日	16:35-17:05	外来計測室	16	舌下免疫療法 (SLIT) 初回指導について	堀井
ブロック勉強会	外来	10月28日	16:40-17:00	外来計測室	15	予防接種 シナジスについて	前川・和田
ブロック勉強会	外来	11月28日	16:35-17:05	外来計測室	16	気管切開・胃瘻②～在宅物品物の聞き取り方～	浅井
ブロック勉強会	外来	11月20日	16:30-17:00	外来計測室	12	排便管理について	鎌田
ブロック勉強会	外来	1月22日	16:15-17:00	外来計測室	23	眼科 視力測定・点眼について	辻田・堀井
ブロック勉強会	外来	1月12日	16:30-17:00	外来計測室	12	在宅酸素療法テンプレートの活用について	石本・前川
ブロック勉強会	外来	12月5日	16:15-17:15	外来計測室	16	診療報酬についての勉強会	大納
移行期支援事例検討会	外来	1月27日	16:30-17:00	外来計測室	13	脊髄腫瘍の見への関わり	塚田・小澤
ブロック勉強会	外来	1月28日	16:30-17:00	外来計測室	27	採血室における緊急シミュレーション	鎌田・平塚
ブロック勉強会	外来	2月19日	16:30-17:00	外来計測室	24	OD外来とヘッドアッププライルト検査	細川・相川
看護補助者オリエンテーション	看護部	4月1日	10:00-10:30	看護部控室	3	感染対策の基本	中島由佳
看護補助者オリエンテーション	看護部	6月3日	10:00-10:30	看護部控室	2	感染対策の基本	中島由佳
看護補助者オリエンテーション	看護部	11月18日	9:30-10:00	看護部控室	1	感染対策の基本	中島由佳
トライやるウィーク 講習	看護部	11月5日	10:30-11:30	総務部前会議室	9	感染予防講習	中島由佳
看護補助者オリエンテーション	看護部	2月17日	9:30-10:00	看護部控室	1	感染対策の基本	中島由佳
看護補助者オリエンテーション	看護部	3月2日	9:30-10:00	看護部控室	1	感染対策の基本	中島由佳

V ボランティア

令和元年度 ボランティア受け入れ状況

ボランティアの状況

ボランティア	内容	活動頻度	活動人数	活動場所
個人	保育士とともに活動、療養支援など	2～5/月	11人	各病棟、総合案内
神戸市生活指導研究会	看護用品、医療材料、保育材料などの作成	1～2/月	3人(交代)	ボランティア室

イベントボランティアの状況

イベントボランティア	内容	活動頻度	活動人数	活動場所
認定特定非営利活動法人 クラウン協会	子どもたちが子どもらしく過ごせる「子ども時間」の提供	1/月	2人	病棟・外来
特定非営利活動法人 がん緩和ケアサポートチーム	7階入院中の化学療法・放射線療法中の子ども の家族	1/月	2人	がん相談支援室
特定非営利活動法人 スマイリングホスピタル ピタルジャパン	さとゆかたと音楽と一緒に遊びましょう♪	1/月	2人	病棟
特定非営利活動法人 スマイリングホスピタル ピタルジャパン	アーティストと遊ぼう！ 「オリジナルステッカーを作ろう」	1/月	1人	病棟
特定非営利活動法人 スマイリングホスピタル ピタルジャパン	アーティストと遊ぼう！ ～科学のマジックショー～	2/年(8/21・22)	1人	病棟
公益財団法人 神戸市民文化振興財団	コンサート、マジックショー	6/年 (5/22.7/25.9/25, 10/24.11/22.12/25)	3人+アーティスト	外来
認定特定非営利活動法人 兵庫子ども文化振興協会	パントマイム、おりがみ劇場、人形芝居	4/年 (8/22、11/12、 11/27、1/14)	4～6人	外来・講堂
公益社団法人下ナルド・マクドナルド・ ハウス・チャリティーズ・ジャパンド ナルド・マクドナルド・ハウス・神戸	クリスマス会	1/年(12/18)	5人	講堂
特定非営利活動法人 アトリエ・Petata	病棟における絵本の読み聞かせ及び工作	1/月(12月～)	2人	病棟
個人 植田恭子	オカリナ演奏	1/月(1月～)	1人	病棟
ガレオクアブインターナショナル	万華鏡作り	1/年(2/20)	2人	病棟

